# 宮崎駿の雑想ノート

*Hayao Miyazaki's Daydream note*

【……増補改訂版……】

宮崎 駿

*miyazaki hayao*

大日本絵画

# 宮崎駿の雑想ノート

*Hayao Miyazaki's Daydream note*

増補改訂版

宮崎 駿
*miyazaki hayao*

大日本絵画

# 宮崎駿の雑想ノート

*Hayao Miyazaki's Daydream note*

【……増補改訂版……】

宮崎 駿

*miyazaki hayao*

大日本絵画

Hayao Miyazaki's

introduction

序文

# 「この本に、資料的価値は いっさいありません」

●

**あんまり人に自慢できる趣味じゃないんですが、**
**ようするに軍事関係のことが好きなんですね。**
**くだらないなァと思いながらも、軍事関係のことが好きなんです。**

なんと愚かなことをするんだろう…と思いながら、なんてバカなんだろうと思いながら戦記などを読んでいるんです。でも、愚かだとわかりつつも、狂気の情熱みたいなものが、どこかで好きなんですね。

しかし、肯定しているかというと、そうではなく否定しているんですが、そういう矛盾が整理されないまま、ずーっとこの趣味を、もうかれこれ40年近くやっていると、色々たまってくるんですよね。で、それを出したくなるんです。ただ、自分はこういうことを知ってるよ！っていうのを出すんじゃなくてね。

実は、こういう趣味をやって行くっていうのは、人にはとても言えないことですけれども…頭の中で無数の空中戦をやり、無数の海戦をやっているんです。だから僕はシミュレーションゲームをやる気が全然起こらないんですね。ゲームなら、もう頭の中で死ぬほどいっぱいやっているから…死ぬほどっていうのはオーバーで、全然死なないけど（笑）。

**だから、いったいどれほどの数の航空母艦や、**
**どれほどの航空戦隊や、どれほどの数の飛行機や、**
**どれほどの数のその飛行機のための工場なんかを、**
**色々と頭の中で練り上げたかわからないんです。**

そういうことを、ああだこうだとやっているうちに…なにもそれは第2次大戦の飛行機とか、戦車に限らず…いろんなことをやっているうちに、何と変な物があるんだろう！とか、何と不思議なんだろう！っていうような妄想のカタマリを、まァ“妄想ノート”っていうんじゃつまらないから、色々な雑学の集まりとして描きたくなって描いたのが、“雑想ノート”というわけなんです。

**ホントは、いつもこれだけをやっていられると楽しいんですけれど、**
**これはまったくの趣味ですからね（笑）。**
**ようするに、自然保護の問題をどうのこうのとか、**
**少女の自立がどうのこうのとかね、そういうのは一切ヌキ！ もう、とにかく!!**

宮崎 駿
*miyazaki hayao*

# 目次

Contents

## 第1章


5 ……第1話 知られざる巨人の末弟

11 ……第2話 甲鉄の意気地

17 ……第3話 多砲塔の出番

23 ……第4話 農夫の眼

29 ……第5話 竜の甲鉄

35 ……第6話 九州上空の重轟炸機

41 ……第7話 高射砲塔

47 ……第8話 Q.ship


## 第2章


55 ……第9話 特設空母 安松丸物語

65 ……第10話 ロンドン上空1918年

77 ……第11話 最貧前線

85 ……第12話 飛行艇時代

103 ……第13話 豚の虎

118 ……雑想トーク 虎戦車の雑学と妄想

123 ……注釈

126 ……雑想MEMORANDUM


Day dream note

*Hayao Miyazaki's Daydream note*

# 第1章


第1話
「知られざる巨人の末弟」

第2話
「甲鉄の意気地」

第3話
「多砲塔の出番」

第4話
「農夫の眼」

第5話
「竜の甲鉄」

第6話
「九州上空の重轟炸機」

第7話
「高射砲塔」

第8話
「Q.ship」

*Hayao Miyazaki's Daydream note*

第1話

# 知られざる巨人の末弟

ヨーロッパの小国、ボストニア王国の、

若き国王ペトルⅢ世。

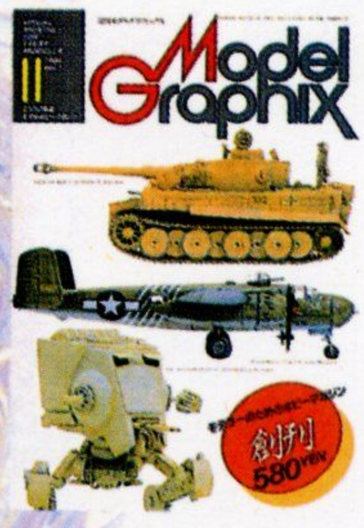
飛行機を愛する彼が夢見た空中艦隊は、

やがて押し寄せる第2次世界大戦の

荒波にかき消されて行ってしまう…。

巨人機が物語る、

歴史から消え去った小国の悲劇。

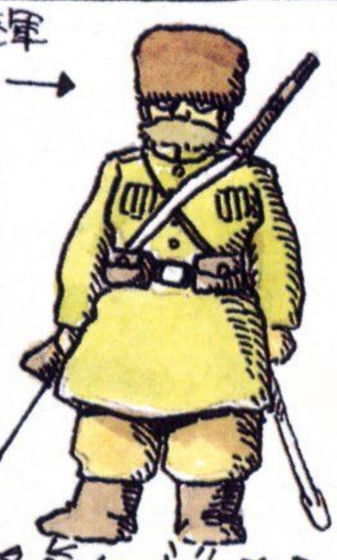



初出：月刊モデルグラフィックス1984年11月号
（連載第1回、執筆・1984年9月）

# ポストニア王国空軍史より
# 知られざる巨人の末裔

ユンカース G-38

ポストニア陸軍騎兵 →



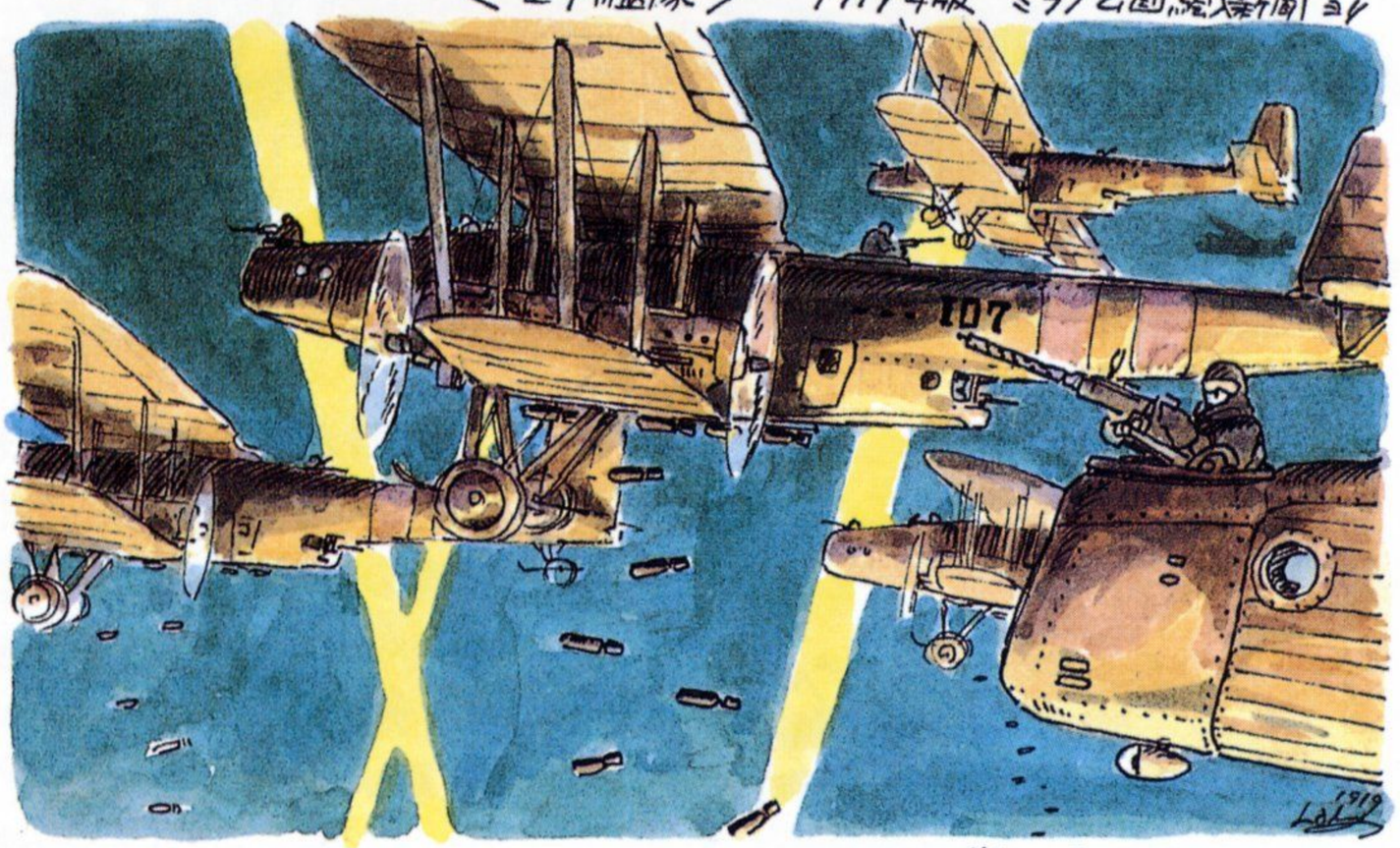
<三つ首の鷲>
ポストニア王国王家ヘルツヴォイ家の紋章
ポストニア空軍の正式マークでもある

ヨーロッパの歴史地図をひもとくと聞いた事もない小国の名前に出くわす。ポストニア王国は第一次大戦の後、ヴェルサイユ条約で旧オーストリー・ハンガリー帝国から分離独立を認められ(1918年)1932年にはオーストリーに併合、つづいてドイツ第三帝国に飲み込まれて消えてしまった短命の国家であった。ポストニアの空軍について現在入手出来る資料は皆無といってよい。ただわずかに大英帝国図書館に残るポストニア王室公報によってこの国が財政事情に不釣合なユニークな空軍の創建をめざしていた事がうかがえる。その空軍は若い国王の狂気と道楽から生れたのである。

飛行王子として国民に親しまれ、兄皇太子の暗殺による突然の死で即位したペトルIII世は単純で子供っぽい飛行機きちがいの青年だった。ご婦人達に関心を持たず政治にも冷ややかな王がひたすら夢見たのは空中艦隊だったのである。

ポストニア王 ペトルIII世
(在位1919〜1931)

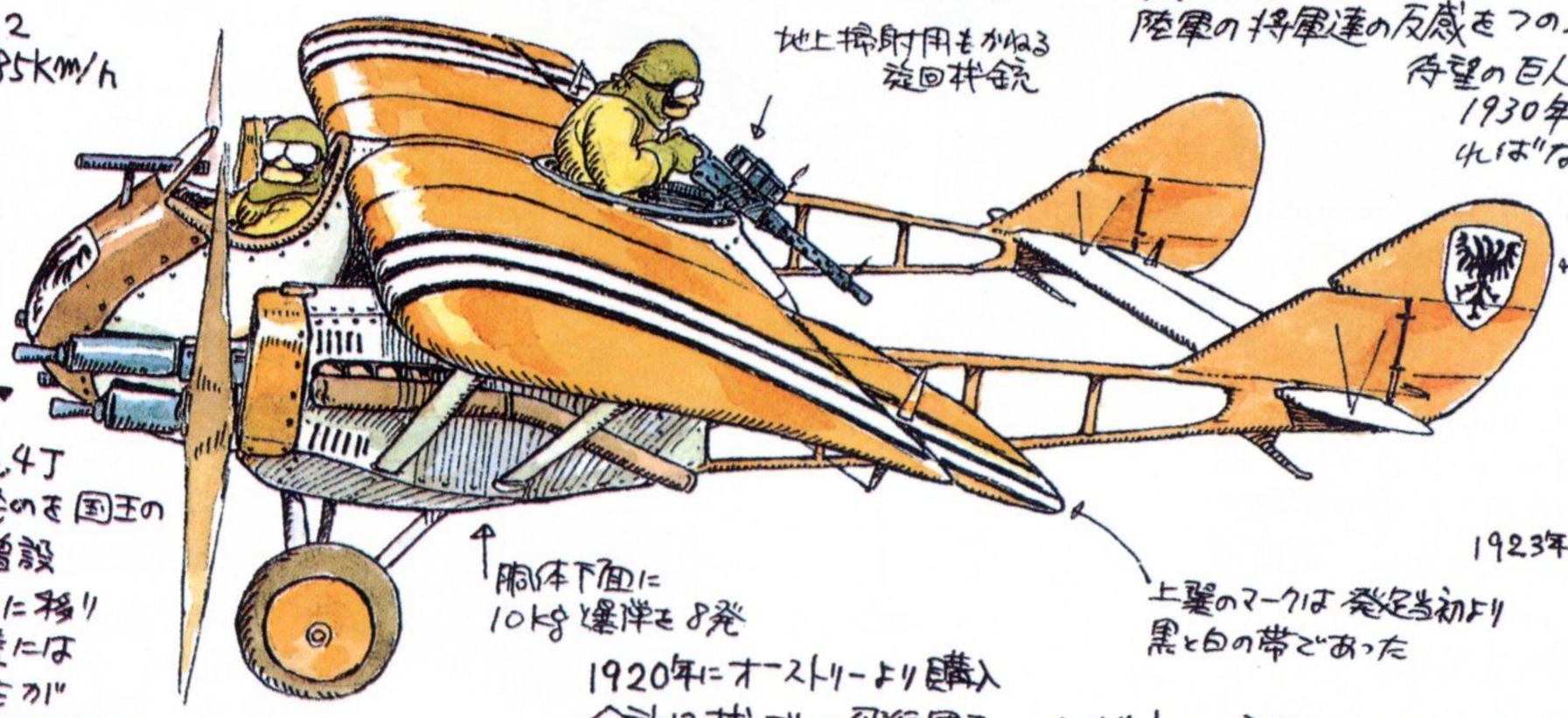
<空中艦隊> 1919年版 ミラノ公国絵入新聞より




空中艦隊とは第一次大戦の経験から生れた戦略空軍思想である。開戦となるや重武装の巨人機の群が長駆敵国の心臓部をおそい群がる敵機をけちらし、爆弾と焼夷弾の雨を降らして一挙に勝敗を決しようというものである。実際にはB-29の大群といえども一挙にとはいかなかったのだが、この頃無敵の空中艦隊の想像図に多くの少年達が胸をおどらせたのであった。

自国に航空産業を持たない小国で軍事費の多くを空軍に注ぎこみ国王は陸軍の将軍達の反感をつのらせていたが待望の巨人機の入手は1930年まで待たなければならなかった。

最初の制式機
クジネフスキー R17
重地上襲撃機
220HP×2
最高速185km/h




1923年に白地に黒い三本線に変った。三本の線は王国を形成する三つの地方を表わす。

★ポストニア空軍■は この他にも奇妙な機体を数種保有していたが その紹介は別の機会にするとして、ここでは国王陛下の巨人機についてのみ述べることとする。

# WP-30 重空中戦艦（ボストニアでの爆撃機の呼称）

生産機数 1機

賢明なる諸兄には すぐお判りと思うが、WP-30は
ユンカース J-38のボストニア向き軍用型である

全長 24.4m
全巾 44m
全高 7m
総重量 25t
当時世界で二番目の
巨人機 であった。

注）この色は
冬季のボストニア草原
の色に合せたもの
国王がカンカンになって ただちに塗りかえられたと伝えられている

## 誕生まで）

1928年 かねてより その天才に傾倒していた ヒューゴー・ユンカース教授をデッサウに訪問した国王ペトルは 組立中のJ-38 4発旅客機を見学し 興奮 ただちに空中艦隊の旗艦として購入を決意した。が…
ボストニア王国の国庫は カラッポ同然で 財政当局の猛反対に出くわし契約は難渋した。その間に東洋のかたすみから やって来た日本陸軍が製造権を獲得（92式重爆である）。ようやく陸軍一箇連隊分の装備ヒをまわして 購入契約が成立したのは 1929年になってからであった（ひきわたしは 1930年である）

★ R-17に随伴されて飛行するWP-30

←ユンカース特有の
波鈑構造
やたらに描きにくいので
まいるのである

この塗装が制式
カモフラージュである

尾部銃座
銃手はのり
つぱなしで
前部への通
路はない

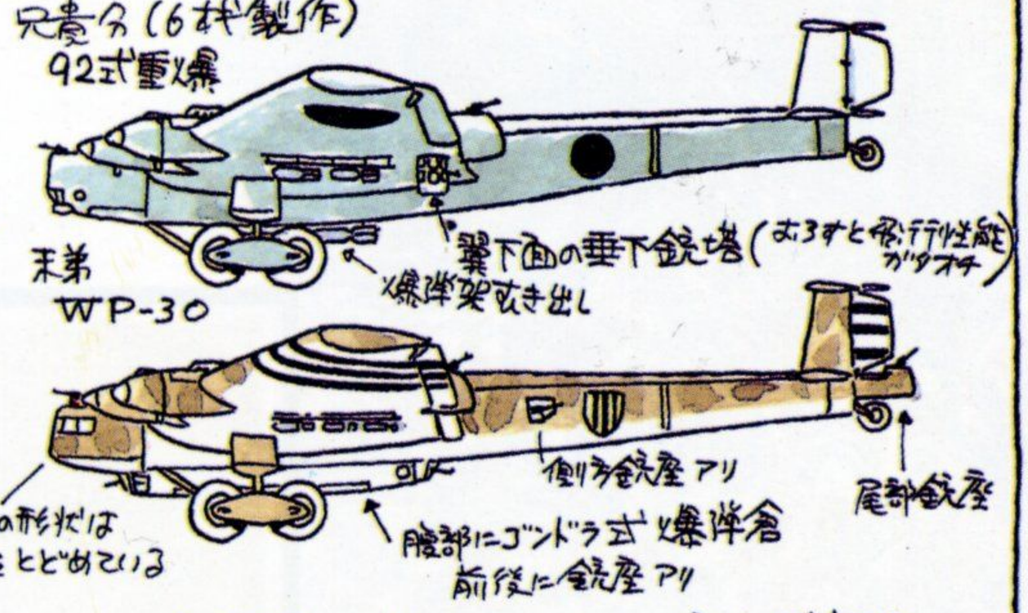
クソッ！

デッサウに とってかえした ペトルは
ユンカース工場に 三ヶ月間 かよいつめ
細々と自分の理想とする空中戦艦の
実現のために 注文を出して、技師達
を 壁易させた。しかし 直感に支えられた
いくつかの提案には 先見性がみられ
彼がただの我儘なオーナーではなか
った事を示している。フィリッピンの コレヒドール 要塞に
1t爆弾を降らせる為に 開発された 92式重爆とは目的が
ちがうにしても WP-30の方が 空力的にすぐれた点も多いのである

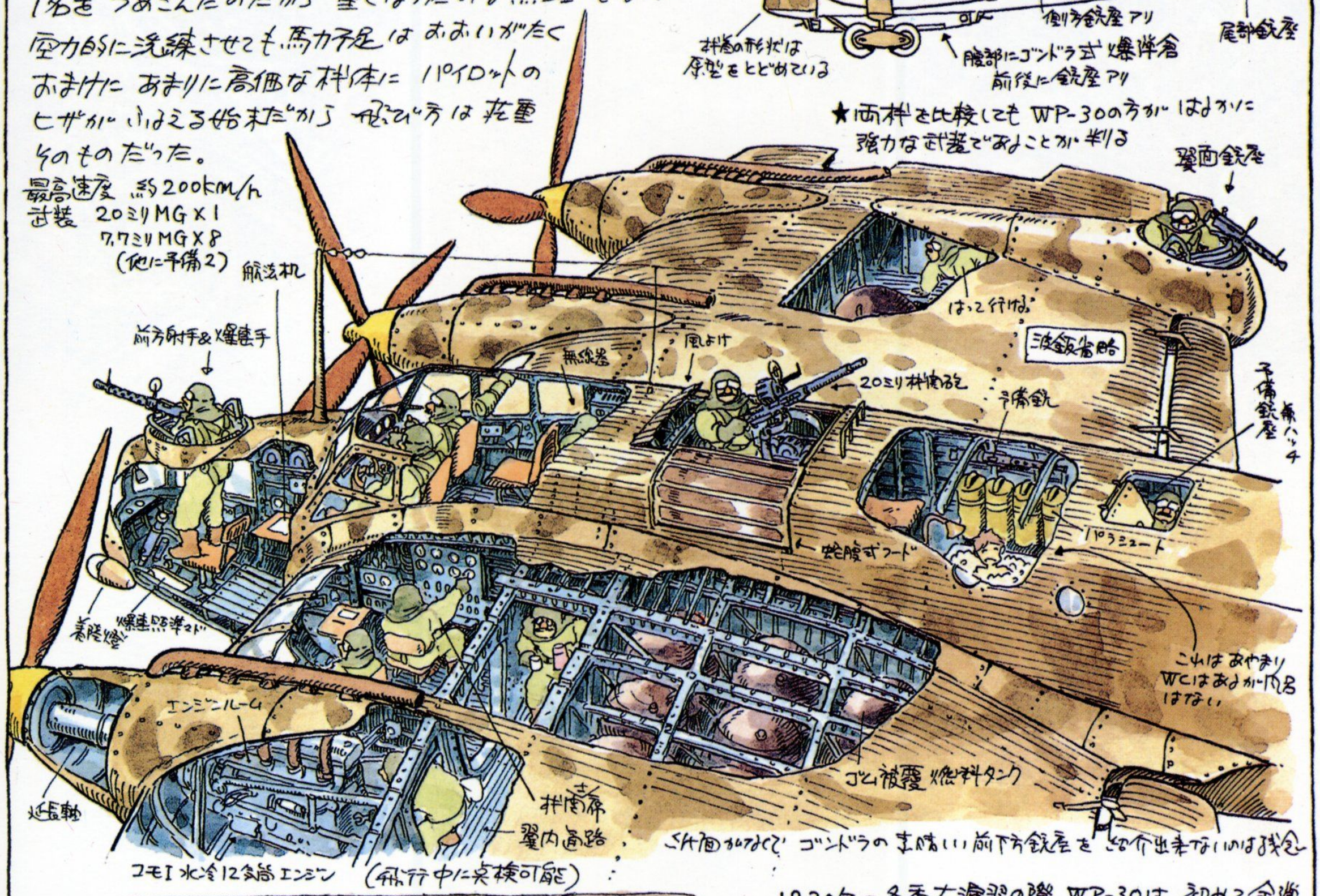
92式重爆にはなかった
尾部銃座も 国王がユンカースの
技師達と大論争のすえ追加された。
箱型の尾部は 後方射界の巨大な邪魔ものだったが、中央方向舵の下端を削り、空力的な損失にもかかわらず 総合（実）において克服したといえる

空中戦艦たるもの難攻不落であらねばならない。かくて出来あがった機体は いたる所に銃座をもち（なんと9ヶ所）翼内のチューチン型ガソリンタンクはゴムでおおわれ 空気抵抗の多い むき出しの爆弾架をやめて ゴンドラをくっつけ 戦斗時に飛行性能を低下させる垂下銃塔（その頃流行だった）をなくし 正規でも100kg爆弾を18発に12名の乗員 時にはプラス国王1名を つめこんだのだから 重くなったのは無理もない 空力的に洗練させても馬力不足はおおいがたく おまけに あまりに高価な機体に パイロットのヒザがふるえる始末だから 飛び方は 荷重そのものだった。

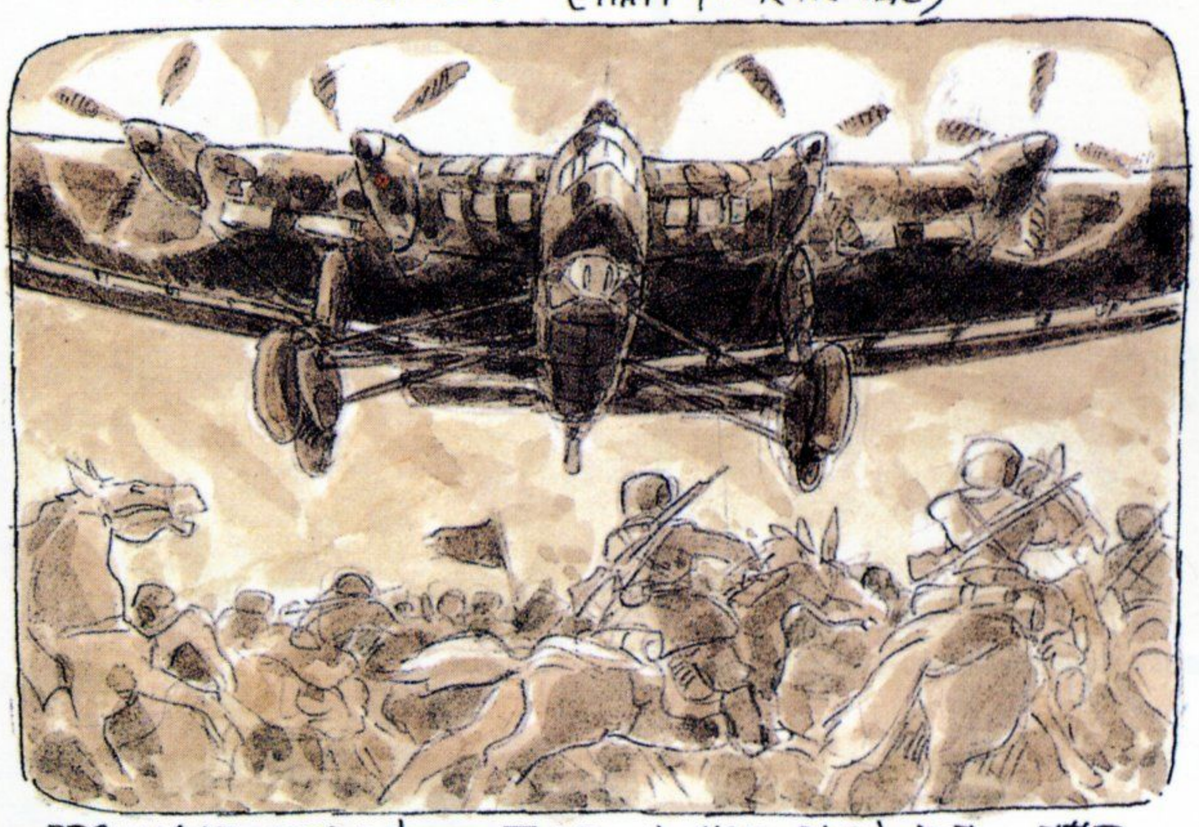
最高速度 約200km/h
武装 20ミリMG×1
7.7ミリMG×8
（他に予備2）




★両機を比較しても WP-30の方が はるかに強力な武装であることが判る




こん面かなくて ゴンドラの素晴しい前下方銃座を 紹介出来ないのは残念



昭和11年版 国防文庫社刊「航空機の驚異」所載の写真より模写
『かつての陸の王者 騎兵も最新航空機の攻撃に算を乱して退却』とある。飛行中のWP-30の唯一の写真である

1930年の冬季大演習の際 WP-30は 初めて全準装備で姿をあらわした。しかし 離陸はしたものの30m以上の高度がとれず 爆弾は勿論 出来ぬまま 地上スレスレを はいまわりつづけ ガソリンを使い果した後 ソッと草原に着陸したのであった。とはいえ ポストニア陸軍の馬達は 頭上をのしかかるように とびまわる巨大な怪物に パニック状態となり その意味では 演習は空軍の大勝利となった。が実用化のためには より強力なエンジンが どうしても必要な事が判明したわけである。

## ◀国王の死▶

1931年になって、ポストニア空軍の空中艦隊計画は突然終りを告げた。国王ペトル3世が飛行機事故で急死したのである。しくまれた事故死であったのは 当時でも公然の秘密であった。この後 ポストニアは 王位空白のまま陸軍と親オーストリー共和派が 対立し 政治的混迷をつづけ、ついに 旧宗主国オーストリーに併合されたのである 1932年 ポストニア王国空軍は 短い歴史を終えたのであった

## 最後のフライト

その後 WP-30は 格納庫で埃をかぶったまま 永い間忘れられていたが、1938年3月 オーストリーが ナチスドイツに併合される時 最後の飛行を行っている。ペトルの弟子であり熱烈な民族主義者の旧ポストニア空軍のパイロット達が 密かにWP-30を整備し ベルリンへ 民族自決とナチスの横暴を訴えビラを撒きにとび立ったまま 行方不明になってしまったのであった。※

※ベルリン上空にWP-30が あらわれたとの記録はない。おそらく 慣れぬ夜間飛行が老朽化した機体が原因で 途なかばにして 人知れず墜落したのであろう。ユンカース教授もペトルも既になく、その一年後には 欧州は第二次大戦に突入しようとしていた。私は 祖国をすてたWP-30が 永世中立のスエーデン目指して 灰色のバルト海を 朝陽をうけつつ飛ぶ姿を想像するのが好きだ。

1984.9.7

*Hayao Miyazaki's Daydream note*

第2話

# 甲鉄の意気地

時に1862年3月、

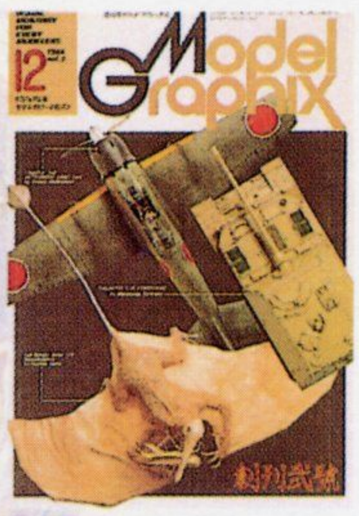
南北戦争の真っ最中のアメリカ合衆国、

ハンプトンローズで2隻の

奇妙な軍艦がぶつかりあった！

北軍軍艦モニターと南軍軍艦メリマック、

世界初の装甲艦による海戦の勝敗は…!?




初出：月刊モデルグラフィックス1984年12月号
（連載第2回、執筆・1984年11月）

雑想ノート　連載オ2回

# 甲鉄の意気地

1862年3月7日　アメリカ合州国 メリーランド沖を荒天にもみくちゃにされつつ 一隻の奇妙な鉄の艦(フネ)がヨタヨタと南下していた。潜水艦ではない。世界初の装甲砲塔艦「モニター」である。乾舷のほとんどない同艦の通気口からは、もろに波がうち込み 乗員はヘトヘトになりながら バケツリレーをつづけていた。

目指すは ハンプトン・ローズ 時あたかも南北戦争の真最中のことである。

★右の絵には 煙突と砲塔背後の通気筒が描れている。このような資料は何処にもない。しかし私は 外洋を航行する時に 戦闘時には 取りはずす 煙突と通気筒を つけたものと想像している。そうでなきゃ 沈んじまうもの

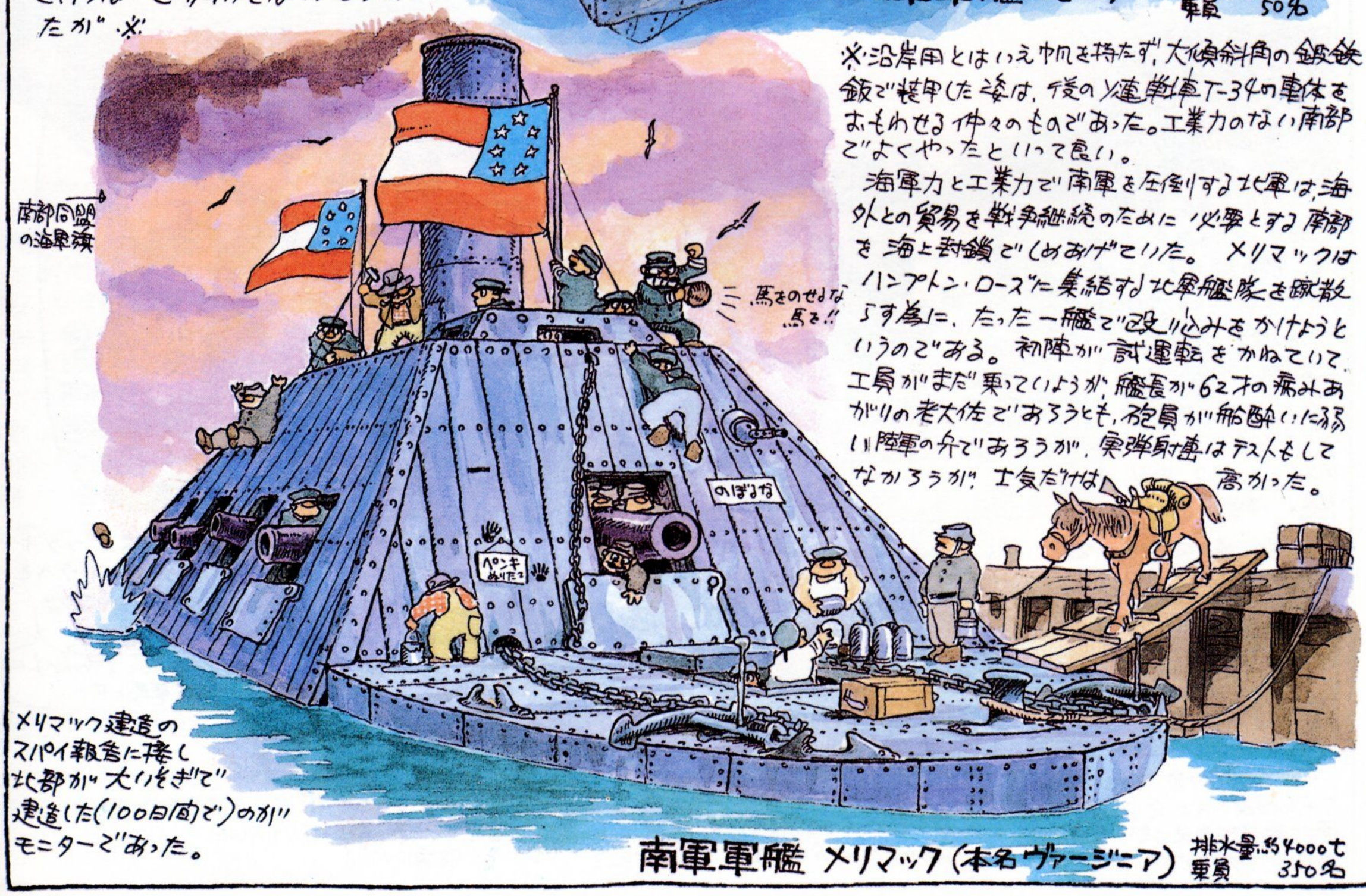
同じ日、ハンプトン・ローズに近いバージニア州 ノーフォークの港で もう一隻の鉄の艦が 翌朝の出撃を目指して 準備に忙殺されていた。装甲砲郭艦「メリマック」である。装甲艦そのものは1854年にクリミア戦争に 現われていたから こいつは 世界初とはいえなかったが ※

北軍軍艦 モニター　排水量987t　乗員 50名

※沿岸用とはいえ帆を持たず、大傾斜角の鋼鉄鈑で装甲した姿は、後の独ソ戦車T-34の車体をおもわせる代々のものであった。工業力のない南部でよくやったといって良い。

海軍力と工業力で南軍を圧倒する北軍は、海外との貿易を戦争継続のために必要とする南部を 海上封鎖でしめあげていた。メリマックは ハンプトン・ローズに集結する北軍艦隊を蹴散らす為に、たった一艦で殴り込みをかけようというのである。初陣が試運転をかねていて 工員がまだ乗っていようが、艦長が62才の病みあがりの老大佐であろうとも、砲員が船酔いに弱い陸軍の兵であろうが、実弾射撃はテスト人もしてなかろうが、士気だけは 高かった。

南部同盟の海軍旗




メリマック建造のスパイ報告に接し北部が大いそぎで建造した(100日間で)のがモニターであった。

南軍軍艦 メリマック(本名ヴァージニア)　排水量約4000t　乗員 350名

## メリマックの要目

ノーフォーク沖で"沈んだ"北軍フリゲートをひきあげ、その上部をとりはらって造った。全長84m 幅12m 速力は9ノットともいう。船の動きが悪く、回頭がむずかしかった。

厚さ50cm松

厚さ約10cm(4吋)の鉄鈑

10cm厚オーク材

砲郭

ブリックライフル砲(先込め)

砲装 { 17.8cm ライフル砲2門
15cm ライフル砲2門
23cm 滑腔砲 6門
小砲 2

回転式砲塔(チェーンによる)

石炭

ブリックライフル砲弾

無炸薬実験弾

炸薬

榴弾

信管

信管とりつけ

信管はシェンクル起爆信管である。

弾尾のこの部分がガスで拡張してライフルにくいつくのである。滑腔砲は球形弾を使っていた。

メリマックの砲力はたいしたものではない。その砲をカバーするために艦首にするどい鉄製の衝角(ラム)がつけられていた。装甲で身を守りつつ、敵艦に近づき横腹に風穴をあけようというのである。かくて3月8日メリマックはハンプトン・ローズの北軍艦隊めざして進みはじめた。敵は蒸気フリゲート2、帆走フリゲート2、スループ1、砲23cm以上200門、兵員2200名、おまけに陸上砲台にまもられた大兵力である。この時モニターはまだ外洋にいた。

左下へつづく

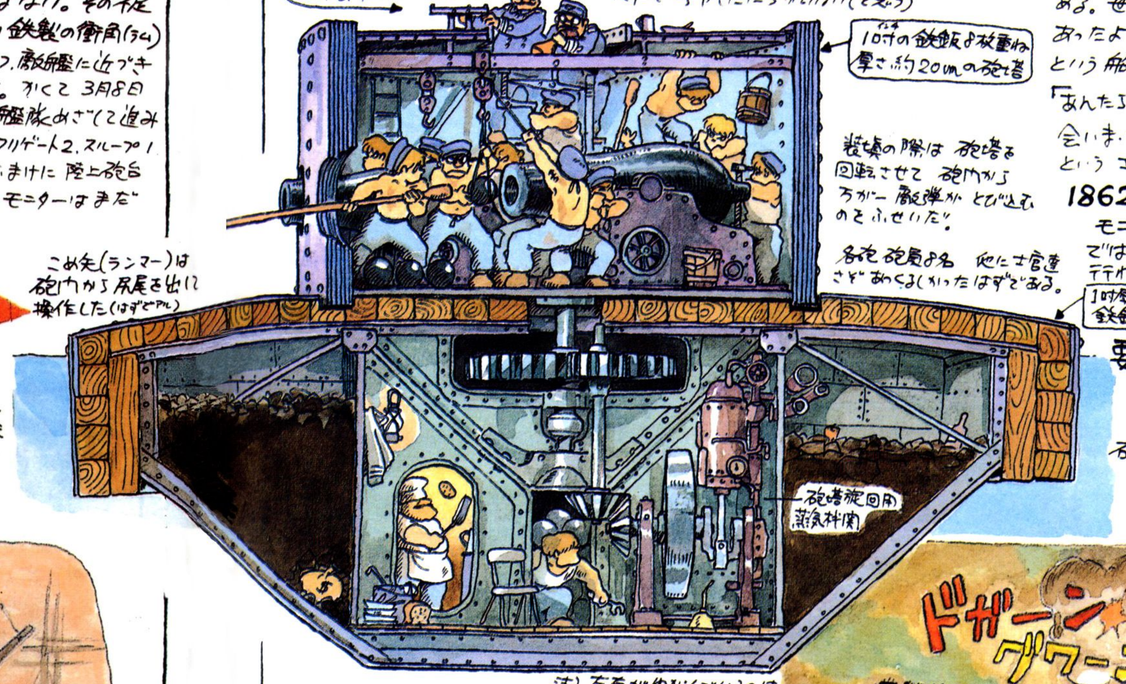
ドテッ ドカーン コーン ガーン ゴーン デーン ドーン ギーン ゴーン ドカッ ズドーン ドバッ

右上より

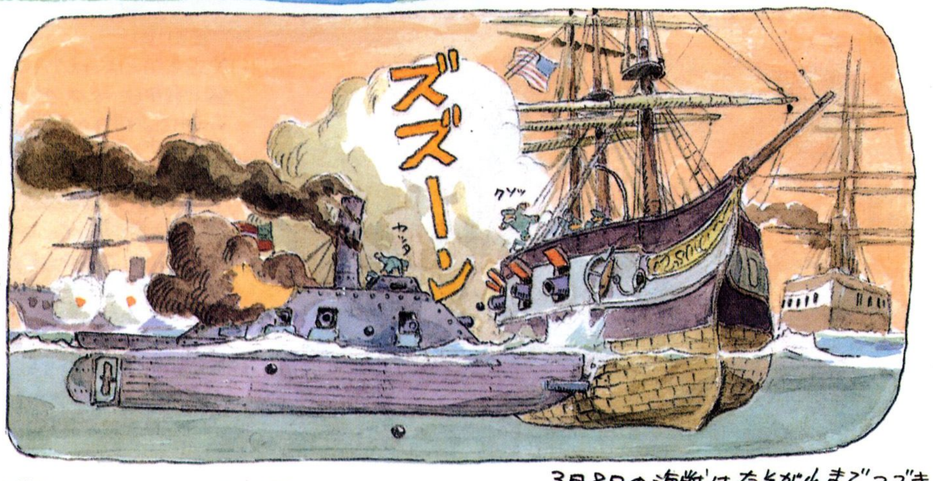
## モニター

乾舷をなくす事で舷側装甲を省略した。水線下の防禦は分厚い木材にはった1.27cmの鉄鈑で充分だった。甲板は25ミリの鉄板。艦砲がたいした仰角をとらず大落角弾などなかった時代なので命中弾はみな滑って海の中に消えてしまったという。

こめ矢(ランマー)は砲口から尻尾を出して操作した(はずである)



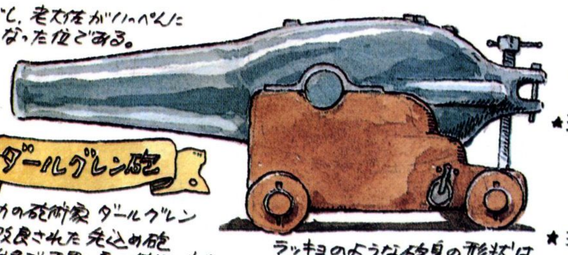

砲弾の雨の中をメリマックは進んだ。ソフトスキンの煙突は穴だらけになったが装甲鈑は立派に役目を果し、北軍の25cm、23cmのダールグレン砲の弾丸をことごとくはねかえし、ついにメリマックの衝角は北軍スループ"ガンバーランド"(24門艦)の横腹にとどいたのであった。ガンバーランドは沈没した。南部の喜びやおどろかべし、老女はガリガリのペンと大海になった位である。




3月8日の海戦はたそがれまでつづき、暗闇と共にメリマックは一フォークへとひきあげた。いれかわりにモニターはようやくハンプトンローズに到着した。

バケツリレーでヘトヘトになった乗員と共に

とにかく間にあったのだ。



### ダールグレン砲

アメリカの砲術家ダールグレンにより改良された先込め砲。南北戦争で両艦に多く使用された滑腔砲とライフル砲の二種アリ

ラッキョのような砲身の形状は火薬ガスの分布を調べて決定された

★球形実験弾(重さ1.4キロの鉄の球)

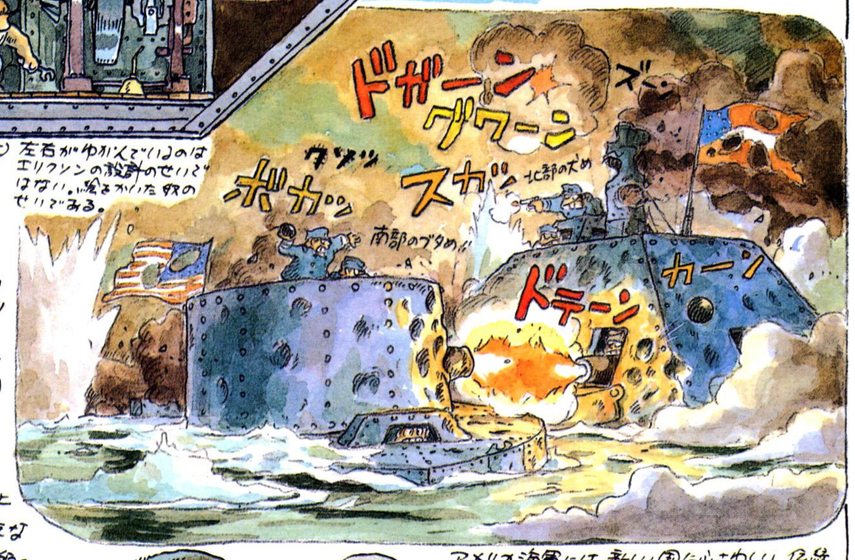
★球形榴弾

★シェンクル榴弾 もっとも一般的なライフル砲弾である

この部分が拡張してライフルにくいこむ

注) 左右がやかんでいるのはエリクソンの設計のせいではない。塗ってあった奴のせいである。

両艦は100m以内の至近距離に近づき猛然と砲撃をくわった。しかし一弾も相手の装甲を貫ぬく事が出来なかった。勿論弾丸がスキ間からとび込んで負傷者は出た。メリマックの老艦長は前日の戦闘で傷つき退艦している。いくら撃っても無駄だと判ると、両艦とも自分の舳で相手の横腹をぶっ叩こうと試みた。しかし砲煙はあたり一面にただよい、煙突筒はすっかり吹きとばされて煙突が水上船内にたなびき、相手すら良く見えなくなってしまった。おまけに舵定で船の動きも悪いとなると衝角もむづかしい。両艦とも浅瀬にのりあげそうの線目の大さわぎのすえ、ついにたそがれと共にひきわけとなったのであった。



アメリカ海軍には新しい国にふさわしい伝統にとらわれぬ良さがあった。南北戦争になれば良くあらわれている。だがミサイルの台に老巧艦をひっぱり出し、大砲巨砲のおどし以外が有効だと思うようになると様子がガラッと変る。世界一を誇ようにかってのスペインの無敵艦隊のように国家も海軍も内部からくさり始める証拠であろう。レパント沖に出動した老巧艦は何の役にもたず、老いぼれのままだけであった。

1984.11.3

この海戦に参加した両艦の兵員は、その後一回の耳なりがやまなかった。

## 初代エリクソン

(A.D 632～678)?

モニターは伯人による発明品である。南軍の装甲艦対策に苦慮した北部政府は装甲艦の設計を公募した。スェーデン人技師エリクソンは、自分のアイデアが斬新すぎるのをよく心得ていたので、海軍当局へは図面を提出せず、政府中枢に直接送りつけた。それでもスンナリ決ったわけではない。たった100日間で造るという彼の言葉で政府はようやく採用を決定したのであった。メリマックは既に5ヶ月前から工事を開始していた。水はあけあけられていた。

エリクソンは樣のように考えた。すべての図面を自分でひき、陸軍塩場で見事、約束どおり100日間で建造してしまったのである。このモニターがその後の軍艦の形を決定してしまった。全周に射撃可能な蒸気駆動の砲塔、射界をさえぎるものは煙突までとりはらう、徹底した合理主義。そのかわり、動力による強制通風、ついでに船内の換気も動力、同じく動力による揚弾装置。また、多くの発明が、このダイキングの子孫の頭から生れ出たのであった。

この照準器はまったく私の想像である。ダールグレン砲は尻がでかいので、小さな砲口からは照準出来ないと確信する▲

▲となると砲塔上部より狙うしかない。旋回は上でやるとして、俯仰は砲尾のネジでやるから、多分上から大声で号令したにちがいない(と思う)

10吋の鉄鈑を数重ね厚さ約20cmの砲塔

装填の際は砲塔を回転させて砲口からちがう敵弾がとび込むのをふせいだ。

各砲、砲員は名他に士官達さぞあわくさかったはずである。

1吋半(2.5cm)の鉄鈑

### 要目

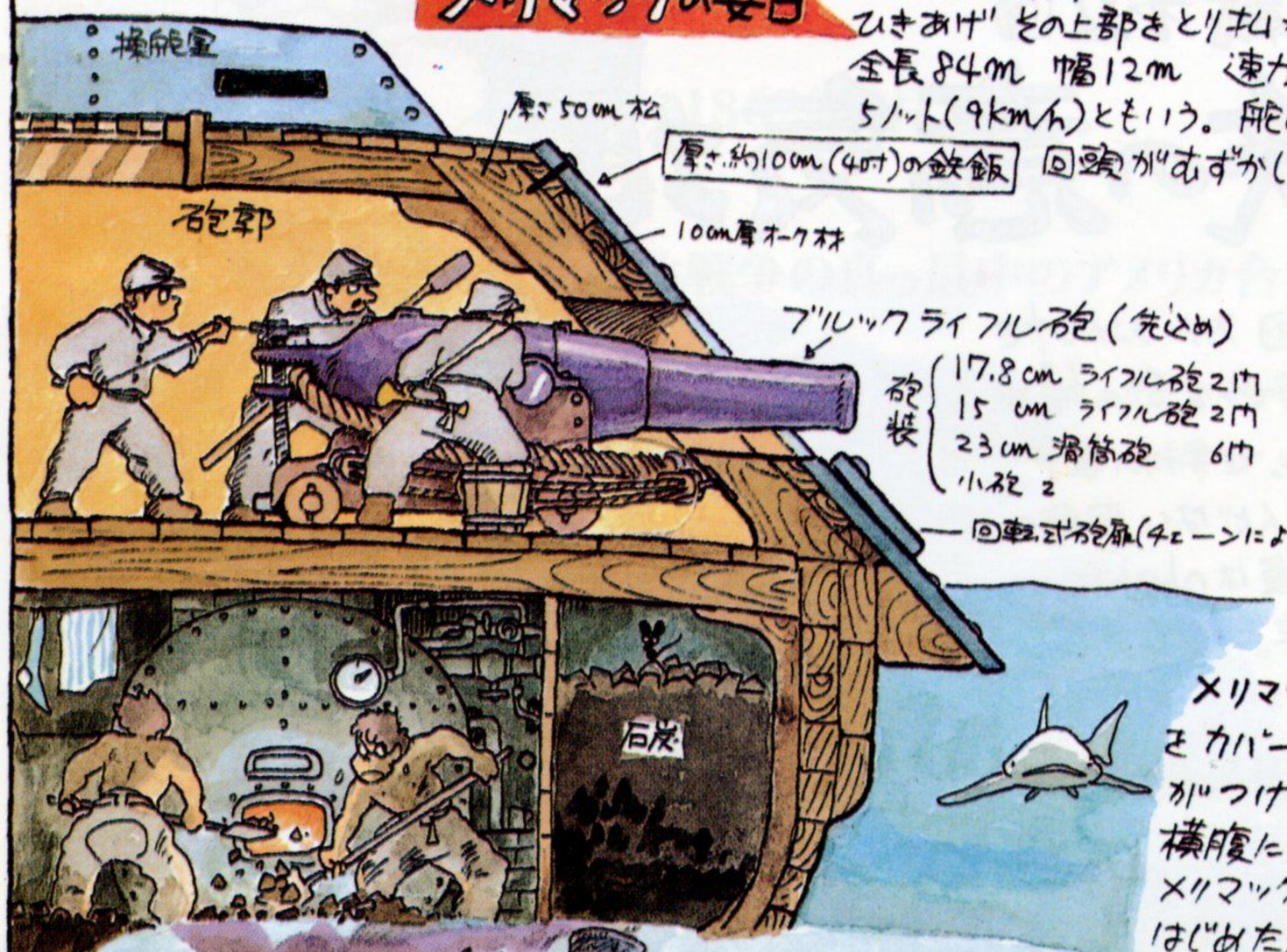
全長 52.5m 幅 12.6m
速力 9ノット(16km/h)
砲塔直径 6.1m
高さ 2.73m
砲装 ダールグレン28cm滑腔砲2門、重さ90kgの鉄の球をぶっぱなすのである。

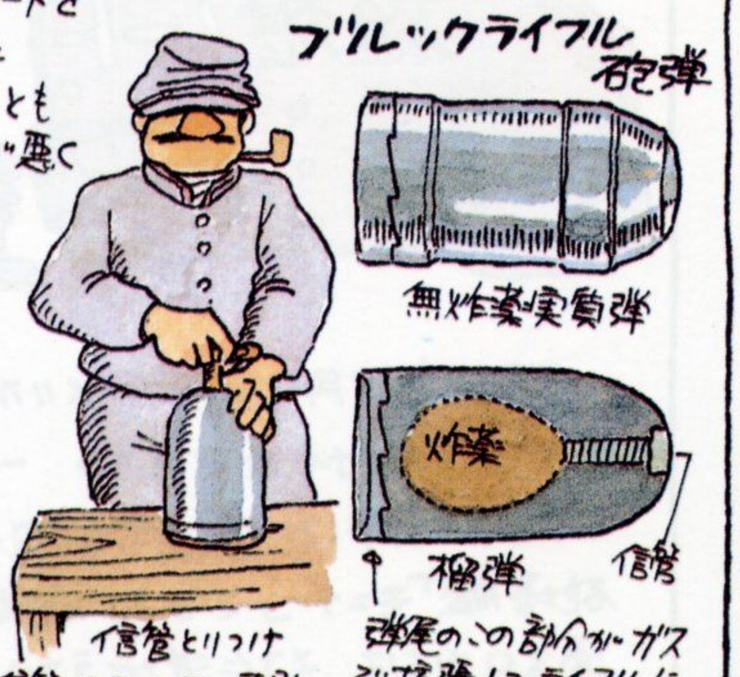
1862年3月9日は

モニターの初陣であると共に、世界ではじめて装甲艦同士の海戦が行われた日であった。

# メリマックの要目

ノーフォーク沖で沈んだ北軍フリゲートをひきあげ その上部をとり払って造った 全長84m 幅12m 速力は9ノットとも5ノット(9km/h)ともいう。舵の効きが悪く回頭がむずかしかった。



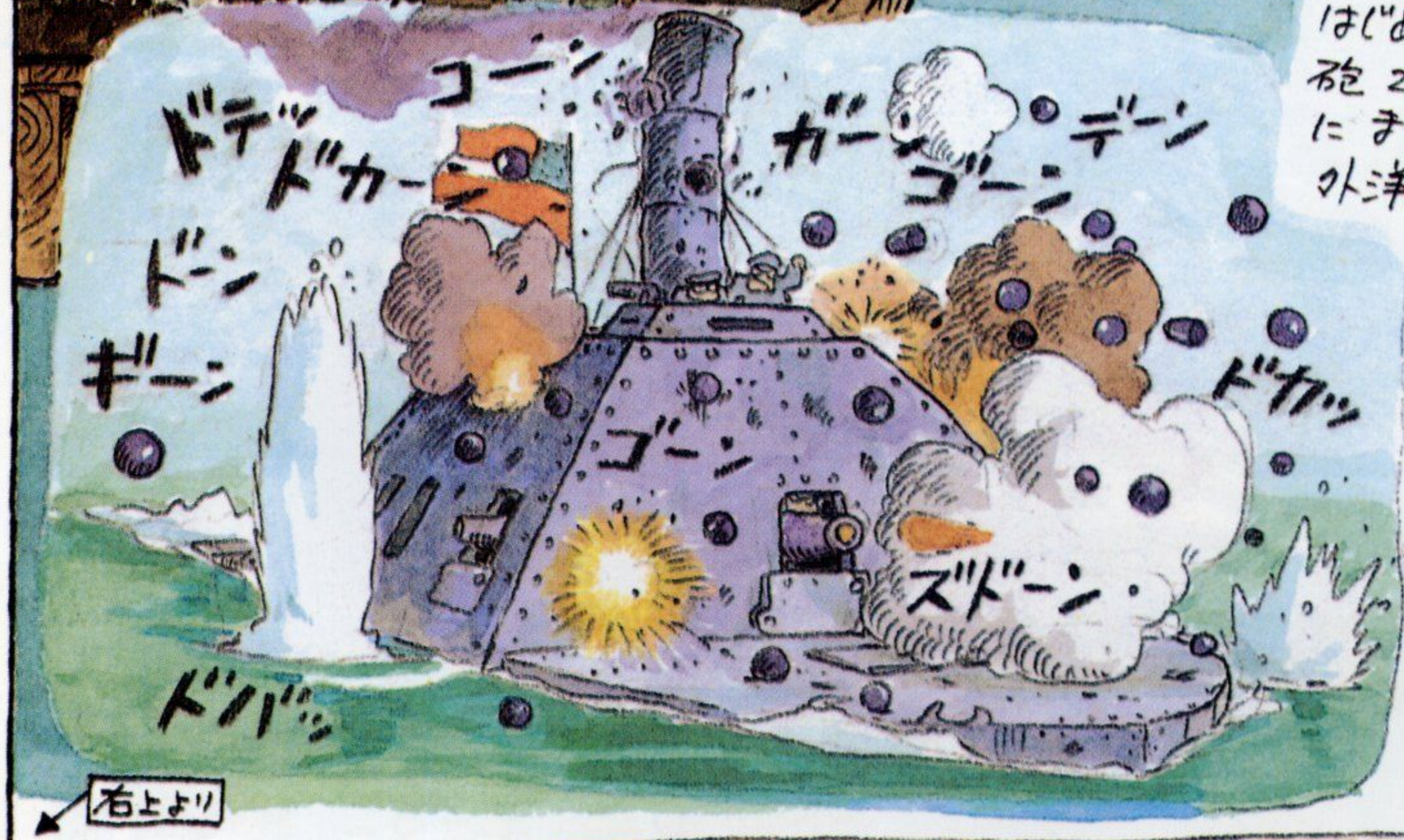




信管とりつけ
信管はシェンクル基発信管である。

弾尾のこの部分がガスで拡張してライフルにくいつくのである。滑筒砲は球形弾を使っている。

メリマックの砲力はたいしたものではない。その不足をカバーするために 艦首にするどい鉄製の衝角(ラム)がつけられていた。装甲で身を守りつつ、敵艦に近づき横腹に風穴をあけようというのである。かくて 3月8日 メリマックは ハンプトン・ローズの北軍艦隊めざして進みはじめた。敵は 蒸気フリゲート2、帆走フリゲート2、スループ1 砲 23cm以上200門、兵員2200名、おまけに陸上砲台にまもられた大兵力である。この時 モニターはまだ外洋にいた。

左下へつづく

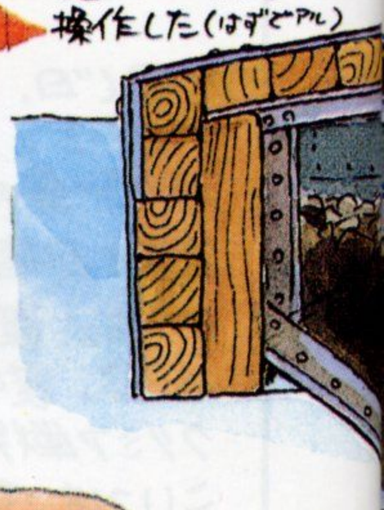


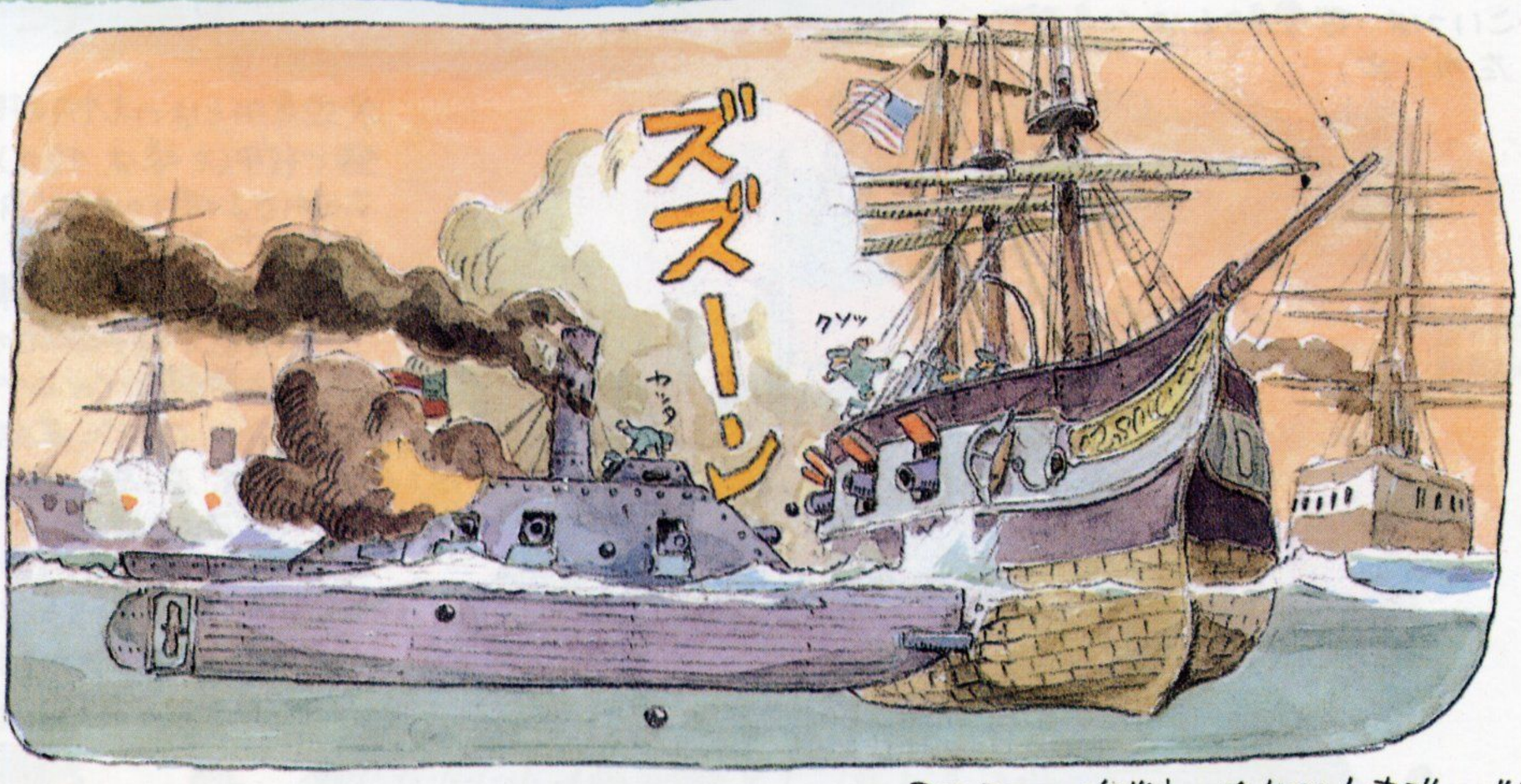

右上より

## モニター

乾舷をなくす事で 舷側装甲を省略した。水線下の防禦は分厚い木材にはった 1.27cmの鉄鈑で充分だった。甲板は25ミリの鉄板。艦砲がたいした迎角をとらず 大落角弾など なかった時代なので 命中弾はみな滑って海の中に消えてしまったという。

こめ矢(ランマー)は砲門から尻尾を出して操作した(はずでアル)



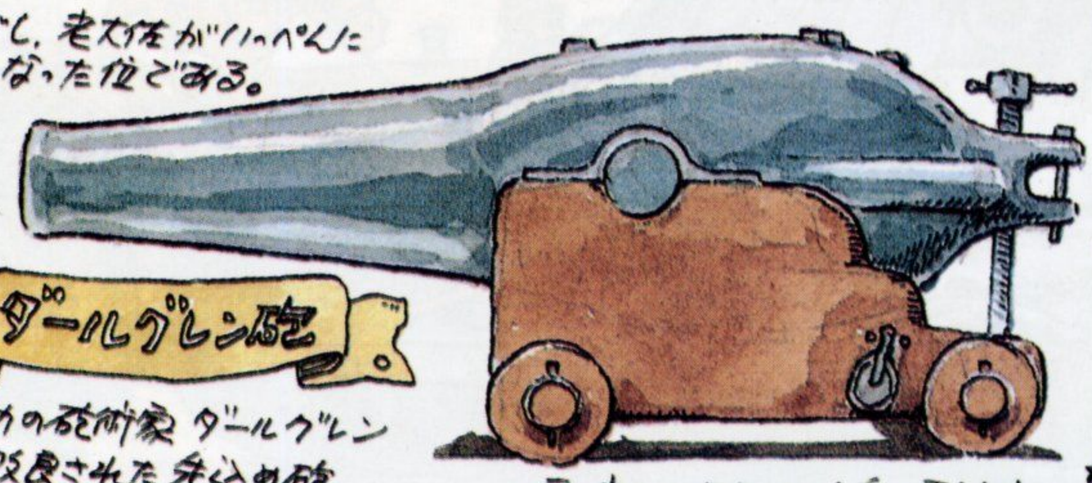



砲弾の雨の中をメリマックは 這うように進んだ。ソフトスキンの煙突は穴だらけになったが 装甲鈑は立派に役目を果し、北軍の 25cm、23cmのダールグレン砲の弾丸を ことごとくはねかえし、ついにメリマックの衝角は北軍スループ ガンバーランド(24門艦)の横腹にとどいたのであった。ガンバーランドは 沈没した。南部の喜びやおもうべし、老大佐がいっぺんに大将になった位である。

3月8日の海戦はたそがれまでつづき暗闇と共に メリマックは ノーフォークへとひき上げた。いれかわりに モニターはようやく ハンプトンローズに到着した。

バケツリレーでヘトヘトになった乗員と共に

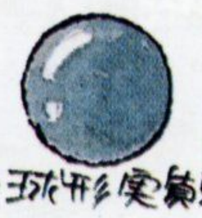
とにかく間にあったのだ。



## ダールグレン砲

アメリカの砲術家 ダールグレンにより改良された先込め砲
南北戦争で両軍に広く使用された滑筒砲とライフル砲の二種アリ

ラッキョのような砲身の形状は火薬ガス圧の分布を調べて決定された



★球形実質弾(要するに鉄の球)

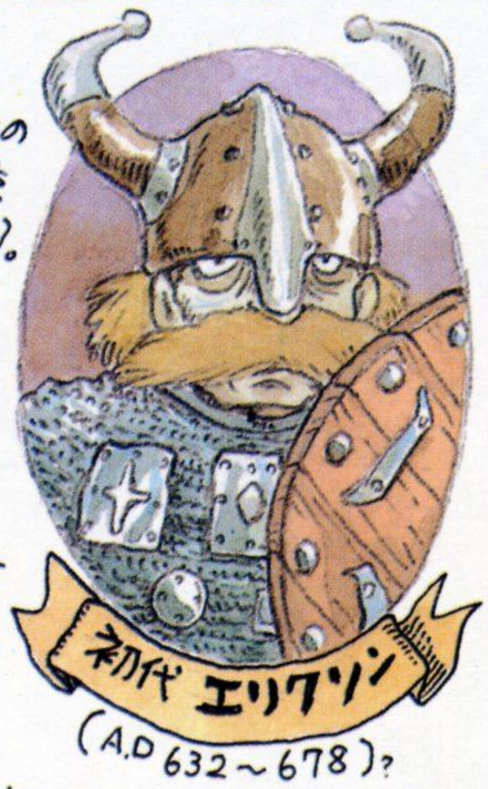
★球形榴弾

★シェンクル榴弾
もっとも一般的なライフル砲弾である

この部分が拡張してライフルにくいこむ

モニターは 仏人による発明品である。南軍の装甲艦対策に窮した北部政府は 装甲艦の設計を公募した。スェーデン人技師エリクソンは、自分のアイデアが斬新すぎるのをよく心得ていたので、海軍当局へは図面を提出せず、政府中枢に直接送りつけた。それでもスンナリ決ったわけではない。たった100日間で造るという彼の言で 政府はようやく採用を決定したのであった。メリマックは既に5ヶ月前から工事を開始していた。水はなみきくあけられていた。

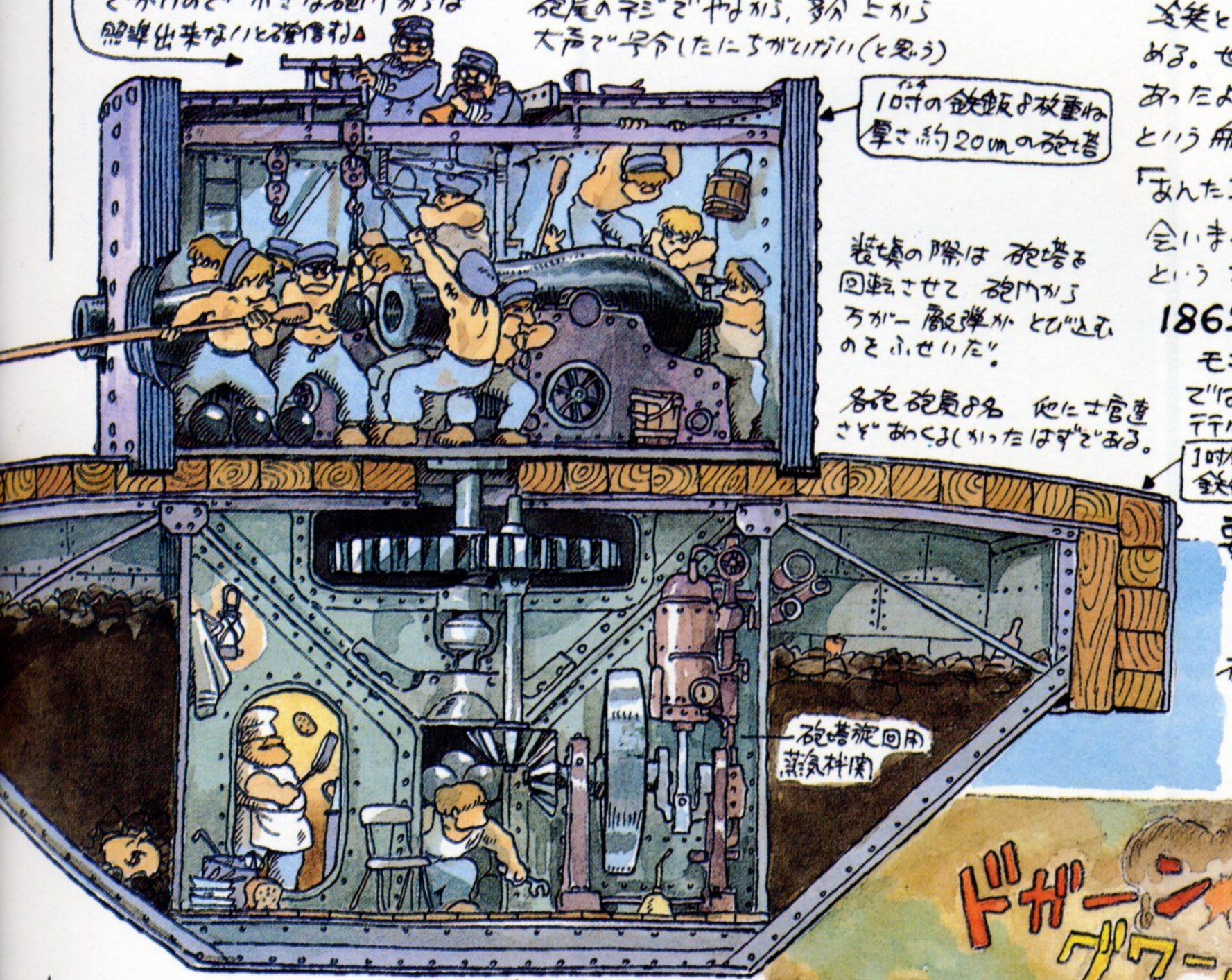
エリクソンは 狂気のように働いた。すべての図面を自分でひき 陸軍砲撃で見事、約束どおり100日間で建造してしまったのである。このモニターが その後の軍艦の形を決定してしまった。全周に射撃可能な蒸気駆動の砲塔、射界をさえぎるものは火薬までとり払う 徹底した合理主義、そのかわり、動力による強制通風、ついでに船内の換気も動力、同じく動力による揚弾装置etc. 多くの発明が、このライキングの子孫の頭から生れ出たのであった。



(A.D 632～678)?

この照準器は まったく私の想像である。ダールグレン砲は尻がでかいので 小さな砲内からは照準出来ないと確信する△

△となると砲塔上部より 狙うしかない。旋回は上でやるとして、俯仰は砲尾のネジでやるから、多分 上から大声で号令したにちがいない(と思う)




装填の際は 砲塔を回転させて 砲内から 弾丸が 火薬が とび込むのをふせいだ。

各砲 砲員8名 他に士官達さぞ あわくるしかったはずである。

1吋半(2.5cm)の鉄鈑

注) 左右がゆがんでいるのはエリクソンの設計のせいではない。絵をかいた奴のせいである。

エッヘッヘッ

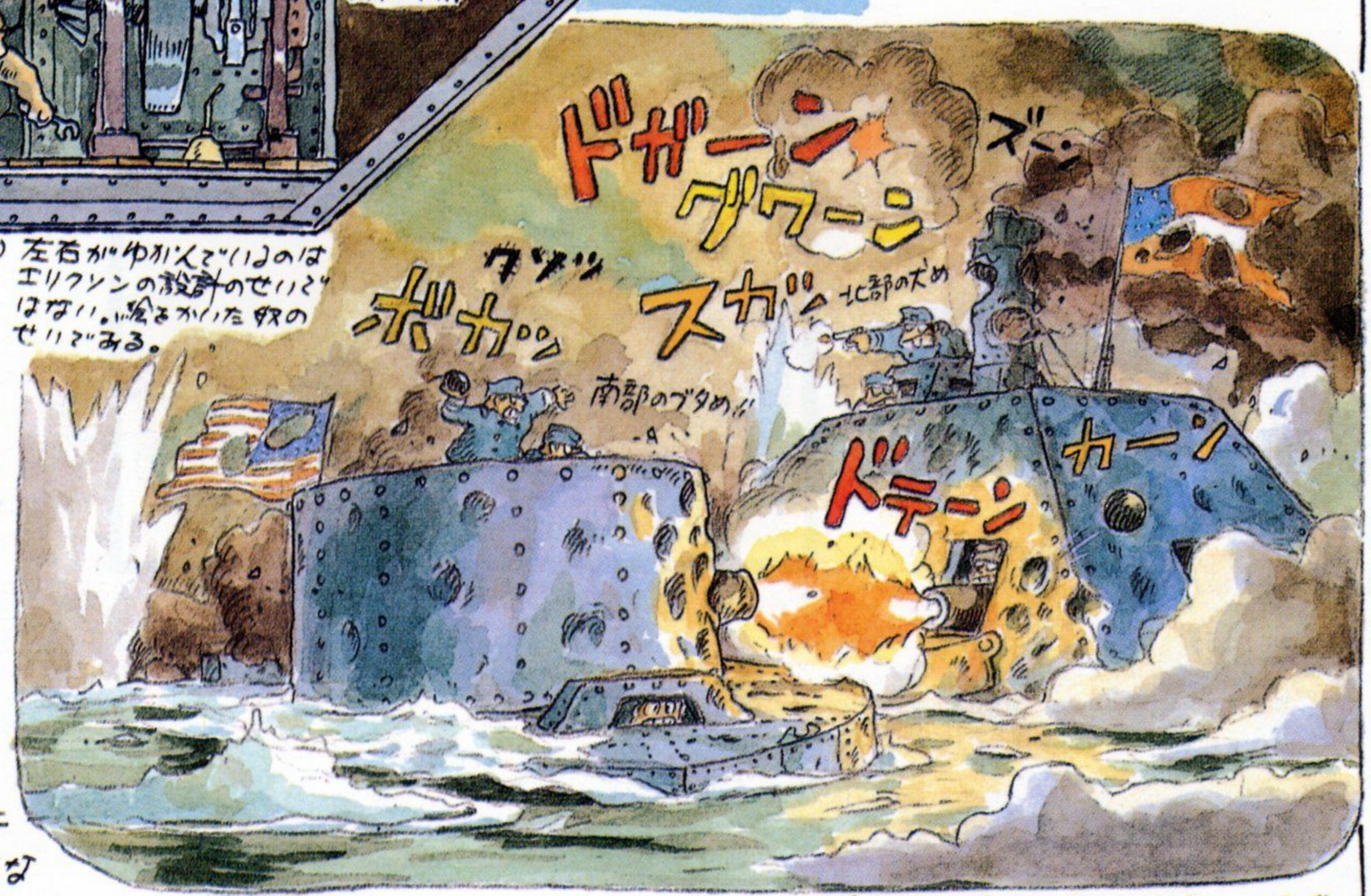
ヤッカミは 常に先駆者を苦しめる。世間の風あたりは 彼にも相当あったようである。「モニター(警告者)」という船名は 彼自身の命名だという。「あんたら モタモタしとると ヒドイ目に会いませ。時代は変ったんだ」という エリクソンの皮肉である。

**1862年3月9日** は モニターの初陣であると共に、世界ではじめて 装甲艦同士の海戦が行われた日であった。

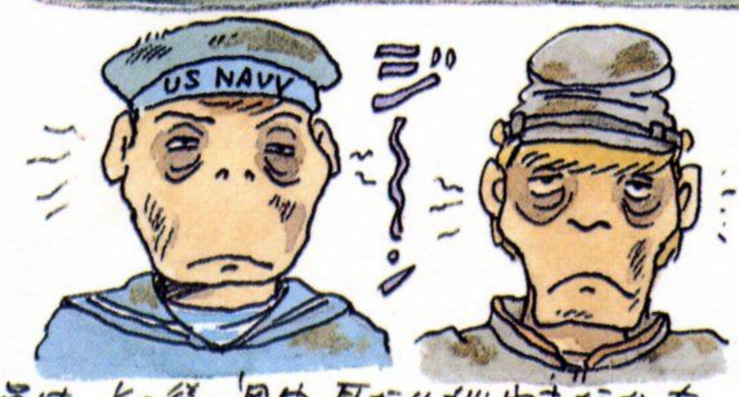
**要目**

全長 52.5m 幅 12.6m
速力 9ノット(16km/h)
砲塔直径 6.1m
高さ 2.73m

**砲装** ダールグレン28cm滑腔砲2門、要するに90kgの鉄の球をぶっぱなすのである。




両艦は100m以内の至近距離に近づき猛然と砲撃をくった。しかし一弾も 相手の装甲を貫ぬく事が出来なかった。勿論 弾片がスキ間からとび込んで負傷者は出た。メリマックの老艦長は 前日の戦闘で傷つき退艦している。いくら撃っても無駄だと判ると、両艦とも自分の舳で 相手の横腹をぶっ叩こうと試みた。しかし 砲煙はあたり一面にただよい、排煙筒はすっかり吹きとばされて煤煙が水上船内にたちこめ 相手すら良く見えなくなってしまった。おまけに錨鎖で船の動きも悪いとなると 衝角もむづかしい。両艦とも 浅瀬にのりあげたり、終日の大さわぎのすえ ついに たそがれと共にひきわけとなったのであった。




この海戦に参加した両艦の兵員は、その後一週間 耳なりがやまなかった。

アメリカ海軍には 新しい国にふさわしい 伝統にとらわれぬ良さがあった。南北戦争にはそれが良くあらわれている。だが ミサイルの台に老朽艦艦をひっぱり出し、大艦巨砲のおどし外交が有効だと思うようになると 様子がちがって来る。世界一を誇るようになりかけてのスペインの無敵艦隊のように 国家も海軍も 内部からくさり始める証拠であろう。レバノン沖に出動した老朽艦艦は 何の役にもたたず、笑いものになっただけであった。

1984.11.3

*Hayao Miyazaki's Daydream note*

第3話

# 多砲塔の出番

堅陣突破こそ男の花道!?とばかりに、

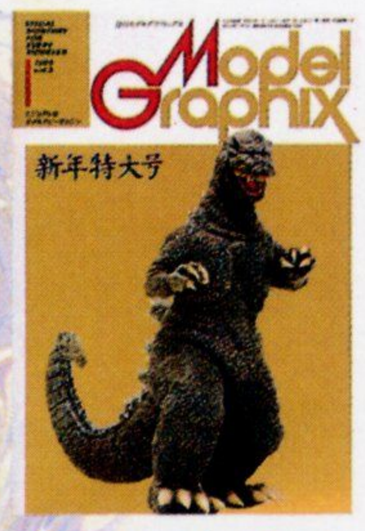
夢の多砲塔戦車「悪役一号」は

悪役大佐の指揮のもとに反乱を起こし、

一路帝都へ進撃開始！

悪役大佐が町でさらった少女への恋は、

豚と人間との壁を越えて成就されるのか!?




初出：月刊モデルグラフィックス1985年1月号
（連載第3回、執筆・1984年12月）

# 雑想ノート 連載第3回

## VSB-2 ボストニア王国陸軍超重戦車 (1932年試作)

全備重量 76t 最大速力 12km/h
装甲最大60ミリ 兵装
150ミリ榴弾砲×1
50ミリ歩兵砲×3
37ミリ速射砲×1
7.7ミリMG ×6
兵員 14名
生産台数 1輌

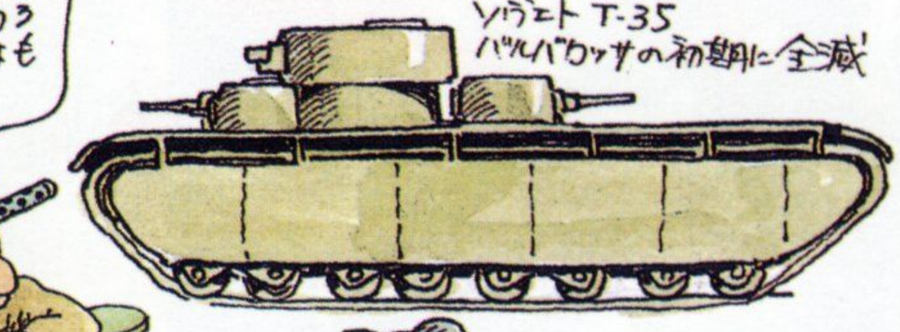
## 多砲塔の出番

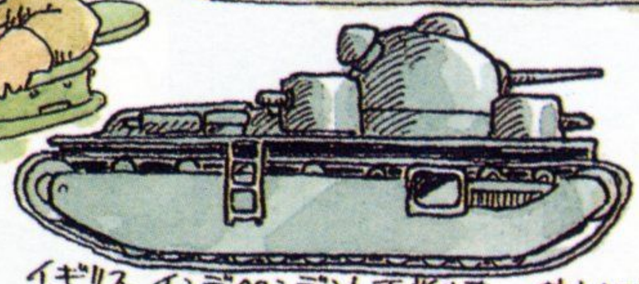
50年も昔の少年雑誌には、よく左のような絵がのっていたものである。その名も多砲塔重戦車。鉄条網を踏みにじり、トーチカを粉砕し、いかなる堅陣をもたちまち突破する、無敵の鉄牛というわけだった。が、第2次大戦がはじまるや、活躍どころか、たちまち姿を消してしまったのが、この多砲塔なのだ。

職業柄、戦車を時々フィルムに登場させるのだが、どうも最近の戦車はスマートすぎる。戦車はだいたい悪役むきなのであって、悪役には多砲塔がぴったりだ。というわけで、いつか、せめてフィルムの中で活躍させたいとおもうようになった。

↑アニメーターには時々このような殊勝な者がおるのであります

ソヴィエト T-35
バルバロッサの初期に全滅

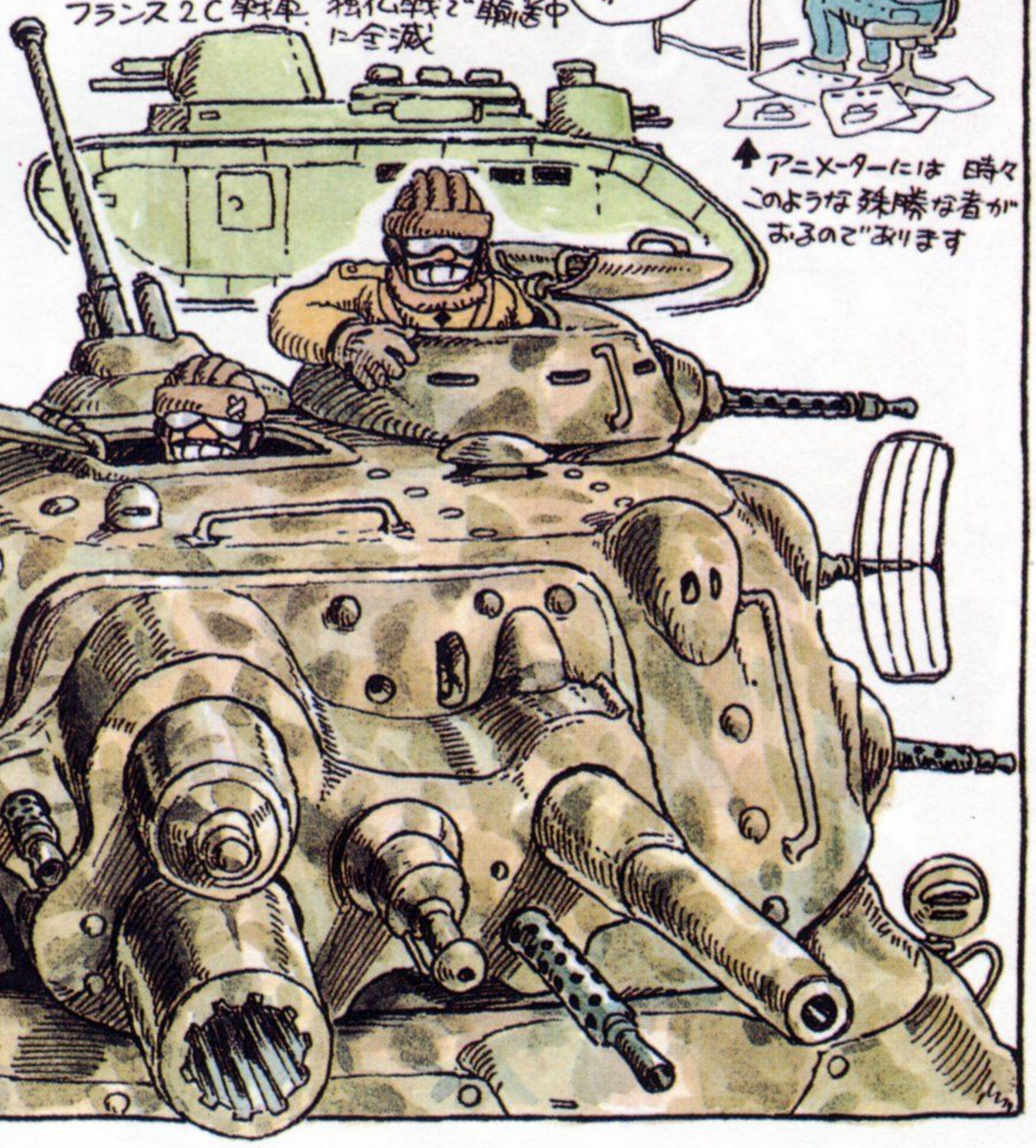




イギリス インデペンデント重戦車 使われずじまい

日本 92式重戦車
「のらくろ」によくにあう

フランス 2C戦車 独仏戦で輸送中に全滅



かくして造られたのがこの夢の多砲塔戦車
**「悪役1号」**である
時あたかも1930年代中頃のこと

全備重量　200t
出力　1000HP×2
速力最大28km
(カタログ上)
兵装かずしれず

工兵塔
火焔放射器と
ダイナマイト砲標準装備

隠顕式指令塔
スルスルとのびれば
なんと地上高10m
の視野を楽しめる
のである。

ドーザープレートは
油圧で操作する。

この戦車の最大の特徴は腹部にもう一本の
キャタピラーを持つことである。これにより
戦車障害物を易々と乗りこえるのである!!

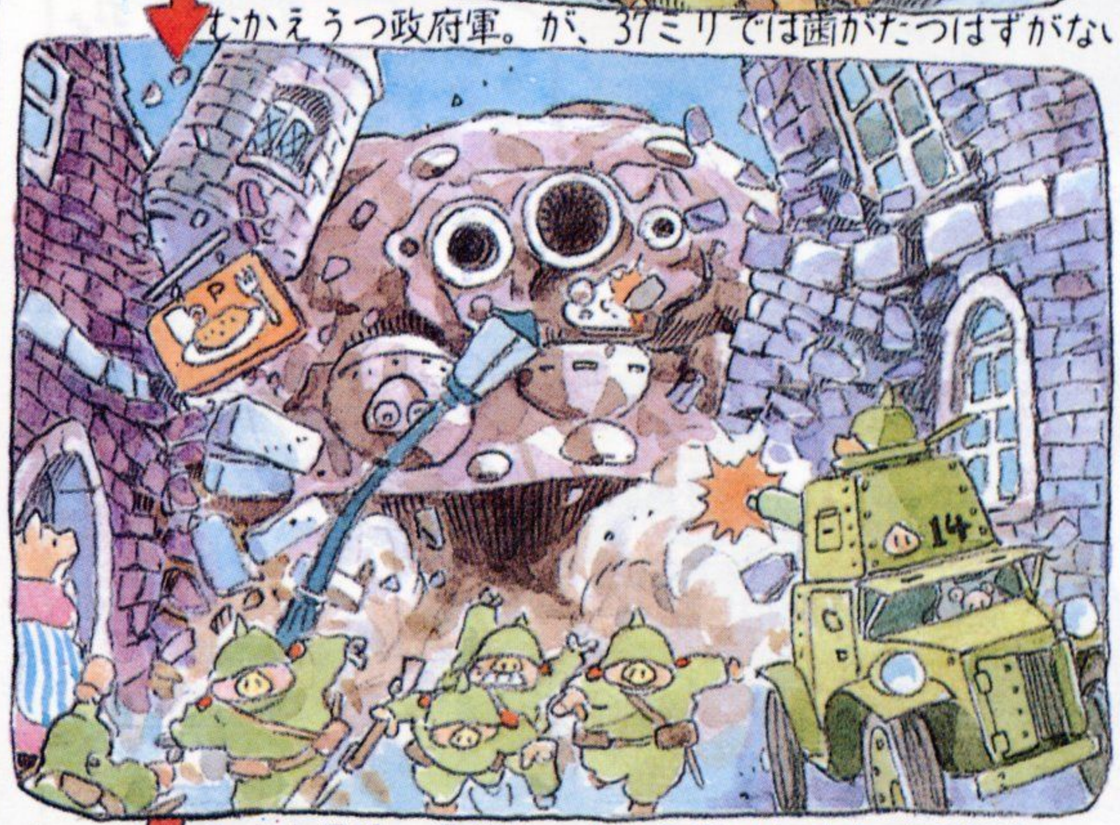
## ものがたり

バークシャー連隊が悪役大佐にひきいられて反乱を
おこした。同連隊は戦車にのって帝都に進撃を開始。

後向き
操縦室
そのまま
帰れる
便利なもの。
後にドイツ軍が
重装甲車でまねた。

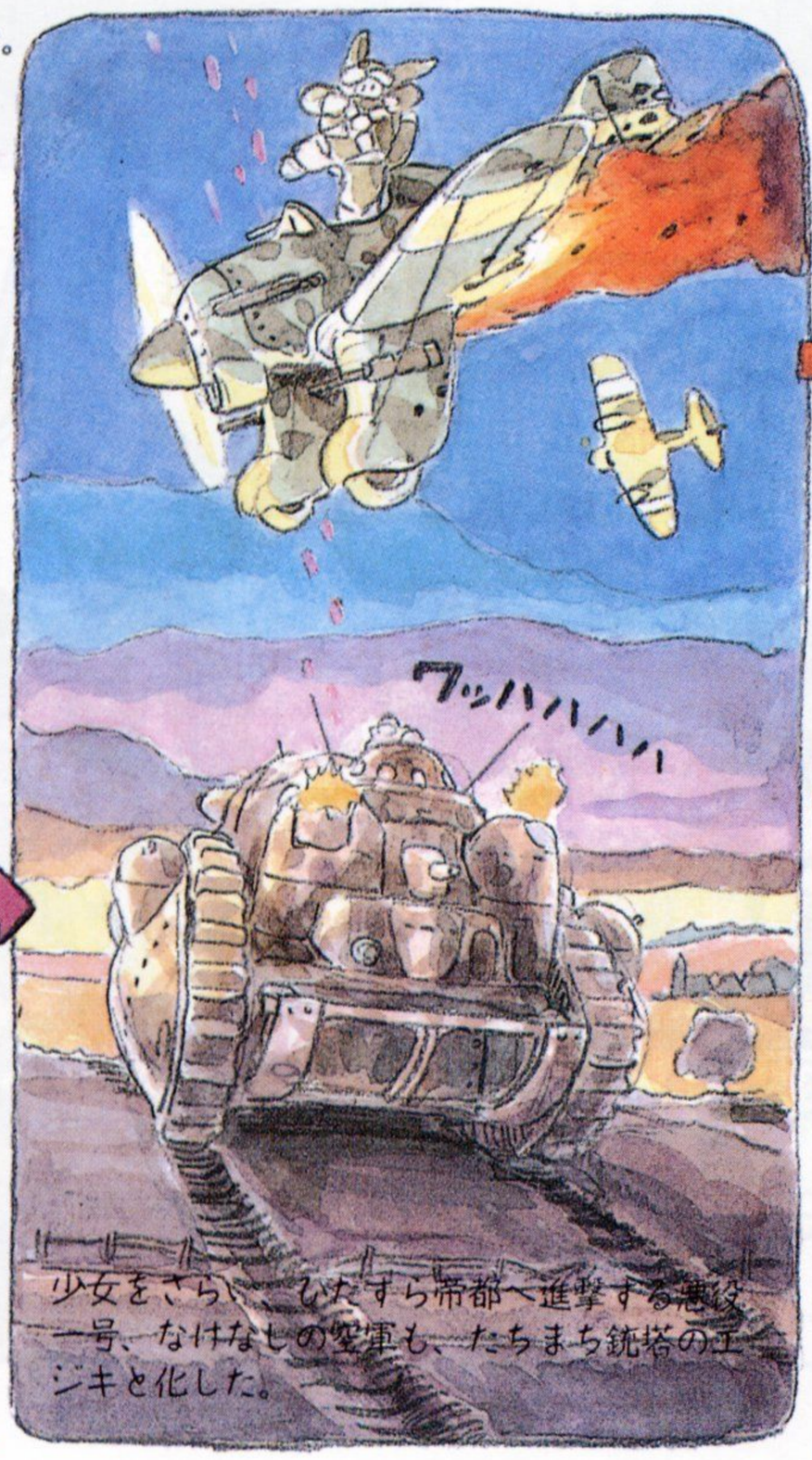
兵員は小柄な者をそろえている。
のちに、この思想は〇連軍にうけつがれた。

むかえうつ政府軍。が、37ミリでは歯がたつはずがない。



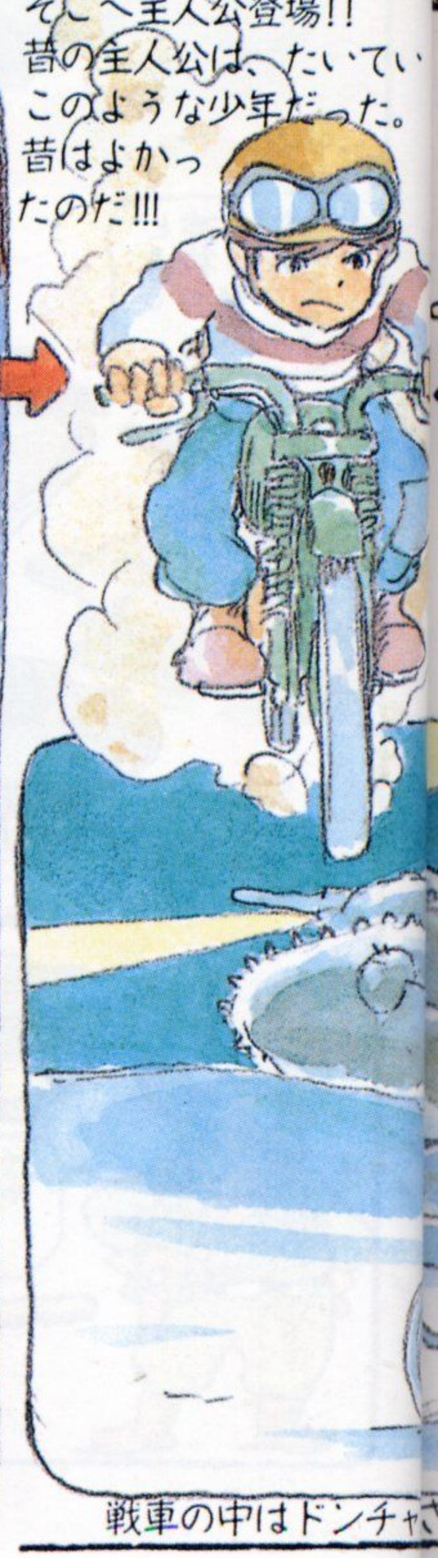
みよ！悪役一号をくい止める事はもはや不可能だ。

「みつけ!!戦利品第1号だ」「ワーイ、大佐イイナァ」




少女をさらい、ひたすら帝都へ進撃する悪役
一号、なけなしの空軍も、たちまち銃塔の工
ジキと化した。

そこへ主人公登場!!
昔の主人公は、たいて
このような少年だった。
昔はよかっ
たのだ!!!



戦車の中はドンチャ

世紀の悪役
バークシャー連隊大佐
悪役一号の生みの親である

試作段階でつくられた
短砲身タイプの砲塔
すぐに長砲身のものに
かえられた

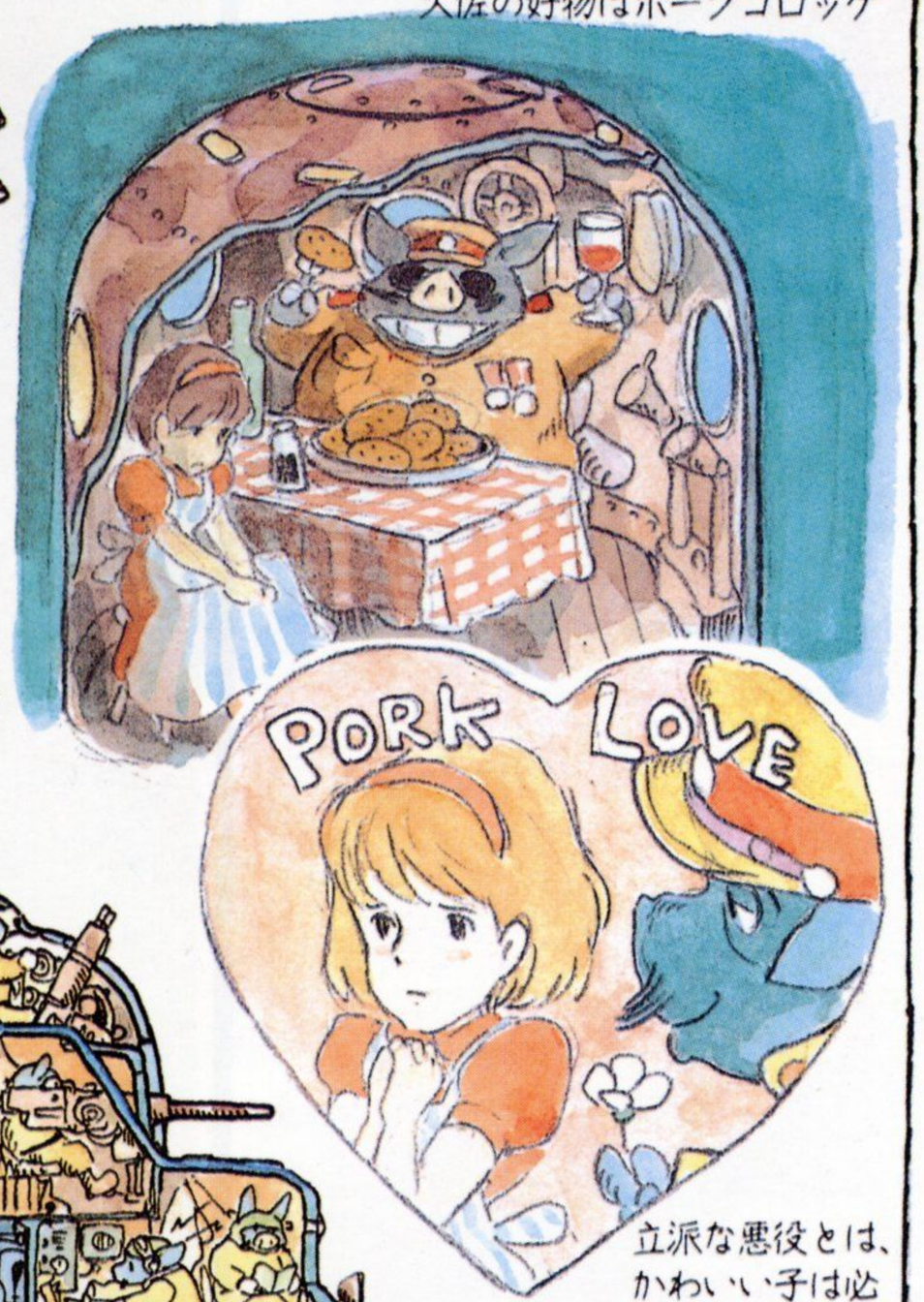
230ミリ噴射砲(ロケット臼砲)

75ミリ速射砲

170ミリ加農砲
同軸装備の各種機銃は
5種7丁をかぞえる

銃塔(2丁装備)

大佐の好物はポークコロッケ




指令塔は大佐の個室でもある。悪役にはこのような部屋が必要だ。女の子をくどくためにも。

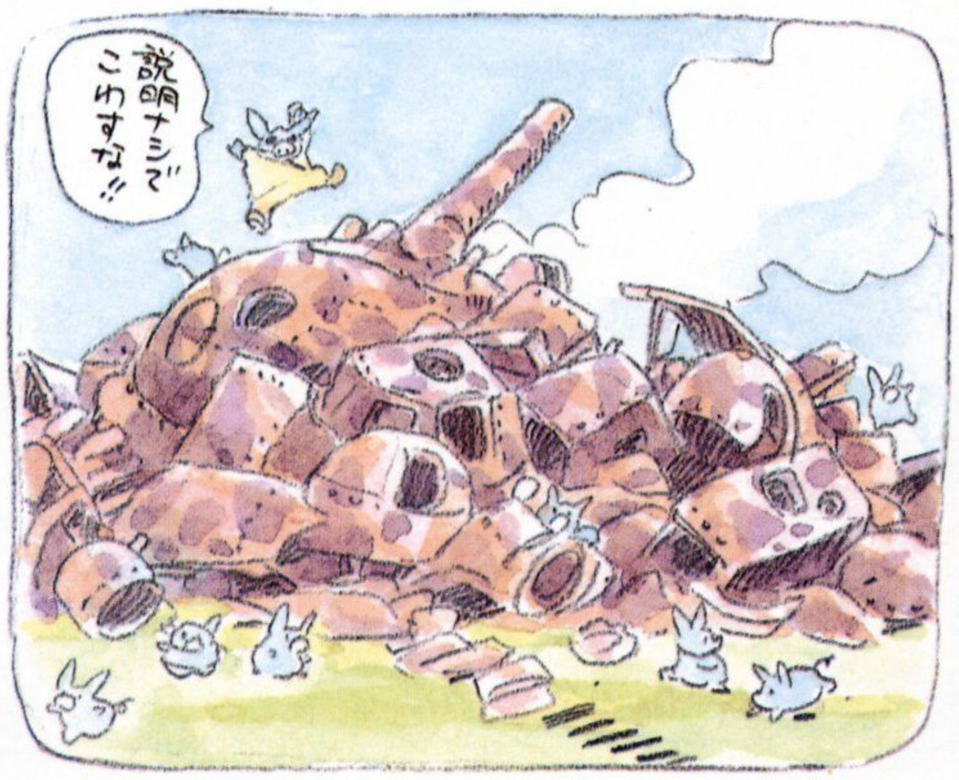
立派な悪役とは、かわいい子は必ず口説いてあげねばならない。結果はどうあれ。

そしてついに!!悪役一号と大佐の野望はついえた

ここから先は
上の図を見つつ
演出が必死に
考えるのである

どうもぐりこみ
どうこわし
どう火をつけるか
と…

さわぎの前祝中、今こそ乗り込むチャンス



このようなマンガ映画を観たい方は、2億円ほど持参して下さい。1年ほど待って下されば、70分の総天然色マンガ映画を創ってさしあげます。(PR)

1984. 12. 3.

*Hayao Miyazaki's Daydream note*

## 第4話

# 農夫の眼

1930年代後半に起こったスペイン市民戦争で、

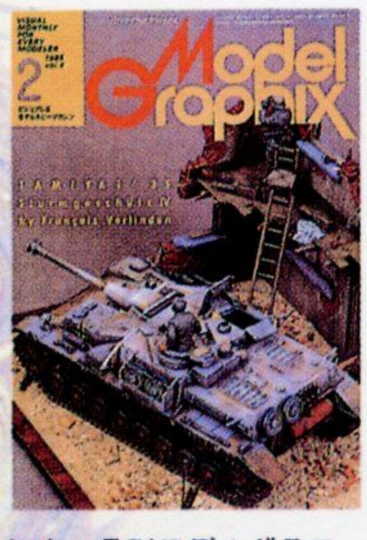
反ファシズムの闘士としてその身を投じた

フランス人作家、アンドレ・マルロー。

彼の著作『希望』に登場する

エピソードに基づく、

フランス旧式機による決死の爆撃行！




初出：月刊モデルグラフィックス1985年2月号
（連載第4回、執筆・1985年1月）

POTEZ 540

# 雑想ノート No.4

# 農夫の眼

爆弾のサイズがまちまちなのは当時のスペインの工業水準の低さが原因である というわけではなく 絵をかいた奴のせいである

96式陸攻とほとんど同じ時期に造られたフランスのポテーズ540は、産れた瞬間から旧式機という、みじめな爆撃機だった。木金混成の四角い胴体、支柱と張線だらけの羽布張りの高翼、空気抵抗を減らす努力をしたとは思えぬのに、武骨なエンジンカウリングに引き込まれる脚。設計者達が何を考えていたか判らん機体である。カタログ上はどうか知らないが、水平全速300km／時は絶対に無理だったはずだと思う。しかし、この飛行機に乗って自身の思想と信条のために戦った男達がいた。スペイン市民戦争(1936年～39年)に、人民戦線政府(共和派)の国際義勇航空隊に身を投じてファシズムと戦った男達（フランス人、イタリー人、アメリカ、ドイツ、アラビアその他の国々から集まった人々）である。各国労働者のカンパに支えられて購入されたポテーズ540で、彼等は、独伊が送り込んだ正規空軍(名前だけは義勇軍）を相手にスペイン上空へ出撃していった。

ポテーズ540
全長16m
全幅22m
最大速力310km／時
航続距離1200km
7.7ミリ機銃×3
爆弾200kg×4
又は 50kg×10

このノートは、アンドレ・マルローの小説「希望」をもとにしている。「征服者」「人間の条件」等の著者として知られるマルローは、国際義勇航空部隊の創建にたずさわり、自身もポテーズでの爆撃行に参加したのである。

赤色の帯のみというマーキングが共和政府軍の正式のものとはおもえない。が少くともこのエピソードがあった時期には国際義勇空軍のポテーズは、このようにマーキングされていた。

尾翼に小さく描かれたこのマークは、ソ連を指すのではない。この時代は、共産主義運動が世界から戦争をなくすと信じられていた最後の時代だったのだ。そして、裏切りが明らかになった時代でもあった

ポテーズ540

イスパノスイザ水冷12気筒 780HP

半引込み式 銃座

カモフラージュといっても翼下面までダークグリーン一色とは、これも又ナゾではある。

ジュラルミンのカウリングは無塗装という機体が多いが、ダークグリーンのもある。ぼくはこの方が好きだ。

このマーキングがおそらく正式のものであるが、まちまちの時期もあったようだ

それにしても、こんなに描く甲斐のない機体も珍しい。どのアングルから描いても まるで風邪をひいたワトソン → にしかならない。

# 1937年(昭和12年)2月9日 スペイン地中海戦線

ひとりの農夫が義勇航空隊の基地にたどり着く。ファシスト軍に占領されたテルエル近郊の自分の村を脱け出し、戦線をこえて通報に来たのである。やっとの秘密の飛行場があると…






村の近くに散在する森のひとつにかくされているという。農夫は文盲だった。地図が読めない。いったいどの森なのだ"…。農夫は飛行材に乗って道案内すると申し出た。搭乗員は攻撃を決意する。



攻撃は早朝の奇襲しかない。援護の戦闘材は望めないのだ"。村々からトラックが集まって来る。



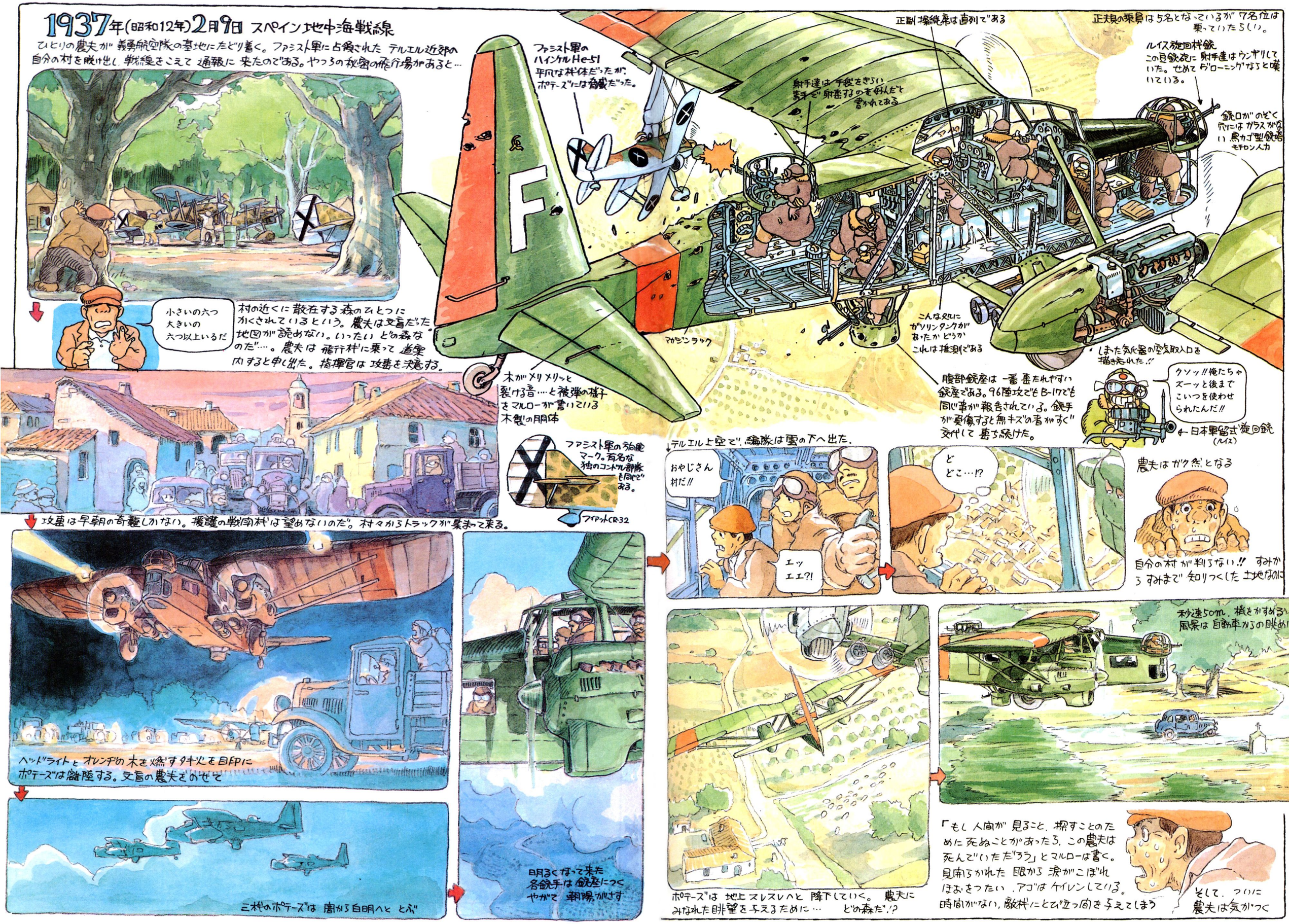
ヘッドライトとオレンジの木を燃す火を目印にポテーズは離陸する。文盲の農夫をのせて



二機のポテーズは闇から白明へととぶ

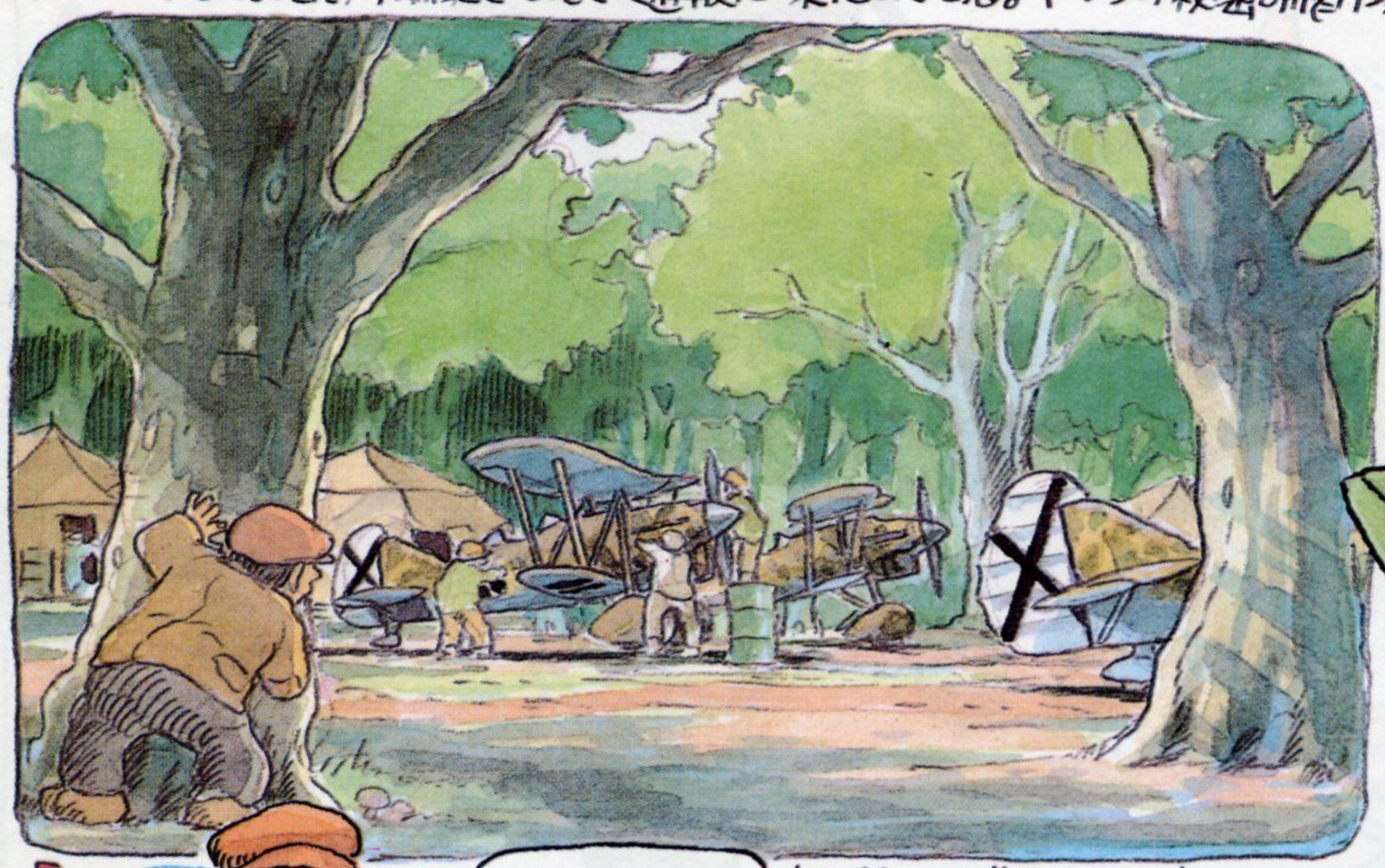


明るくなって来た
各銃手は銃座につく
やがて朝陽がさす

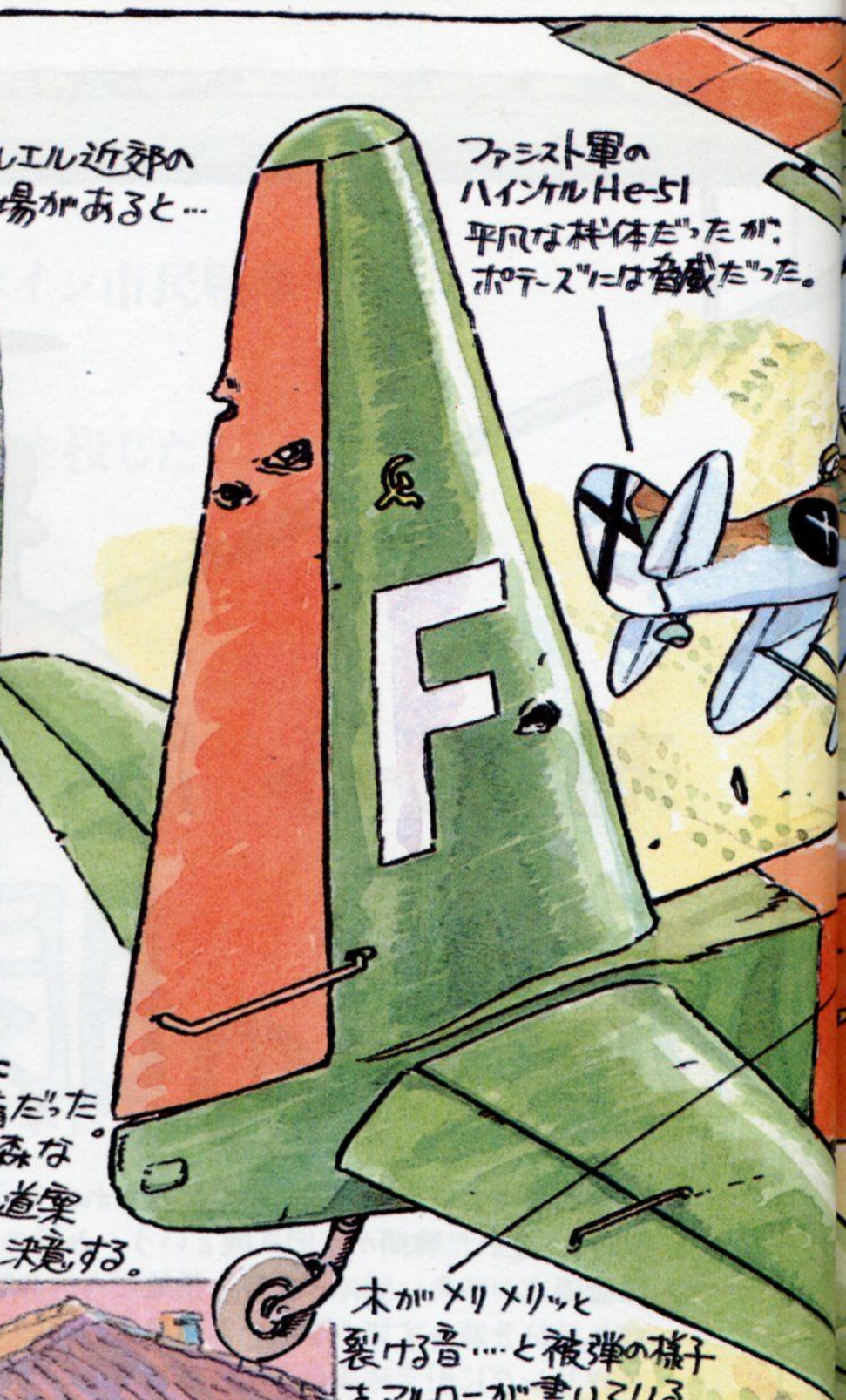


# 1937年(昭和12年)2月9日 スペイン地中海戦線

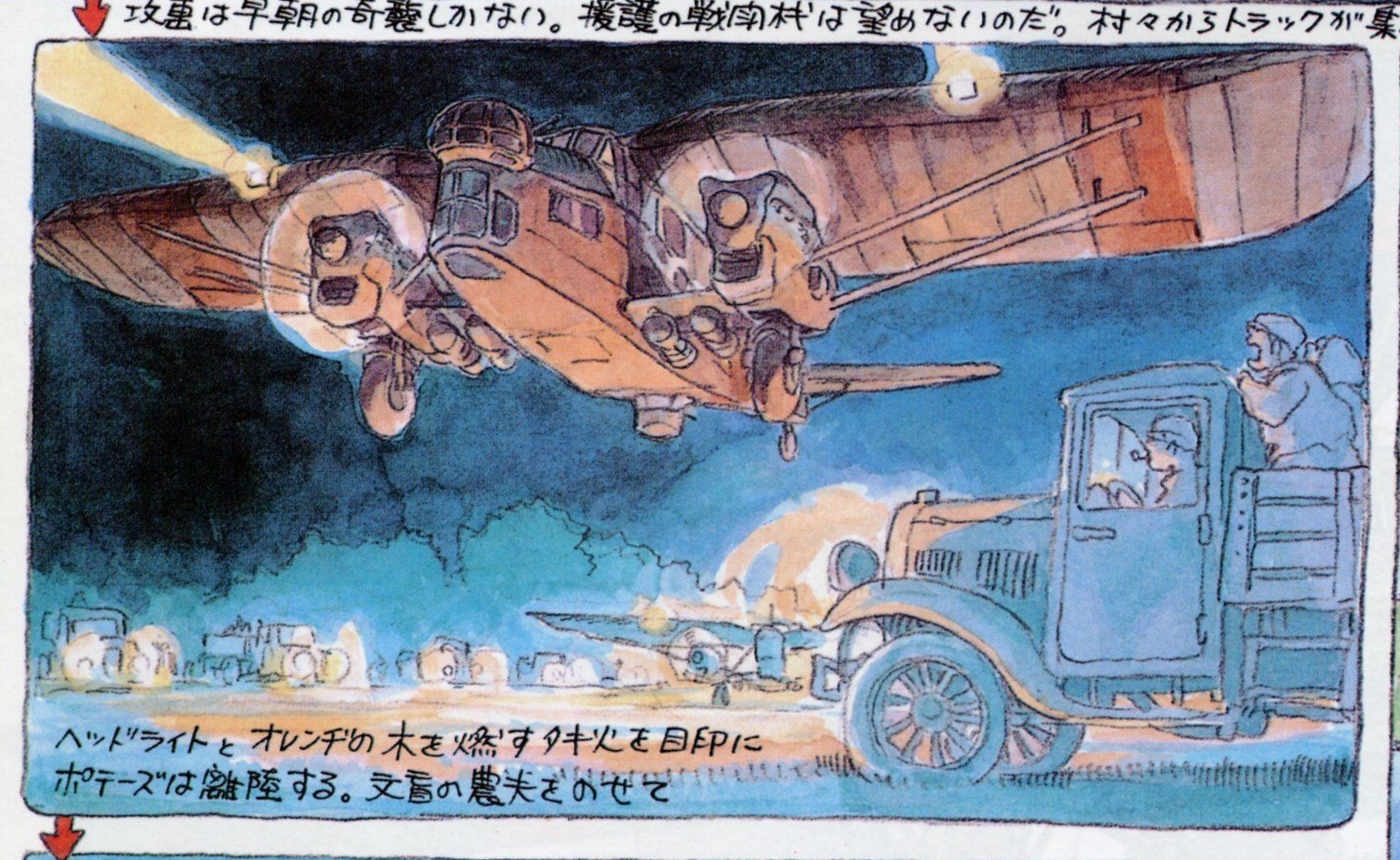
ひとりの農夫が義勇航空隊の基地にたどり着く。ファシスト軍に占領されたテルエル近郊の自分の村を脱け出し、戦線をこえて通報に来たのである。やつらの秘密の飛行場があると…



村の近くに散在する森のひとつにかくされているという。農夫は文盲だった。地図が読めない。いったいどの森なのだ…。農夫は飛行機に乗って道案内すると申し出た。指揮官は攻撃を決意する。



攻撃は早朝の奇襲しかない。援護の戦闘機は望めないのだ。村々からトラックが集まって来る。



ヘッドライトとオレンジの木を燃す焚火を目印に
ポテーズは離陸する。文盲の農夫をのせて

明るくなって来た
各銃手は銃座につく
やがて朝陽がさす

三機のポテーズは闇から白明へととぶ

正副操縦席は直列である

正規の乗員は5名となっているが7名位は乗っていたらしい。

ルイス旋回機銃
この旋銃砲に射手達はウンザリしていた。せめてブローニングなら と嘆いている。

射手達は手袋をきらい素手で射撃するのを好んだと書かれてある

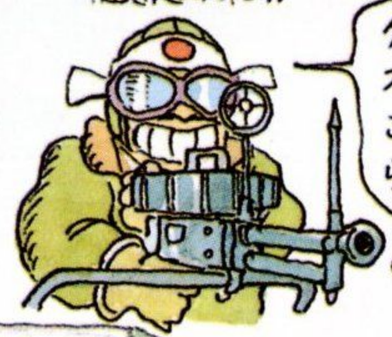
銃口がのぞく穴にはガラスがない 鳥カゴ型銃架 モチロン人力

マガジンラック

こんな処にガソリンタンクがあったかどうかこれは推測である

しまった気化器の空気取入口を描き忘れた!!

腹部銃座は一番壊れやすい銃座である。96陸攻でもB-17でも同じ事が報告されている。銃手が負傷すると無キズの者がすぐ交代して撃ち続けた。



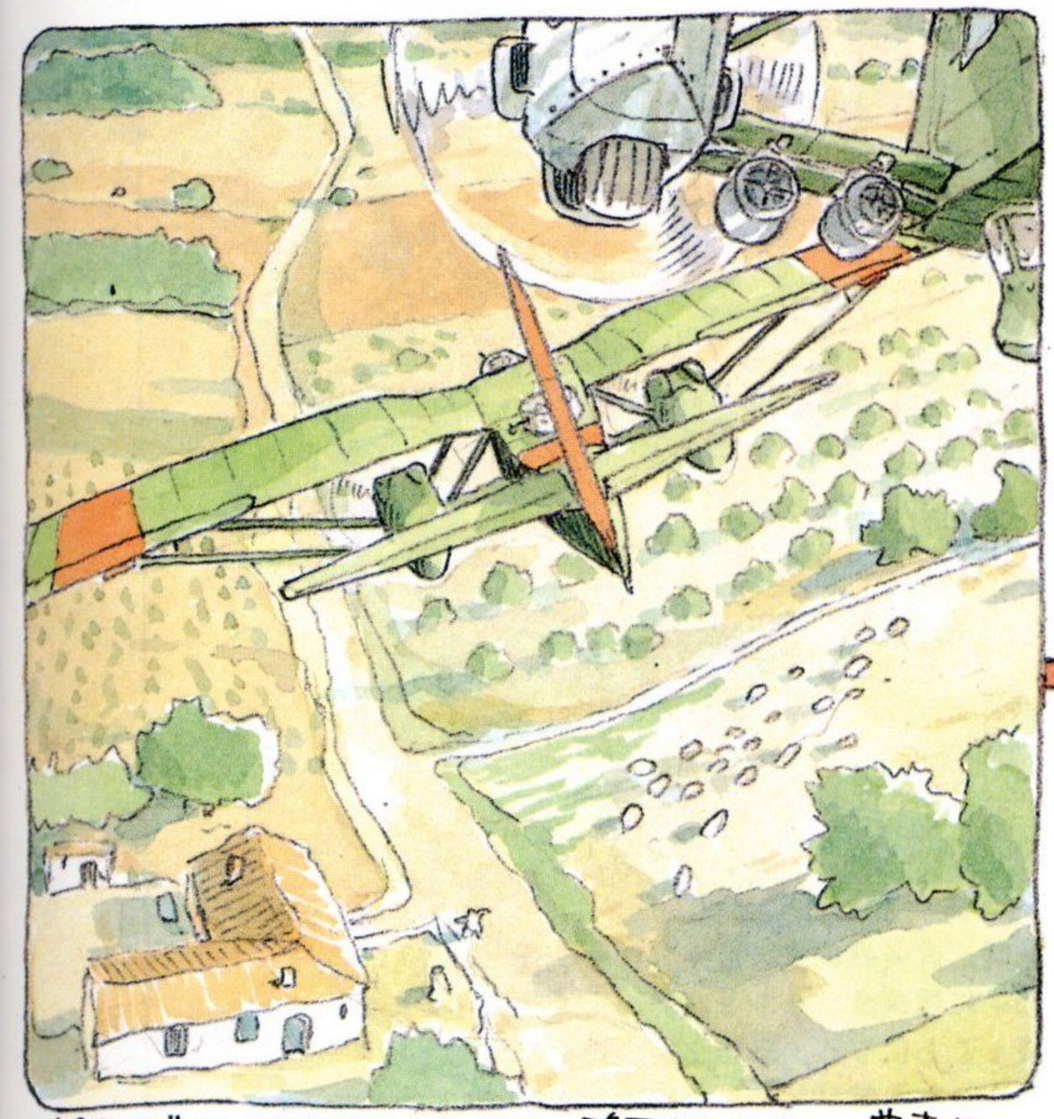
クソッ!! 俺たちゃズーッと後までこいつを使わせられたんだ!!

← 日本軍留式旋回銃 (ルイス)

↓テルエル上空で、編隊は雲の下へ出た。

農夫はガク然となる

自分の村が判らない!! すみからすみまで知りつくした土地なのに



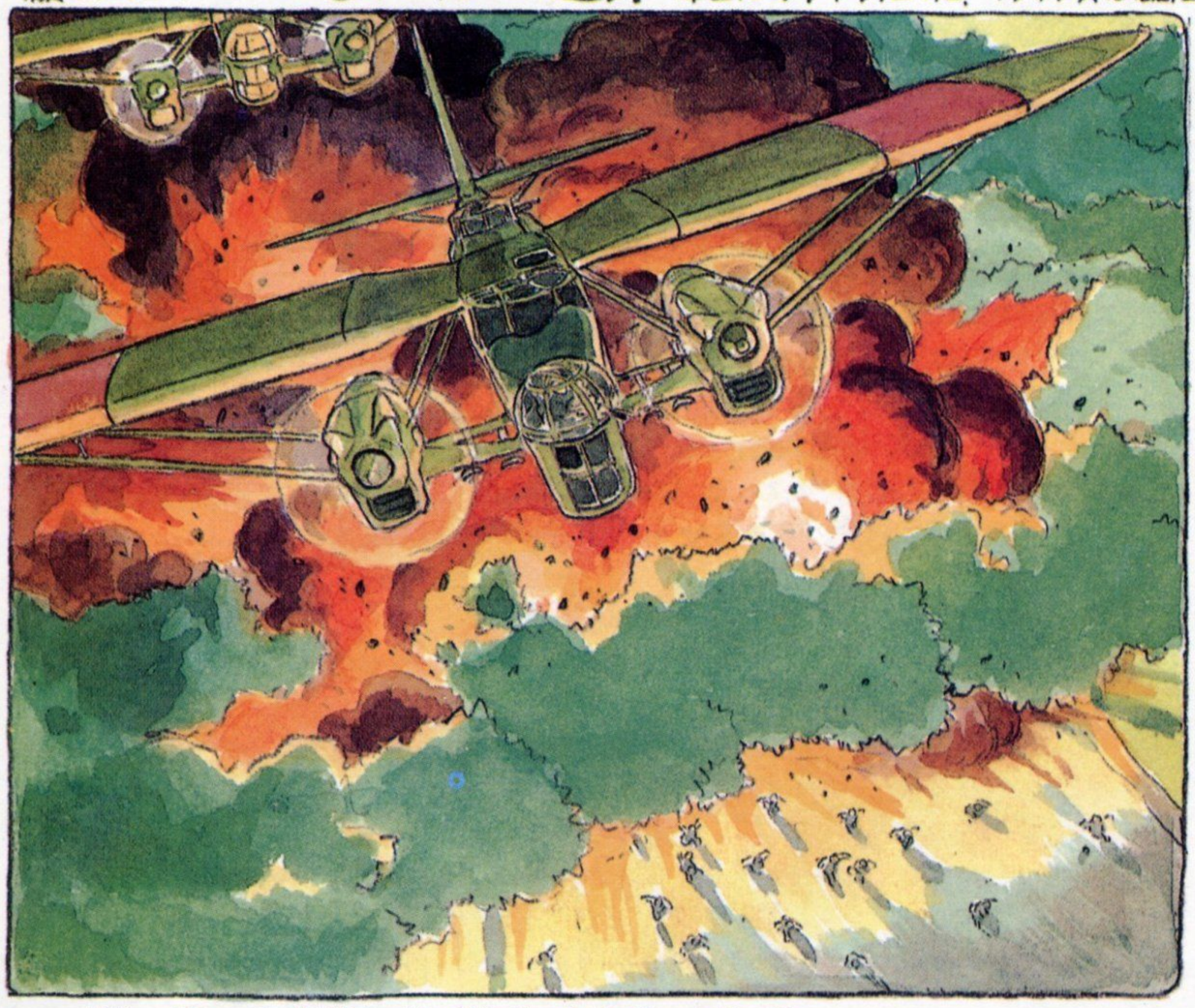
ポテーズは地上スレスレへと降下していく。農夫にみなれた眺望を与えるために… どの森だ!?

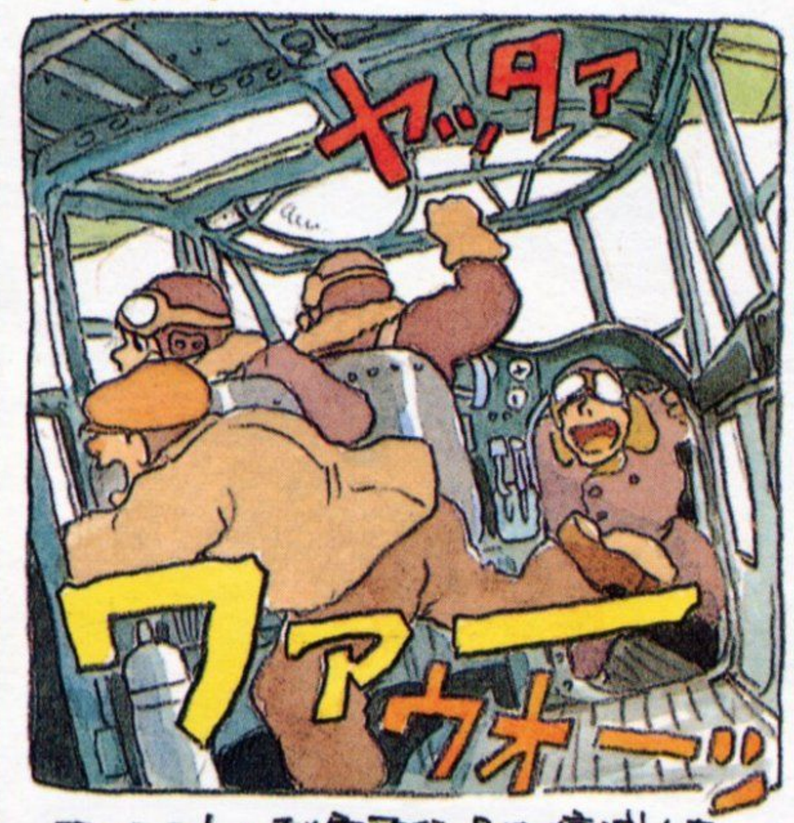
秒速50m、横をかすめる風景は自動車からの眺めに等

「もし人間が見ること、探すことのために死ぬことがあったら、この農夫は死んでいただろう」とマルローは書く。見開かれた眼から涙がこぼれほおをつたい、アゴはケイレンしている。時間がない、敵機にとび立つ間を与えてしまう

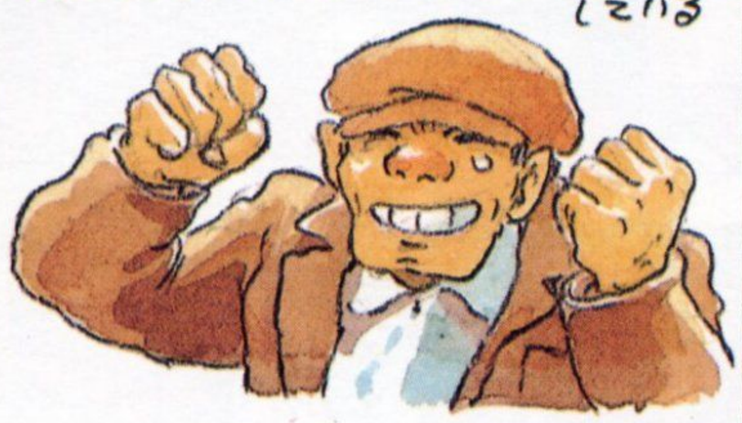
そして、ついに農夫は気がつく

あそこだ!! 森のかげに廻り始めたプロペラが見えた。ポテーズは銃撃を加えつつ上昇旋回に移る。爆撃に必要な400mの高度を稼ぐために、そして全速力で森へとって返す。本当にギリギリだった、イタリア兵は離陸を断念する。





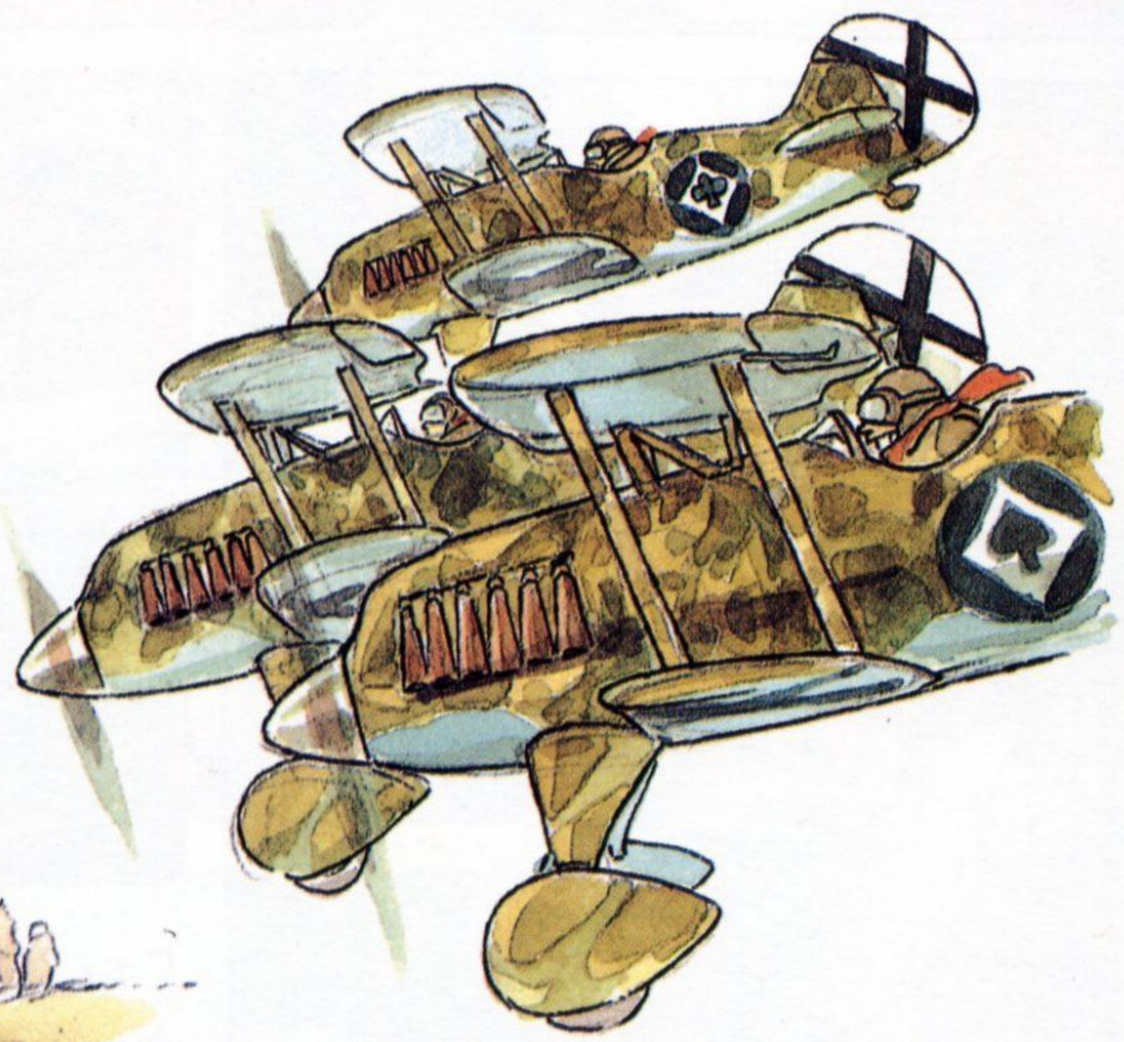

ファシストの秘密飛行場は壊滅した
農夫はうれしさと寒さで機関に足踏みをしている



帰途、ポテーズの編隊は、別の飛行場から飛び立ったHe51の7機に襲われた。ポテーズの二番機が撃墜され、アラビア人の国際義勇航空兵が死に、フランス人、ベルギー人、イタリア人が負傷している。負傷兵達は農民達の担架ににになわれ、基地に帰って来た。

ポテーズの編隊を指揮したマニヤンという名のフランス人が、マルロー本人だと伝えられている。おそらく、このエピソードは本当にあった事なのだろう。私は観ていないが、マルローの同名の映画「希望」には、実際にポテーズによる空襲のシーンがあるという。

1939年3月、スペイン内乱は人民戦線政府の敗北で終りを告げた。自信をつけたヒトラーは、同じ年に第二次大戦を開始する。スペイン内乱でナチスとファシストを破っていれば、戦争はおきなかったと今も信じている義勇兵の生残り達がいるともきく。



内乱終結時、人民戦線側の数十万の労働者・農民が虐殺された。その後1975年に独裁者フランコが死ぬまで、スペインにはファシスト政権が続くことになる。私は文盲の農夫がなんとか生き残り、天寿をまっとうしたと信じたい。

1985. 1. 7

*Hayao Miyazaki's Daydream note*

第5話

# 竜の甲鉄

清国北洋艦隊が、

世界に誇る最新鋭甲鉄艦、定遠（ていえん）と鎮遠（ちんえん）。

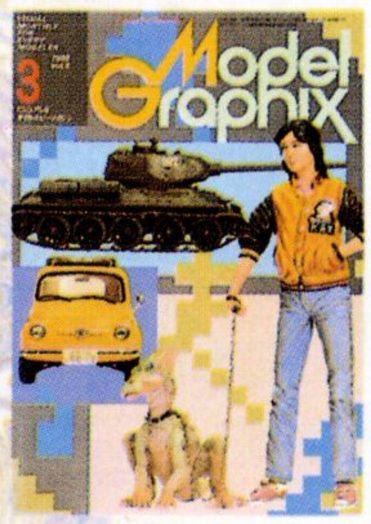
圧倒的な装甲防御と

大火力を持った両艦は、1894年9月、

黄海にて日本艦隊と激突！

日清両国の間で咆哮する

2頭の竜の運命はいかに…!?




初出：月刊モデルグラフィックス1985年3月号
（連載第5回、執筆・1985年2月）

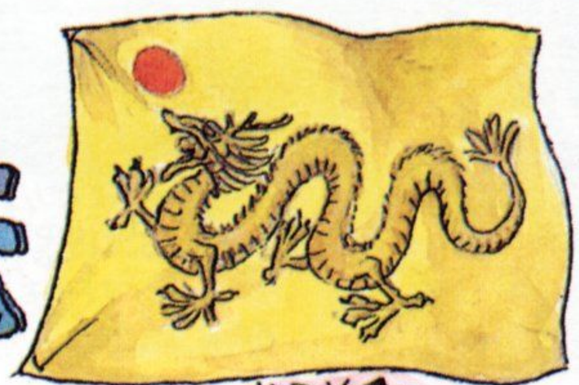
1894年9月17日、清国北洋艦隊の旗艦定遠は、近づく日本艦隊に5,800mで初弾を発射し、ついでにまだブリッジの上にいた提督丁汝昌と外人顧問タイラーの二人を爆風で吹きとばした。黄海海戦の幕あけである。

定遠・鎮遠要目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 全長91メートル | 最大速力14.5ノット | | |
| 巾 18メートル | 30サンチ砲 | 4 | |
| 排水量7310トン | 15サンチ砲 | 2 | |
| 出力6000馬力 | 7.5サンチ砲 | 4 | |

## 雑想ノート5回

# 竜の甲鉄



1882年(明治15年)ドイツのフルカン造船所で、艦首に金の竜をつけた二隻の甲鉄艦が誕生した。清国が、北洋水師(艦隊)の主力艦として発注した定遠、鎮遠の姉妹艦である。黄竜は中国清王朝の紋章であった。当時、列強は1万トンクラスの主力艦建造を始めていたが、二流とはいえ、両艦とも7,000tをこえる堂々たる巨艦である。西南戦争が終って間もない日本なんかにとても買える代物ではなかった。

黄竜旗↑(レーゾウ図)
北洋艦隊の旗なのだが、これが判らない
おそらくこんなものだったというしかない。

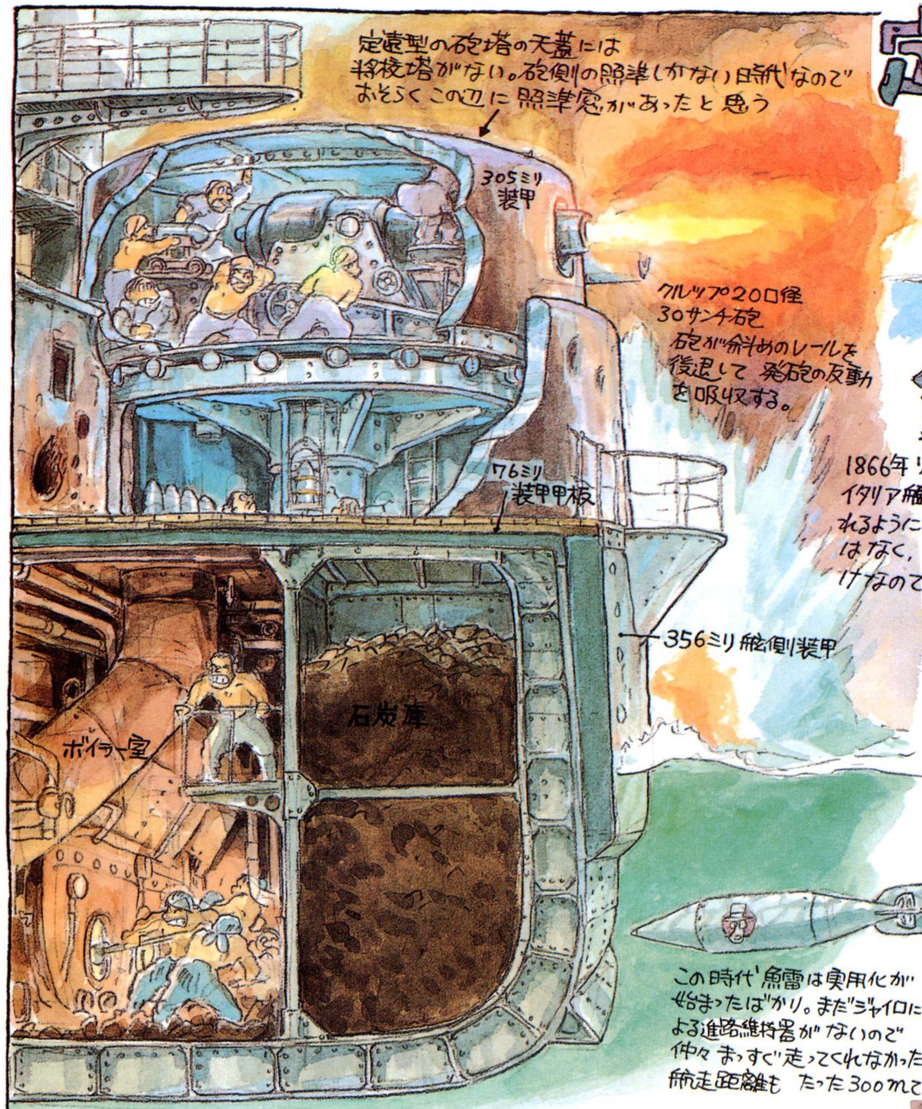
1891年(明治24年)、北洋艦隊は日本を訪問した。日本人は両艦の砲塔に茫然となった。厚さ30センチの装甲砲塔に、30サンチのクルップ砲を連装し、水圧でゴロゴロと自在に動くのである。日本艦隊は装甲砲塔など持っていなかった。おまけにすさまじい重装甲の船体である。舷側装甲356ミリ、主要部はシタデルと呼ばれる甲鉄の砦であった。不沈艦という言葉が、この頃既に使われている。折しも、日清両国間は風雲急をつげていた。

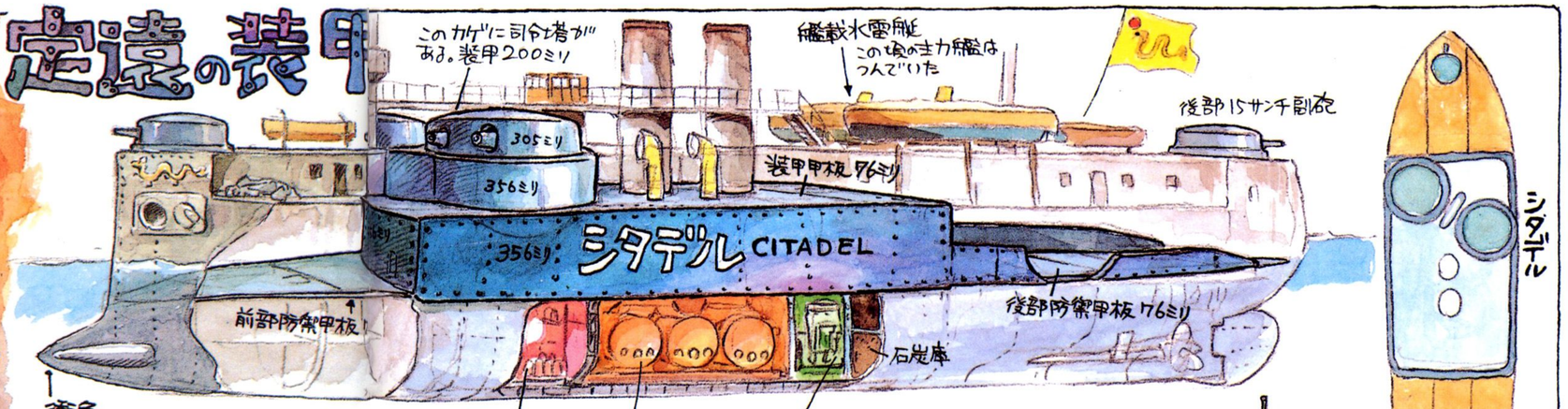
30サンチの巨砲

艦首15サンチ砲
艦尾にも一門アル

清国水兵は水平服を着ていなかった。水色の民族服に弁髪であった。

# 定遠の装甲

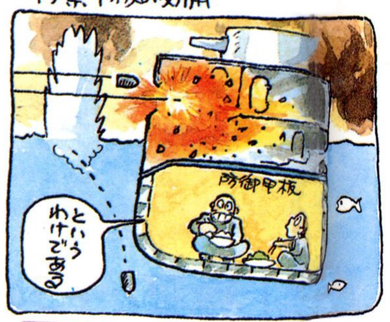



1866年リッサの海戦で 劣勢のオーストリー艦隊が
イタリア艦隊を 体当り攻撃で破って以来 つけな
れるようになった。実際には その後使われた例
はなく、衝突事故の時に仲間を沈めるだ
けなので、やがて廃止されていく。

**シ**タデルとは 艦の主要部を 中央に集め、分厚い装甲でおおった鉄の箱である
機関、ボイラー、弾薬庫、砲塔を集中防禦する 19世紀の末に流行した方式で、今
日の常識からすると まことに奇妙なカッコウだが、全艦くまなく装甲すれば
重くて沈んじまうのだから、軽量強固な最新式装甲だったのである。
砲塔を両舷に並列させて 主砲4門の全火力を 前方へ集中し、するどい衝角
をかざして 敵につき進んでいく艦として 定遠と鎮遠は建造され、実際にも 黄海海
戦では「常に艦首を敵に向けヨ」との命令に従って戦った。

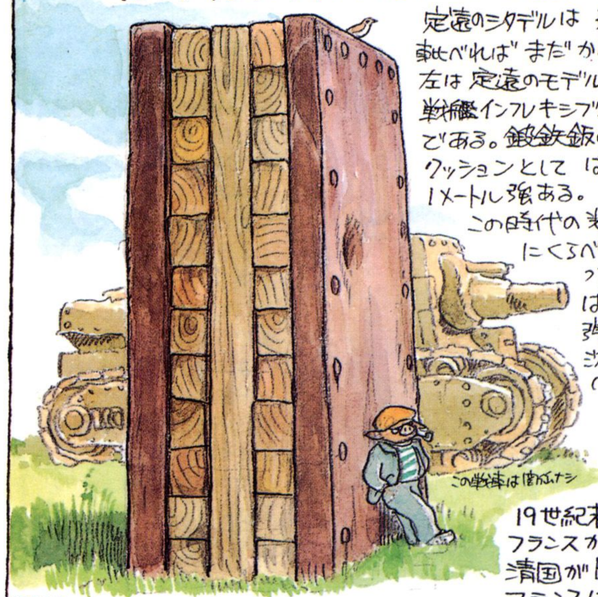
防禦甲板の効用



海防艦 厳島 4335t 16ノット

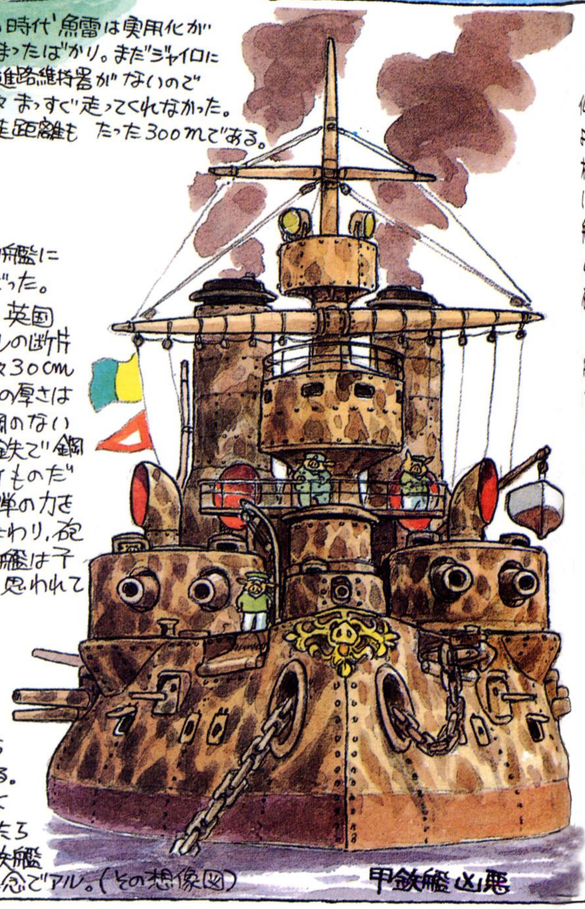
この時代 魚雷は実用化が
始まったばかり。まだジャイロに
よる進路維持器がないので
仲々まっすぐ走ってくれなかった。
航走距離も たった300mである。

## インフレキシブル(1876年進水)の舷側装甲




定遠のシタデルは 列強の主力艦に
軍比べれば まだかわいいものだった。
左は 定遠のモデルといわれる英国
戦艦インフレキシブルのシタデルの断片
である。鍛鉄鈑の厚さは 各々30cm
クッションとして はさまれた木の厚さは
1メートル強ある。 高張力鋼のない
この時代の装甲は 鍛鉄で鋼
にくらべれば モロイものだ
ったが、砲弾の力を
はるかに上まわり、砲
弾では 主力艦は子
次であると思われて
いた。

19世紀末の軍艦なら
フランスが最高である。
清国がドイツでなく
フランスに発注してたら
さぞかし壮烈な甲鉄艦
が生れたのにと残念でアル。(その想像図)



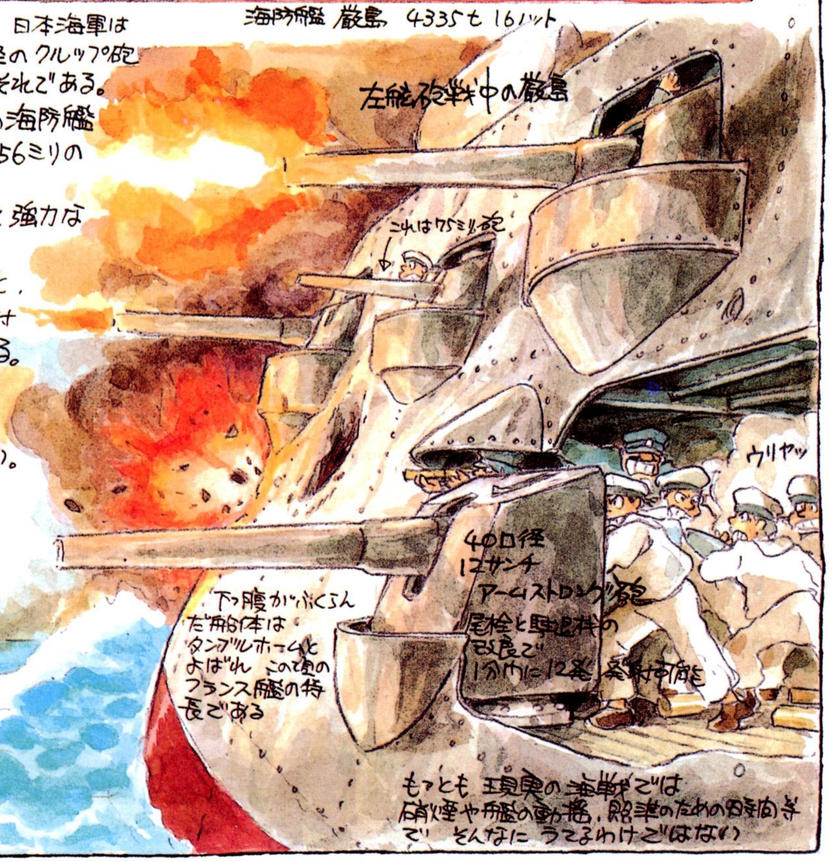
甲鉄艦 凶悪

(グチ) 先月のポテーズといい
どうも かきにくい艦でまいってしまった。
まるで タライである。すきなんだけど…

定遠、鎮遠のシタデルを貫ぬく砲の開発を 日本海軍は
仏人ベルダンに依頼した。ズングリした20口径のクルップ砲
より はるかに長砲身のカネー式32サンチ砲が それである。
松島、橋立、厳島という観光案内みたいな名の海防艦
にカネー砲を一門づつ載っけて 定遠の356ミリの
舷側装甲をぶちぬこうというわけだった。
4000トンクラスの海防艦に やたらに重くて強力な
砲を載せた結果は どうなったか?
強装薬(戦斗時と同じ装薬)でブッ放すと、
艦内鳴動して 故障続出、横にむけて発射
すると針路が変ったという伝説が残っている。
かんじんの決戦で カネー砲は 4~5発は
喜ったとか、いや1発だとか、記憶にない
とか…… 勿論 命中したという記録はない。
要するに 役に立たなかったのである。

## アームストロング速射砲

日本の艦艇は 当時の最新式砲 アームスト
ロング社の速射砲を いちはやく採用して
いた。アームストロング砲で日本海軍は
戦ったのである。従来の砲の8倍という
発射速度を実現した 15サンチと12サンチ
の速射砲で 清国艦隊に砲弾の
雨を注いだ。勿論 1発も 定遠と
鎮遠の装甲を貫ぬいた弾丸はな
かった。




もっとも 現実の海戦では
硝煙や艦の動揺、照準のための時間等
で そんなに うてるわけではない

# 定遠の装甲

定遠型の砲塔の天蓋には
将校塔がない。砲側の照準しかない時代なので
おそらくこの辺に照準窓があったと思う

305ミリ
装甲

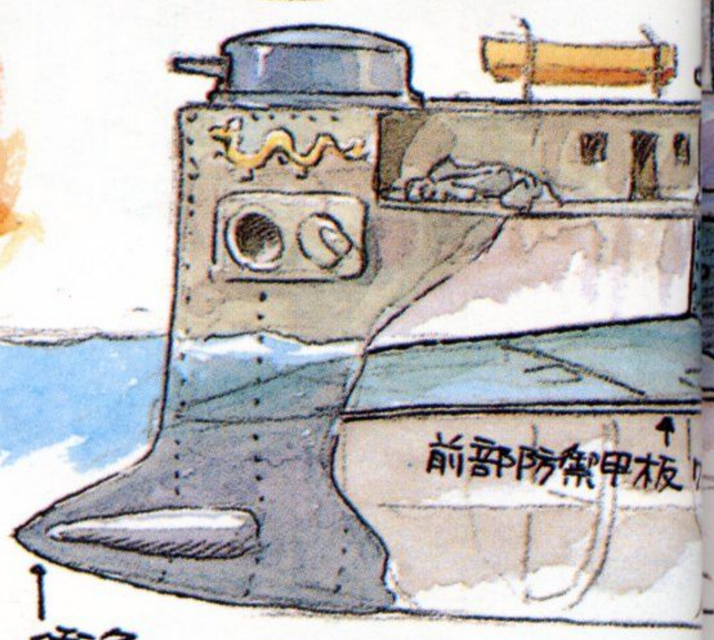
クルップ20口径
30サンチ砲
砲が斜めのレールを
後退して発砲の反動
を吸収する。

76ミリ
装甲甲板

356ミリ舷側装甲

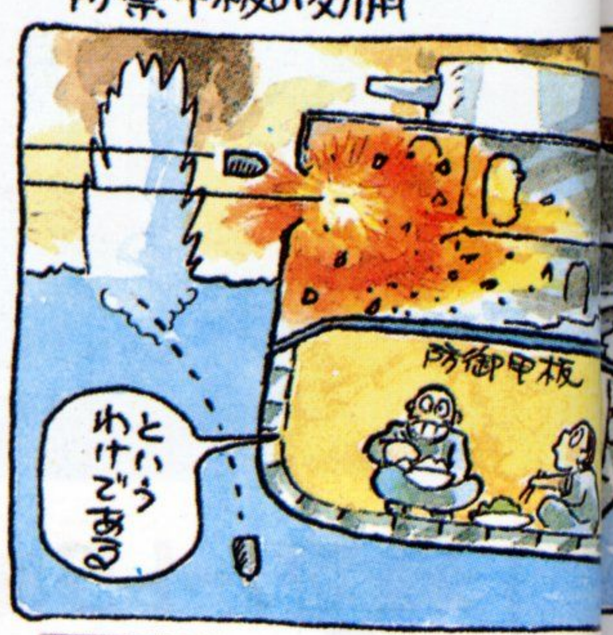
石炭庫

ボイラー室



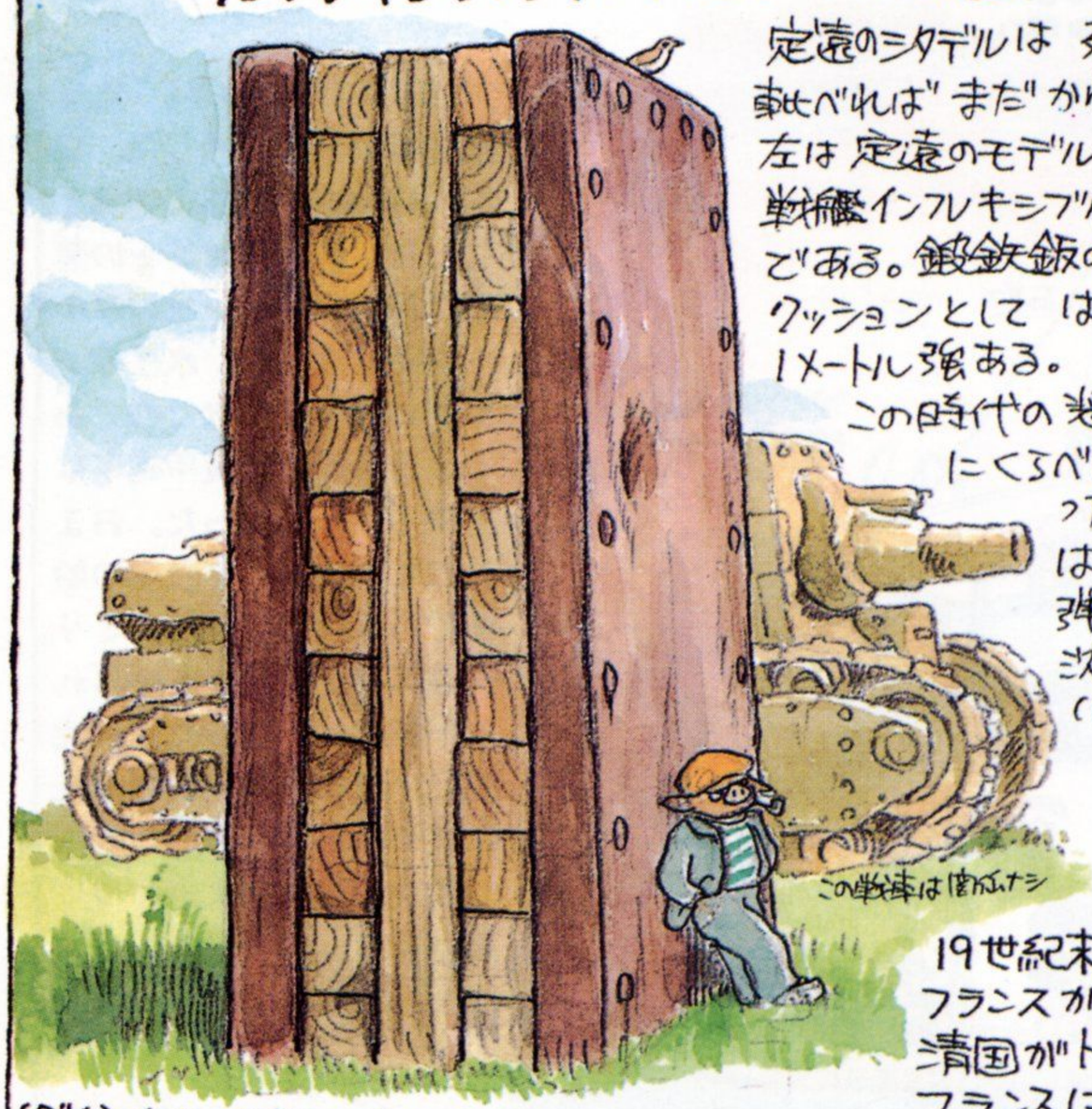

1866年リッサの海戦で少勢のオーストリー艦隊が
イタリア艦隊を体当り攻撃で破って以来つけ
れるようになった。実際にはその後使われた例
はなく、衝突事故の時に仲内を沈めるだ
けなので、やがて廃止されていく。

防禦甲板の効用

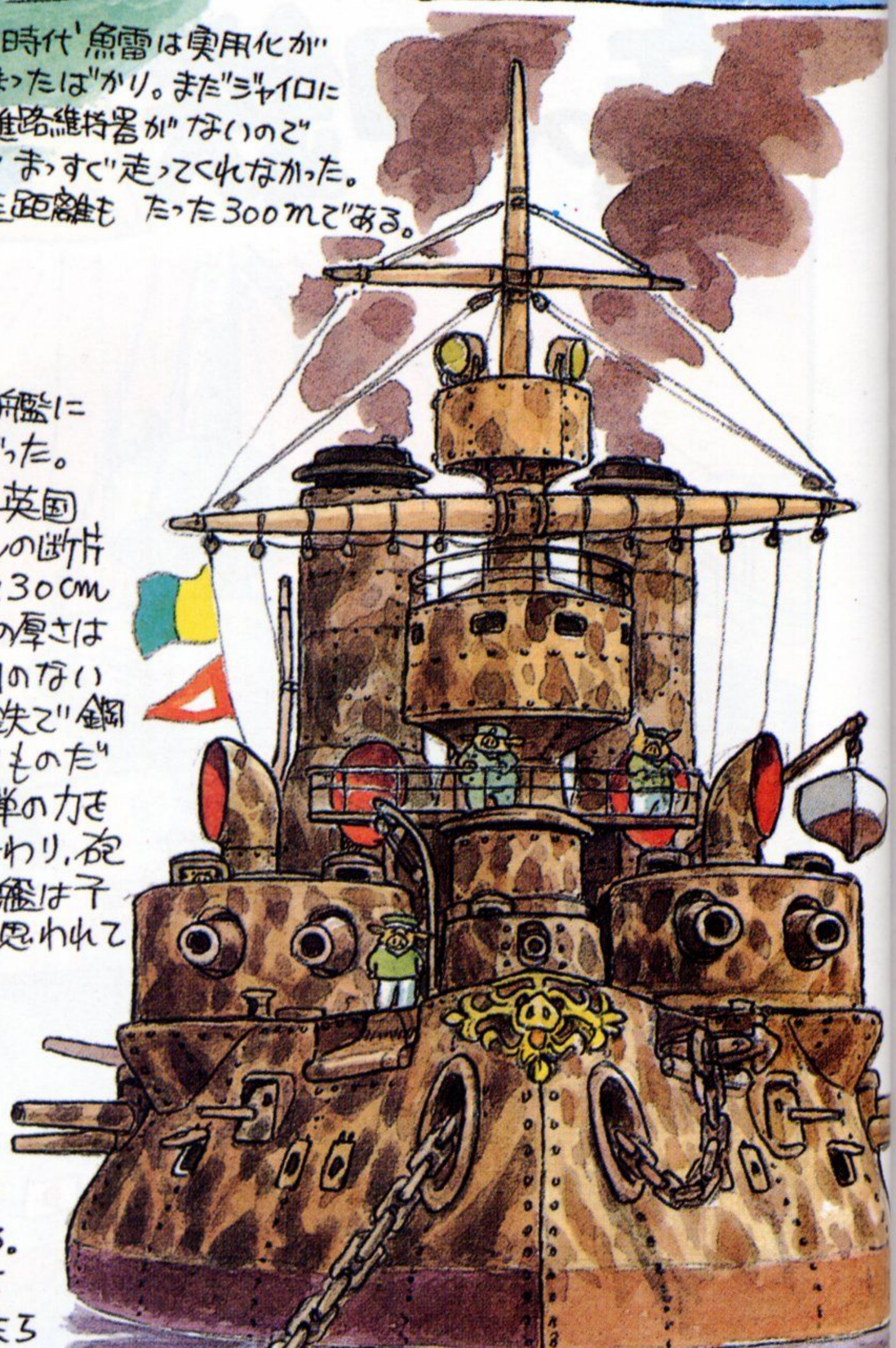



この時代魚雷は実用化が
始まったばかり。まだジャイロに
よる進路維持器がないので
仲々まっすぐ走ってくれなかった。
航走距離もたった300mである。

## インフレキシブル(1876年進水)の舷側装甲




定遠のシタデルは列強の主力艦に
軋べればまだかわいいものだった。
左は定遠のモデルといわれる英国
戦艦インフレキシブルのシタデルの断片
である。鍛鉄鈑の厚さは各々30cm
クッションとしてはさまれた木の厚さは
1メートル強ある。高張力鋼のない
この時代の装甲は鍛鉄で鋼
にくらべればモロイものだ
ったが、砲弾の力を
はるかに上まわり、砲
弾では主力艦は子
沈であると思われて
いた。



19世紀末の軍艦なら
フランスが最高である。
清国がドイツでなく
フランスに発注してたら
さぞかし壮烈な甲鉄艦
が生れたのにと残念でアル。(その想像図)

甲鉄艦凶悪

(グチ) 先月のポテーズといい
どうもかきにくい艦でまいってしまった。
まるでタライである。すきなんだけど…

定遠、鎮遠のシタデルを貫ぬく砲の開発を 日本海軍は仏人ベルダンに依頼した。ズングリした20口径のクルップ砲より はるかに長砲身のカネー式32サンチ砲が それである。松島、橋立、厳島という観光案内みたいな名の海防艦にカネー砲を一門づつ載っけて 定遠の356ミリの舷側装甲をぶちぬこうというわけだった。

4000トンクラスの海防艦に やたらに重くて強力な砲を載せた結果は どうなったか?

強装薬(戦闘時と同じ装薬)で ブッ放すと、艦内揺動して 故障続出、横にむけて発射すると 針路が変ったという伝説が残っている。

かんじんの決戦で カネー砲は 4~5発は喜ったとか、いや1発だとか、記憶にないとか…… 勿論 命中したという記録はない。要するに 役に立たなかったのである。

## アームストロング速射砲

日本の艦艇は 当時の最新式砲 アームストロング社の速射砲を いちはやく採用していた。アームストロング砲で日本海軍は戦ったのである。従来の砲の8倍という発射速度を実現した 15サンチと12サンチの速射砲で 清国艦隊に砲弾の雨を注いだ!! 勿論 1発も 定遠と鎮遠の装甲を貫ぬいた弾丸はなかった。

もっとも 黎明期の海戦では 硝煙や艦の動揺、照準のための時間等で そんなに うてるわけではない

被弾数　定遠　159発
　　鎮遠　220発

死傷者数　定遠　戦死17名　負傷38名
　　鎮遠　戦死13名　負傷28名
　　松島　戦死35名　負傷78名（命中弾13発による）

4時間半の黄海海戦が終った時、両艦の装甲のない部分はスクラップになっていた。しかし、沈まない。シタデルはビクともせず、砲塔も機関もまったく健康だった。これ程の弾丸を受けたにしては、死傷者の数も、おどろく程わずかで、鎮遠の30サンチ弾を一発くらって、日本艦隊の旗艦松島が90数名の死傷者を出したのと対照的である。兵員の訓練不足、戦術のまずさにより清国北洋艦隊は破れたが、清国そのものの老大国の腐敗ぶりにしては、よく戦ったというべきだった。むしろ勝った日本は、相手より速く、守るより攻撃を好み、大きいものより小さなものを好む、という性癖を増長させる事となる。白村江で新羅の大船に破れ、秀吉水軍が李朝水軍の大船に破れた経験は忘れられ、第二次大戦で大和、武蔵を持ちながら空母にたよって戦を始めるに至るのである。

根拠地に退去して包囲された北洋艦隊は、日本軍の水雷攻撃で、定遠が被雷沈没、やがて降服する。おどろくべき事は、提督と鎮遠の艦長は毒をあおぎ、定遠の艦長はピストルで自決したことであった。

松島の大破口　同艦は黄海海戦で乗員の1/3を失っている

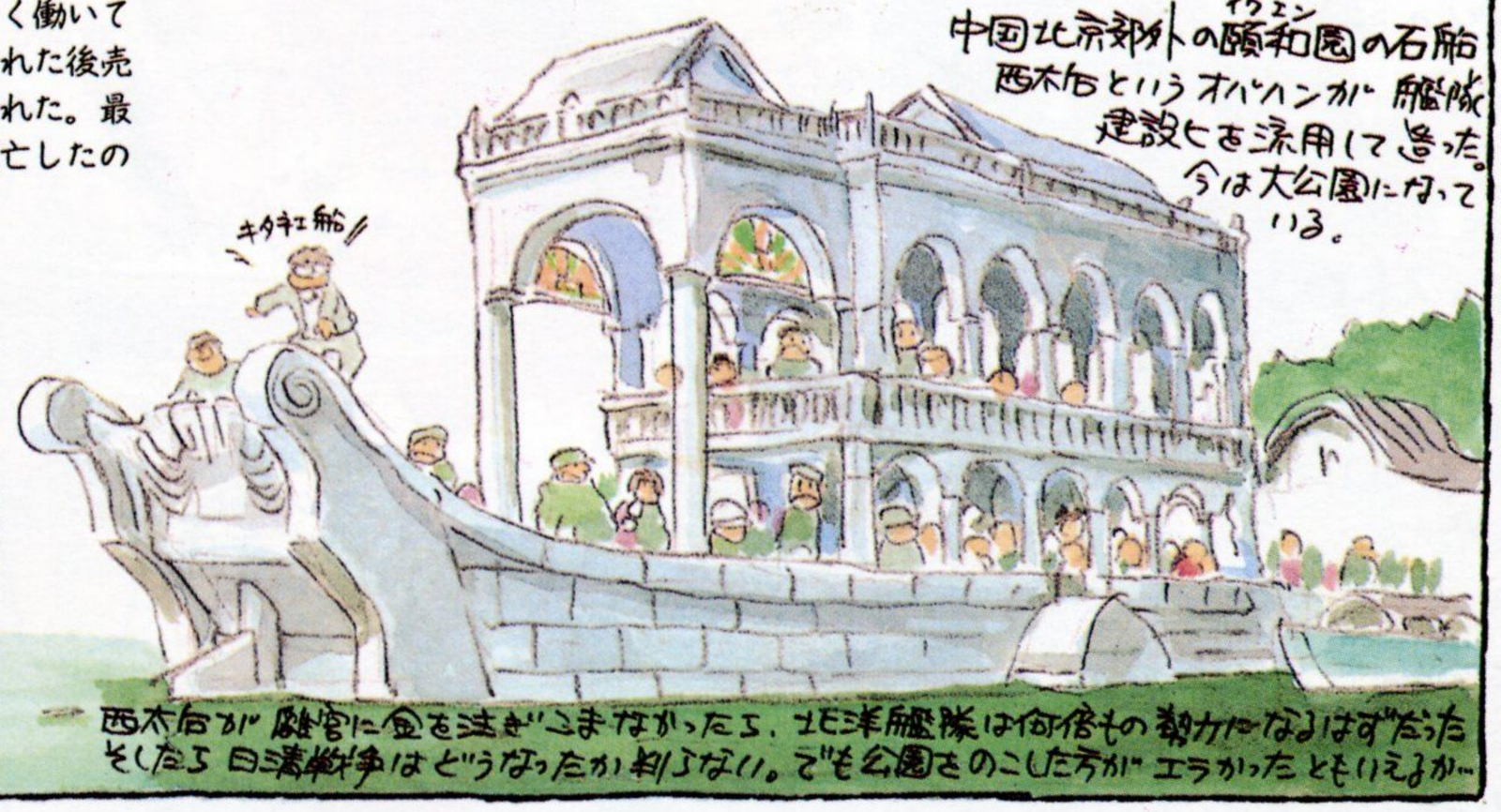
三景艦の内　松島のみ主砲をうしろにつけていた。

明治38年5月27日、対島へむかうバルチック艦隊に接触する二等戦艦「鎮遠」。当時、鎮遠の副砲は15サンチ4門に増強されていた。

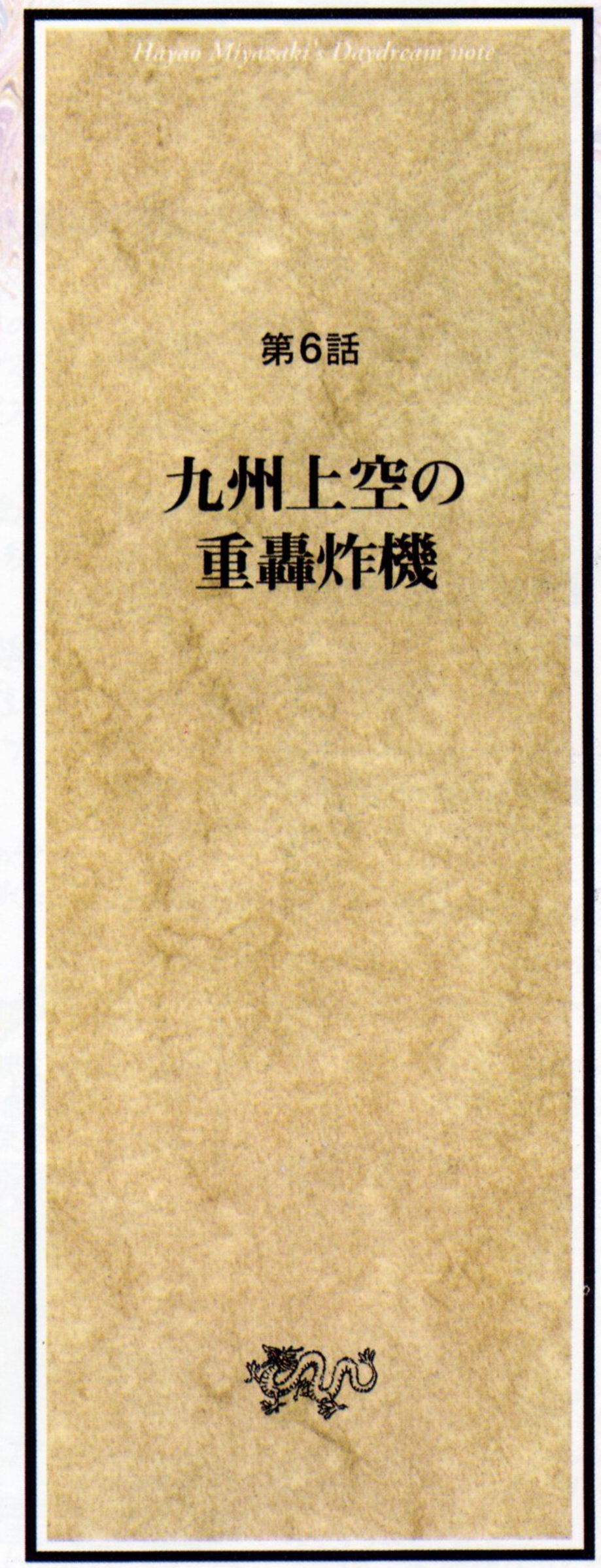
その後、鎮遠は艦首に竜をつけたまま日本艦隊に編入され長生きした。日露戦争にも旧式艦なりによく働いている。明治44年（1911）に実弾射撃の標的にされた後売却、スクラップ代は兵学校の講堂建築費に使われた。最後の竜の甲鉄が死んだ翌年、清国そのものも滅亡したのであった。

中国北京郊外の頤和園（イワエン）の石船
西太后というオバハンが艦隊建設費を流用して造った。
今は大公園になっている。

再起をはかる子孫のブタ




西太后が離宮に金を注ぎこまなかったら、北洋艦隊は何倍もの戦力になるはずだった。そしたら日清戦争はどうなったか判らない。でも公園さのこした方がエラかったともいえるか…


Hayao Miyazaki's Daydream note
第6話
九州上空の
重轟炸機

日中戦争のさなか、劣勢ながらも

奮戦した中国空軍パイロットたち。

その中に、2機のアメリカ製爆撃機を駆り、

日本本土を目指す者たちがいた。

彼らの目的はいったい…？

秘められた航空戦史！

初出：月刊モデルグラフィックス1986年11月号
（連載第6回、執筆・1986年10月）

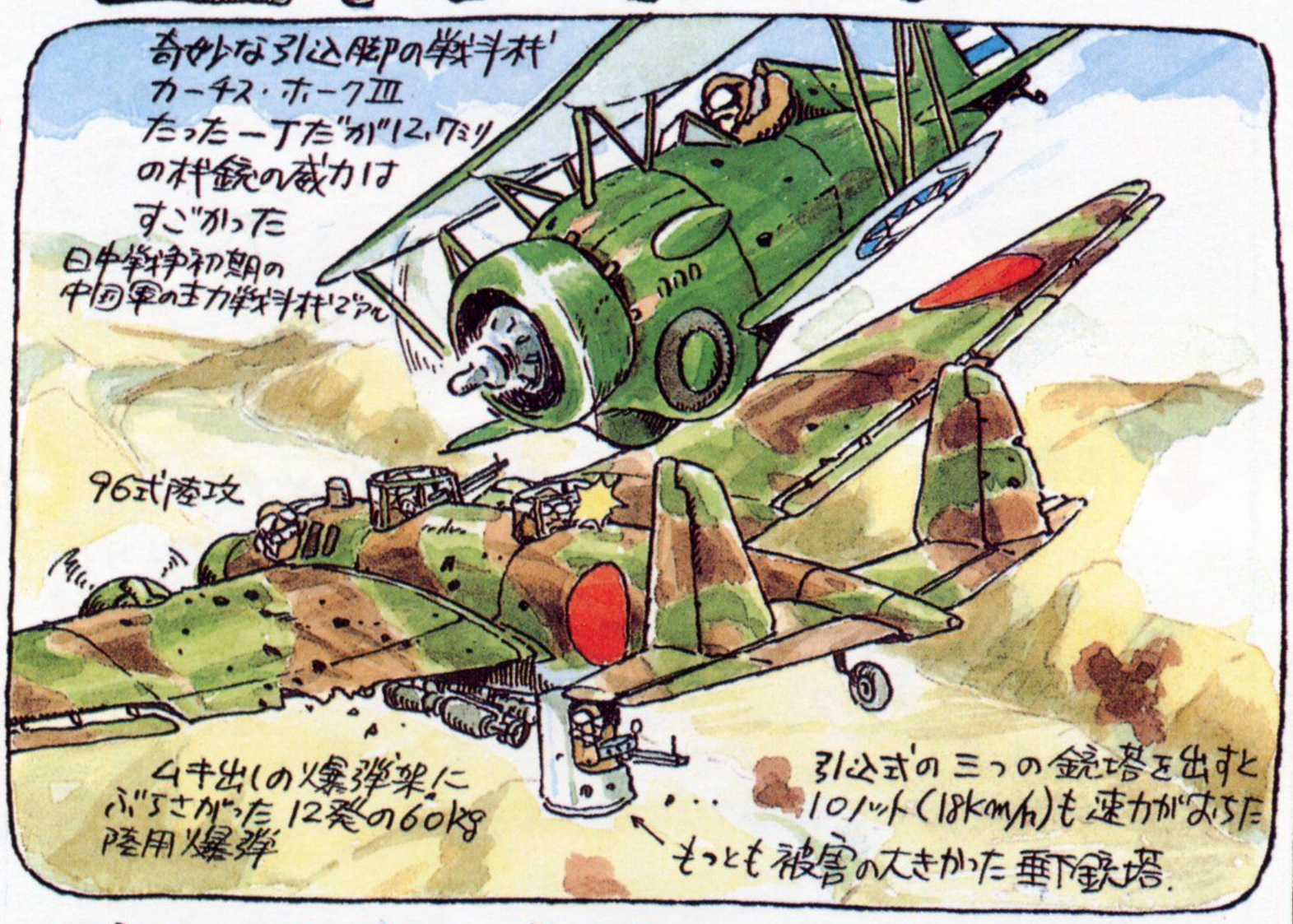
# 雑想ノートNO.6
# 九州上空の重爆撃機

中山雅洋氏の「中国的天空」(サンケイ出版)はたいへんな労作である。うすうす察してはいたがやはり日中戦争(1937~1945)の航空戦はノモンハン同様日本の一方的勝利ではなかったのだ。戦史を書く者は公正でなければならない。自国の過大評価は国を誤まらせる。

フィンランド空軍がソ連空軍を相手によく戦ったように弱小後進の中国空軍はよく戦った。

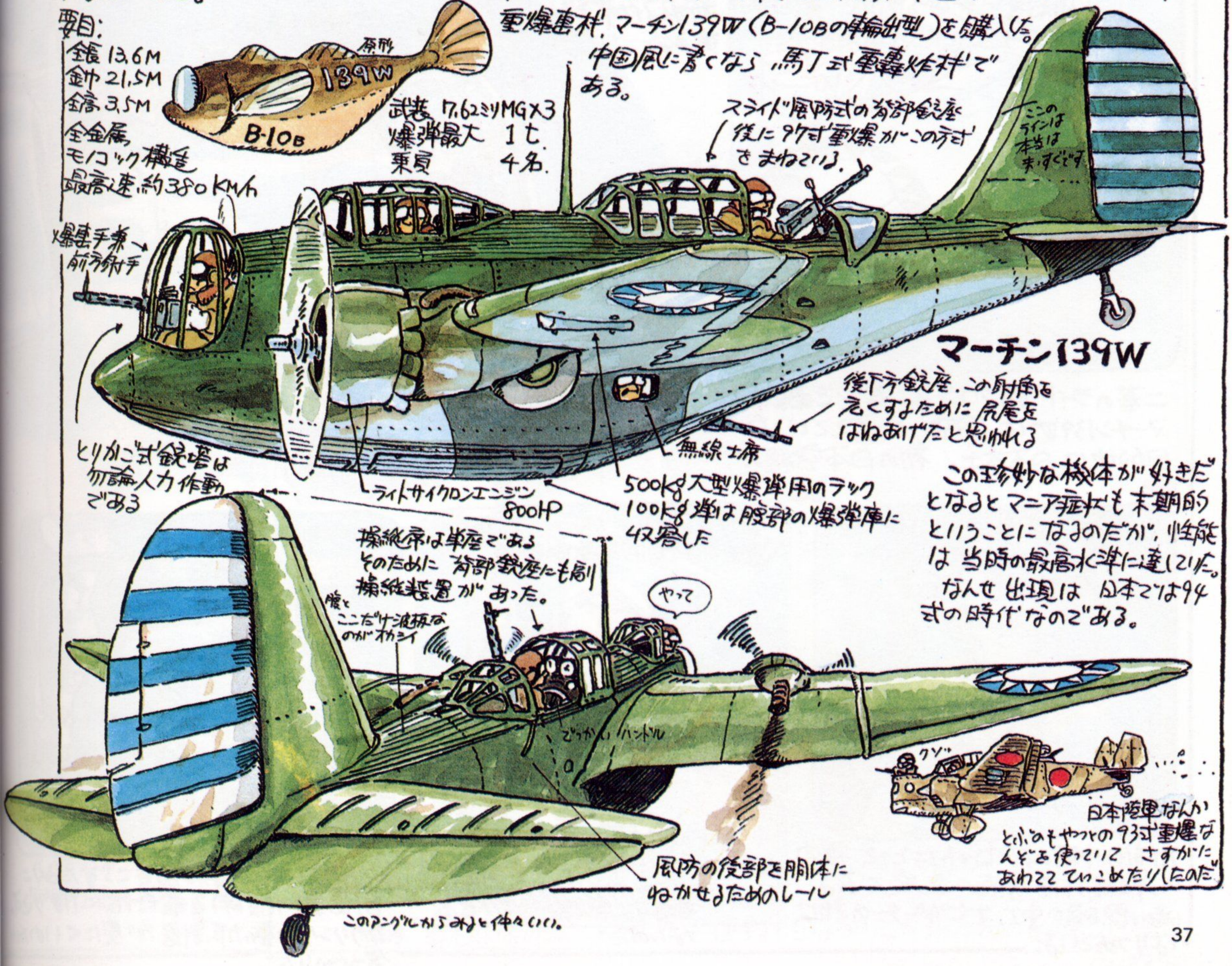
献身的な政府も、公正で機能的な軍組織も望めない状態にもかかわらず中国のパイロット達の闘志ははげしかった。

このエピソードは「中国的天空」の中でも僕がいちばん心をひかれたものである。




▲大宣伝された96式陸攻の渡洋爆撃もその被害は決して少くなかった。太平洋戦争開幕までに失われた陸攻のクルーは70組に達している。

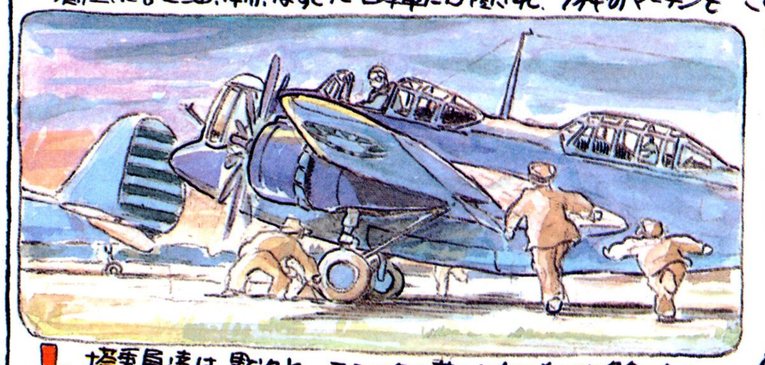
日中戦争勃発の年1937年(昭和12年)に中国はアメリカから9機の重爆撃機、マーチン139W(B-10Bの輸出型)を購入した。中国風に書くなら、馬丁式重轟炸機である。




この珍妙な機体が好きだとなるとマニア症状も末期的ということになるのだが、性能は当時の最高水準に達していた。なんせ出現は日本では94式の時代なのである。

# 1938年(昭和13年)5月20日 薄暮(ハクボ)

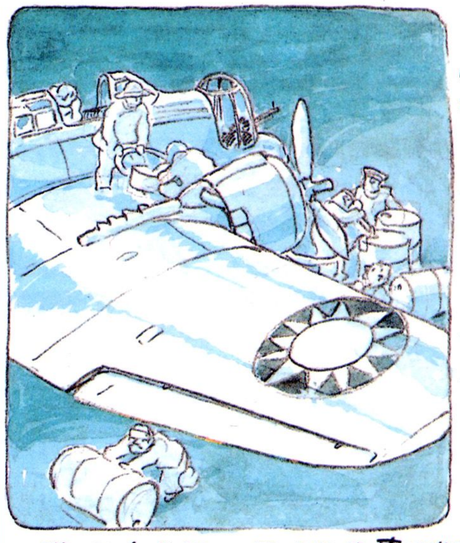
東シナ海に近い寧波(ニンポー)の粗末な飛行場に、二機のマーチン重爆がこっそり着陸した。上海、南京はすでに日本軍に占領され、9機のマーチンもこの2機をのこして他はすべて失われていた。



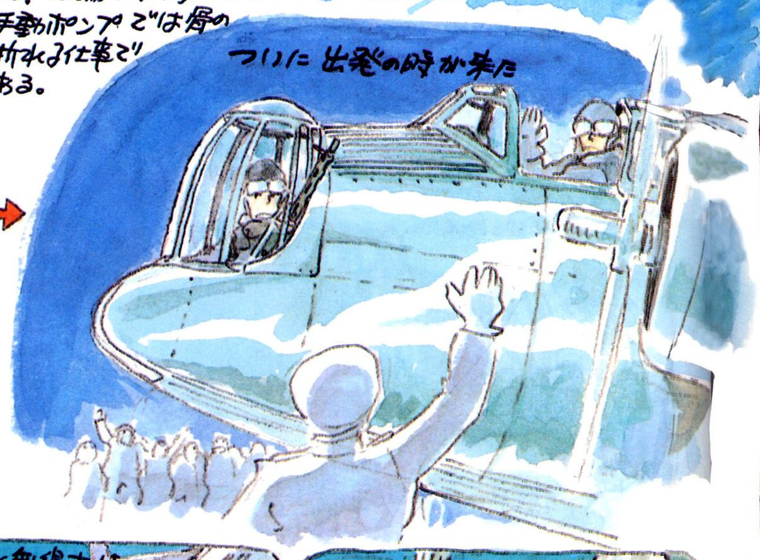
搭乗員達は黙々とニンニクの基の炊めもので夕食をとる。

(注)おかずについて中山氏は言及していない。これはぼくの確信的推測である。

この二ヶ月間、奥地で極秘に訓練して来た成果がいよいよ試されるのだ。



その間に、マーチンの両翼のタンクに燃料が注入される。勿論ギリギリ満タンに、手動ポンプでは骨の折れる仕事である。

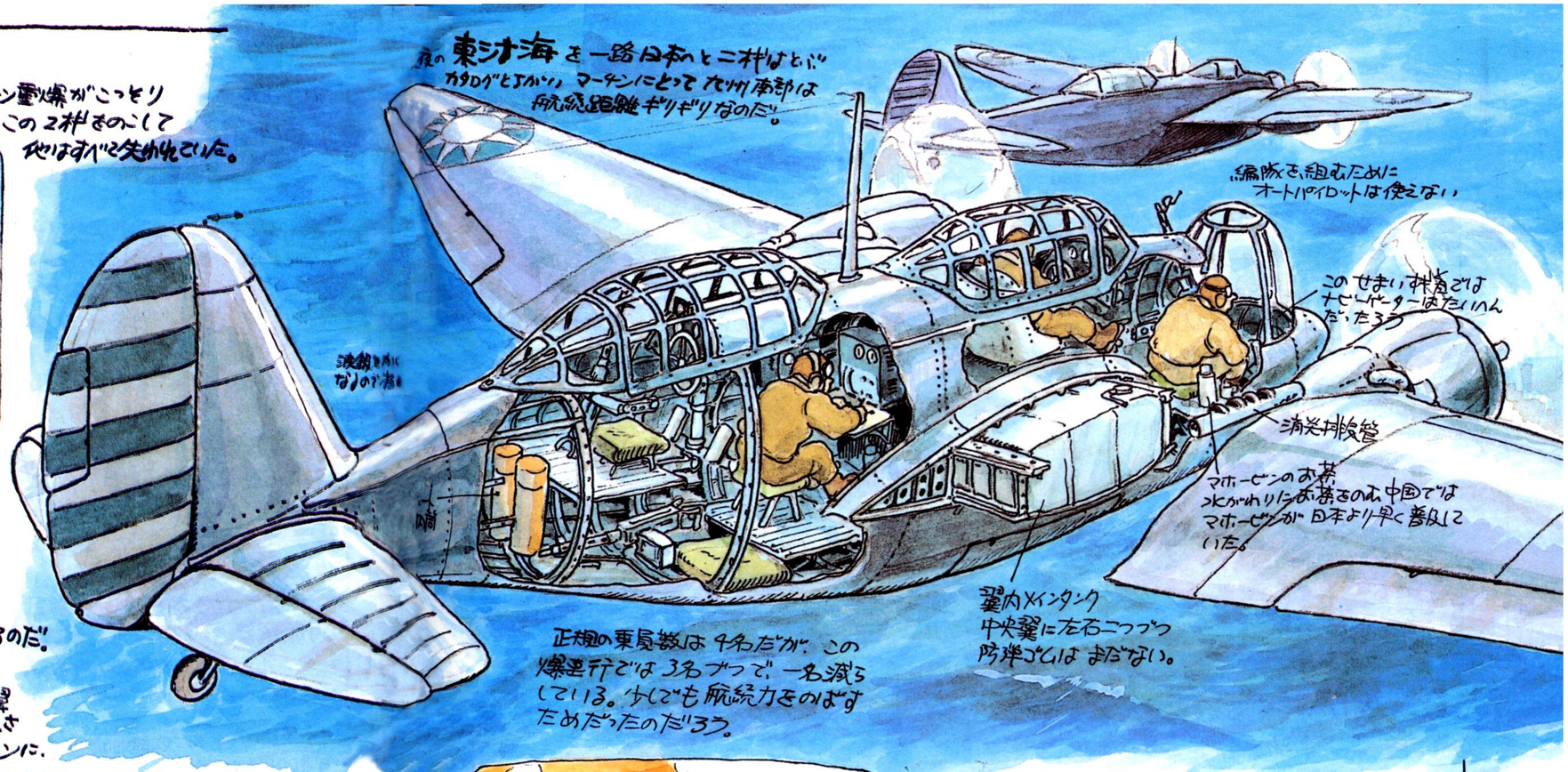



二基のライトサイクロンエンジンを轟かせてマーチン139Wは闇空へと消えていった目的地は日本本土。初の日本空襲!!

大陸国中国のパイロットにとって夜間の洋上飛行は緊張の連続である。暗い照明の中で、ナビゲーターの親ははりつめている。

日本軍に夜間戦斗機はない(中国軍に夜間爆撃機がないから)が見張りに専念する。無線の仕事は皆無なのだ

パイロットは闇に目をこらすために計器盤の照明を最低限に小ぎり込むカラリングの動力系計器が見にくいのが気がかりだ。


夜の東シナ海を一路日本へと二機はとぶ
カタログとちがい、マーチンにとって九州南部は航続距離ギリギリなのだ。

編隊を組むためにオートパイロットは使えない

このせまい機首ではナビゲーターはたいへんだったろう

消炎排気管

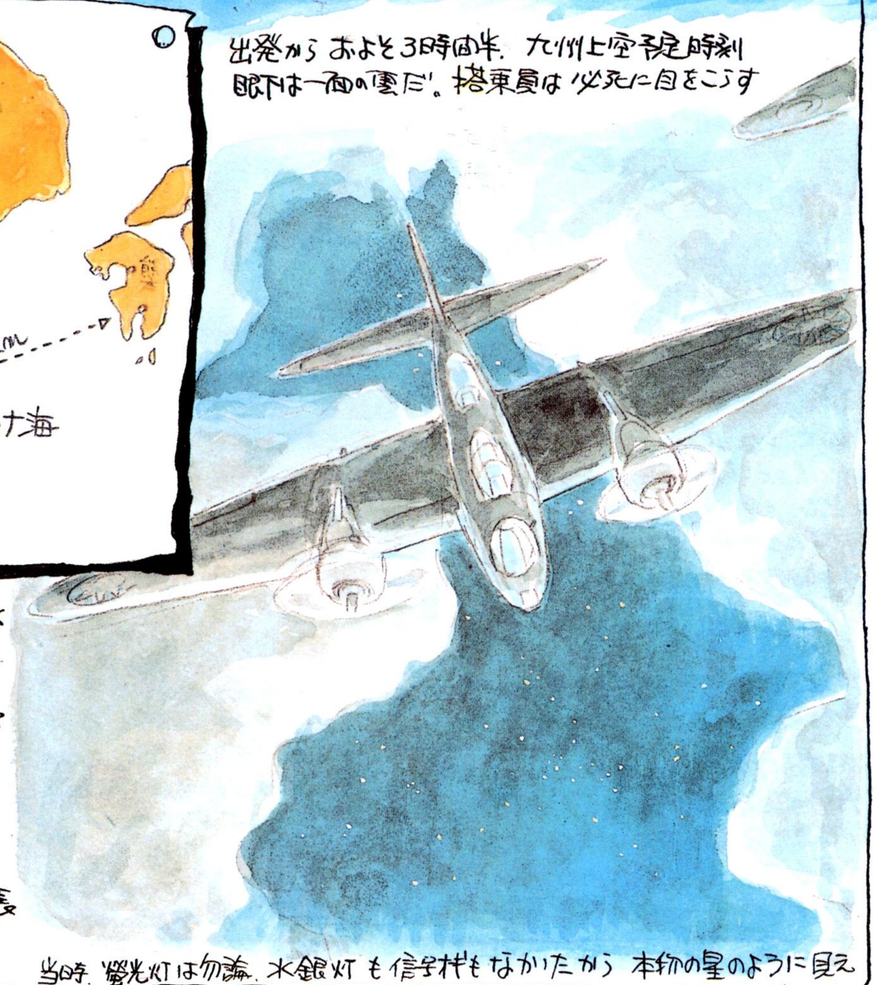
マホービンのお茶
水がわりにお茶をのむ中国ではマホービンが日本より早く普及していた。

翼内メインタンク
中央翼に左右二つづつ
防弾ゴムはまだない。

正規の乗員数は4名だが、この爆撃行では3名づつで、一名減らしている。少しでも航続力をのばすためだったのだろう。

突然、雲のきれ目にまたたく沢山の地上の灯が見えた日本だ!!
ゆるやかな弧をえがいて二機は爆撃体勢に入る
爆撃照準器は使わない
ナビゲーター兼務の爆撃手はただ爆弾倉の扉のハンドルを握りしめている。各個に機長が叫んだ「ひらけ!!」

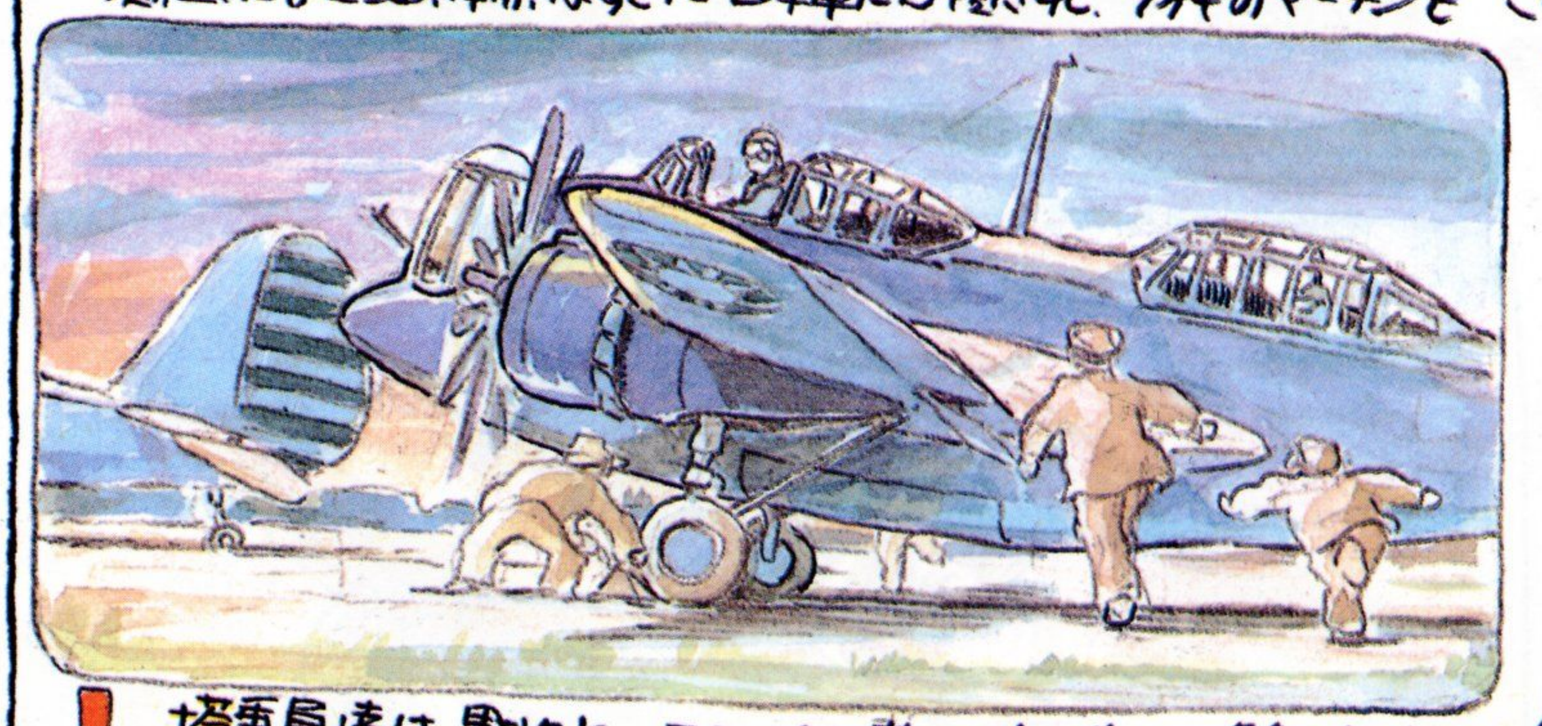
出発からおよそ3時間半。九州上空予定時刻眼下は一面の雲だ。搭乗員は必死に目をこらす

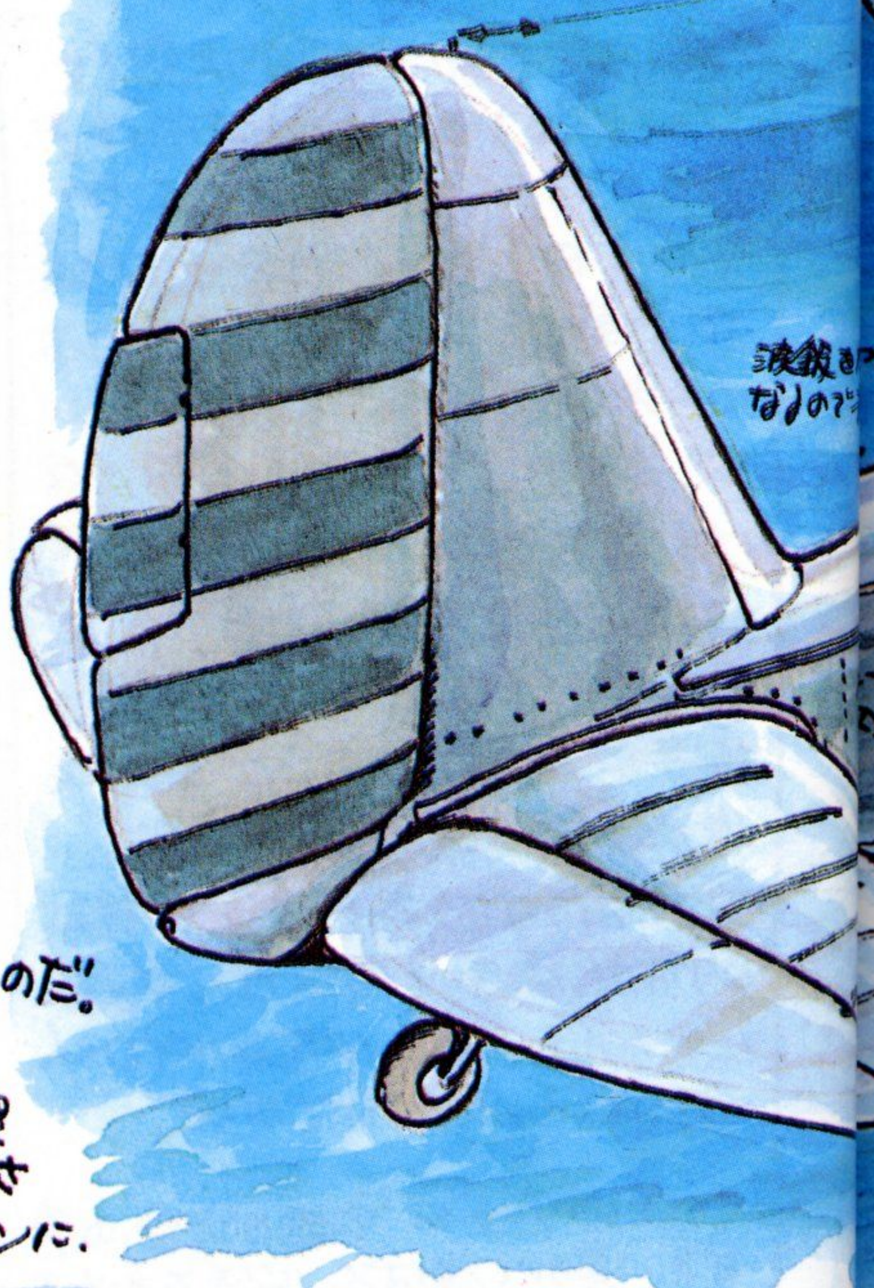


当時、螢光灯は勿論、水銀灯も信号機もなかったから本物の星のように見えたはずだ

# 1938年(昭和13年)5月20日 薄暮(ハクボ)

東シナ海に近い寧波(ニンポー)の粗末な飛行場に、二機のマーチン重爆がこっそり着陸した。上海、南京はすでに日本軍に占領され、9機のマーチンもこの2機をのこして他はすべて失われていた。

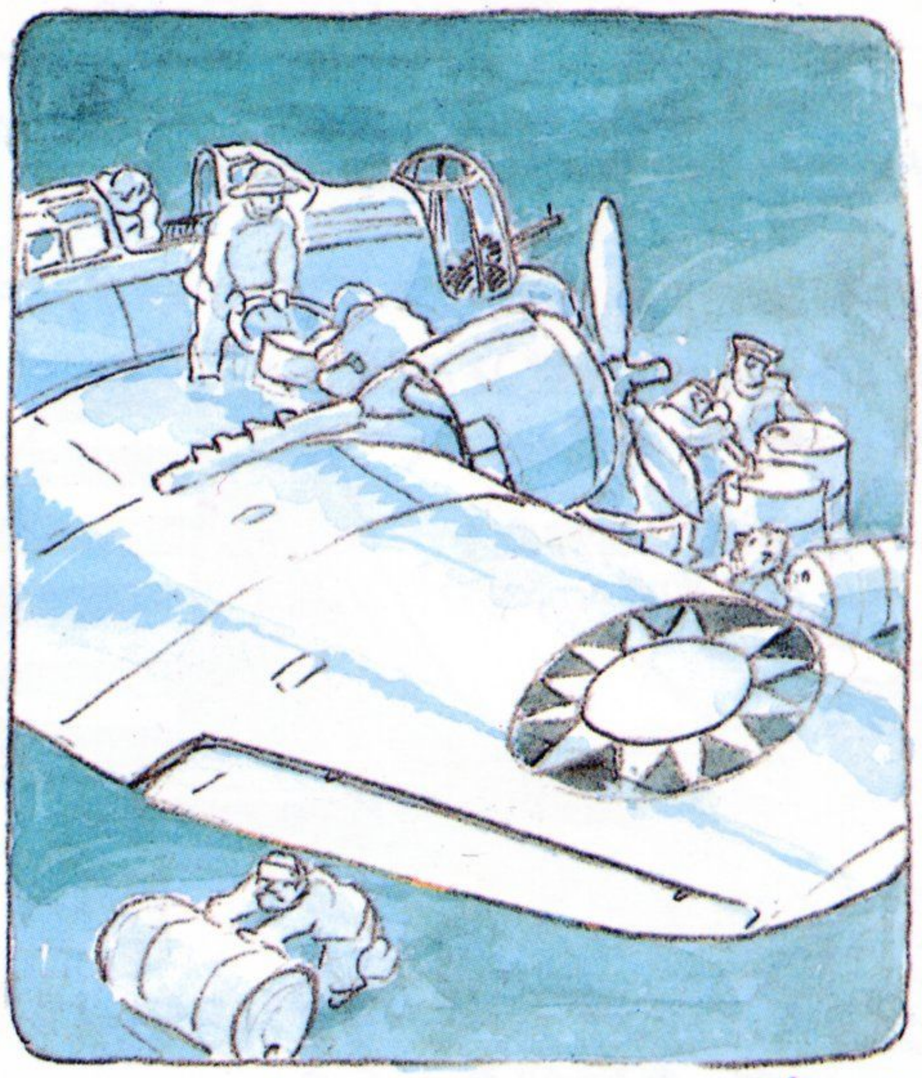




搭乗員達は黙々とニンニクの茎の炸めもので夕食をとる。

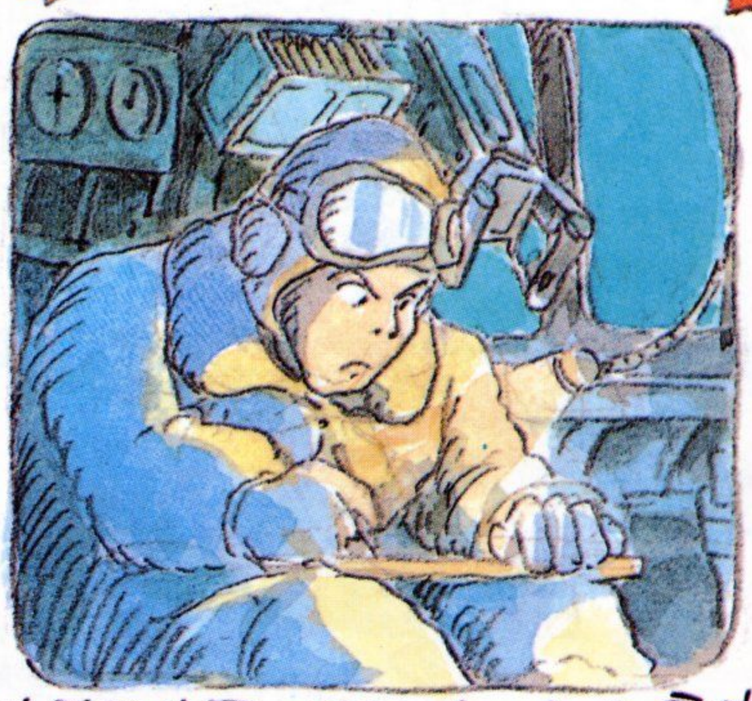
(注)おかずについて中山氏は言及していない。これはぼくの確信的推測である。

この二ヶ月間、奥地で極秘に訓練して来た成果がいよいよ試されるのだ。

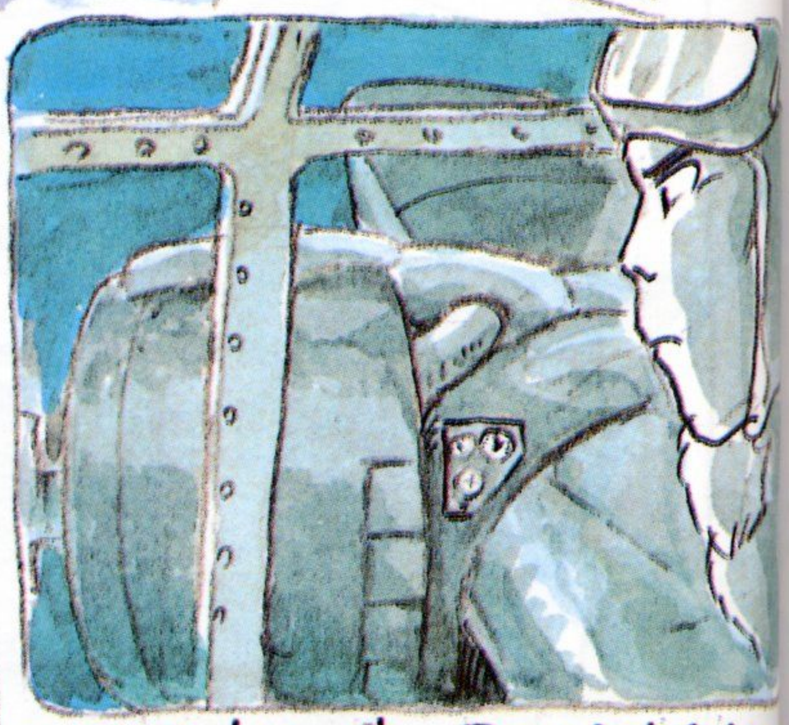


その間に、マーチンの両翼のタンクに燃料が注入される。勿論ギリギリ満タンに、手動ポンプでは骨の折れる仕事である。

二基のライトサイクロンエンジンを轟かせてマーチン139Wは闇空へと消えていった目的地は日本本土。初の日本空襲!!



大陸国中国のパイロットにとって夜間の洋上飛行は緊張の連続である。暗い照明の中で、ナビゲーターの親ははりつめている。



パイロットは闇に目をこらすために計器盤の照明を最低限にしぼり、カウリングの動力系計器が見にくいのが気がかりだ。

夜の東シナ海を一路日本へと二機はとぶ
カタログとちがい、マーチンにとって九州南部は
航続距離ギリギリなのだ。

編隊を組むためにオートパイロットは使えない

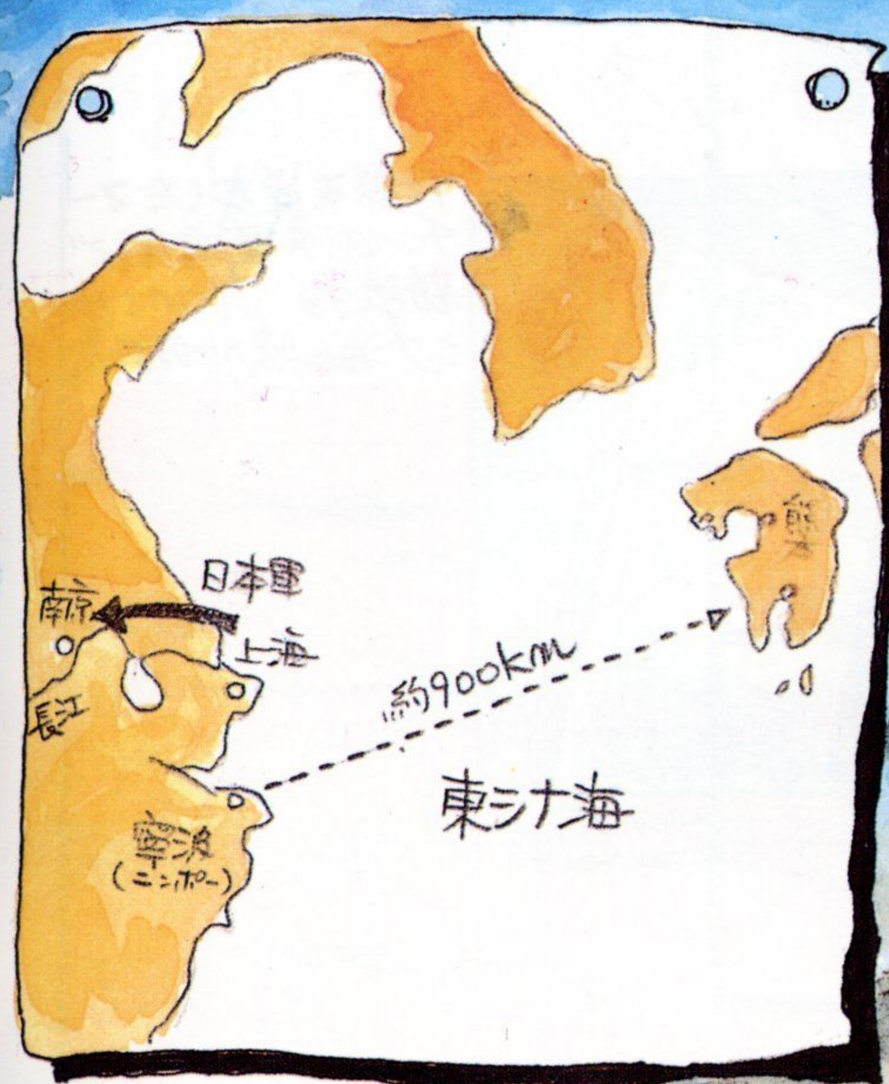
このせまい機首ではナビゲーターはたいへんだったろう

消炎排気管

マホービンのお茶
水がわりにお茶をのむ中国ではマホービンが日本より早く普及していた。

翼内メインタンク
中央翼に左右二つづつ
防弾ゴムはまだない。

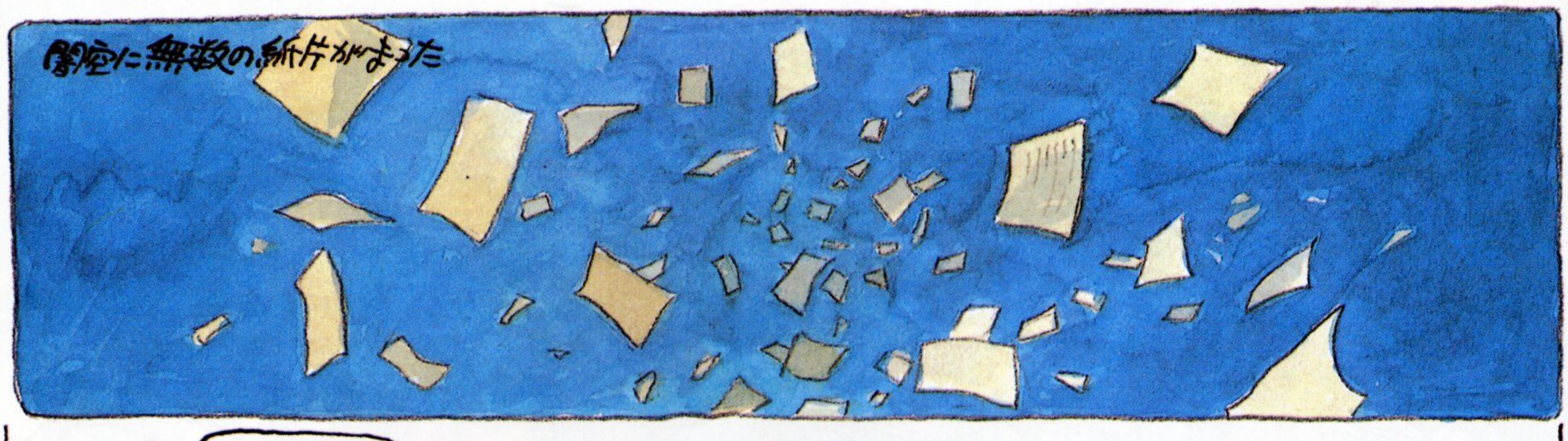
正規の乗員数は4名だが、この
爆撃行では3名づつで、一名減ら
している。少しでも航続力をのばす
ためだったのだろう。

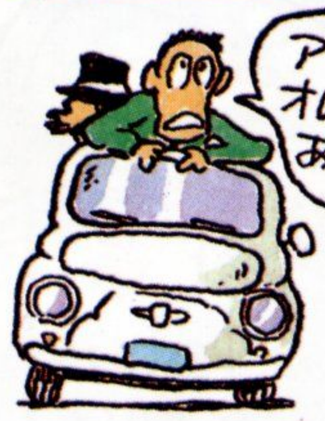



出発からおよそ3時間半。九州上空予定時刻
眼下は一面の雲だ。搭乗員は必死に目をこらす

突然、雲のきれ目にまばたく
沢山の地上の灯が見えた
日本だ!!
ゆるやかな弧をえがいて
二機は爆撃体勢に入る
爆撃照準器は使わない
ナビゲーター兼務の爆撃手は
ただ爆弾倉の扉のハンドル
を握りしめている。各個に機長
が叫んだ「ひらけ!!」

当時、螢光灯は勿論、水銀灯も信号機もなかったから本物の星のように見えたはずだ



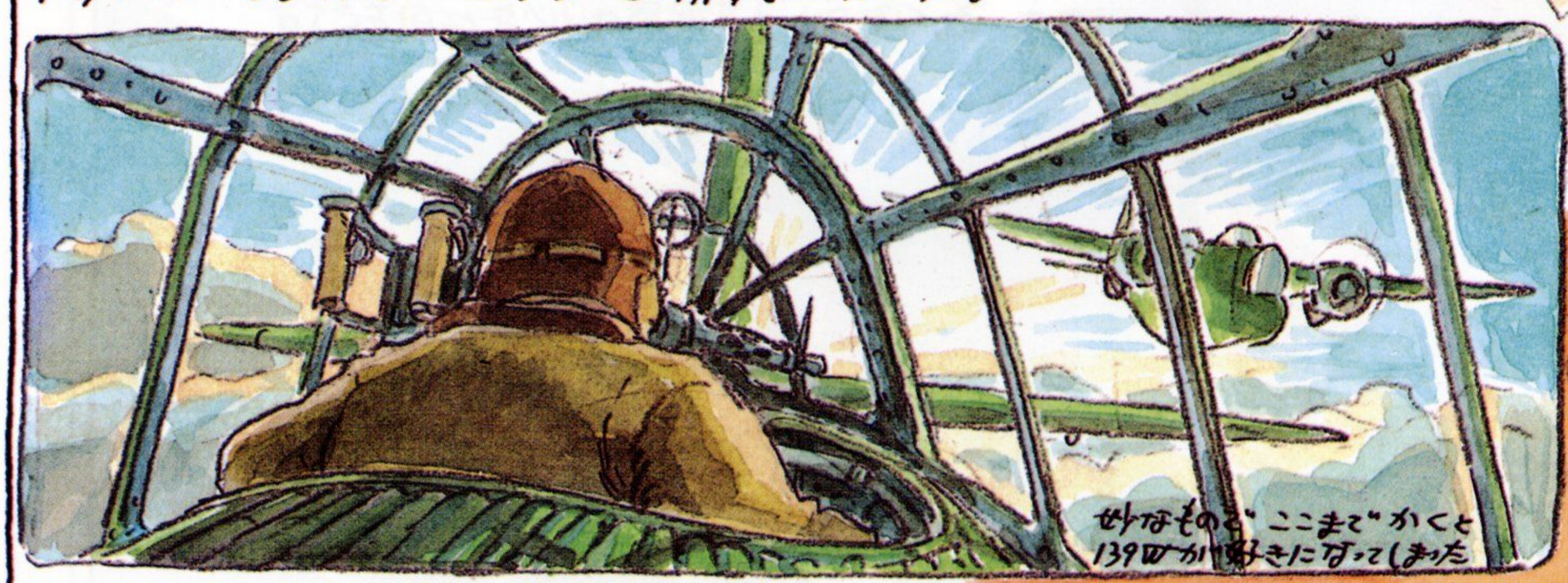

マーチンが九州に投下したのは 爆弾ではなく 日本軍の非人道行為を日本国民にうったえるビラだったのだ

月が出ていたかどうかは定かではない

日本の國民のみなさんへ
こうしてビラをまいて・・・
中国の人々とうちとは
なるべく・・・
みなさまの父や兄
ますます この戦争を
やめさせる

粗末な紙にガリ版で印刷したビラだったという

実際 前年の末 南京占領の時、日本軍は軍民とわず、すさまじい虐殺を行った。このビラを見て 少しでも日本の中に戦争に反対する動きが生ずるのを期待したのだった。




任務を達成したマーチンは高速巡航で離脱する やがて東シナ海に陽がのぼった。

妙なもので ここまでかくと139回が好きになってしまった

しかし、ビラは何の効果も現わさなかった。翌日の新聞に小さく「九州上空に怪飛行物…云々」とだけであった。この時、戦争に反対する人々は、みんな牢獄につながれてしまっていたのである。

日本軍はマスマス戦火を拡大し 中華民国の臨時首都 重慶に長期的な都市無差別爆撃を行うようになる。

ぼくは想う 中国の搭乗員達は どんな気持で 日本の灯を見つめたのだろう…と

この爆撃行は もう一度行われ その時は ついに中国本土に帰りつけず 行方不明になってしまったようだ。都合の悪い事を書かないのは 中国も 日本も同じだった。くわしい事は知らない国民に真実を伝える自信のない軍は国をほろぼす。

それから6年
マーチンの次に 日本に来たのは 米国のB-29の大群だった。重慶以上の無差別爆撃で日本中の主要な都市は すべて炎上し、二発の原爆がとどめをさした。

ぼくは4才で 焼夷弾の雨の中を父の手にひかれて 逃げまわっていた。



1986.10.5

*Hayao Miyazaki's Daydream note*

第7話

# 高射砲塔

ドイツの小都市リュースバルクに、

空爆から魚雷工場を守るために

高射砲塔が建造された。

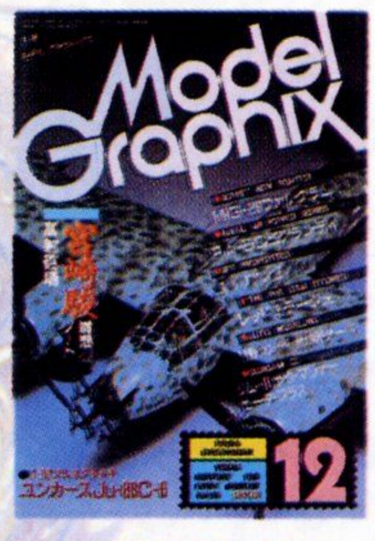
だがやがて、強力すぎる

高射砲塔自体が連合軍爆撃機の

攻撃目標とされてしまう。

戦いが済んだ時、姿を現したものは

果たして何か？




初出：月刊モデルグラフィックス1986年12月号
（連載第7回、執筆・1986年11月）

# 雑草ノート（想が本数）第7回

# 高射砲塔

リュースバルク市の旧市街にたつ
ベルタ塔 1943年10月頃 ▼

128ミリ高射砲連装砲塔

20ミリ四連装
銃塔

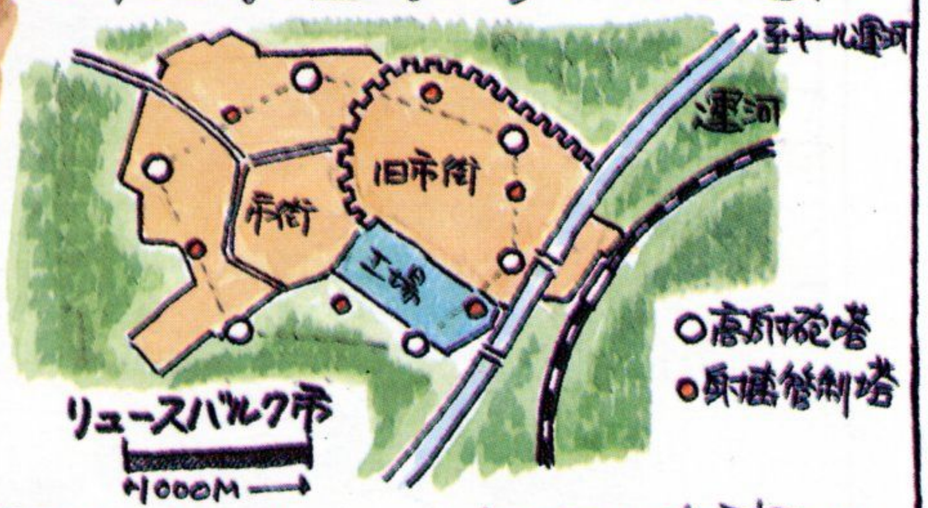
第二次大戦中に建設されたベルリンの高射砲塔は有名である。しかし リュースバルクという聞いたこともない町に建てられ、連合軍のパイロット達に『ど田舎の人々』と憎しみをもって語られた高射砲塔について知る人は少い。

リュースバルク…人口3万にもみたない平和な小都市が Uボートの魚雷のエンジンとホーミング装置のすべてをまかなう工場を持ったために重要な戦略目標になってしまったのであった。

折しも1943年、英国の夜間爆撃は次第に激しさを増し、魚雷生産の確保は重要課題のひとつになった。しかし、城壁にかこまれた同市と工場は、森におおわれた低地に突出した台地の上にあり、防空部隊が何処に砲座をすえても射角がいちじるしく制限されてしまう。この難問にとり組んだのが左の男であった。

エルンスト ジグラー博士
（1887～1951）

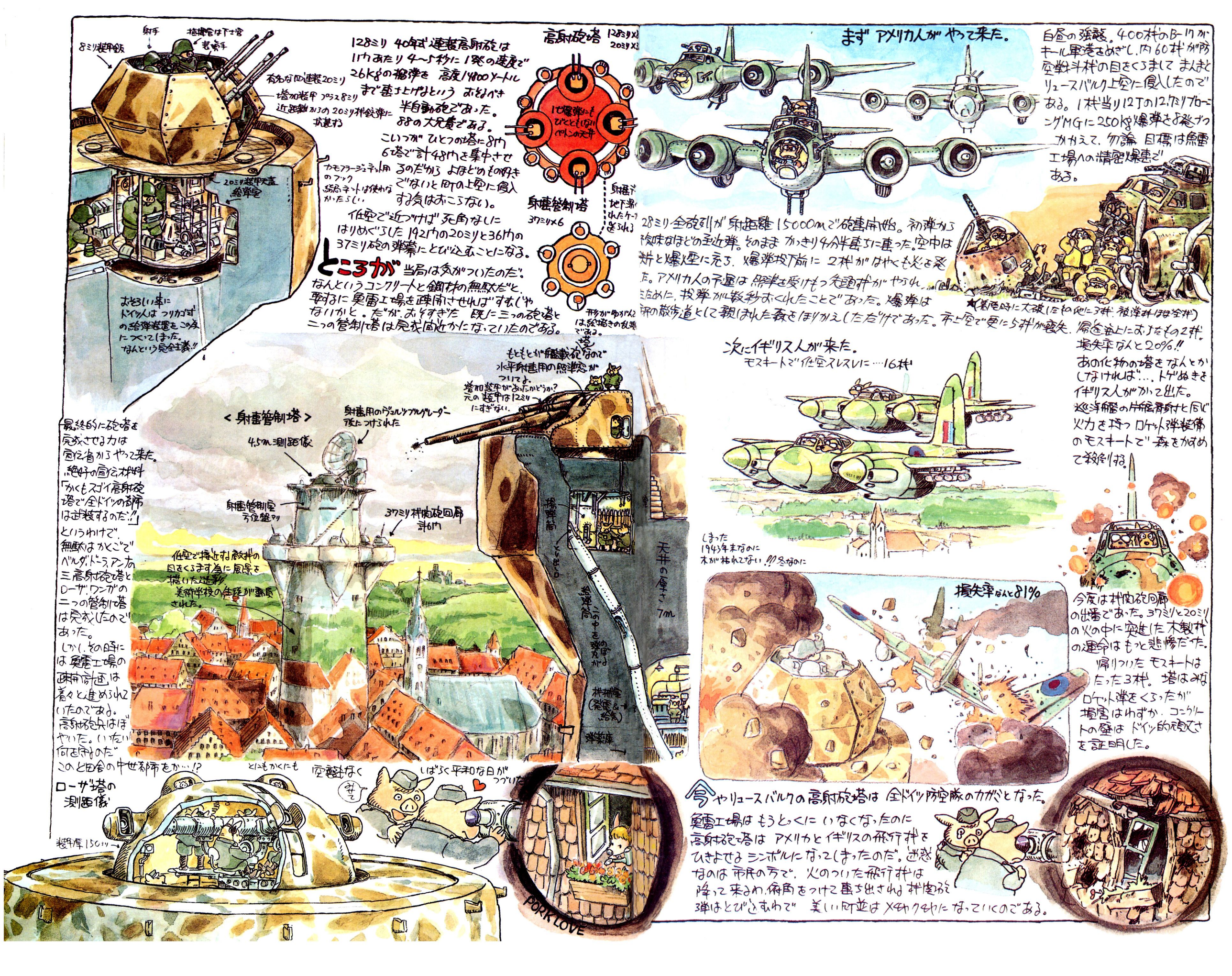
高射砲塔の建設が彼の答である。彼はドイツ的完全主義で、この小さな町を1ダースもの高射砲塔と射撃管制塔ですき間なく固めるというプランを提出した

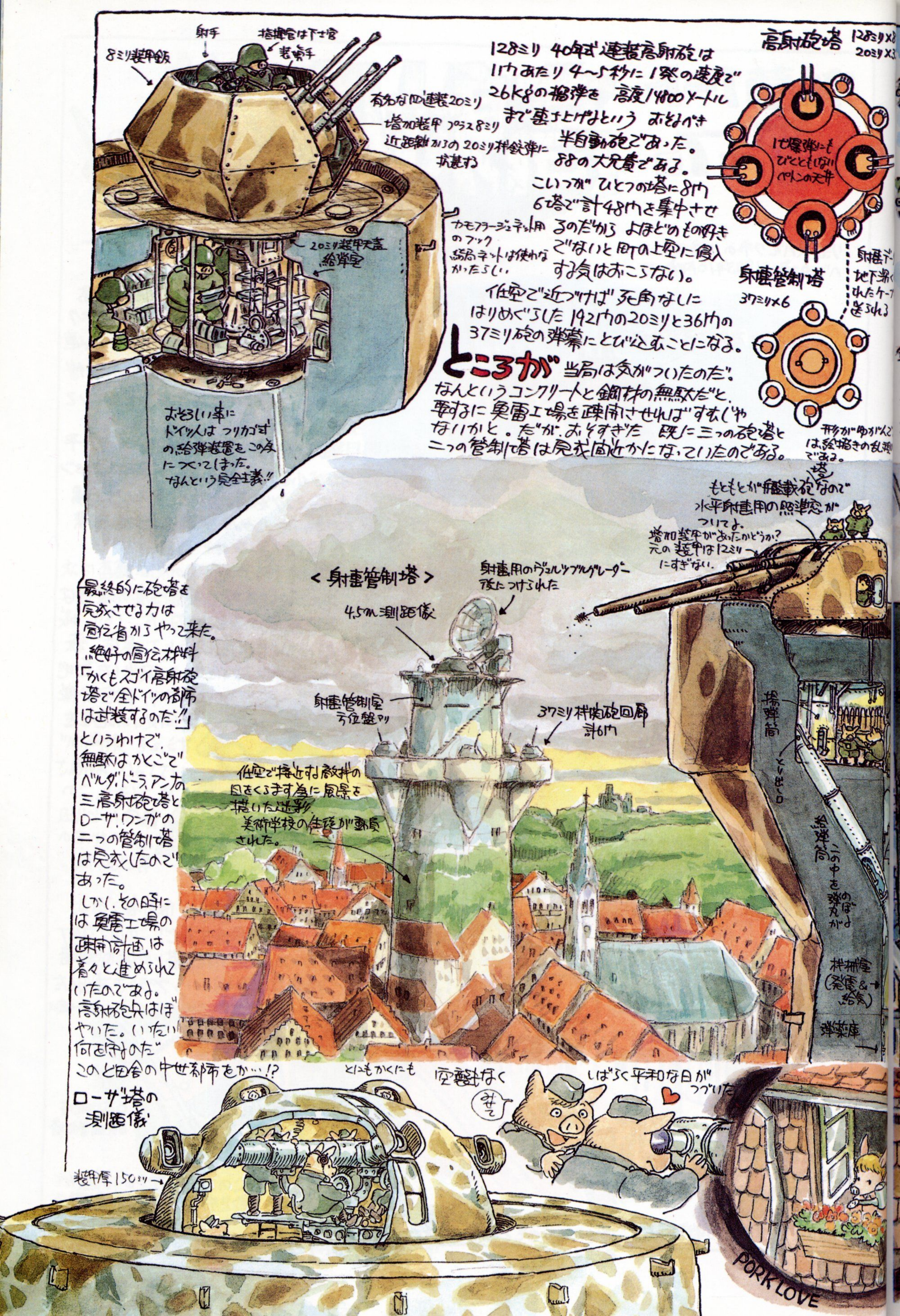



おどろくべきは、この土建屋的計画が承認され、しかも建造中止となった新造艦のための最新式砲がこのど田舎にふりわけられたことであった。

キール軍港に近い
リュースバルク市は中世
ハンザ同盟都市のひとつ、
古い城壁にかこまれた
静かなたたずまいの小都市だった。

正式にはリュースブルグと発音すべきだが地元ではバルクに近く発音している。


8ミリ装甲板
射手
指揮官は下士官
装填手
有名な四連装20ミリ
塔の装甲プラス8ミリ
近距離からの20ミリ榴弾に抗堪する
20ミリ装甲天蓋
給弾室
おそろしい事にドイツ人はつりかごずの給弾装置をこの身につけてしまった。なんという完全主義!!
128ミリ 40口径 連装高射砲は 1門あたり4〜5秒に1発の速度で 26kgの榴弾を 高度14000メートルまで撃ち上げるという おそるべき半自動砲であった。88の大兄貴である。
こいつが ひとつの塔に8門 6塔で計48門を集中させるのだから よほどのもの好きでないと町の上空に侵入する気はおこらない。
低空で近づけば 死角なしに はりめぐらした 192門の20ミリと36門の37ミリ砲の弾幕にとび込むことになる。
ところが 当局は気がついたのだ。なんというコンクリートと鋼材の無駄だと。手っ取り早く 兵器工場を疎開させれば すむじゃないかと。だが、おそすぎた 既に三つの砲塔と二つの管制塔は完成間近かになっていたのである。
高射砲塔
128ミリ×6
20ミリ×3
1発爆弾にもびくともしないベトンの天井
射撃管制塔
37ミリ×6
射撃管制塔
地下深くに埋められたケーブルで結ばれる
形が違うのは給弾の乱れ撃ちである。
カモフラージュネット用のフック
給弾ネットは使わなかったらしい。
最終的に砲塔を完成させる力は宣伝省からやって来た。絶好の宣伝材料「かくもスゴイ高射砲塔で全ドイツの都市は武装するのだ!!」というわけで、無駄はかくごでベルダ、ドーラ、アンカの三高射砲塔とローザ、ワンガの二つの管制塔は完成したのであった。
しかし、その時には 兵器工場の疎開計画は着々と進められていたのである。
高射砲兵はぼやいた。いったい何を守るのだこのど田舎の中世都市をか…!?
ローザ塔の測距儀
装甲厚150ミリ
<射撃管制塔>
射撃用のヴェルツブルグレーダー 後からつけられた
4.5m測距儀
射撃管制室 方位盤マリ
37ミリ林間砲回廊 計6門
低空で接近する敵機の目をくらます為に風景を描いた迷彩 美術学校の生徒が動員された。
もともとが艦載砲なので 水平射撃用の照準窓がついてる。
増加装甲があったかどうか? 元の装甲は12ミリにすぎない。
弾薬箱
とび出口
天井の厚さ 7m
給弾筒 この中を弾のぼる
林間室(発電&給気)
弾薬庫
とにもかくにも
空襲はなく
しばらく平和な日がつづいた
PORK LOVE
まず アメリカ人がやって来た。
自慢の強襲。400機のB-17がキール軍港をめざし、内60機が防空戦闘機の目をくらまして まんまとリューベック上空に侵入したのである。1機当り12Tの12.7ミリブローニングMGに250kg爆弾を8発づつ加えて、勿論 目標は魚雷工場への精密爆撃である。
28ミリ全砲列が射距離15000mで砲撃開始。初弾から 無駄なほどの至近弾。そのまま かっきり4分半ほどに 空中は 閃光と爆煙に充ち、爆弾投下前に 2機がはやくも炎を発した。アメリカ人の不運は照準を受けもつ先頭機がやられ、ためらい、投弾が数秒おくれたことであった。爆弾は 市街の散歩道として親しまれた森をほりかえしただけであった。市上空で更に5機が喪失。帰途海上におちたもの2機。損失率なんと20%!!
(着陸時に大破したもの他に3機、被弾機ほぼ全機)
次にイギリス人が来た。
モスキートで低空スレスレに……16機
あの化物の塔をなんとかしなければ…。トゲぬきさ
イギリス人がかって出た。巡洋艦の片舷斉射と同じ火力を持つロケット弾装備のモスキートで 森をかすめて殺到する。
しまった 1943年末なのに 木が枯れてない!! 冬なのに
損失率なんと81%
今度は林間砲回廊の出番であった。37ミリと20ミリの火の中に突進した木製機の運命はもっと悲惨だった。
帰りついた モスキートは たった3機。塔はみな ロケット弾をくらったが 損害はわずか。コンクリートの壁は ドイツ的複雑さを証明した。
今 ヤリュースバルクの高射砲塔は 全ドイツ防空隊の力がとなった。
兵器工場は もうとっくに いなくなったのに 高射砲塔は アメリカとイギリスの飛行機を ひきよせる シンボルになってしまったのだ。迷惑なのは 市民の方で、火のついた飛行機は 降って来るわ、流弾をつけて撃ち出される林間砲弾はとび込むわで 美しい町並は メチャクチャになっていくのである。



8ミリ装甲鈑
射手
指揮官は下士官
装填手
有名な四連装20ミリ
増加装甲 プラス8ミリ
近距離からの20ミリ杙鉄弾に抗甚する
カモフラージュネット用のフック
結局ネットは使わなかったらしい
20ミリ装甲天蓋
給弾室
おそろしい事にドイツ人はつりカゴ式の給弾装置をこの度につくってしまった。なんという完全主義!!
128ミリ 40年式連装高射砲は1門あたり4~5秒に1発の速度で26kgの榴弾を 高度14800メートルまで裏さ上げるという おそるべき半自動砲であった。88の大兄貴である。
こいつが ひとつの塔に8門6塔で計48門を集中させるのだから よほどのもの好きでないと町の上空に侵入する気はおこらない。
低空で近づけば死角なしにはりめぐらした192門の20ミリと36門の37ミリ砲の弾幕にとび込むことになる。
ところが 当局は気がついたのだ。
なんというコンクリートと鋼材の無駄だと、要するに奥雷工場を疎開させればすむじゃないかと。だが、おそすぎた 既に三つの砲塔と二つの管制塔は完成間近かになっていたのである。
高射砲塔 128ミリ×8 20ミリ×3
1ピ爆弾にもびくともしないペトンの天井
射撃管制塔 37ミリ×6
射撃データ地下深くされたケーブ送られる
形がゆがんでは絵描きの乱視である。
最終的に砲塔を完成させる力は宣伝省からやって来た。
絶好の宣伝材料「かくもスゴイ高射砲塔で全ドイツの都市は武装するのだ!!」というわけで、無駄はかとごでベルダ、ドーラ、アンナの三高射砲塔とローザ、ワンガの二つの管制塔は完成したのであった。
しかし、その時には奥雷工場の疎開計画は着々と進められていたのである。
高射砲兵はぼやいた。いったい何を守るのだこのど田舎の中世都市をか…!?
<射撃管制塔>
4.5m測距儀
射撃用のヴェルツブルグレーダー後につけられた
射撃管制室 方位盤マリ
37ミリ杙関砲回廊 計6門
低空で接近する敵機の目をくらます為に風景を描いた迷彩。美術学校の生徒が動員された。
もともとが艦載砲塔なので水平射撃用の照準窓がついてよ。
増加装甲があったかどうか? 元の装甲は12ミリにすぎない。
揚弾筒
とり出し口
給弾筒 この中を弾丸がのぼる
杙械室(発電&給気)
弾薬庫
ローザ塔の測距儀
装甲厚150ミリ
とにもかくにも
空襲なく
みせて
しばらく平和な日がつづいた
PORK LOVE

まずアメリカ人がやって来た。

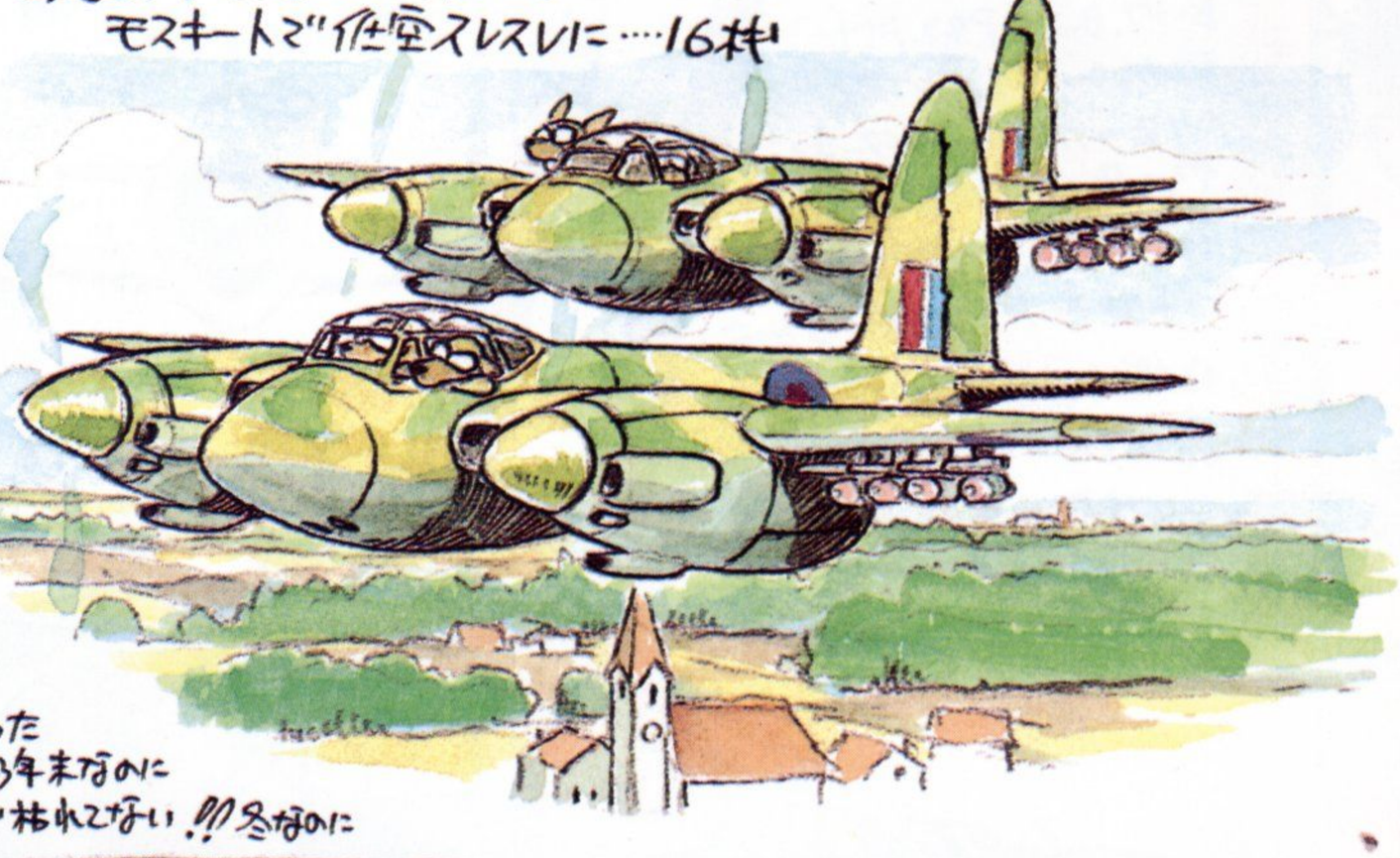
白昼の強襲。400機のB-17がキール軍港をめざし、内60機が防空戦斗機の目をくらまして まんまとリュースバルク上空に侵入したのである。1機当り12Tの12.7ミリブローニングMGに250kg爆弾を8発づつかかえて、勿論 目標は魚雷工場への精密爆撃である。

128ミリ全砲列が射距離15000mで砲撃開始。初弾から不気味なほどの至近弾。そのまま かっきり4分半撃ちに撃った。空中は鉄片と爆煙に充ち、爆弾投下前に 2機がはやくも炎を発した。アメリカ人の不運は照準を受けもつ先頭機がやられたために、投弾が数秒おくれたことであった。爆弾は市民の散歩道として親しまれた森をほりかえしただけであった。市上空で更に5機が喪失。帰途海上におちたもの2機。損失率なんと20%!!

★(着陸時に大破したもの他に3機、被弾機ほぼ全機)

次にイギリス人が来た。

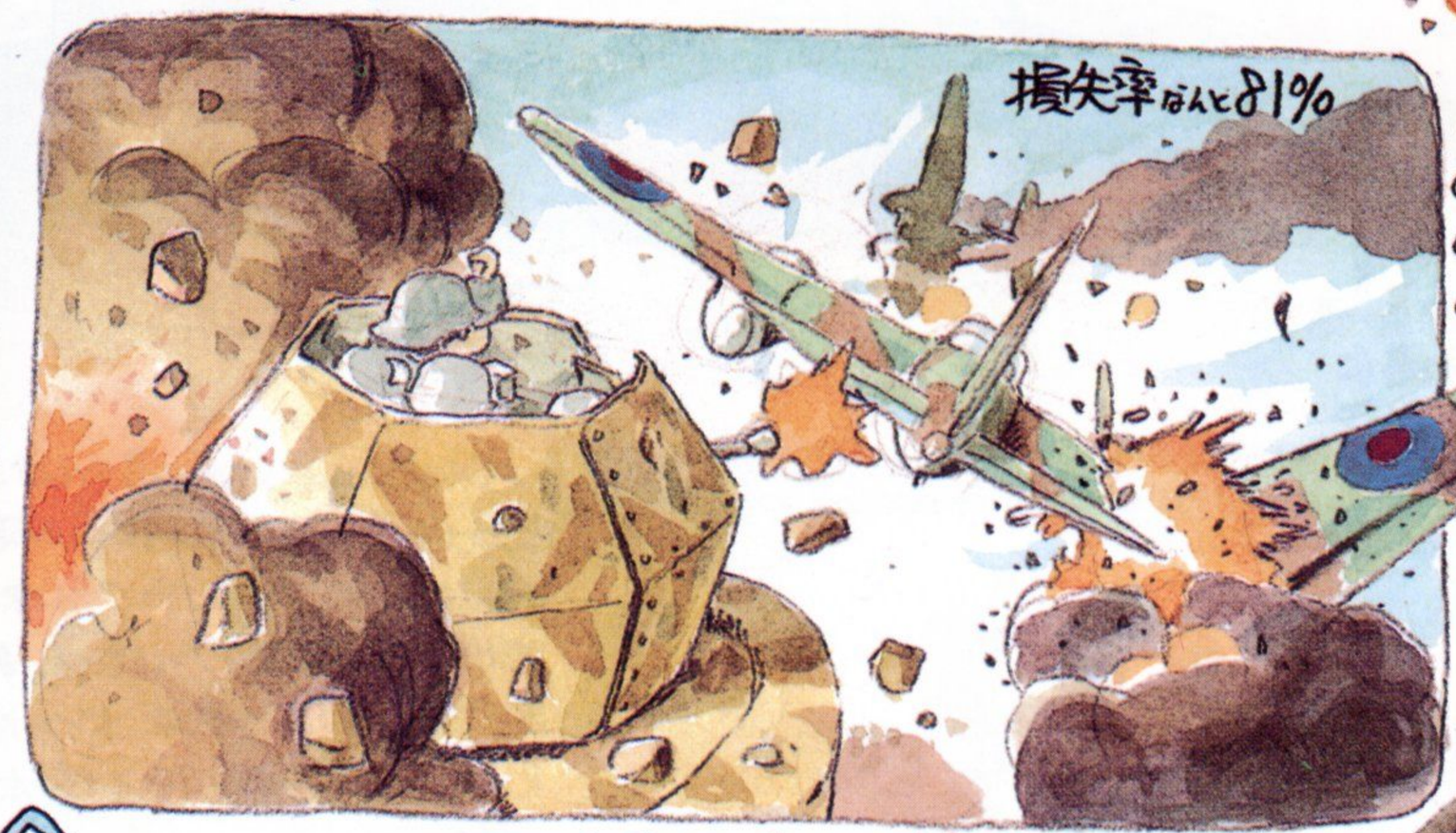
モスキートで低空スレスレに……16機



しまった
1943年末なのに
木が枯れてない!! 冬なのに

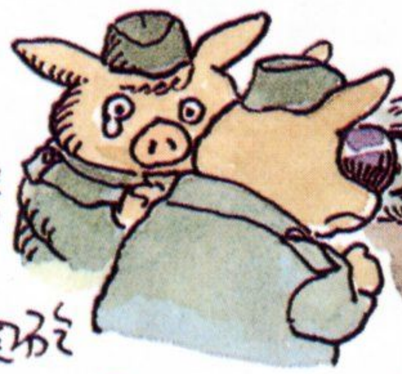
あの化物の塔をなんとかしなければ…、トゲぬきをイギリス人がかって出た。巡洋艦の片舷斉射と同じ火力を持つロケット弾装備のモスキートで森をかすめて殺倒する。

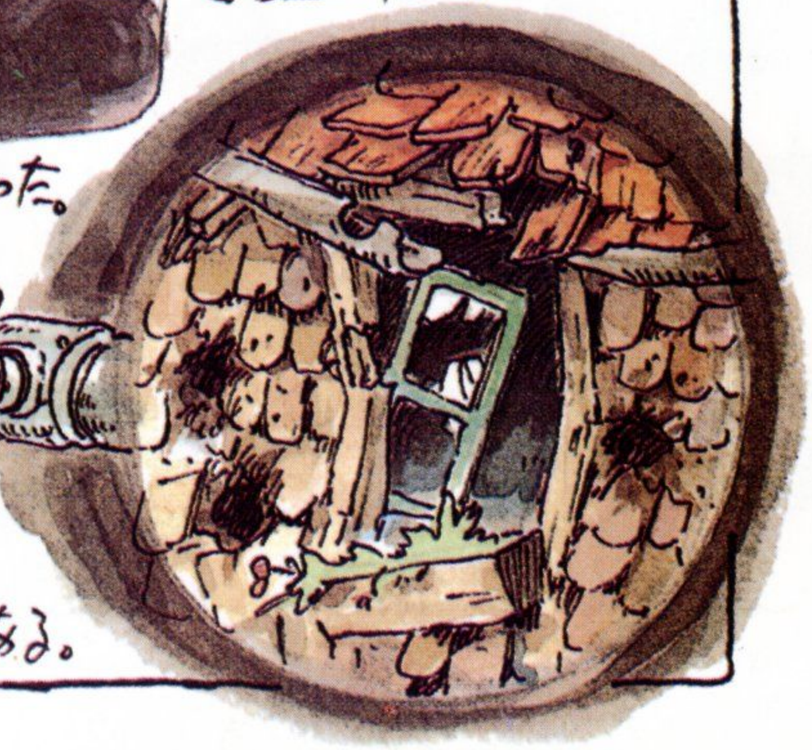
今度は機関砲回廊の出番であった。37ミリと20ミリの火の中に突進した木製機の運命はもっと悲惨だった。帰りついたモスキートはたった3機。塔はみなロケット弾をくらったが損害はわずか、コンクリートの壁はドイツ的頑丈さを証明した。

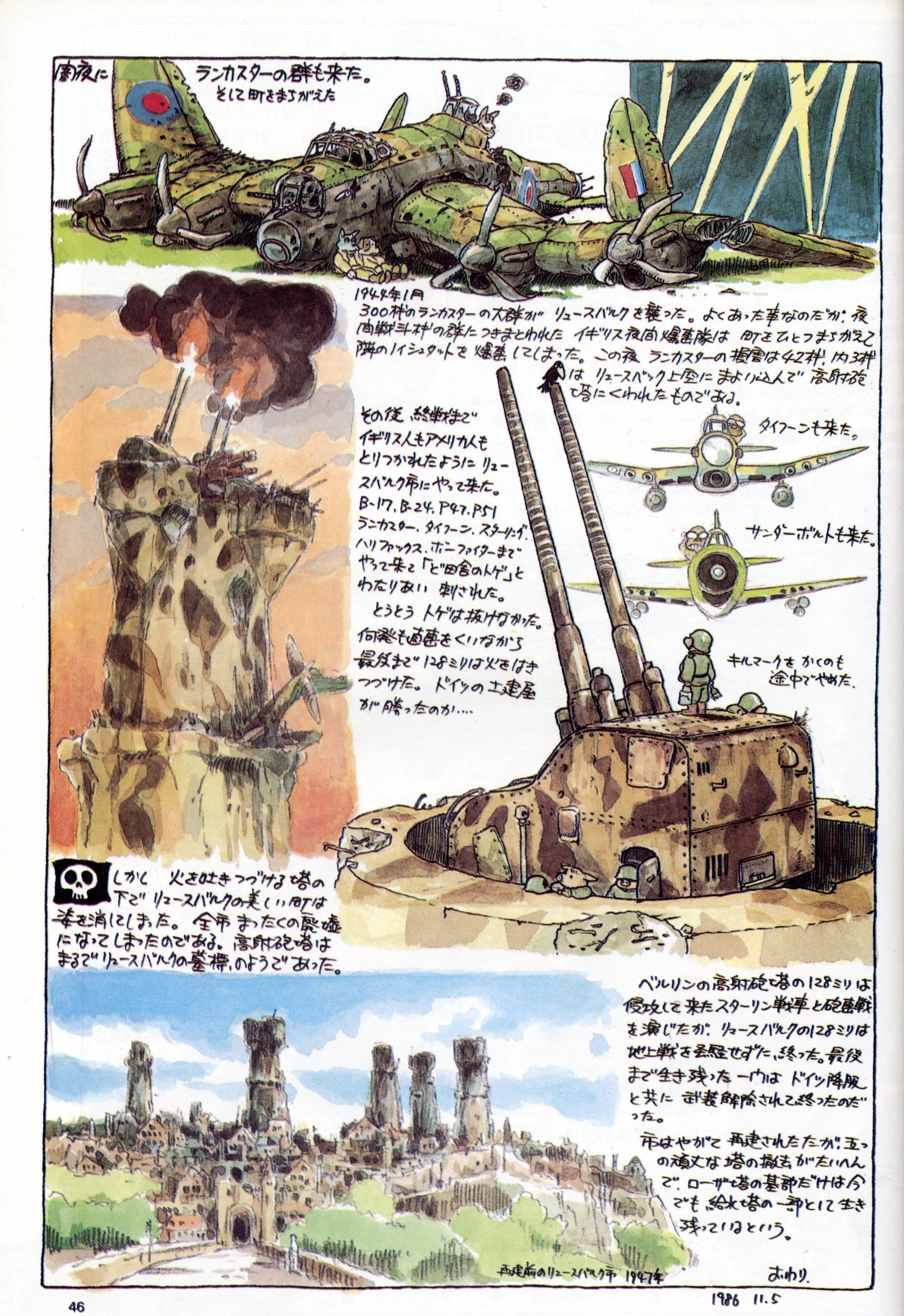



今やリュースバルクの高射砲塔は全ドイツ防空隊のカガミとなった。

魚雷工場はもうとっくにいなくなったのに高射砲塔はアメリカとイギリスの飛行機をひきよせるシンボルになってしまったのだ。迷惑なのは市民の方で、火のついた飛行機は降って来るわ、俯角をつけて撃ち出される機関砲弾はとび込むわで 美しい町並はメチャクチャになっていくのである。






昼夜に
ランカスターの群も来た。
そして町をまちがえた
1944年1月
300機のランカスターの大群が リューズバルクを襲った。よくあった事なのだが、夜間戦闘機の群につきまとわれた イギリス夜間爆撃隊は 町をひとつまちがえて隣のハイシュタットを爆撃してしまった。この夜 ランカスターの損害は42機、内3機は リューズベック上空にまよい込んで 高射砲で落にくわれたものである。
その後 終戦まで
イギリス人もアメリカ人も
とりつかれたように リューズバルク市にやって来た。
B-17、B-24、P47、P51
ランカスター、タイフーン、スターリング、ハリファックス、ボーファイターまで
やって来て「ど田舎のトゲ」と
わたりあい 刺された。
とうとう トゲは抜けなかった。
何発も直撃をくいながら
最後まで128ミリは火をはきつづけた。ドイツの土建屋が勝った訳のか....
タイフーンも来た。
サンダーボルトも来た。
キルマークを かくのも
途中でやめた。
しかし 火を吐きつづける塔の
下で リューズバルクの美しい町は
姿を消にしまった。全市 まったくの廃墟
になってしまったのである。高射砲塔は
まるで リューズバルクの墓標のようであった。
ベルリンの高射砲塔の128ミリは
侵攻して来たスターリン戦車と砲撃戦
を演じたが、リューズバルクの128ミリは
地上戦を経験せずに、終った。最後
まで生き残った一門は ドイツ降服
と共に 武装解除されて終ったのだ
った。
市はやがて 再建されたが、五つ
の頑丈な塔の撤去がたいへん
で、ローザ塔の基部だけは今
でも給水塔の一部として生き
残っているという。
再建前のリューズバルク市 1947年
おわり.



1986 11.5

*Hayao Miyazaki's Daydream note*

第8話

# Q.ship

第1次大戦時、欧州の海を

荒らし回ったドイツ海軍の

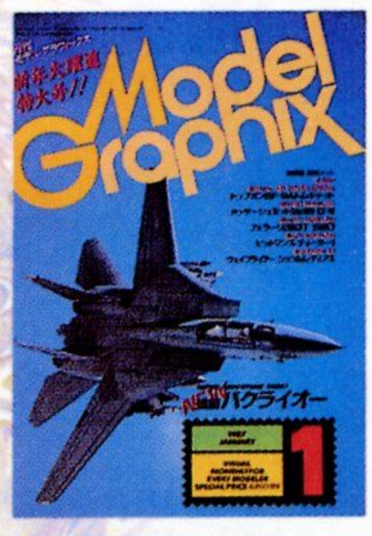
潜水艦Uボートに対抗するために、

イギリス海軍が投入した兵器…。

それは商船に大砲を隠して騙し撃ちをする

囮船（おとりぶね）『Qシップ』だった！

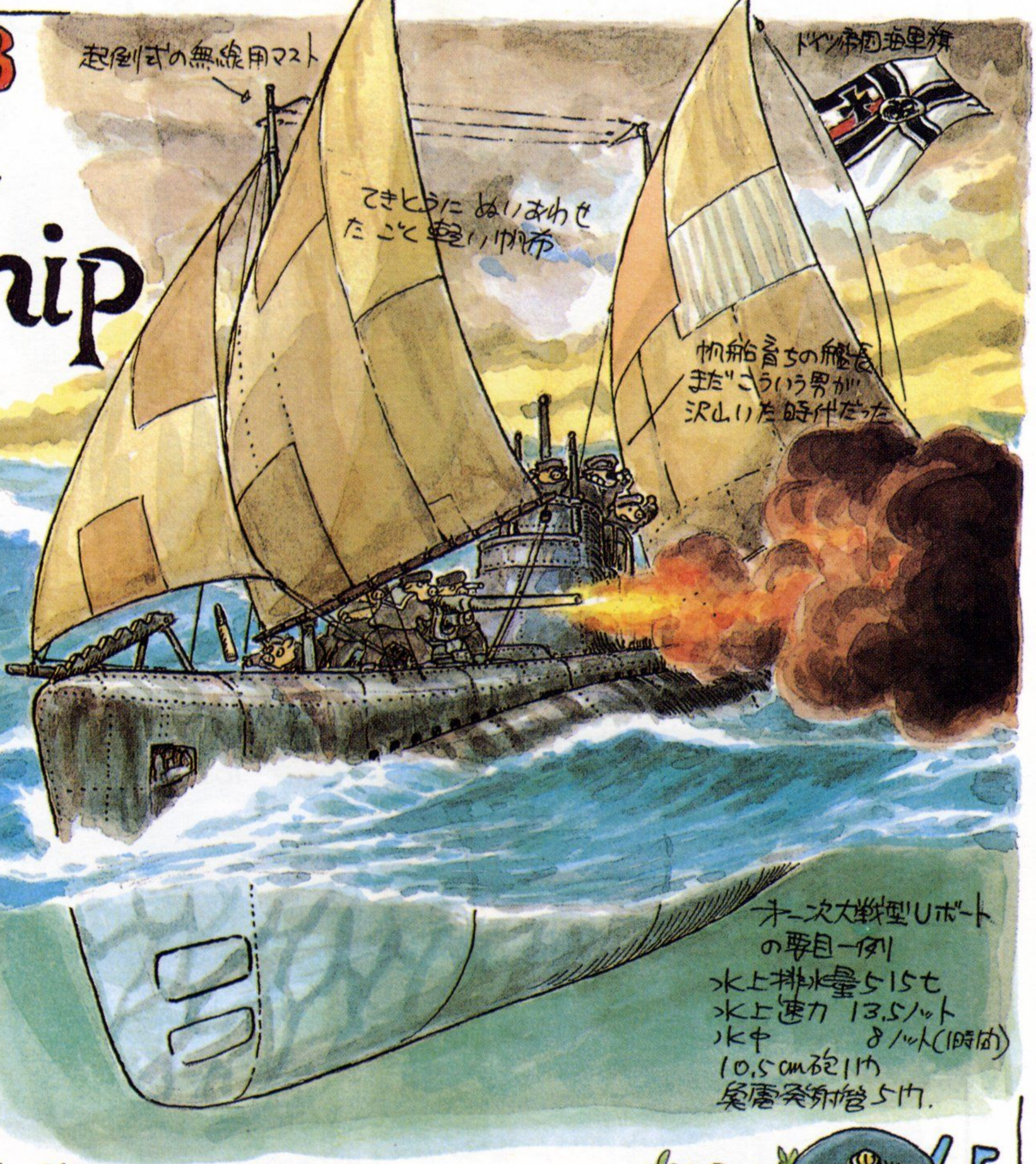
大らかでウソのような海戦エピソード。




初出：月刊モデルグラフィックス1987年1月号
（連載第8回、執筆・1986年12月）

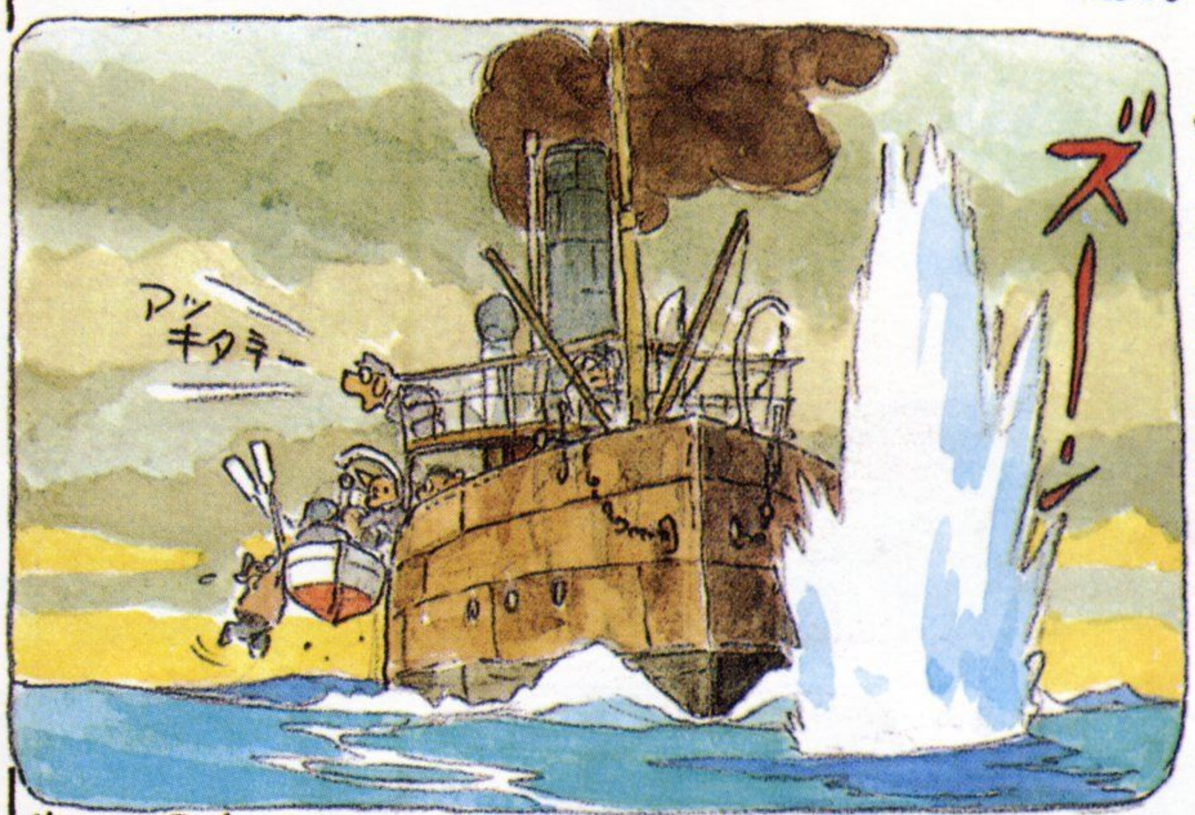
# 雑想ノートNO.8

# Q-ship




無線用のマストに二セの帆をはって帆船に化け、敵の商船に近づいて突然ドカーンと発砲する。ウソのような話だが、オー次世界大戦(1914~1918)に、あるドイツ潜水艦が本当にやった事である。

当時のUボートは、魚雷の搭載数が少い上に高価なので、浮上して砲弾で商船狩りをする方が圧倒的に多かったのだ。それに、末期に護送船団の戦法が採用されるまで商船は単独に行動する方が多かったので、こんな戦法を発明したUボート艦長もあらわれたのであった。




やられる方もたいていボートで逃げ出すヒマがあった。

オー次大戦こそ、もっともUボートが活躍しやすい時代だった。なにしろ、ソナーやレーダーが発明されてなかった上に、頭の上から突然爆雷をおっことす飛行機なんていうやっかいな代物が発達していなかったのだから、船乗りは皆自分の目と耳をたよりに戦争をやっておられたのである。

**6394隻** 1,194万8,702総トン

この数字は1914年から1918年までにドイツのUボートが沈めた商船のかずである。他に軍艦100隻、イギリスが大戦中に失った戦艦13隻の内5隻はUボートがあげた戦果であった。上の絵のペリエール艦長は並いるUボートの艦長中の最高のエースで、なんと194隻の商船と2隻の軍艦を沈めちまったのである。

この大戦果の代償に198隻のUボートが失われたのだが、その内12隻はQシップのためである。Qシップとは何か？これが今回のおはなしである。

**Uボート対Qシップ** はじまりはじまり

# これがQシップだ

このボートは Qシップではない
このボートは Qシップの主兵装である。ハッチの上に短艇をのせるのは当時あたり前のことだった。

オスナヨ!!
ヒソヒソ

日本では砲船と訳されている要するに小型の沿岸貨物船(帆船も使われた)に大砲をかくして、Uボートの攻撃を待ちかまえるという代物。

Uボートが油断して、魚雷は勿論、砲弾も節約したくなるような船が選ばれた。

いざとなれば **パカッ** というわけである。

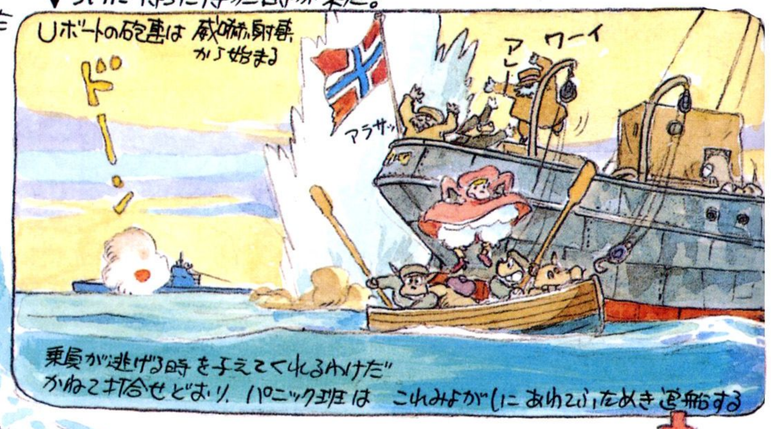
10.5サンチ砲

本当だぞ!!

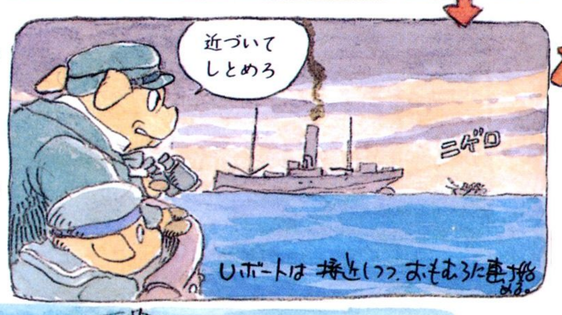
勿論 乗組員は 船長以下すべて海軍軍人から選抜され、彼等は民間人に変装して、ひたすら イギリス近海をいったりきたりして、エサがかかるのを待ったのであった。

↑つかれると つい字が右下りになるのである。ゴメンナサイ

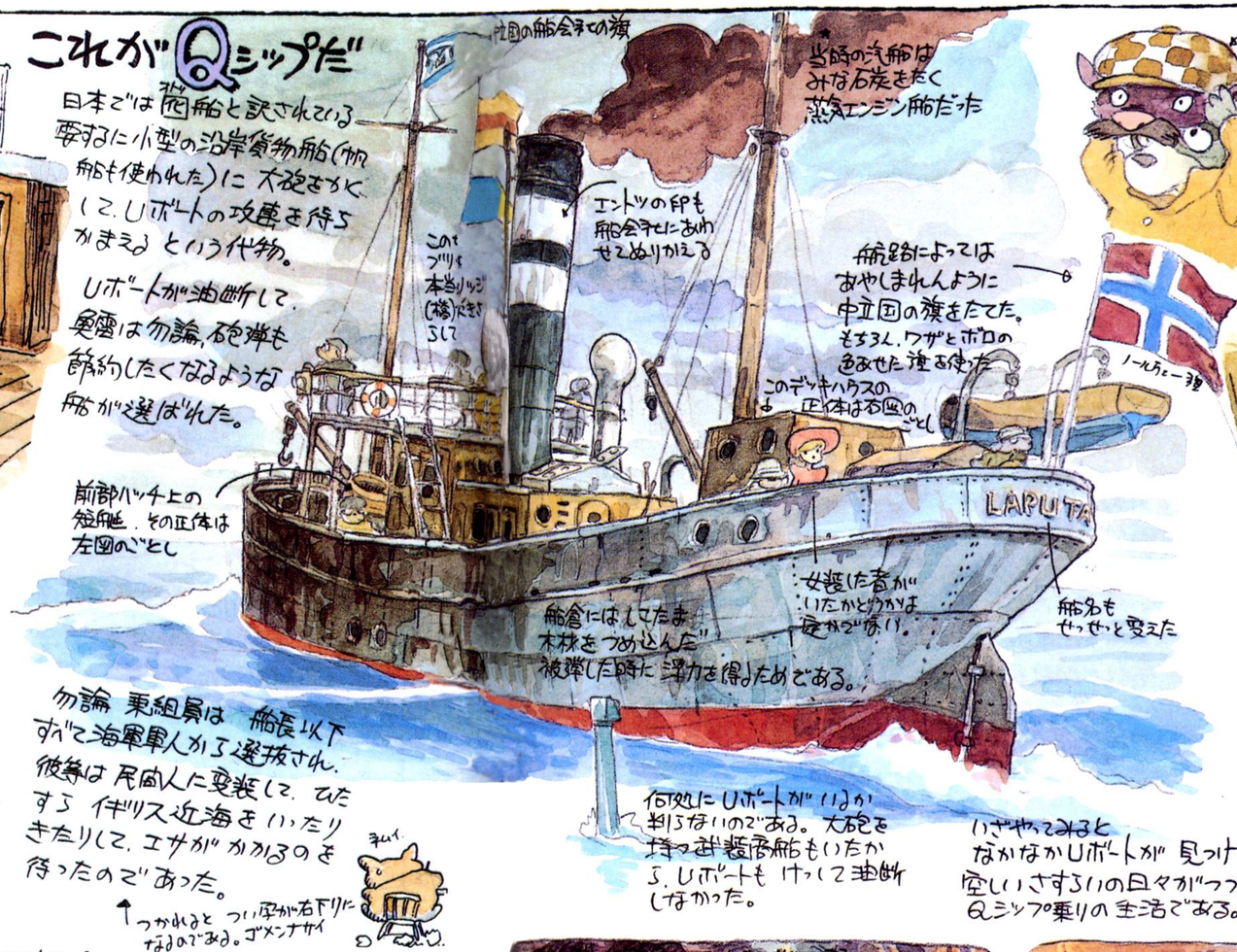
▼ついに 待ちに待った日時が来た!




乗員が逃げる時を考えてくれるわけだ
かねて打合せどおり パニック状態 これみよがしにあわてふためき運搬する




Uボートは 接近しつつ おもむろに砲撃開始。




何処にUボートがいるか判らないのである。大砲を持った武装商船もいたから、Uボートも けっして油断しなかった。

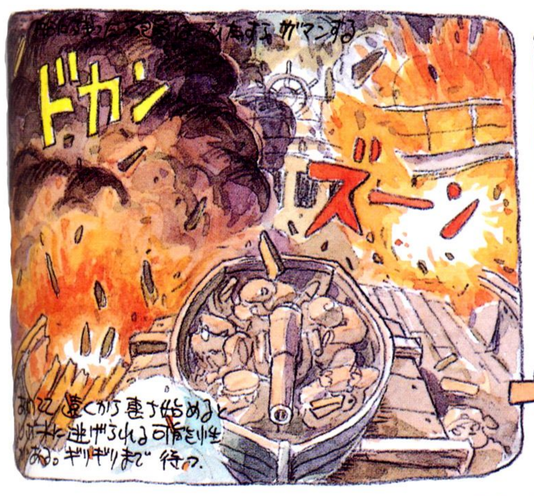
いざやってみると なかなかUボートが見つけてくれなくて空しいさすらいの日々がつづいた。それがQシップ乗りの生活である。

変装は念入りにおこなわれ ロヒゲまでつけた 指揮官もいた。

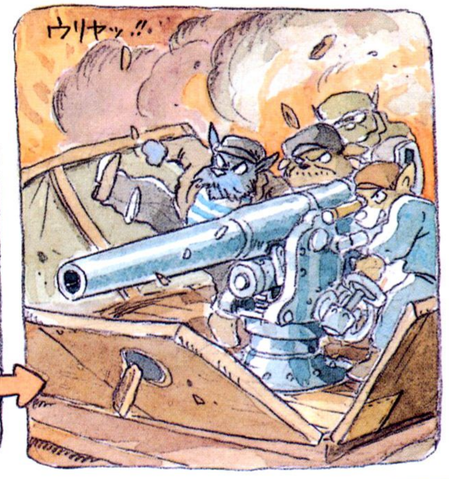
上からのぞくなよナ

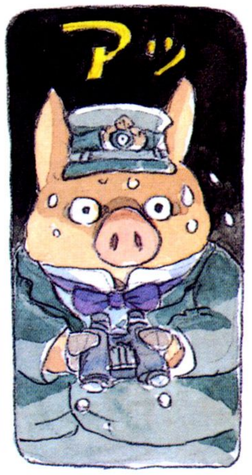
後部デッキハウスの ワミリ砲

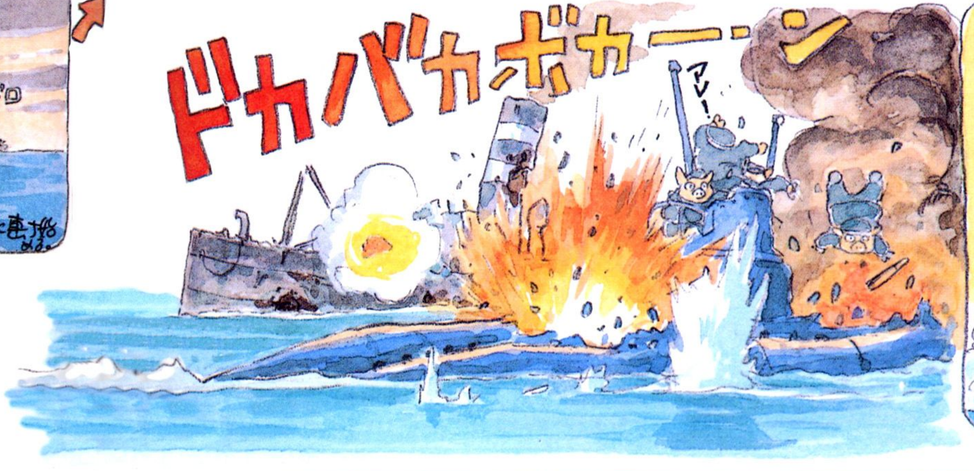
よその国の旗をたてても、国際条約に違反するわけではない。だまし、だまされるのも戦術の内と認められていたのである。ただし、砲火をひらく直前に、その旗は降ろさねばならない。Qシップでも、ドッカーンとやる前に イギリスの海軍旗ととりかえたはずである。




あわてて遠くから撃ち始めると ウッカリ逃げられる可能性も出る。ギリギリまで待つ。



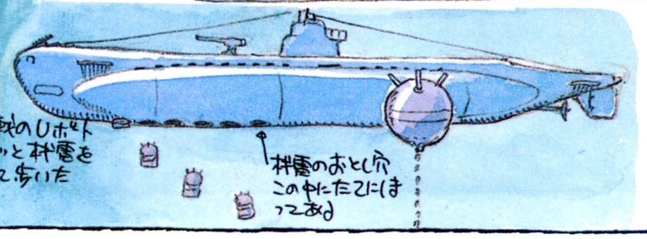
第一次大戦に較べると 夢のように楽だったと デーニッツ提督が回想しているように、この頃の潜水艦は まっ昼間 堂々と水上を航行して エモノを探しまわることが出来た。1918年になると ずいぶん 対潜用の飛行機がとびまわり始めるが、なんせ レーダーがないのだから、楽なものだったのだ。

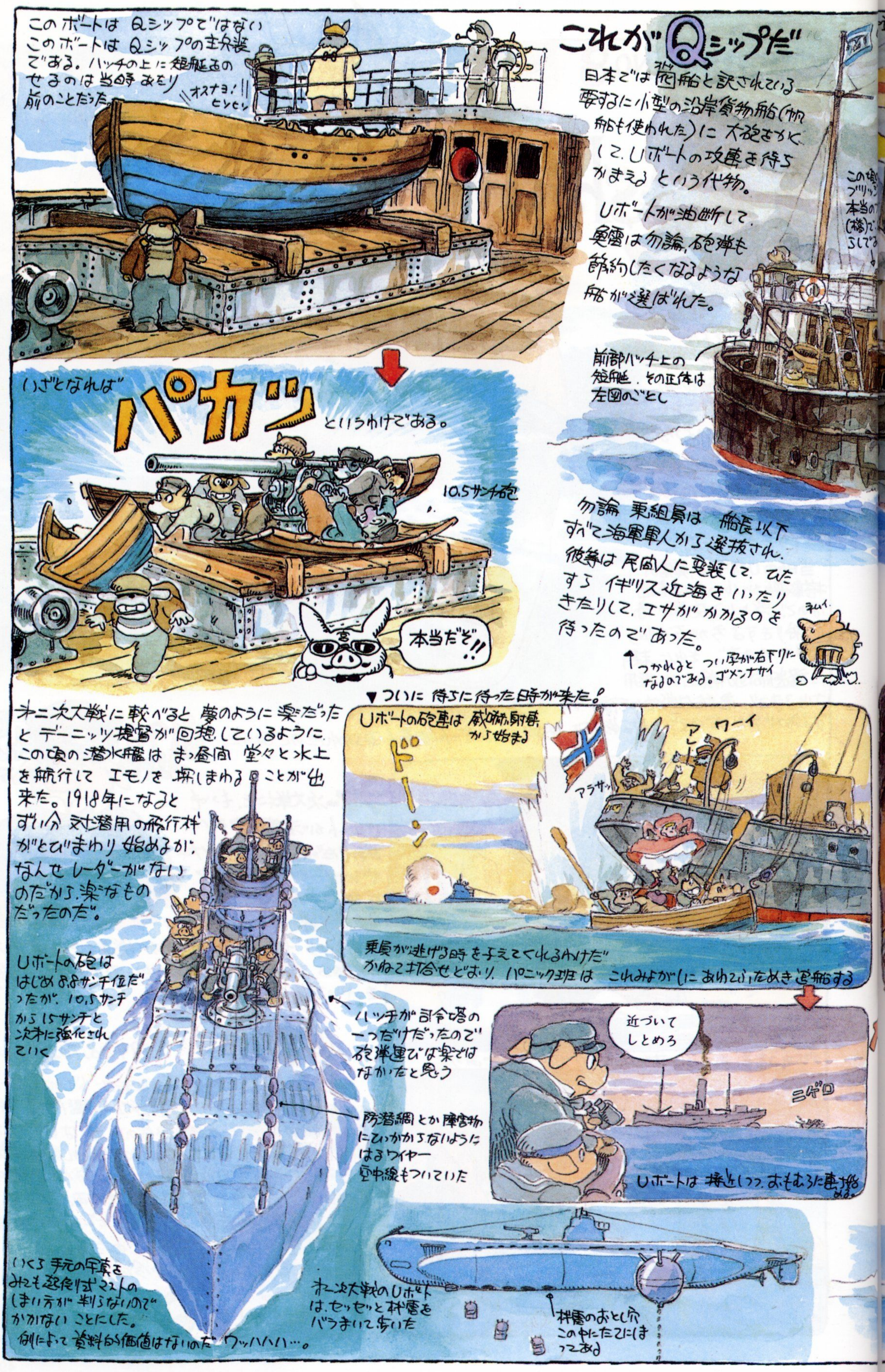
Uボートの砲は はじめ8.8サンチ位だったが、10.5サンチから15サンチと次第に強化されていく

ハッチが司令塔の一つだけだったので 砲準備は楽ではなかったと思う

防潜網とか障害物にひっかからないようにはるワイヤー 電中線もついていた

いくら手元の年表をみても 魚雷ボーストのしまい方が判らないのでかかないことにした。例によって資料的価値はないのだ ワッハハハ…。





このボートは Qシップではない
このボートは Qシップの主兵装
である。ハッチの上に短艇をの
せるのは当時あたり
前のことだった。
オスナヨ!!
ヒソヒソ
これがQシップだ
日本では花船と訳されている
要するに小型の沿岸貨物船(帆
船も使われた)に大砲をかく
して、Uボートの攻撃を待ち
かまえるという代物。
Uボートが油断して、
魚雷は勿論、砲弾も
節約したくなるような
船が選ばれた。
前部ハッチ上の
短艇、その正体は
左図のごとし
いざとなれば
パカッ
というわけである。
10.5サンチ砲
本当だぞ!!
勿論 乗組員は 船長以下
すべて海軍軍人から選抜され、
彼等は民間人に変装して、ひた
すら イギリス近海をいったり
きたりして、エサがかかるのを
待ったのであった。
つかれると つい字が右下りに
なるのである。ゴメンナサイ
第二次大戦に較べると 夢のように楽だった
と デーニッツ提督が回想しているように、
この頃の潜水艦は まっ昼間 堂々と水上
を航行して エモノを 探しまわる ことが出
来た。1918年になると
ずい分 対潜用の飛行機
がとびまわり始めるが、
なんせ レーダーがない
のだから、楽なもの
だったのだ。
▼ついに 待ちに待った時が来た!
Uボートの砲塞は 威嚇射撃
から始まる
ドーン
アレ
ワーイ
アラサッ
乗員が逃げる時を与えてくれるわけだ
かねて打合せどおり、パニック班は これみよがしにあわてふためき退船する
Uボートの砲は
はじめ8.8サンチ位だ
ったが、10.5サンチ
から15サンチと
次第に強化され
ていく
ハッチが司令塔の
一つだけだったので
砲弾運びは楽では
なかったと思う
防潜網とか障害物
にひっかからないように
はるワイヤー
空中線もついていた
近づいて
しとめろ
ニゲロ
Uボートは 接近しつつ、おもむろに 魚雷を
いくら手元の写真を
みても起倒式マストの
しまい方が判らないので
かかない ことにした。
例によって資料的価値はないのだ ワッハハハ…。
第一次大戦のUボート
は、セッセッと機雷を
バラまいて歩いた
機雷のおとし穴
この中にたてにしま
ってある

中立国の船会社の旗

当時の汽船は
みな石炭をたく
蒸気エンジン船だった

エントツの印も
船会社にあわ
せてぬりかえる

航路によっては
あやしまれんように
中立国の旗をたてた。
もちろん、ワザとボロの
色あせた旗を使った

このデッキハウスの
正体は右図の
ごとし

LAPUTA

女装した者が
いたかどうかは
定かでない。

船名も
せっせっと変えた

船倉にはしてたま
木材をつめ込んだ
被弾した時に浮力を得るためである。

何処にUボートがいるか
判らないのである。大砲を
持つ武装商船もいたか
ら、Uボートもけっして油断
しなかった。

いざやってみると
なかなかUボートが見つけてくれなくて
空しいさすらいの日々がつづいた。それが
Qシップ乗りの生活である。

変装は念入りにおこなわれ
ロヒゲまでつけた指揮官
もいた。

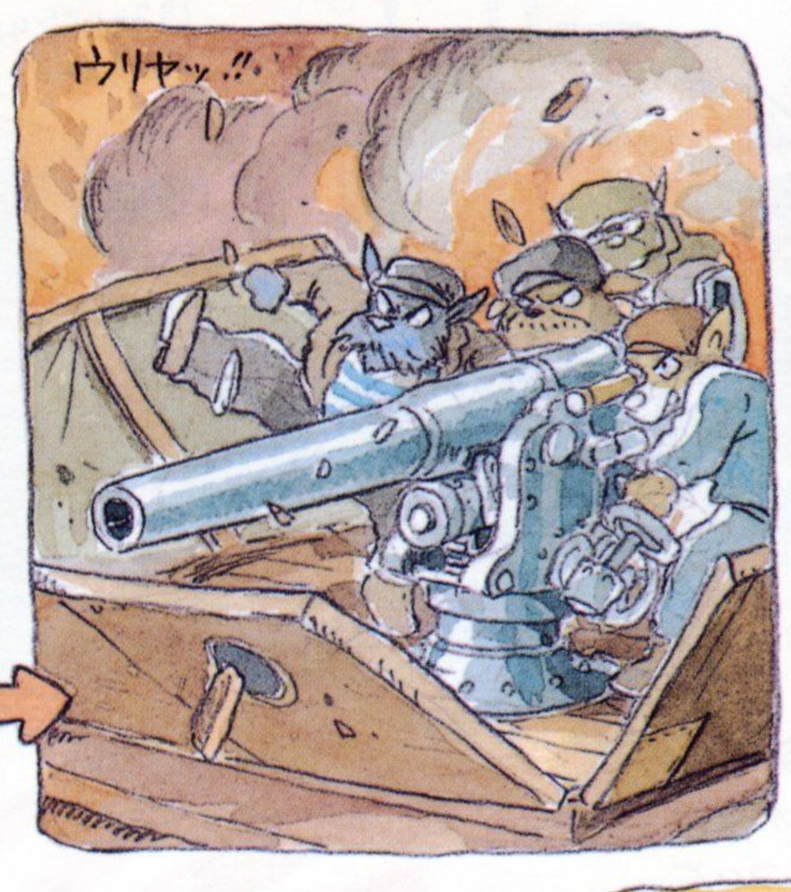
上から
のぞくなよナ

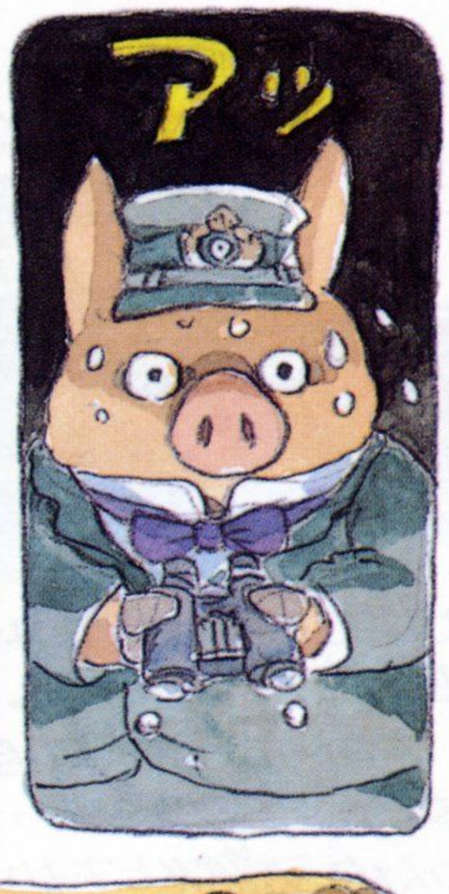
ノールウェー旗

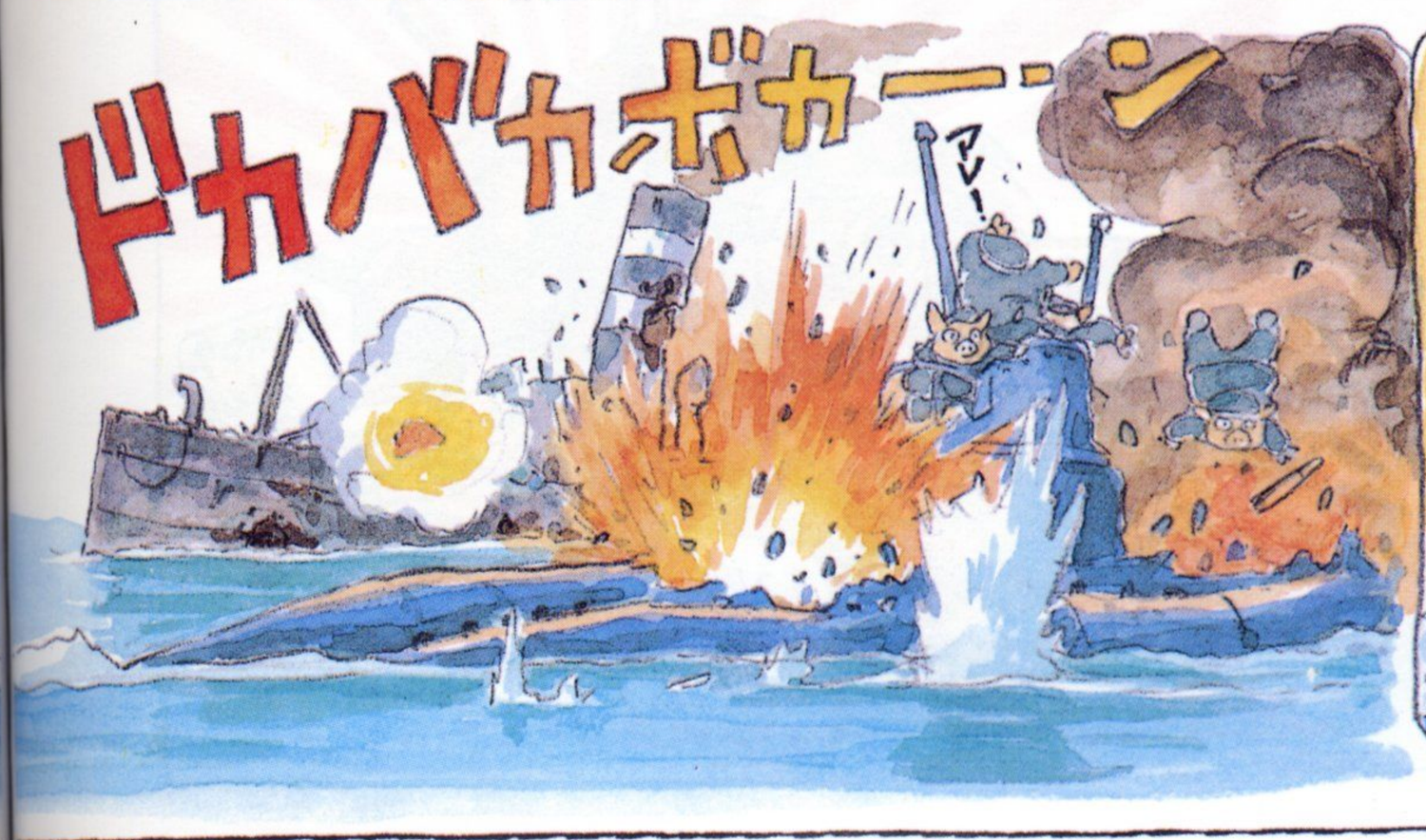
後部デッキハウスの
75ミリ砲

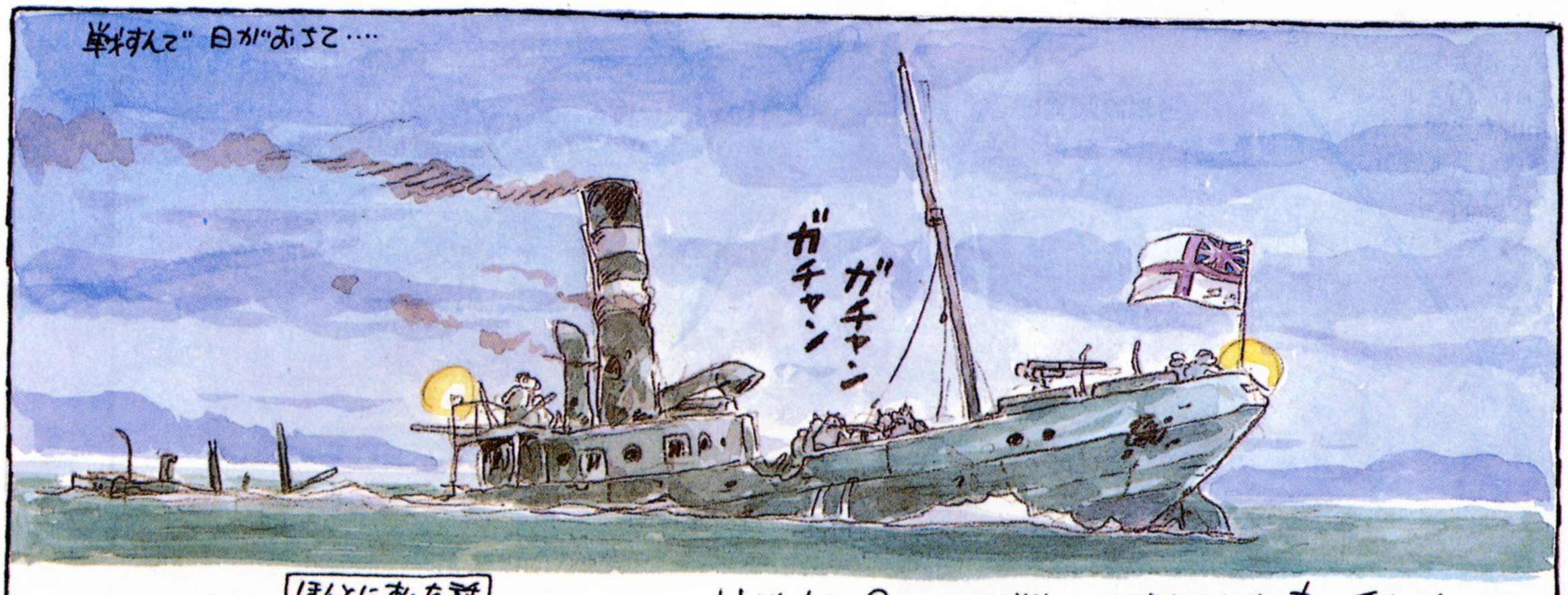
よその国の旗をたてても、国際条約に
違反するわけではない。だまし、だまされる
のも戦術の内と認められていたのである
ただし、砲火をひらく直前に、その旗は
降ろさねばならない。Qシップでも、ドッ
カーンとやる前に イギリスの海軍旗と
とりかえたはずである。

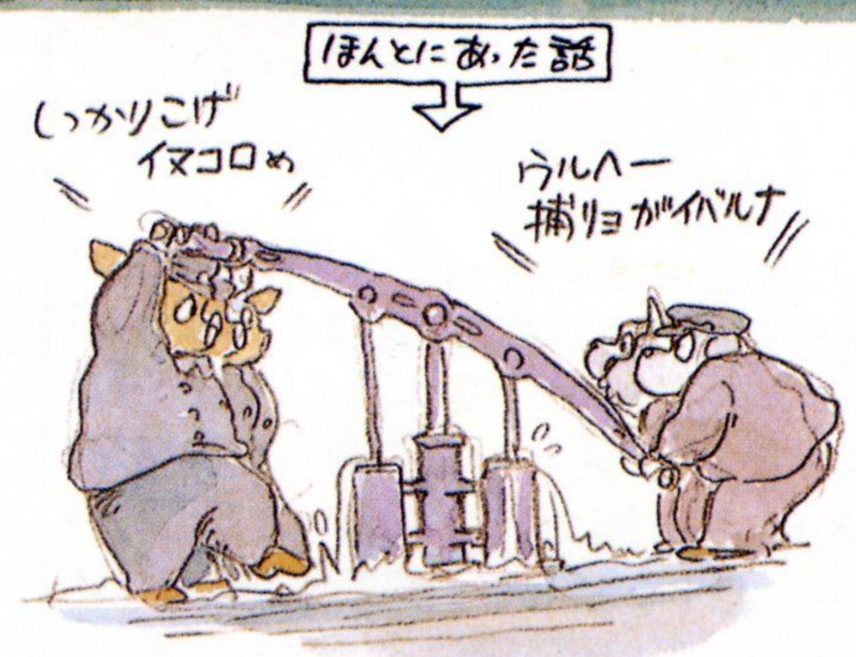
イギリス
海軍旗



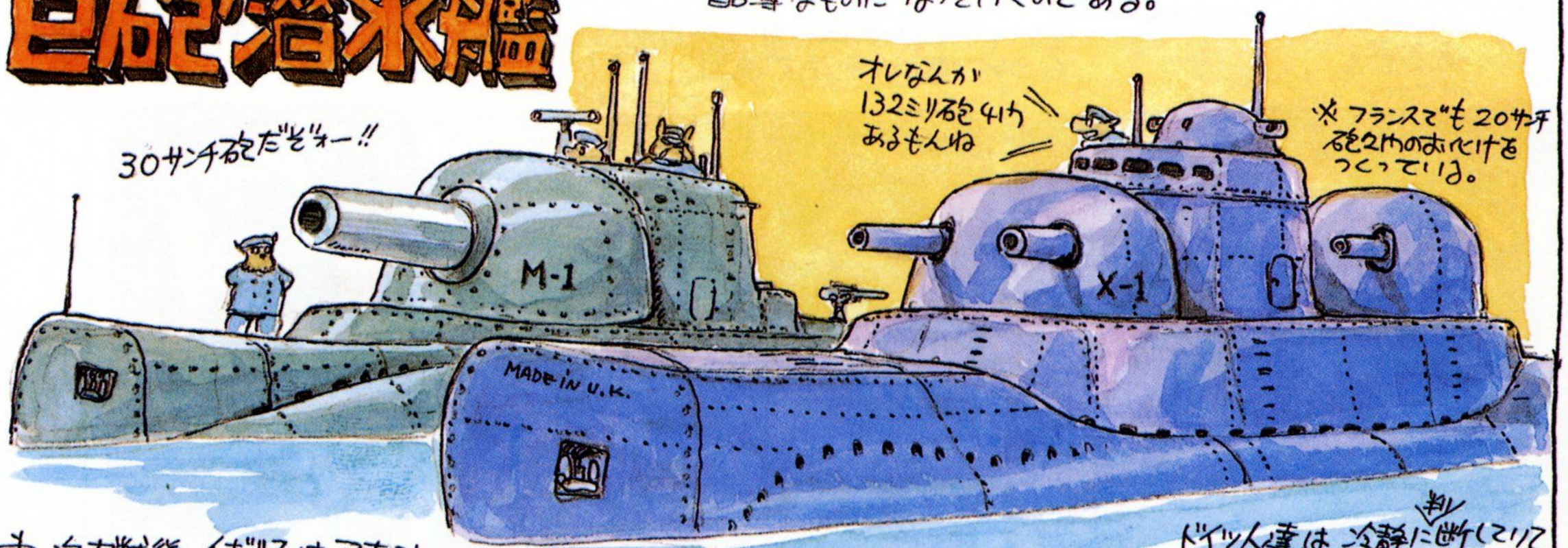



Uボート対Qシップの戦は 相討ちで終る事が多かった。相方損傷しても別れに終ったり、両方とも沈んじゃったり、Qシップが発砲するやまもなく、Uボートの砲戦が火をつけてしまった事もあった。幸運にもQシップが勝利をおさめても、穴だらけの船体の浸水と戦う仕事が待っていた。Qシップの本には半分沈みながら なんとか帰投しようと苦斗するQシップ達の写真がいく枚ものっている。イギリスにとっては 相討ちに終っても Uボートとボロ船との交換なら ず〜っと得だという判断があったのである。

Q対Uの戦いをヒントにした クダラン戦争映画が アメリカくんだりで つくられたりしたが、第二次大戦中に Qシップは使われなかった。レーダーの発明が すべてを変え、戦争は さらに酷薄なものに なっていくのである。

# 巨砲潜水艦

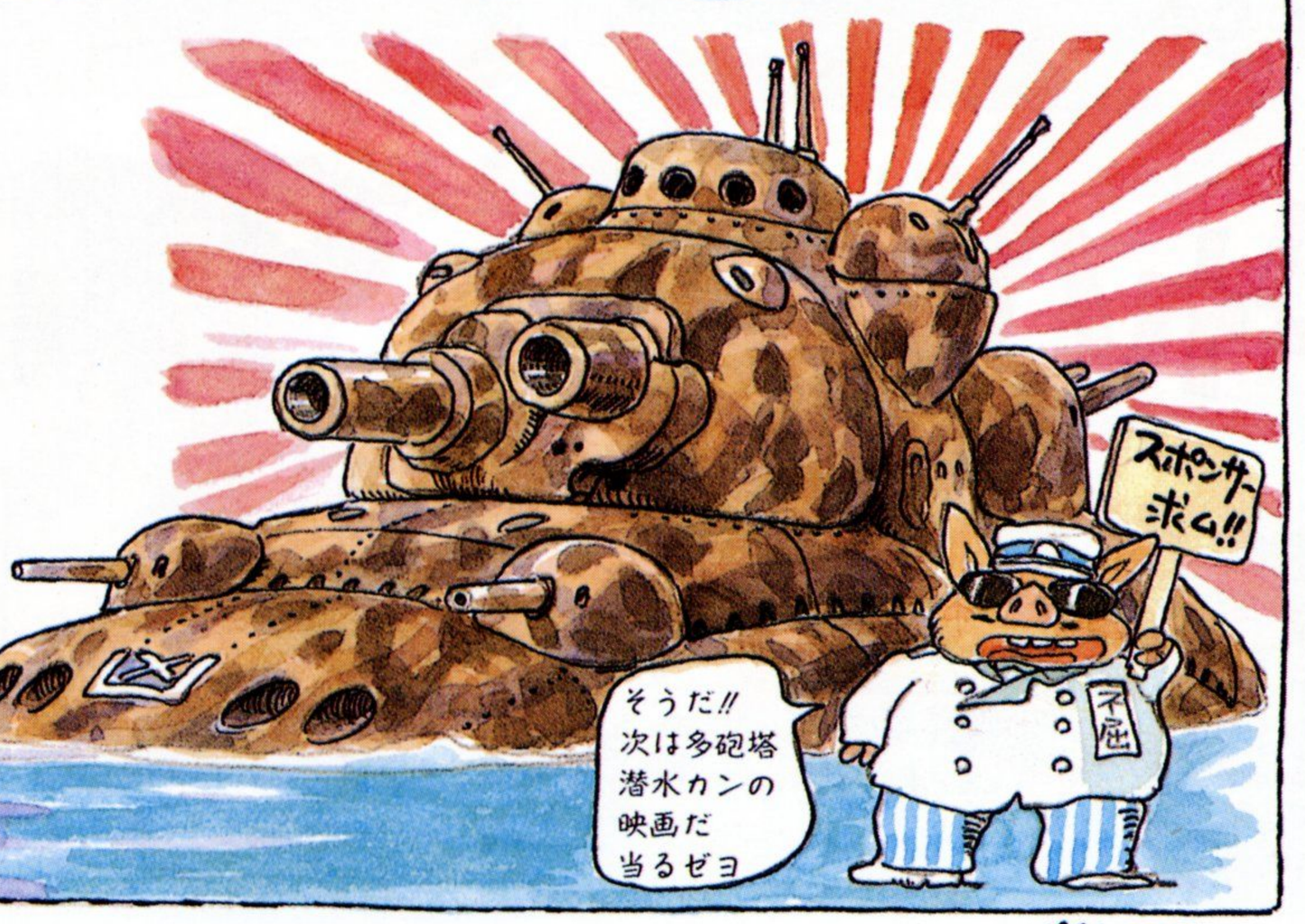



第二次大戦後 イギリスは アホみたいな巨砲潜水艦をつくった。要するに、Uボートの大砲にひどい目にあった経験からかな、潜水艦にでっかい大砲をつんだら スゴイ!! とおもいついたのであった。

勿論、この潜水艦達は多砲塔戦車と同じで 第二次大戦では まったく役にたたなかった。科学雑誌をにぎわしただけであった。

もっとも、日本人が笑う資格はない。なんせ わが大日本帝国海軍は 第一次大戦と大差ない対潜装備で 太平洋戦争にのぞみ、アメリカ潜水艦にコテンパンにやられ、でも相変らず潜水航空母艦(たった三機しかつめない)などという お化けをつくったりしていたのだ。

ドイツ人達は 冷静に判断していて 第二次大戦のUボートは 一次の改良型ですませている。




1986 12.7

*Hayao Miyazaki's Daydream note*

# 第2章


第9話
特設空母 安松丸物語

第10話
ロンドン上空1918年

第11話
最貧前線

第12話
飛行艇時代

第13話
豚の虎

*Hayao Miyazaki's Daydream note*

第9話

# 特設空母
# 安松丸物語

太平洋戦争初期、

貨物船改造の特設空母と護衛艦による、

たった2隻の機動部隊が極秘裡に

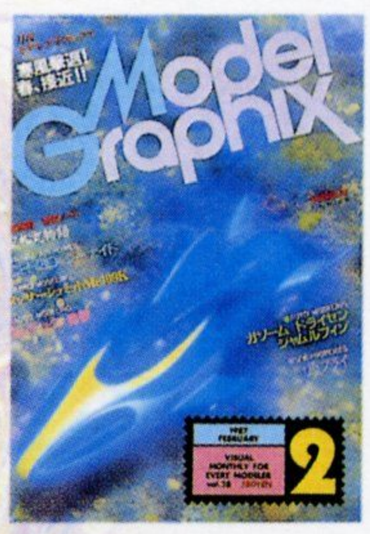
アフリカ沖へと向かった。

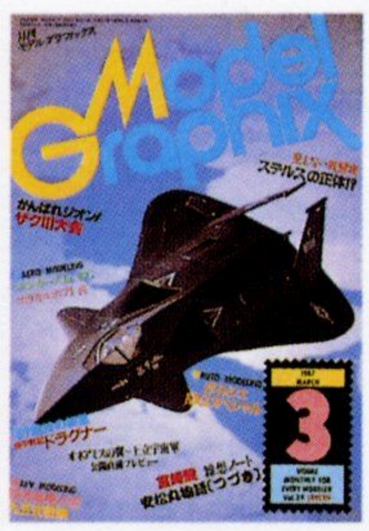
その目的は、アフリカとアジア方面への

イギリス補給路の分断！

大胆不敵で奇想天外な作戦の全貌が、

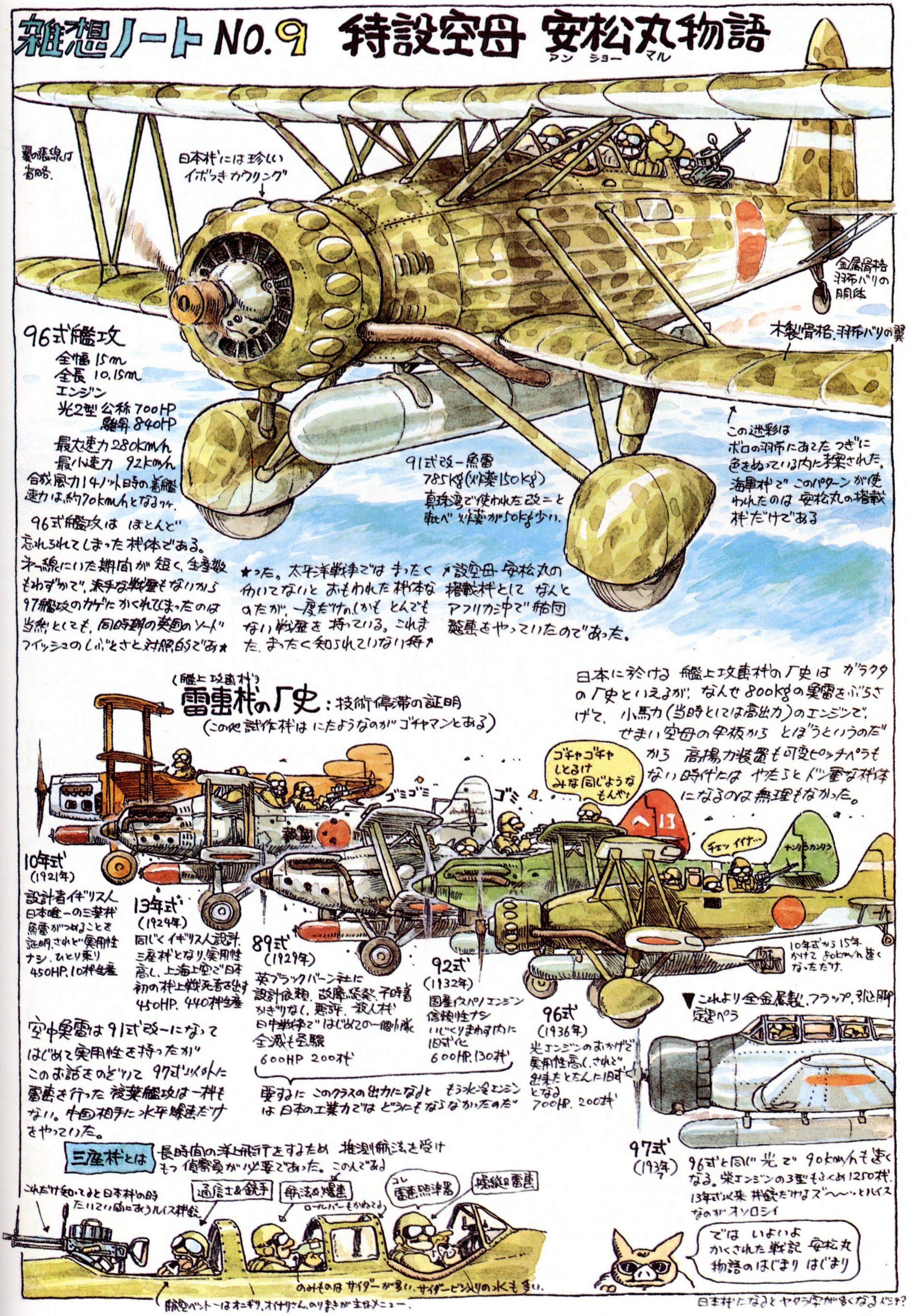
今、明かされる。




初出：月刊モデルグラフィックス1987年2,3月号
（連載第9,10回、執筆・1987年1,2月）

# 雑想ノート No.9 特設空母 安松丸(アンショーマル)物語




96式艦攻
全幅 15m
全長 10.15m
エンジン
光2型 公称 700HP
離昇 840HP
最大速力 280km/h
最小速力 92km/h
合成風力14ノット時の着艦速力は約70km/hとなるワケ.

96式艦攻は ほとんど忘れられてしまった機体である。第一線にいた期間が短く、生産数もわずかで、派手な戦歴もないから97艦攻のカゲにかくれてしまったのは当然としても、同時期の英国のソードフイッシュのしぶとさと対照的であった。太平洋戦争ではまったく働いてないとおもわれた機体なのだが、一度だけのしかもとんでもない戦歴を持っている。これまた、まったく知られていない特設空母安松丸の搭載機として なんとアフリカ沖で船団襲撃をやっていたのであった。

91式改一魚雷
785kg(炸薬150kg)
真珠湾で使われた改二と軋べ炸薬が50kg少い.

この迷彩は ボロの羽布にあてたつぎに色をぬっている内に考案された。海軍機でこのパターンが使われたのは安松丸の搭載機だけである

## (艦上攻撃機)雷撃機の歴史:技術停滞の証明

(この他試作機はにたようなのがゴチャマンとある)

日本に於ける艦上攻撃機の歴史は ガラクタの歴史といえるが、なんせ800kgの魚雷をぶらさげて、小馬力(当時としては高出力)のエンジンで、せまい空母の甲板からとぼうというのだから 高揚力装置も可変ピッチペラもない時代には やたらとドン重な機体になるのは無理もなかった。

ゴミゴミ
ゴミ
ゴチャゴチャ しとるけ みな同じような もんやけ
チェッ イイナ…
ナンタラカンタラ

10年式
(1921年)
設計者イギリス人
日本唯一の三葉機
魚雷がつめることを証明、されど実用性ナシ、ひとり乗り
450HP. 10機生産

13年式
(1924年)
同じくイギリス人設計、三座機となり、実用性高し、上海上空で日本初の機上戦死者を出す
450HP. 440機生産

89式
(1929年)
英ブラックバーン社に設計依頼、故障続発、不時着かぎりなし、悪評、殺人機
日中戦争ではじめての一個小隊全滅も経験
600HP 200機

92式
(1932年)
国産イスパノエンジン
信頼性ナシ
いじくりまわす内に旧式化
600HP. 130機

96式
(1936年)
光エンジンのおかげで実用性高し、されど出来たとたんに旧式となる
700HP. 200機

10年式から15年かけて80km/h速くなっただけ.

▼これより全金属製、フラップ、引込脚定速ペラ

97式
(1937年)
96式と同じ光で90km/hも速くなる。栄エンジンの3型もふくめ1250機、13年式以来機銃だけはズ〜〜ッとルイスなのがオソロシイ

空中魚雷は91式改一になってはじめて実用性を持ったが このお話をのぞいて97式以外に雷撃を行った複葉艦攻は一機もない。中国相手に水平爆撃だけをやっていた。

要するに このクラスの出力になると もう水冷エンジンは日本の工業力ではどうにもならなかったのだ

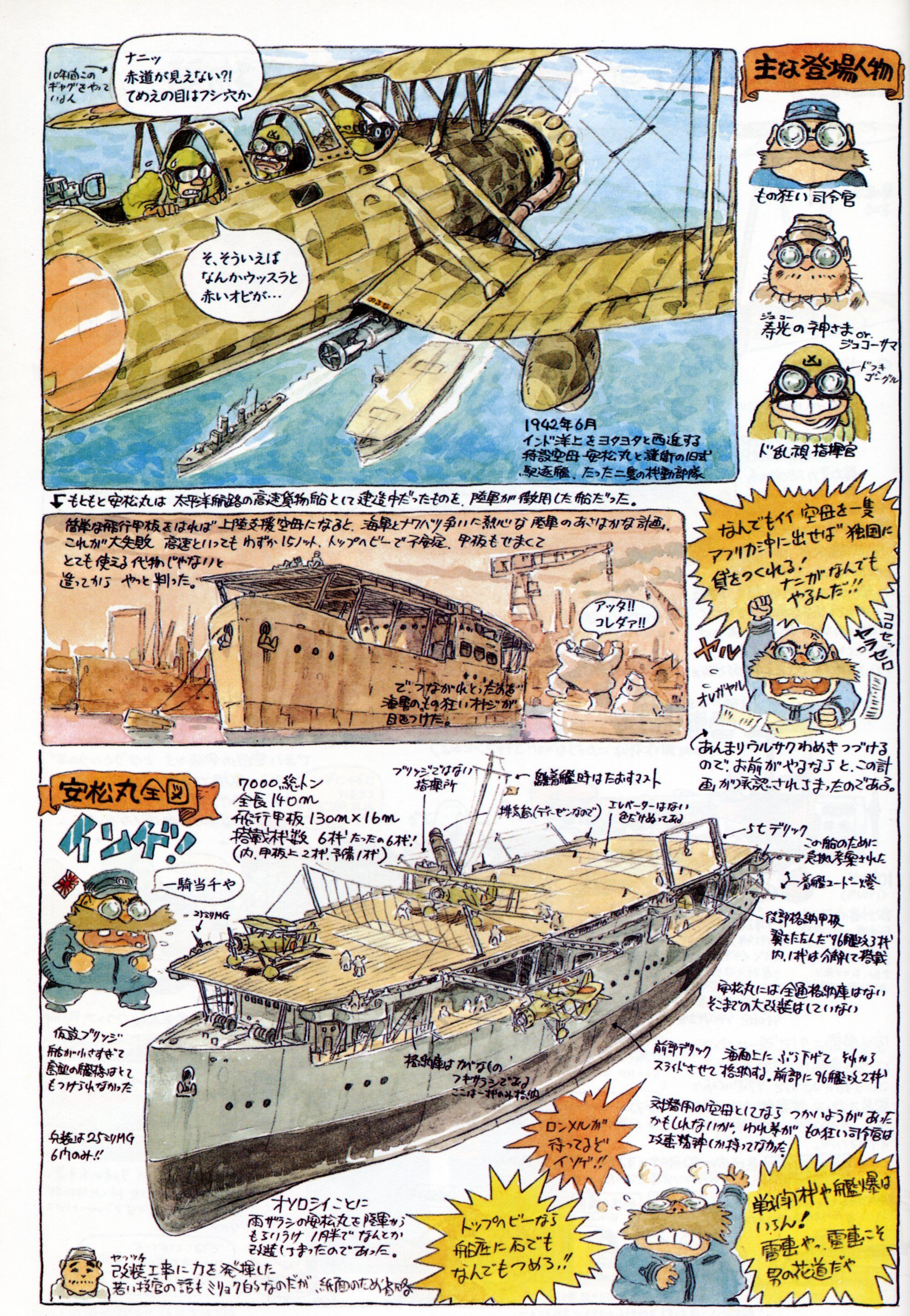
**三座機とは** 長時間の洋上飛行をするため 推測航法を受けもつ偵察員が必要であった。この人である





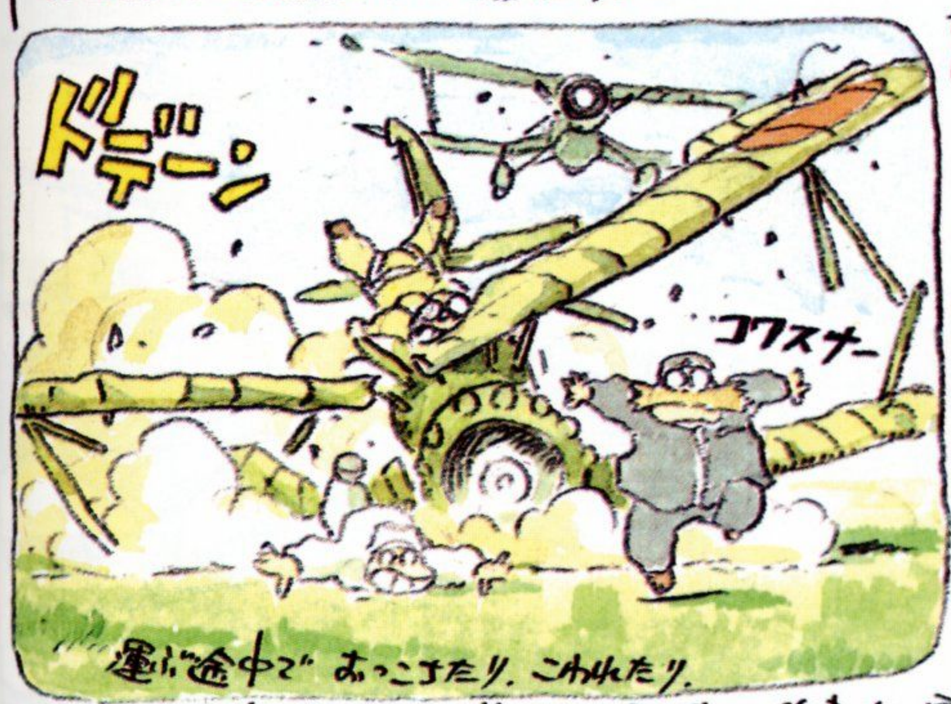

では いよいよ かくされた戦記 安松丸物語のはじまり はじまり

日本機になるとヤタラ字が多くなるバシテ?

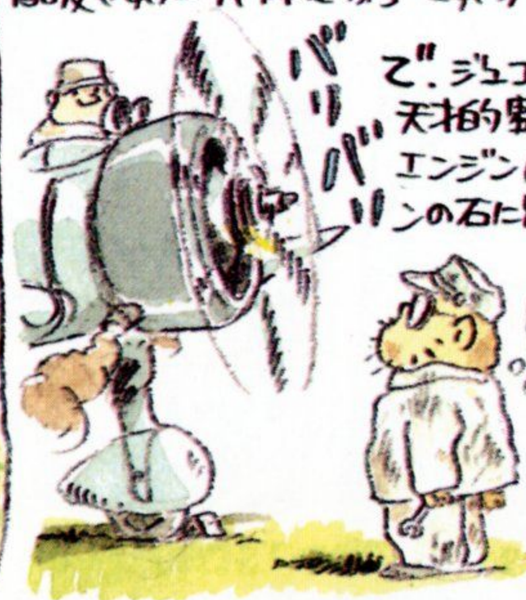


10年間このギャグをやっていよん
ナニッ
赤道が見えない?!
てめえの目はフシ穴か
そ、そういえば
なんかウッスラと
赤いオビが…
1942年6月
インド洋上をヨタヨタと西進する
特設空母 安松丸と護衛の旧式
駆逐艦、たった二隻の機動部隊
主な登場人物
もの狂い司令官
ジュコー
寿光の神さま or. ジュコーサマ
ドッキ ゴーグル
ド乱視指揮官
もともと安松丸は 太平洋航路の高速貨物船として建造中だったものを、陸軍が徴用した船だった。
簡単な飛行甲板をはれば上陸支援空母になると、海軍とナワバリ争いに熱心な陸軍のあさはかな計画。
これが大失敗 高速といってもわずか15ノット、トップヘビーで不安定、甲板もせまくて
とても使える代物じゃないと
造ってから やっと判った。
アッタ!!
コレダァ!!
で、つながれとったのを
海軍のもの狂いオヤジが
目をつけた。
なんでもイイ 空母を一隻
アフリカ沖に出せば 独国に
貸をつくれる!
ナニがなんでも
やるんだ!!
ヤル
コロセッ
ヤラセロ
オレガヤル
あんまりウルサクわめきつづける
ので、お前がやるならと、この計
画が承認されちまったのである。
安松丸全図
インゲ!
7000総トン
全長140m
飛行甲板130m×16m
搭載機数 6機 たったの6機!
(内、甲板上2機、予備1機)
一騎当千や
ブリッジではない
指揮所
離着艦時はたおすマスト
排気筒(ディーゼンなので)
エレベーターはない
色だけぬってある
5tデリック
この船のために
急拠考案された
着艦ユードー燈
役部格納甲板
翼をたたんだ96艦攻3機
内、1機は分解して搭載
安松丸には全通格納庫はない
そこまでの大改装はしていない
25ミリMG
仮設ブリッジ
船が小さすぎて
高型の艦橋はとて
もつけられなかった
格納庫はカベなしの
フキサラシである
ここは一機のみ格納
前部デリック 海面上にぶら下げて それから
スライドさせて格納する。前部に96艦攻2機
対潜用の空母としてなら つかいようがあった
かもしれないが、われ等が もの狂い司令官は
攻撃精神しか持ってなかった。
兵装は25ミリMG
6門のみ!!
ロンメルが
待ってるぞ
イソゲ!!
オソロシイことに
雨ザラシの安松丸を陸軍から
もらいうけ 1月半で なんとか
改造しちまったのであった。
トップヘビーなら
船底に石でも
なんでもつめろ!!
戦闘機や艦爆は
いらん!
雷撃や、雷撃こそ
男の花道だや
ヤッツケ
改装工事に力を発揮した
若い技官の話もミリョク的なのだが、紙面のため省略

一方、全国から96艦攻がかき集められた。

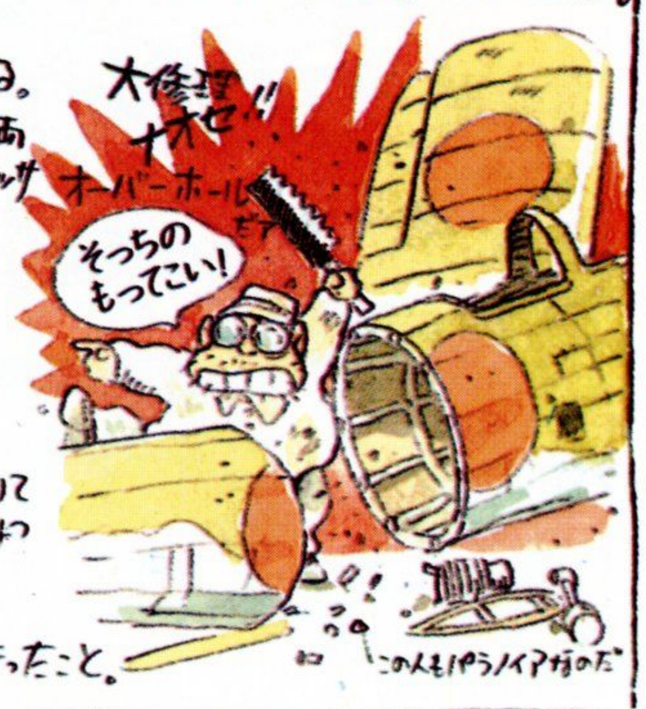



なんせ3年前に生産中止の上、日中戦争で酷使された機体だから これがヒトサワギ。

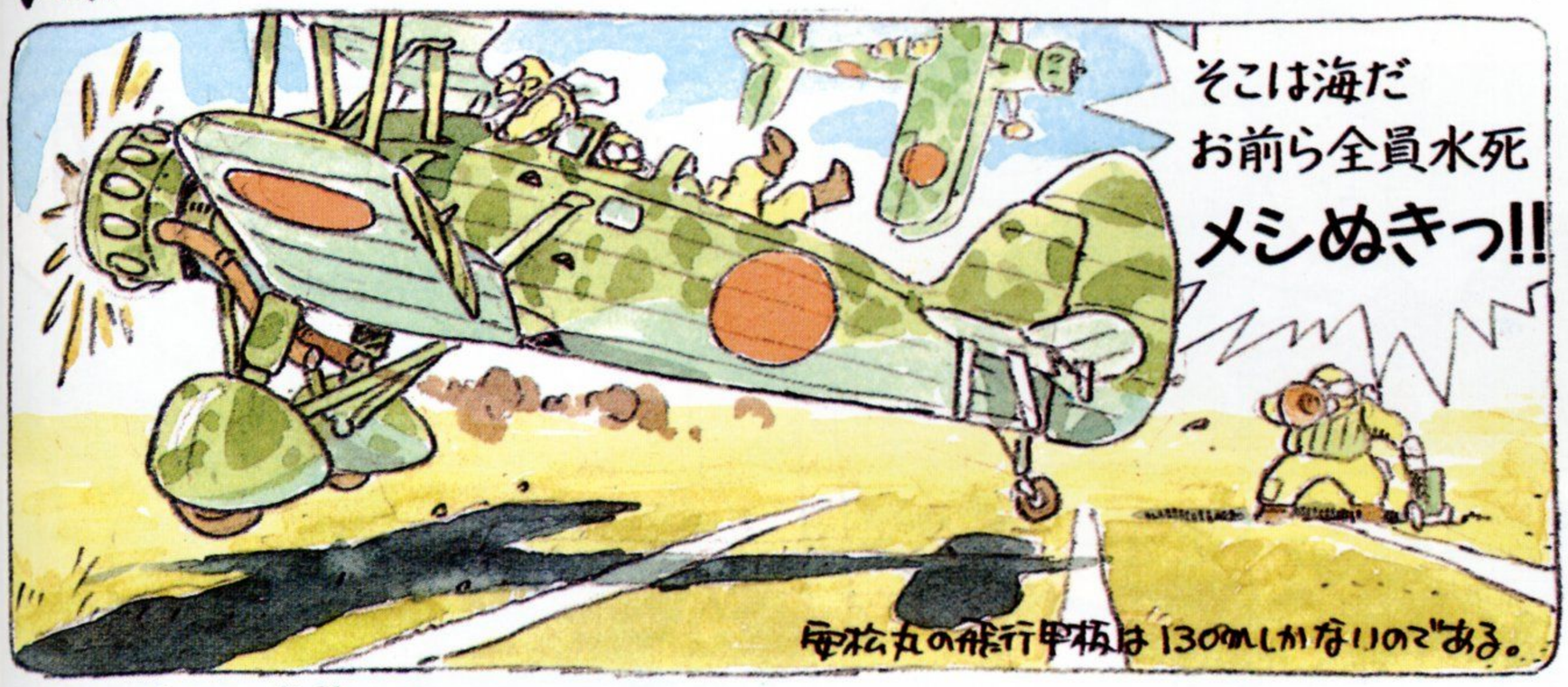



で、ジュコーサマの出番となる。天才的整備兵。寿と光の両エンジンについてなら、このオッサンの右に出る者はいない

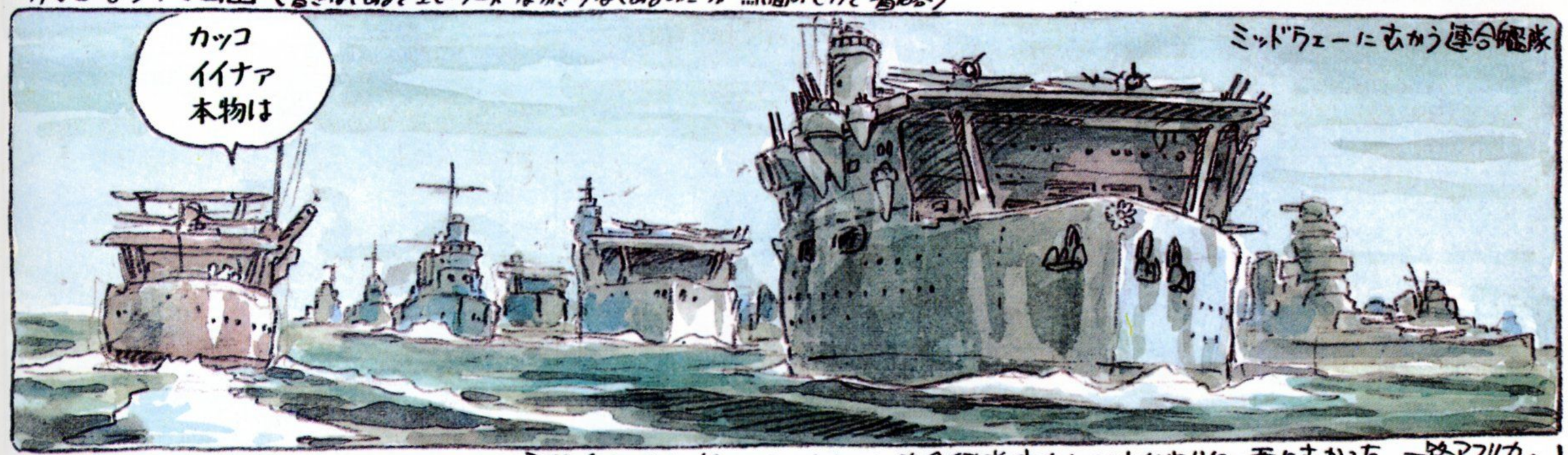
かき集めた機体のましな部分をよせ集めなんとか使えそうなのをでっちあげた。



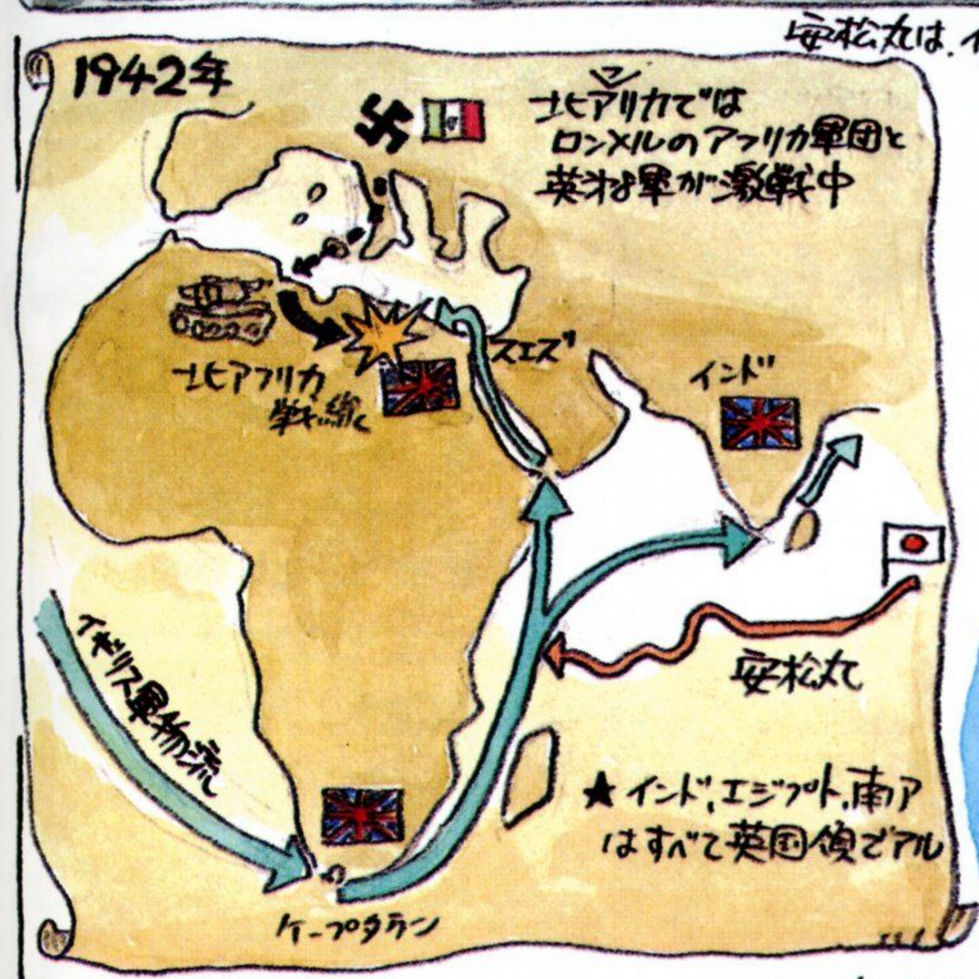

↓若干二流の搭乗員がかき集められ訓練が始まった。突発性乱視で真珠湾に出られなかった指揮官のはりきったこと。



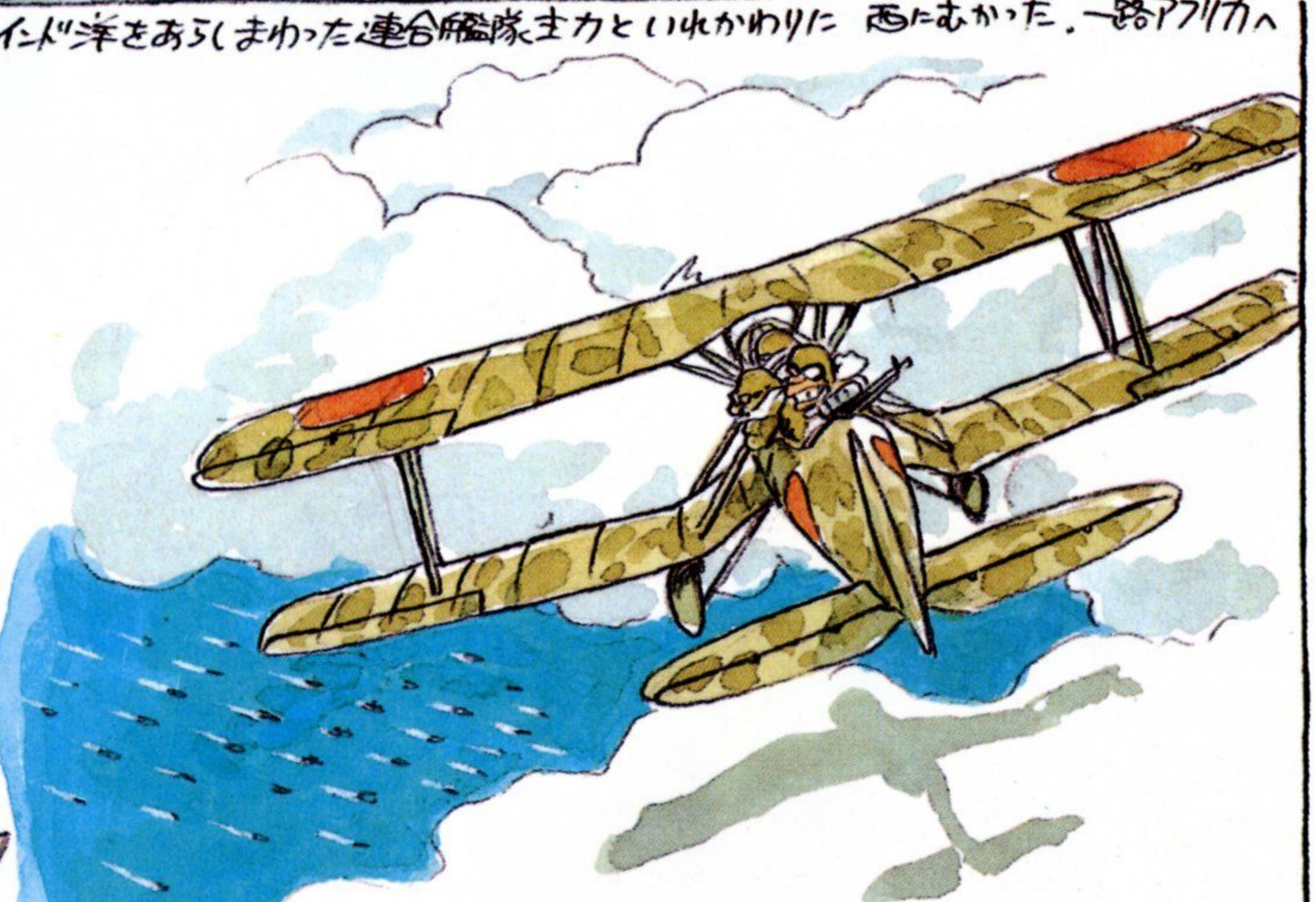
かくて ようやく出撃（書きはじめるとエピソードはかぎりなくあるのだが、紙面のせいで省略）




母松丸は、インド洋をあらしまわった連合艦隊主力といれかわりに 西にむかった。一路アフリカへ

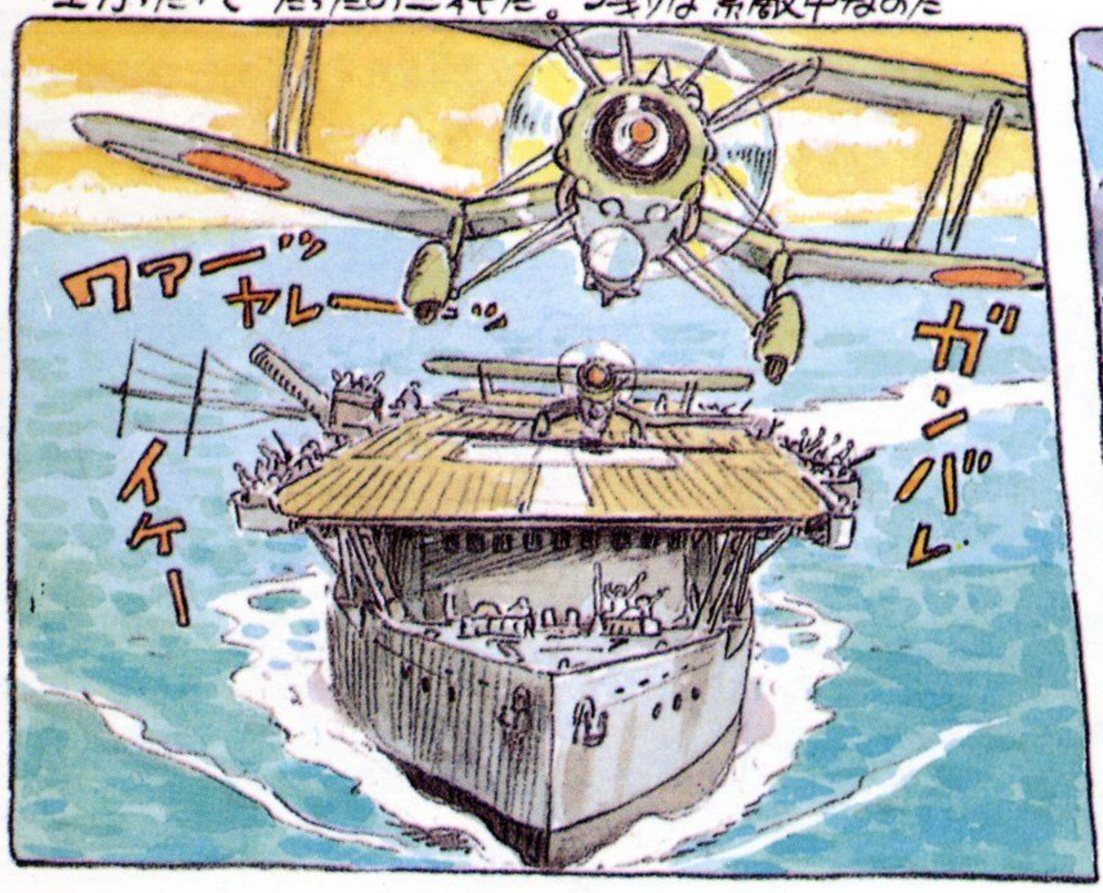


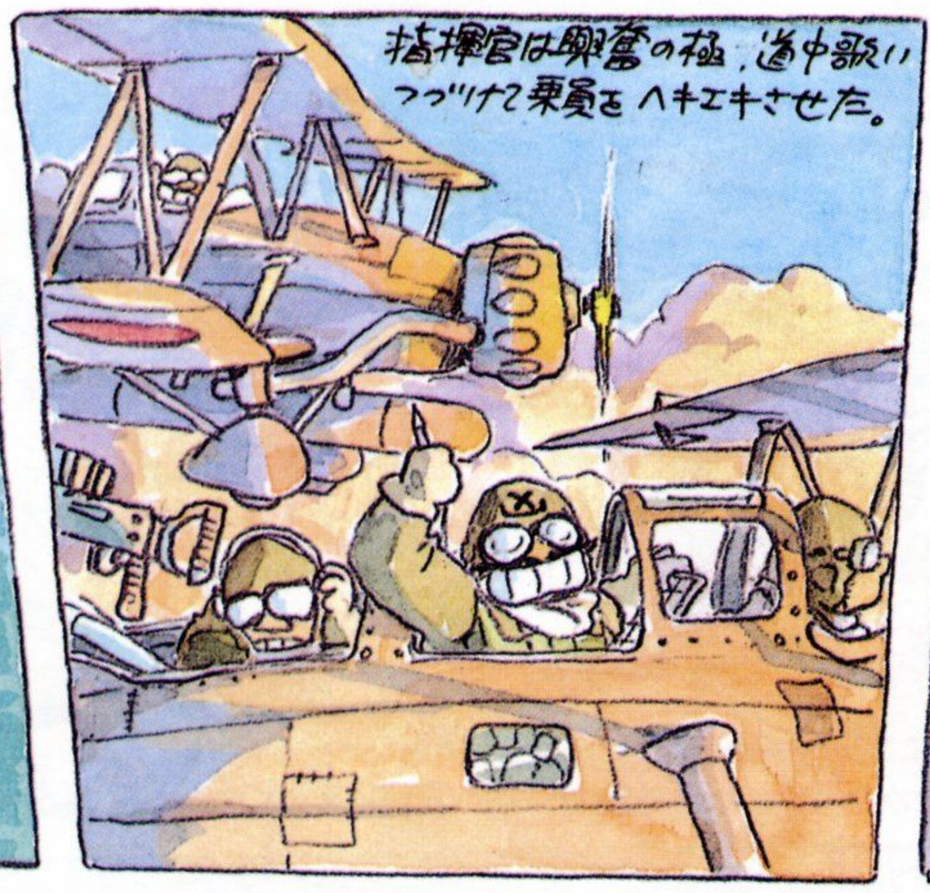

北アフリカとインド 東南アジア方面への主要の補給路をアフリカ沖でつっつけば 連合軍の兵力配備は混乱し、分散するはずだという作戦である。

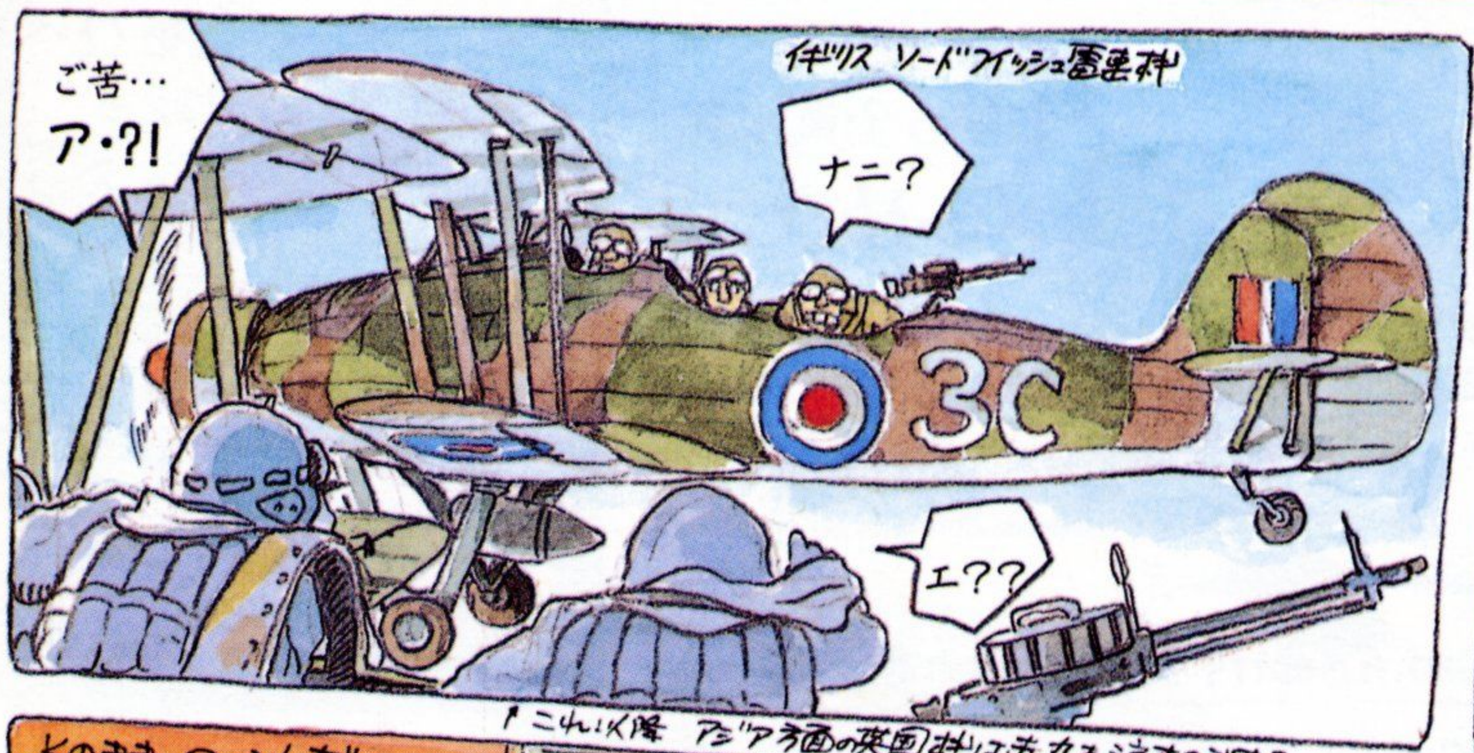


航海中のエピソードもはしょってついにソマリア沖に大船団を発見した。ただちに全力出撃!!

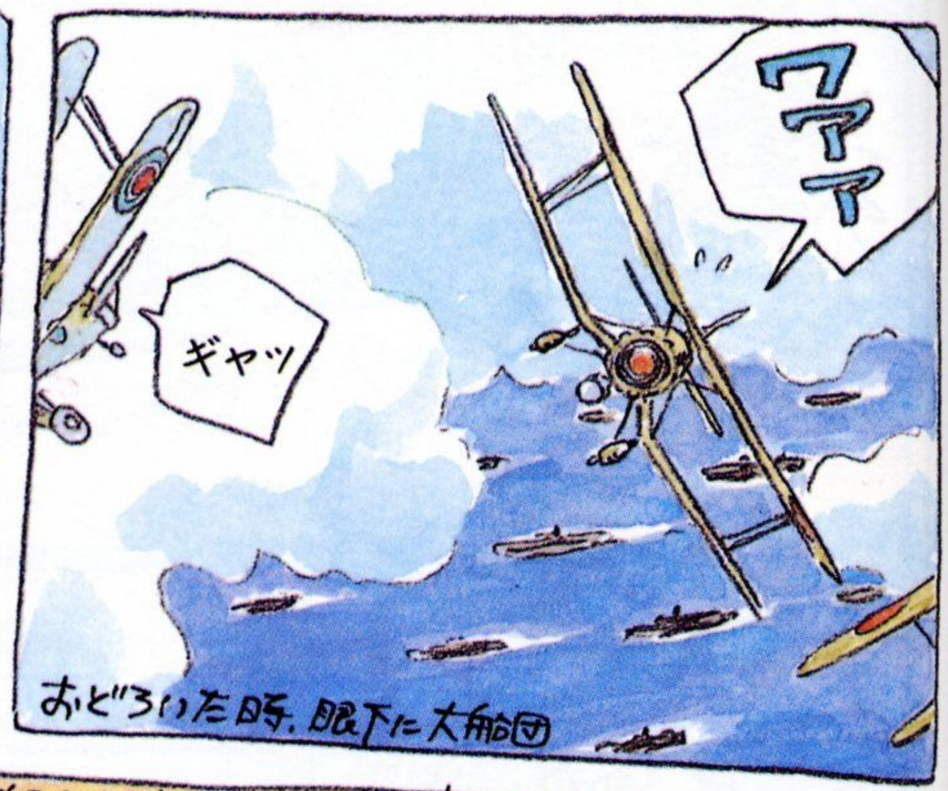
全力でたって たったの三機だ。残りは索敵中なのだ



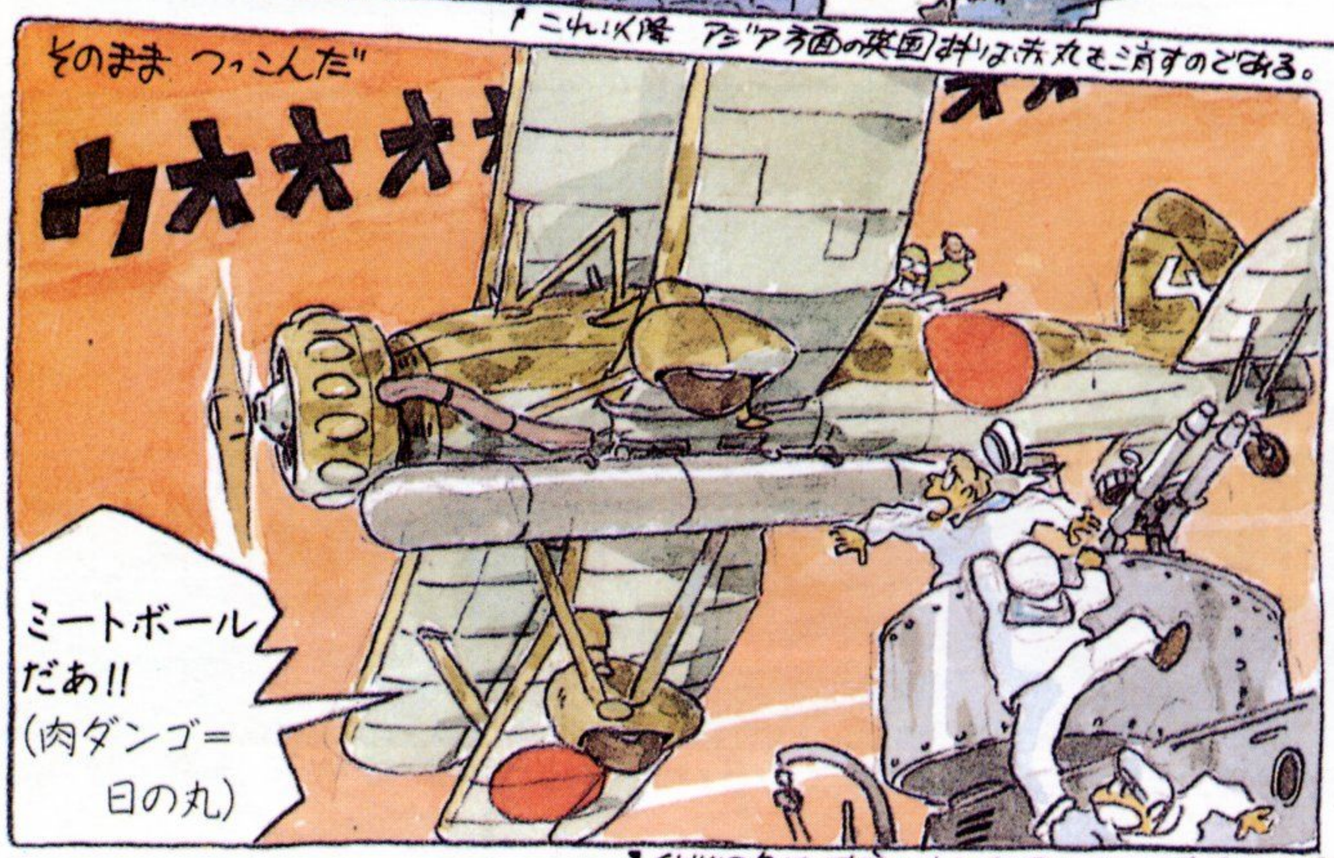



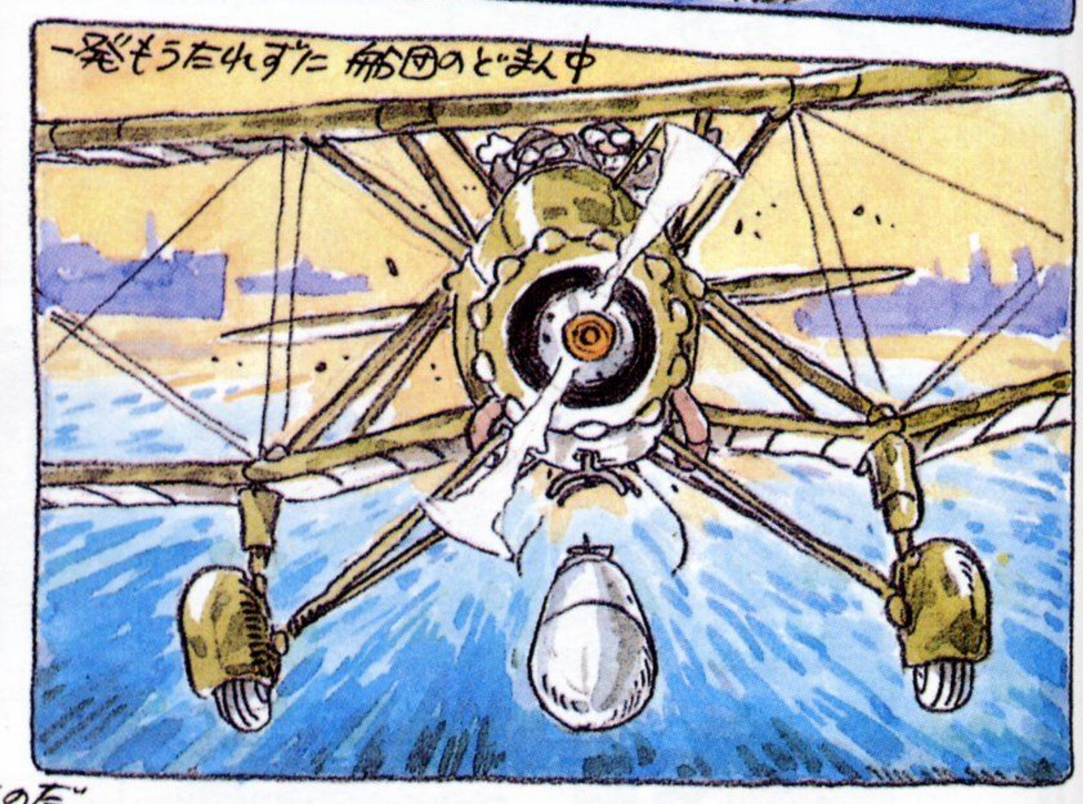



*これ以降 アジア方面の英国機は赤丸を消すのである。

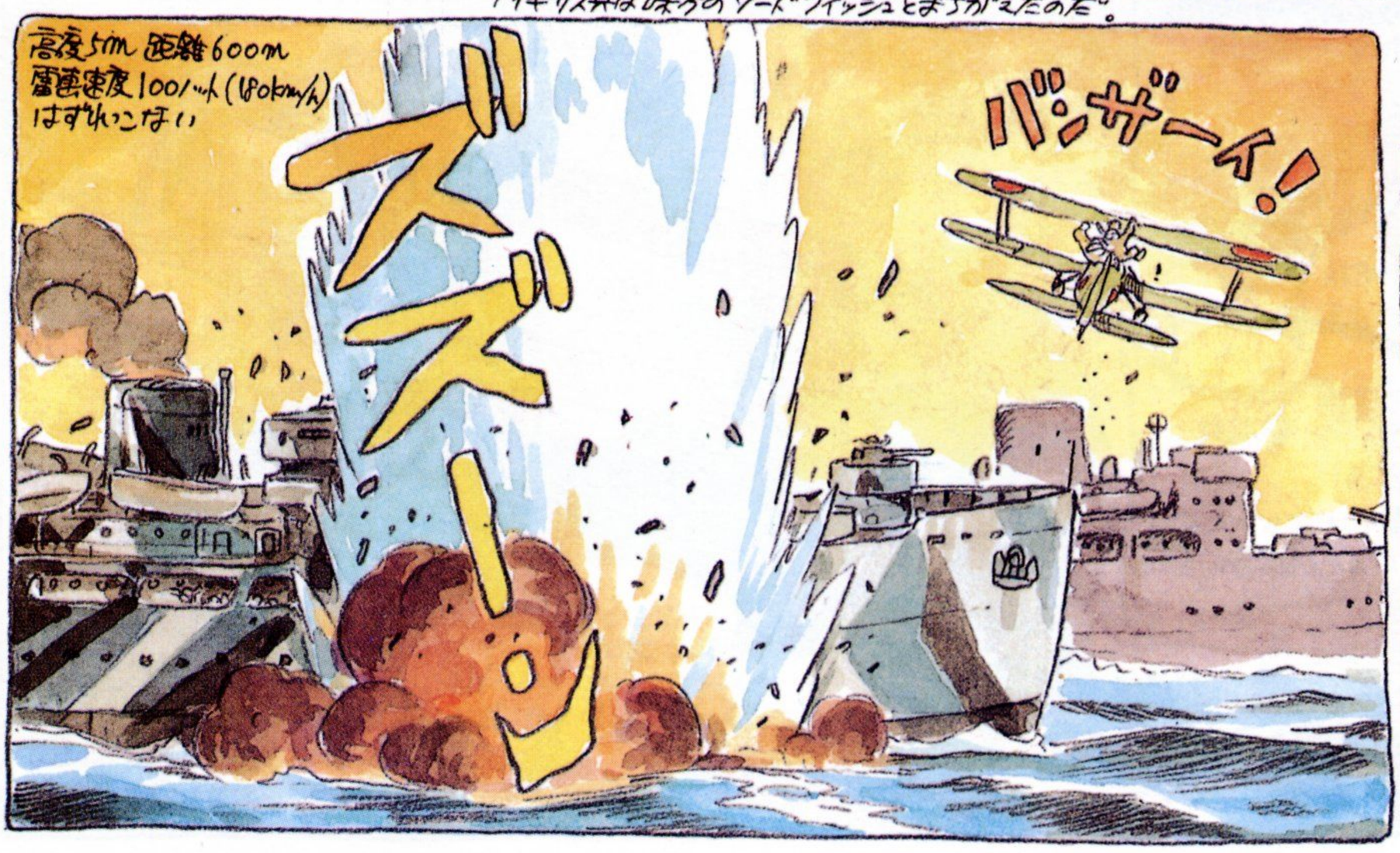


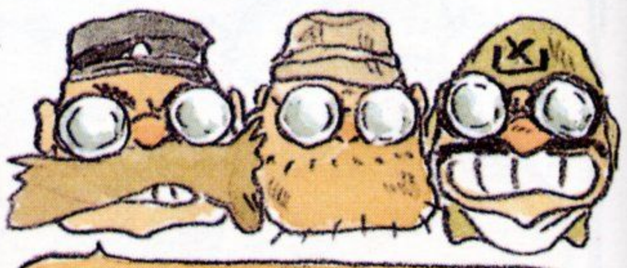

おどろいた時、眼下に大船団



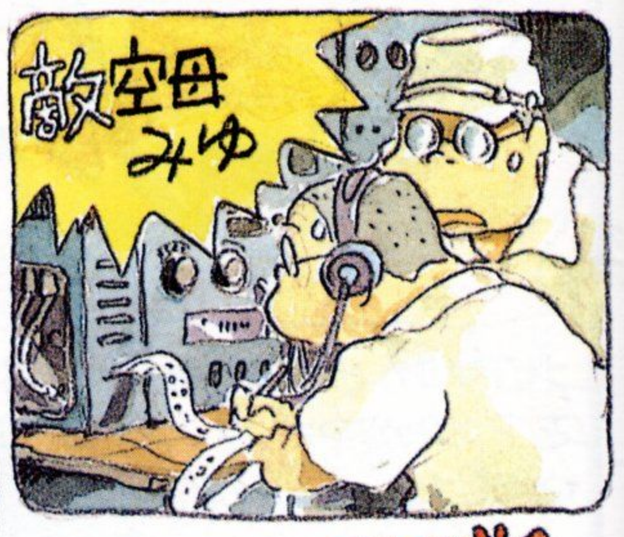




*イギリス丸は味方のソードフィッシュとまちがえたのだ。



その頃 安松丸の無電室には もう一機の索敵機から緊急電が入っていたのだ




つづく

要目
全巾 14m
全長 10.85m
エンジン 890HP
最大速力 359km/h

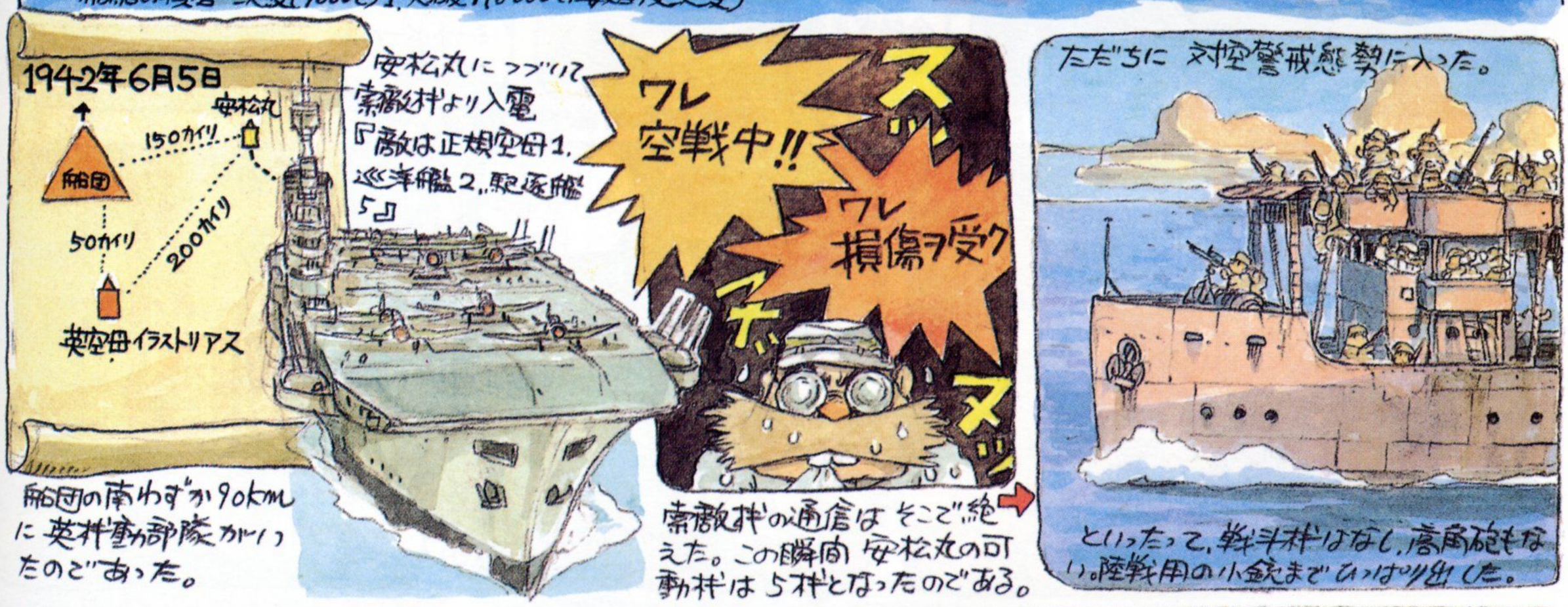
ボールトン・ポール
動力銃塔

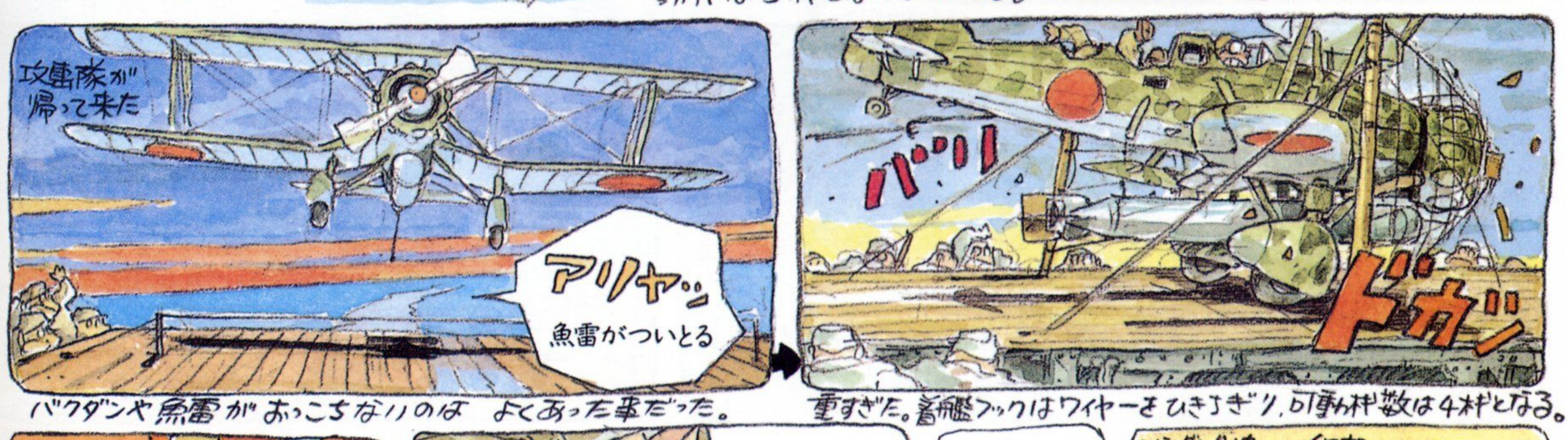
よほど
方向安定に苦労したふしく ヒレだらけの機体

ぼくの大好きな
ブラックバーン・ロック戦斗機
7.7ミリ四連装の銃塔が攻撃兵器
なると錯覚してつくられた かわいそうな
ヒコーキ。前方銃がないのだ。

ブリストル
パーシュース 12エンジン
空冷9気筒星型

安松丸搭載機の攻撃により
船舶の損害 沈没(7000t)1, 大破1(8000t, 数日後沈没)



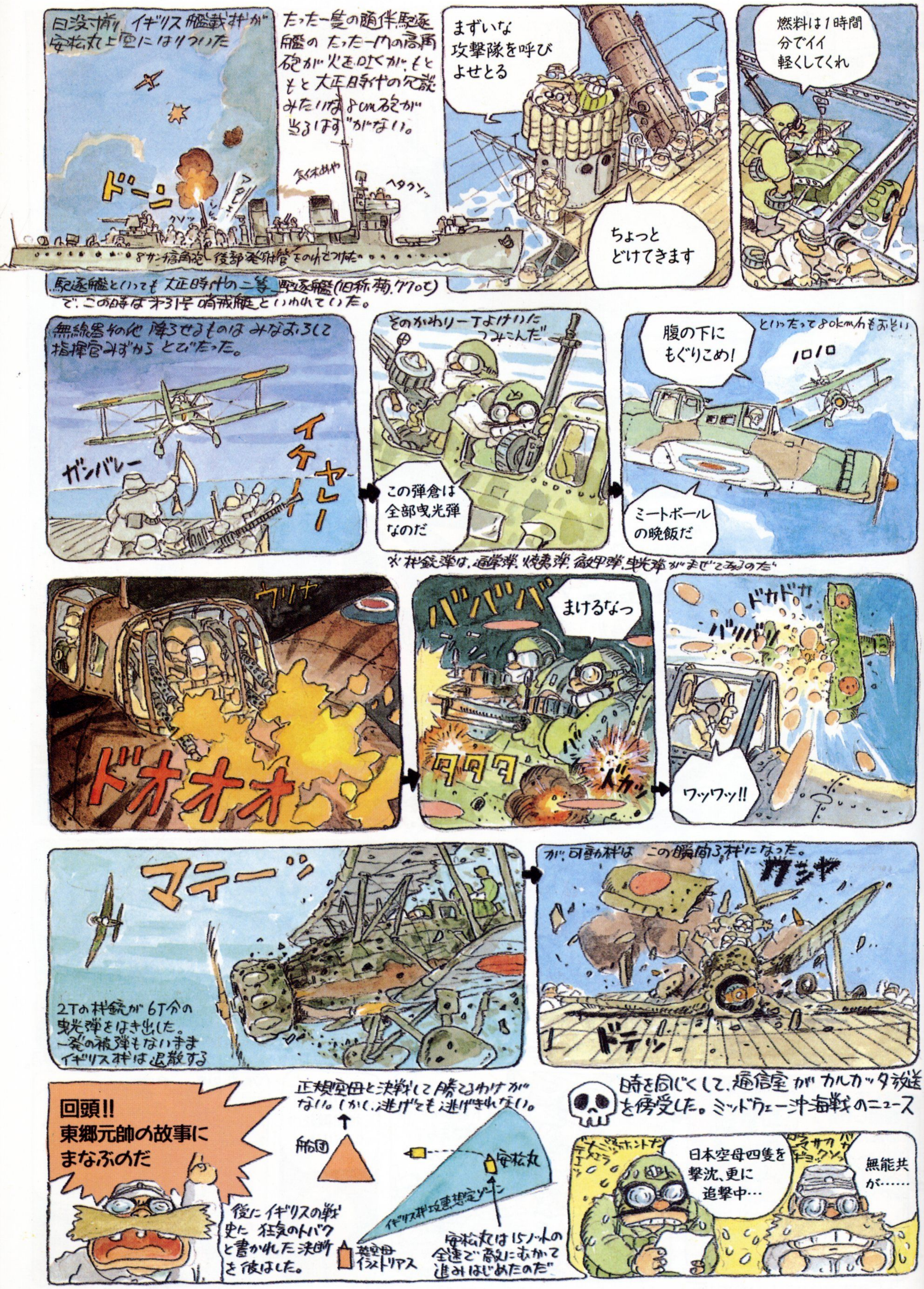



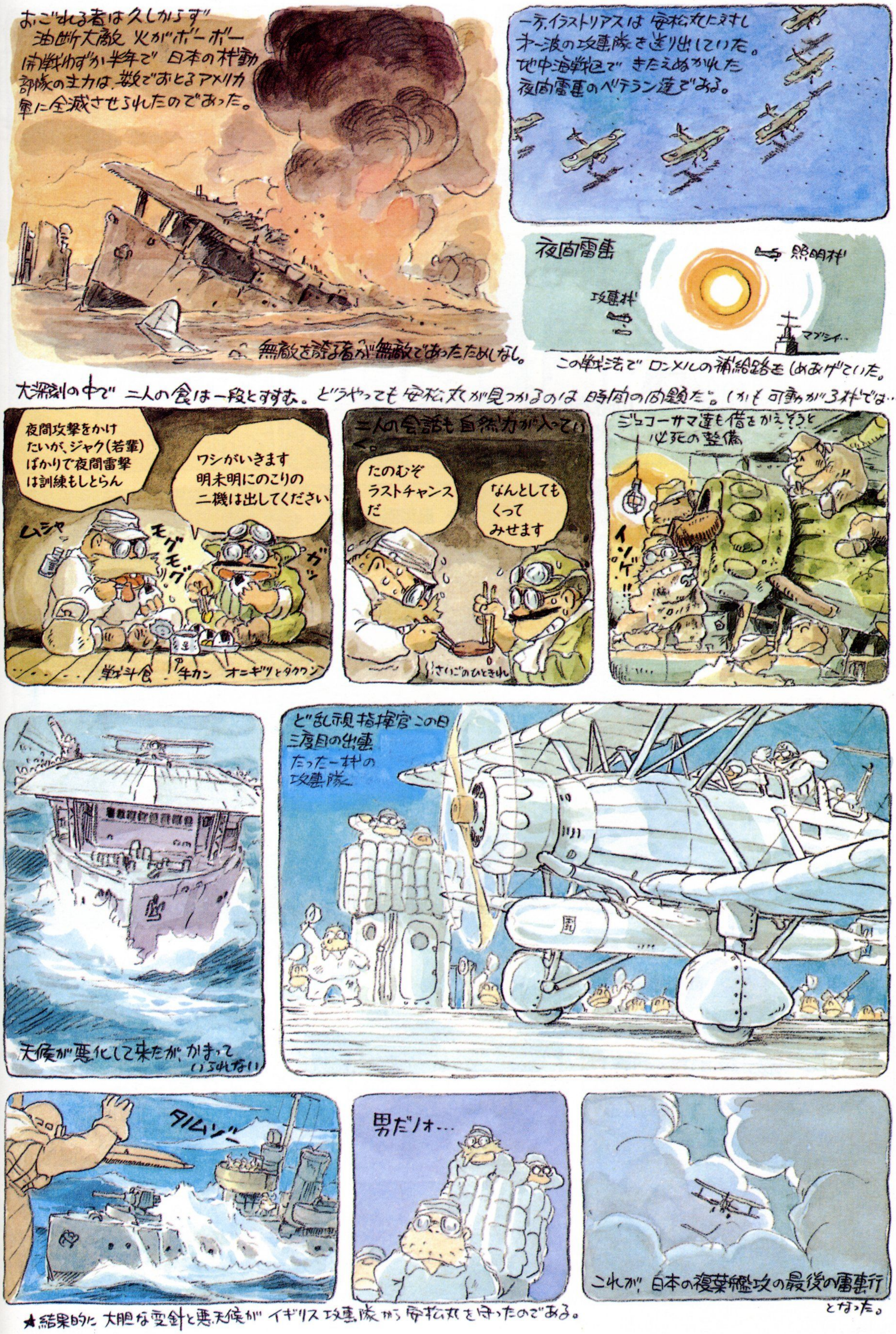

バクダンや魚雷がおっこちないのは よくあった事だった。

重すぎた。着艦フックはワイヤーをひきちぎり,可動機数は4機となる。

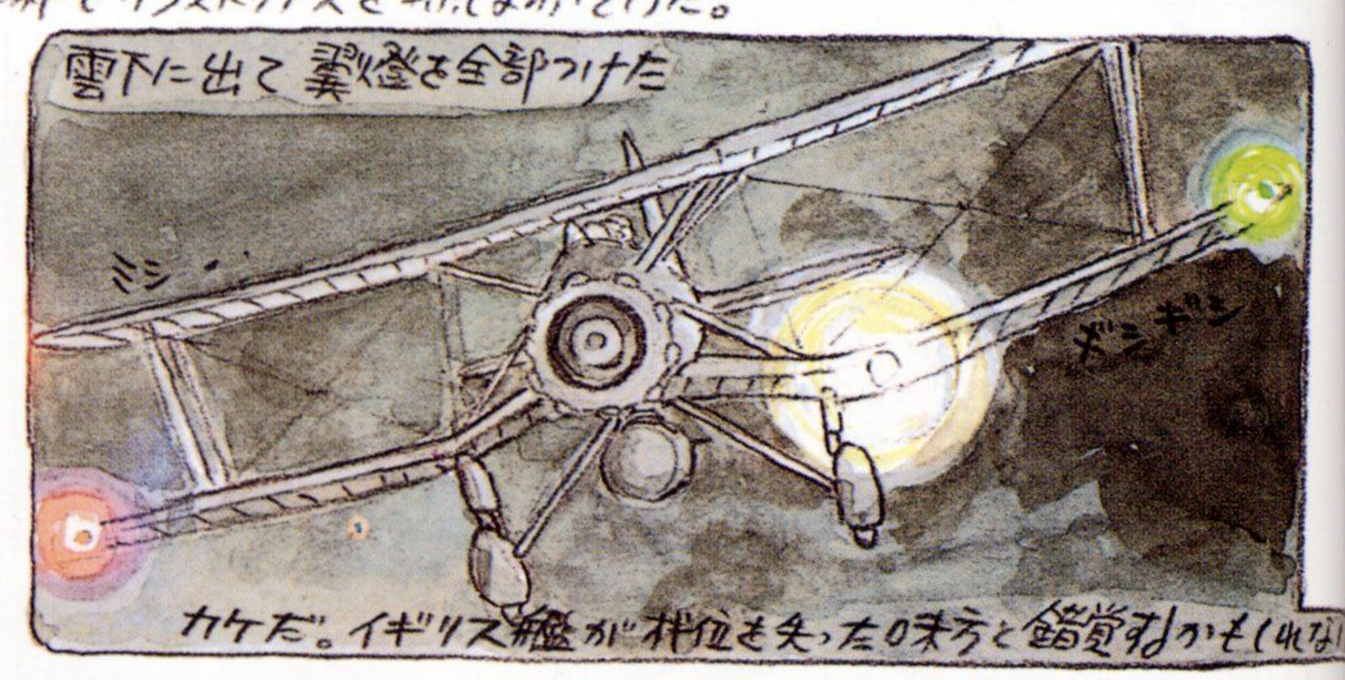
これはおかしい!! いいがかりだ。
投下テストは搭乗員も立ちあうはずである。

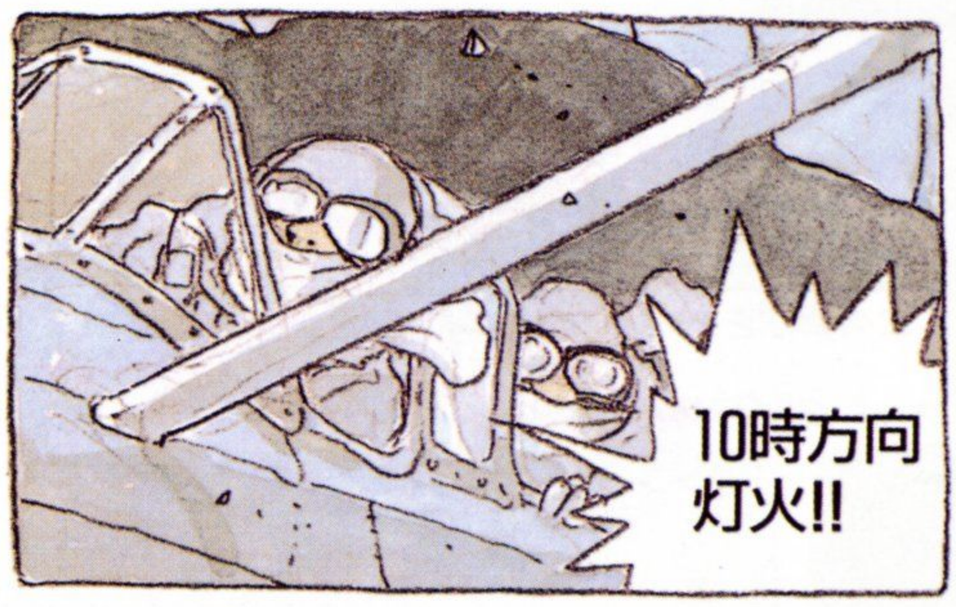
指揮官は腹芸も出来ねばならぬ

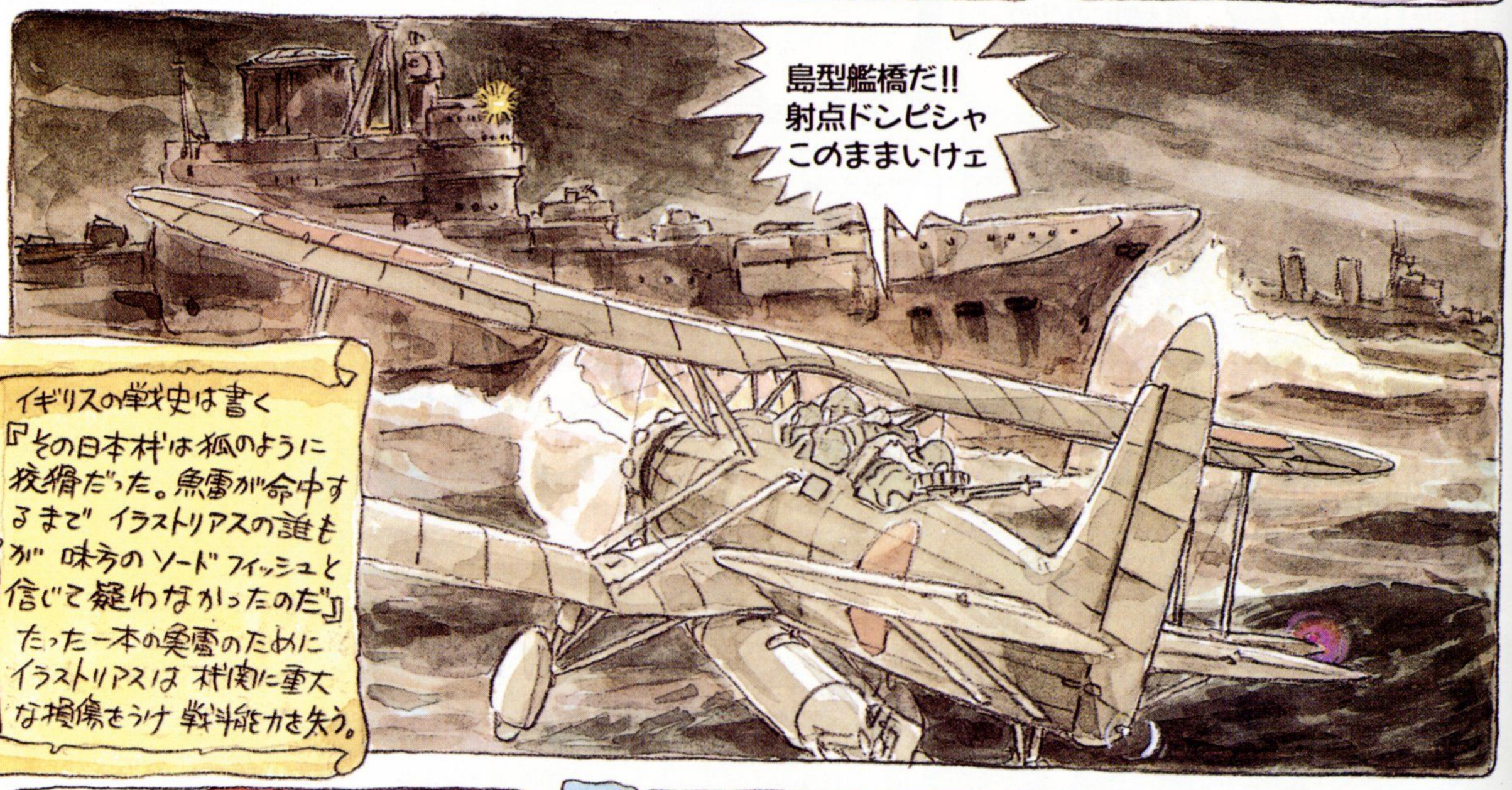

日没寸前、イギリス艦載機が安松丸上空にはりついた
ドーン
たった一隻の随伴駆逐艦のたった一門の高角砲が火を吐くが、もともと大正時代の冗談みたいな8cm砲が当るはずがない。
気休めや
ヘタクソッ
8サン高角砲 後部発射管をのけてつけた
駆逐艦といっても大正時代の二等駆逐艦(旧称菊、770t)で、この時は第31号哨戒艇といわれていた。
まずいな攻撃隊を呼びよせとる
ちょっとどけてきます
燃料は1時間分でイイ軽くしてくれ
無線器その他降ろせるものはみなおろして指揮官みずからとびたった。
ガンバレー
イケヤレー
そのかわりーTよけいにつみこんだ
この弾倉は全部曳光弾なのだ
腹の下にもぐりこめ!
といったって80km/hもおそい
ミートボールの晩飯だ
※機銃弾は、通常弾、焼夷弾、徹甲弾、曳光弾がまぜてあるのだ
ウリナ
ドオオオ
ババババ
まけるなっ
タタタ
ドカッ
ドカドカ
バリバリ
ワッワッ!!
マティーッ
2Tの機銃が6T分の曳光弾をはき出した。一発の被弾もないままイギリス機は退散する
が、可動機はこの瞬間3機になった。
ワシャ
ドテッ
回頭!!
東郷元帥の故事にまなぶのだ
正規空母と決戦して勝てるわけがない。しかし、逃げても逃げきれない。
船団
安松丸
イギリス機攻撃想定ゾーン
英空母イラストリアス
後にイギリスの戦史に狂気のトバクと書かれた決断を彼はした。
安松丸は15ノットの全速で敵にむかって進みはじめたのだ
時を同じくして、通信室がカルカッタ放送を傍受した。ミッドウェー沖海戦のニュース
日本空母四隻を撃沈、更に追撃中…
無能共が……


おごれる者は久しからず
油断大敵 火がボーボー
開戦わずか半年で 日本の機動部隊の主力は、数でおとるアメリカ軍に全滅させられたのであった。
無敵を誇る者が無敵であったためしなし。
一方、イラストリアスは 安松丸に対し 第一波の攻撃隊を送り出していた。
地中海戦区で きたえぬかれた 夜間雷撃のベテラン達である。
夜間雷撃
照明機
攻撃機
マブシイ…
この戦法で ロンメルの補給路をしめあげていた。
大深刻の中で 二人の食は一段とすすむ。どうやっても安松丸が見つかるのは 時間の問題だ。しかも可動が3機では…
夜間攻撃をかけたいが、ジャク(若輩)ばかりで夜間雷撃は訓練もしとらん
ワシがいきます 明未明にのこりの二機は出してください
ムシャ
モグモグ
ガツ
単身斗食
牛カン
オニギリとタクワン
二人の会話も自然力が入っていく。
たのむぞ ラストチャンスだ
なんとしても くって みせます
さいごのひときれ
ジュコーサマ達も借をかえそうと 必死の整備
イソゲ!!
天候が悪化して来たが、かまっていられない
ど乱視指揮官この日 三度目の出撃 たった一機の 攻撃隊
タルムゾー
男だノォ…
これが、日本の複葉艦攻の最後の雷撃行となった。
★結果的に 大胆な変針と悪天候が イギリス攻撃隊から安松丸を守ったのである。

イギリス艦が安松丸を探しあぐねている頃、日本艦もイラストリアスを探しまわっていた。

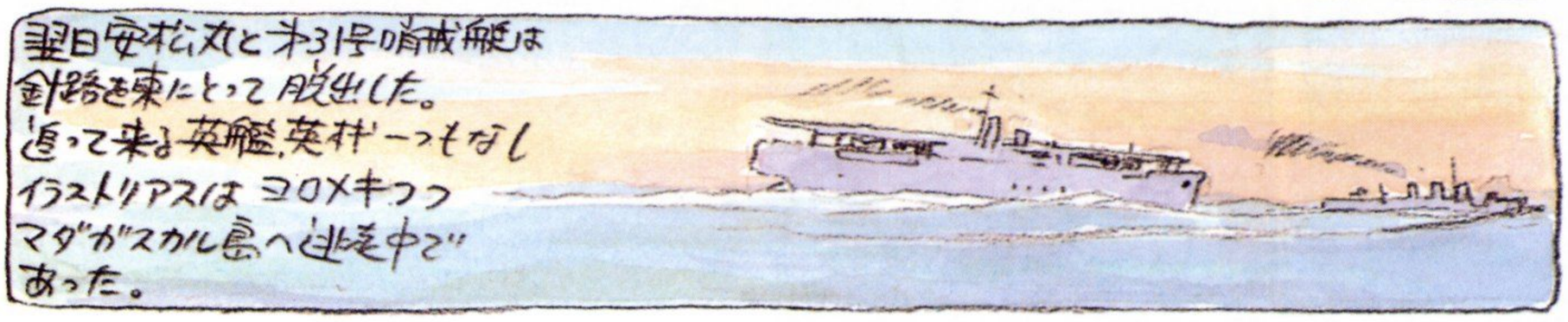




ところで、三人の日本人は死んでなかった。

強風でエチオピアに流された彼等は 不時着潜入、英ブレニム軽爆をうばってドイツアフリカ軍団にとび、そこでもひとはたらきするのだが、その物語はまた後日。




**オワリ** 1987.2.4

第10話

# ロンドン上空
# 1918年

第1次大戦中、ドイツ陸軍が開発した

“ツェッペリン・シュターケン”は、

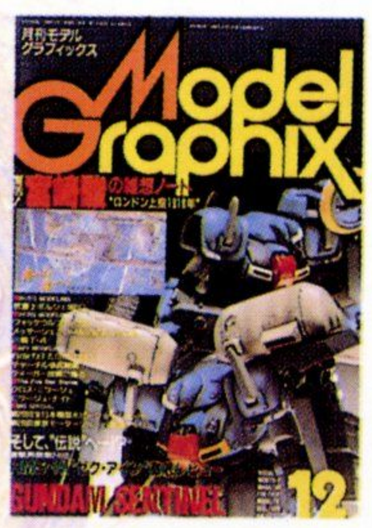
史上初の戦略爆撃機である。

だがそれは、飛ぶのが

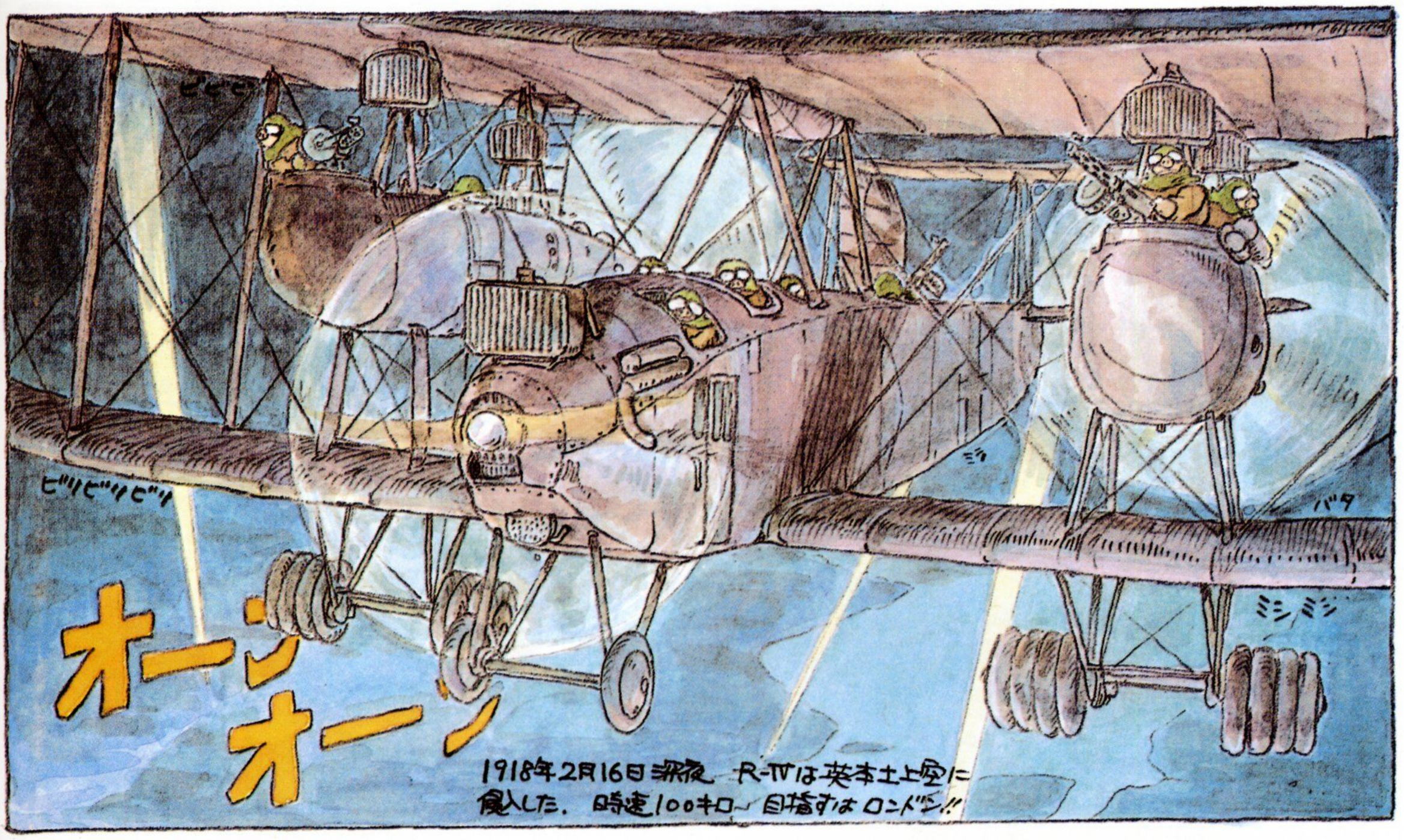
不思議なくらい繊細な代物だった。

ムリヤリ搭乗させられた整備兵ハンスは、

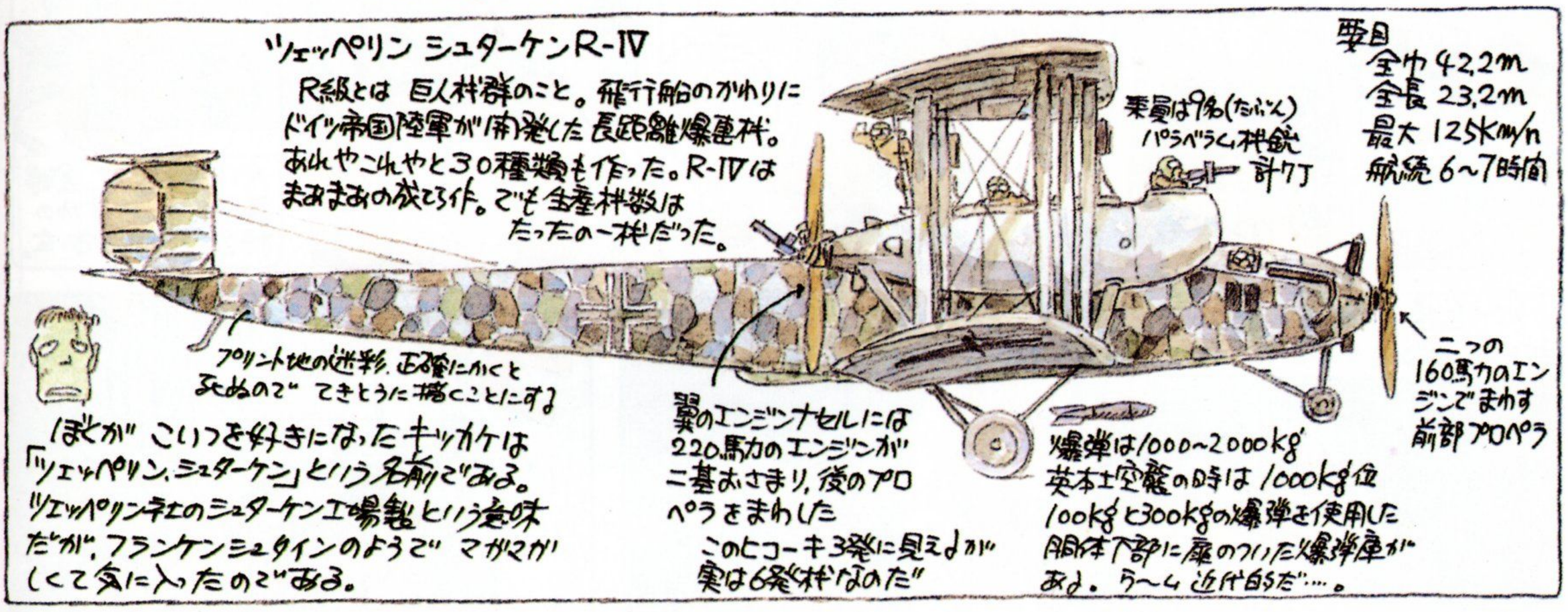
長く忙しい夜を体験するハメに…。

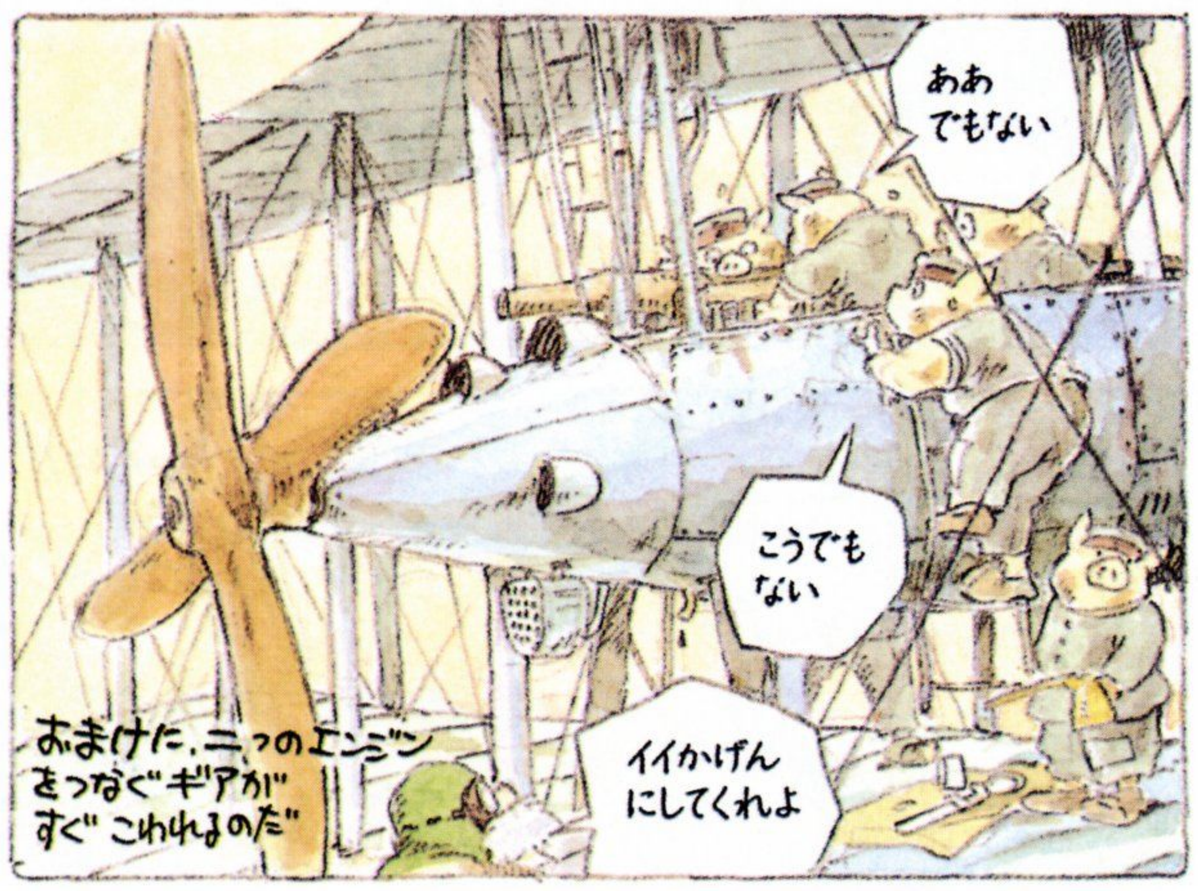


初出：月刊モデルグラフィックス1989年12月号、1990年1月号
（連載第11,12回、執筆・1989年11,12月）

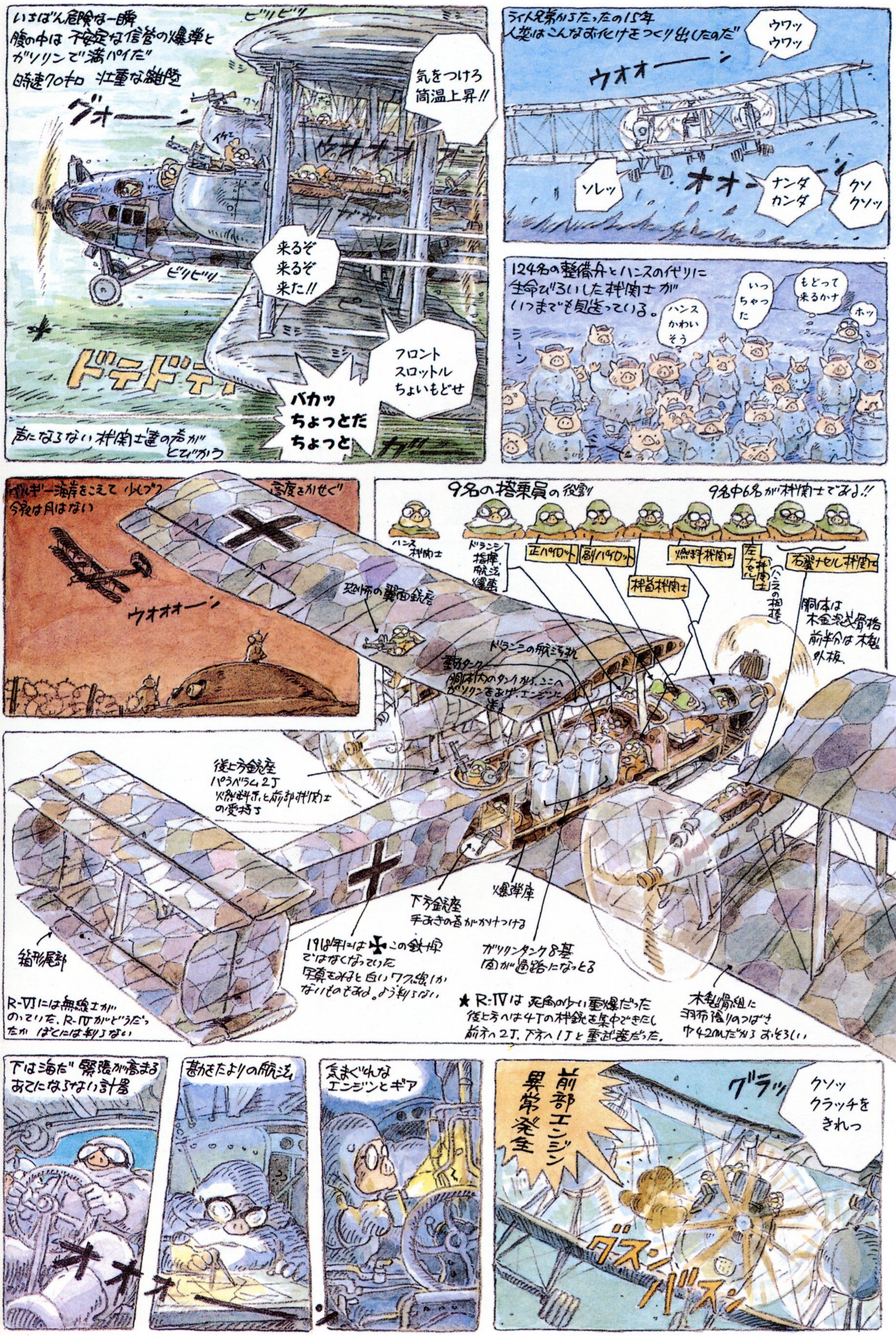


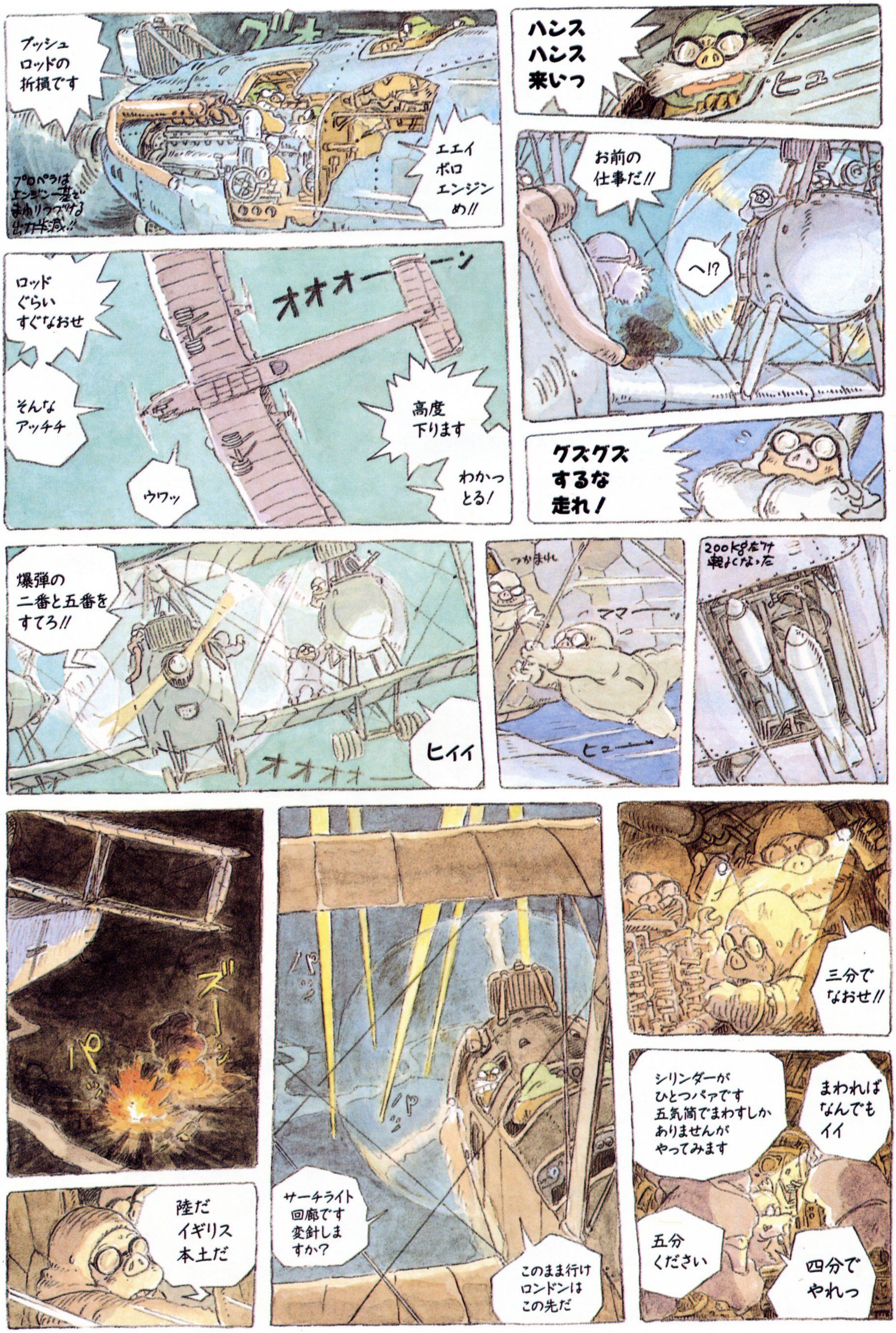

# ロンドン上空1918年

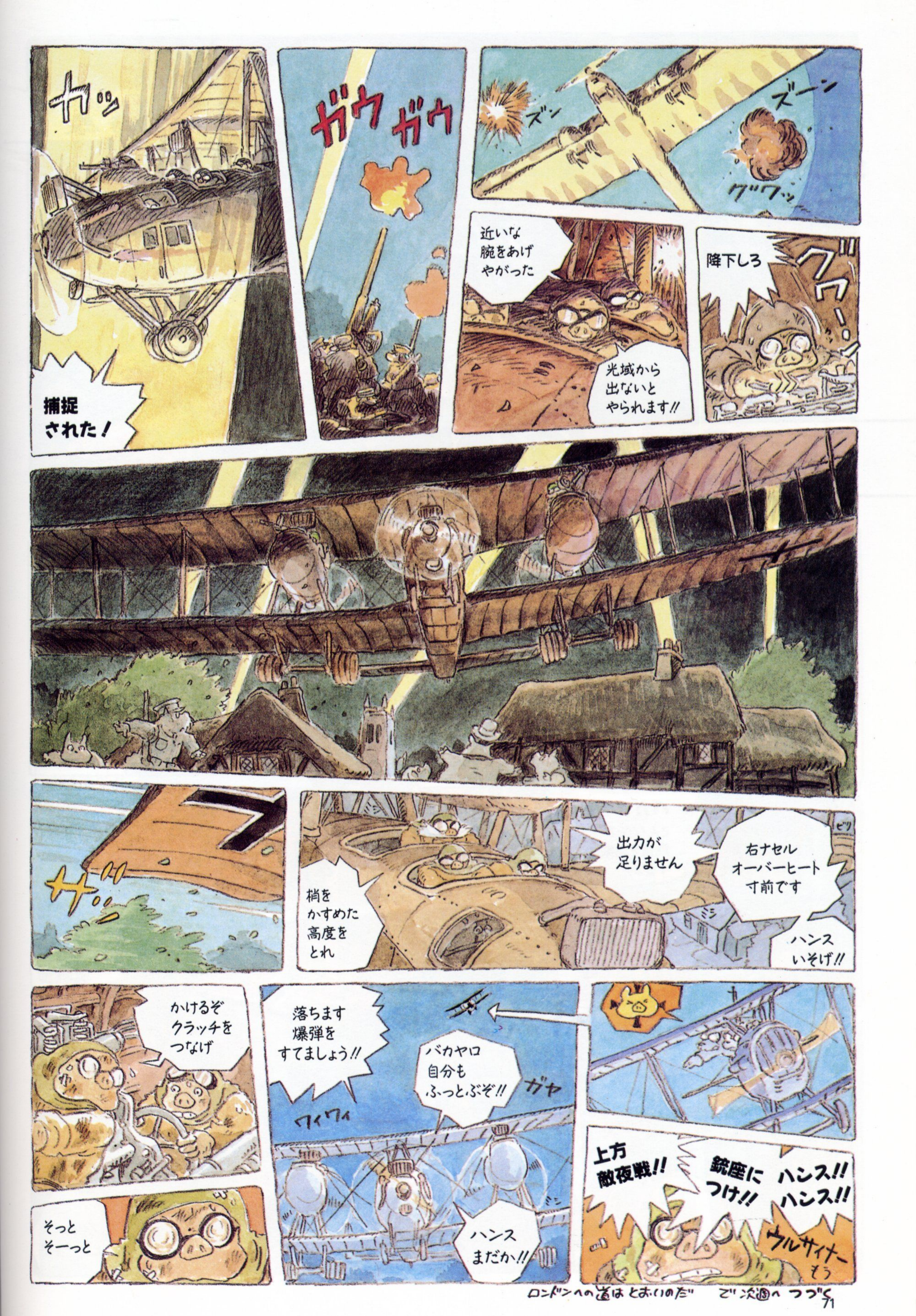




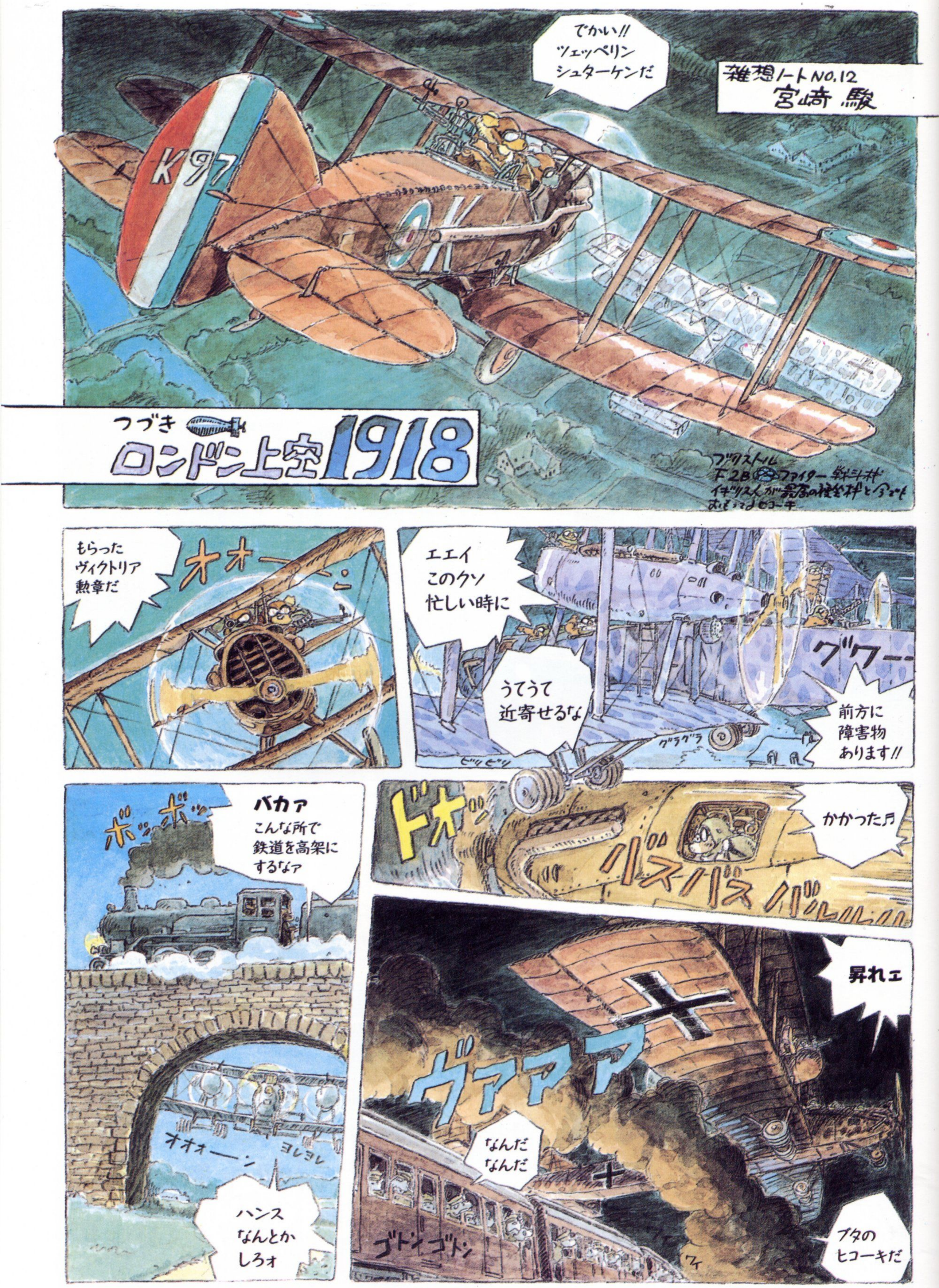
R-IVの指揮官兼航法士兼爆撃手
バベリア出身 ドランシ大尉(40才)
イライラ
クソーッ
オンイ!!
イラ
イライラ
イライラ
イラ
先に
いくぞーッ
オオ
ゴゴオオ
この日のロンドン空襲はR級4機のみ
R-VI(R-IVより進化した型)は予定
どおり出撃していく。(の三機)
ツェッペリン シュターケン R-VI
最終生産型、こいつは18機つくられた。
260HP×4
電車型のコクピット
前後にプロペラをつけた。
二基のエンジンでプロペラひとつを廻す
バカをやめて、実用性が向上した。
もともとドランシ大尉のR-IVは 機構として無理があったのである。
ガガガ
ヒイ
パラベラムMG
機関士が二名つきっきりでなだめるのだが
バギッ
クラッチ
二つのエンジンが
共鳴して、振動でギアが
ぶっこわれるのである。
プロペラシャフトなんか軽くて折れちゃう
二重反転ペラでなな
またやった!!
イラ
とべるか?
五分五分です
上手にあつかえば
今晩ぐらいは
もちますよ
たぶん
フン じゃあ
お前も
つきあえ
ヘッ
シレジアの時計屋の息子 ハンス兵長
かくて、整備兵長ハンスは
とっぜん 搭乗機関士に
なっちゃったのである
ぼ ぼく
近眼なのに
特配の
夜食入りの
ベントラバコ
フン
オレは
乱視だ
麦芽コーヒー
本物のサラミだ!!
ママに送って
あげよう
イイコトもある
バタつきパン
どの国でも 搭乗員は
イイモノを食べられた
どうせ すぐ死ぬのだ
のりまき!!
オイナリさん
ドイツ本国では 食糧
難になっていて、本物の
サラミは貴重品であった。
ようやく出撃、始動車がつぎつぎとエンジンをかけていく
キュンキュン
ゴオーーー
ビリビリ
ワーッ フラー
いくぞ!!
目標
ロンドン!!
ハンスに離陸を見届ける
ヒマなどない
全身で二基のエンジン
を監視する
離昇出力220馬力
タペットは おどり狂い
エンジンは咆哮する
いつ共振が発生する
か判らない


いちばん危険な一瞬
腹の中は不安定な信管の爆弾とガソリンで満パイだ
時速70キロ 壮重な離陸
ビリビリ
ミシ
グォーーン
気をつけろ 筒温上昇!!
ウオオオ
来るぞ 来るぞ 来た!!
ビリビリ
ドテドテ
フロント スロットル ちょいもどせ
バカッ ちょっとだ ちょっと
声にならない 桃関士達の声がとびかう
ライト兄弟からたったの15年
人類はこんなお化けをつくり出したのだ
ウワッ ウワッ
ウオオーーン
ソレッ
オオーン
ナンダ カンダ
クソ クソッ
124名の整備丹とハンスの代りに
生命びろいした桃関士が
いつまでも見送っている。
ハンス かわいそう
いっちゃった
もどって来るかナ
ホッ
ベルギー海岸をこえて 少しづつ
今夜は月はない
高度をかせぐ
ウオオオーン
9名の搭乗員の役割
9名中6名が桃関士である!!
ハンス 桃関士
ドランシ 指揮、航法 爆撃
正パイロット
副パイロット
燃料桃関士
桃首桃関士
左ナセル桃関士
右翼ナセル桃関士
恐怖の翼面銃座
ドランシの航法机
重力タンク
胴体内のタンクから、ここへガソリンをあげ、エンジンに送る
胴体は木金混成骨格
前半分は木製外板
後上方銃座
パラベラム2丁
燃料系と前部桃関士の受持ち
下方銃座
手あきの者がかけつける
爆弾庫
箱形尾部
1918年には✠この鉄十字ではなくなっていた
写真をみると白いワク線しかないものもある。よう判らない
ガソリンタンク8基
間が通路になっとる
R-VIには無線士がのっていた、R-IVがどうだったか ぼくには判らない
★R-IVは死角の少い重爆だった
後上方へは4丁の桃銃を集中できたし
前方へ2丁、下方へ1丁と重武装だった。
木製骨組に
羽布張りのつばさ
巾42mだから おそろしい
下は海だ 緊張が高まる
あてにならない計器
甚かをたよりの航法
気まぐれな
エンジンとギア
前部エンジン
異常発生
グラッ
クソッ
クラッチを
きれっ
グスン
バスン

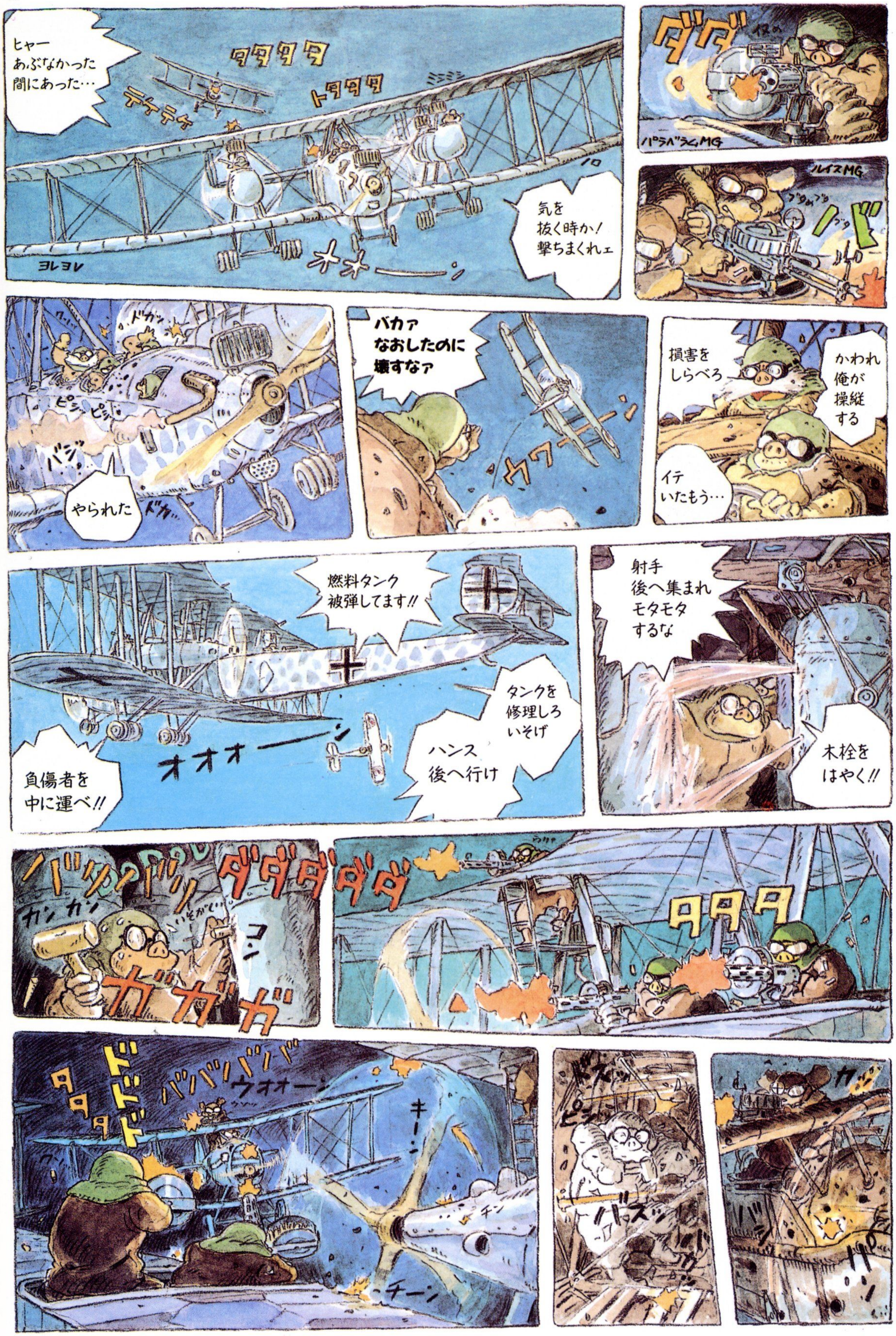

ハシス
ハシス
来いっ
ヒュー
お前の
仕事だ!!
へ!?
グズグズ
するな
走れ!
グォー
プッシュ
ロッドの
折損です
エエイ
ボロ
エンジン
め!!
プロペラは
エンジン一基で
まわりつづける
出力半減!!
オオオーーーン
ロッド
ぐらい
すぐなおせ
そんな
アッチチ
ウワッ
高度
下ります
わかっ
とる!
爆弾の
二番と五番を
すてろ!!
ヒイイ
オオオオ
つかまれ
ママーーッ
ヒュー
200kgだけ
軽くなった
ズー
パ
パ
パ
三分で
なおせ!!
サーチライト
回廊です
変針しま
すか?
このまま行け
ロンドンは
この先だ
陸だ
イギリス
本土だ
シリンダーが
ひとつパァです
五気筒でまわすしか
ありませんが
やってみます
まわれば
なんでも
イイ
五分
ください
四分で
やれっ

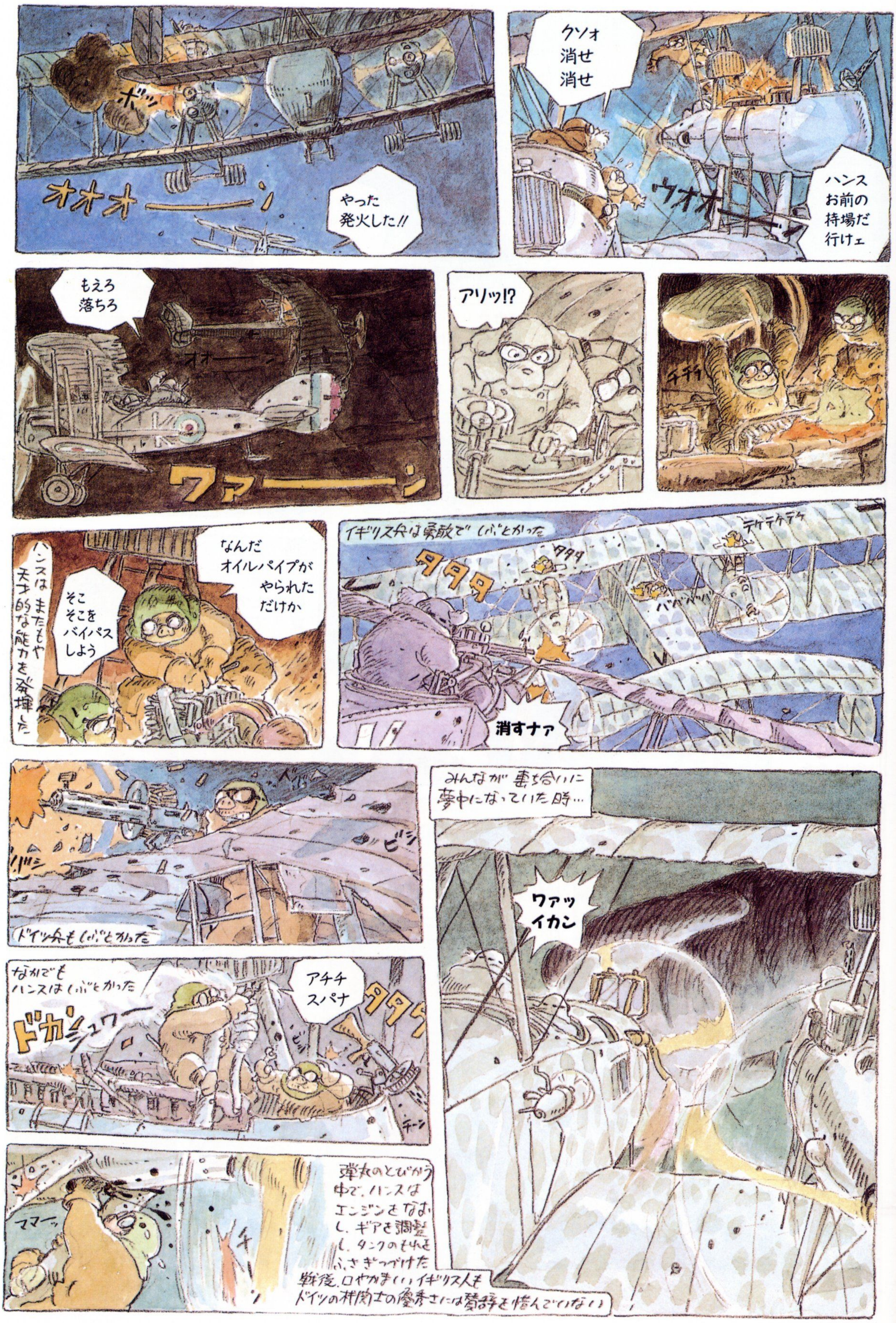


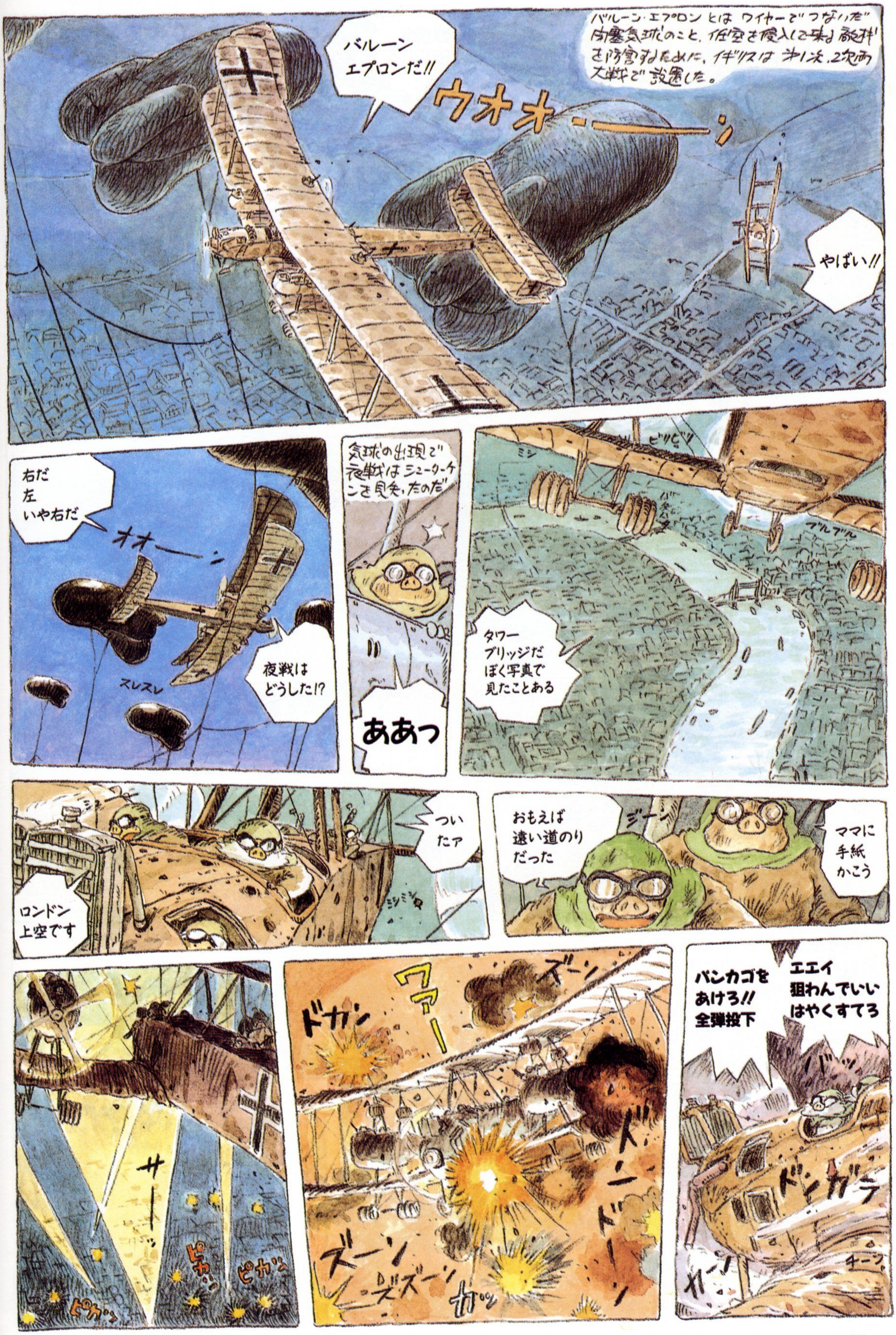

ロンドンへの道はとおいのだ　で次週へつづく

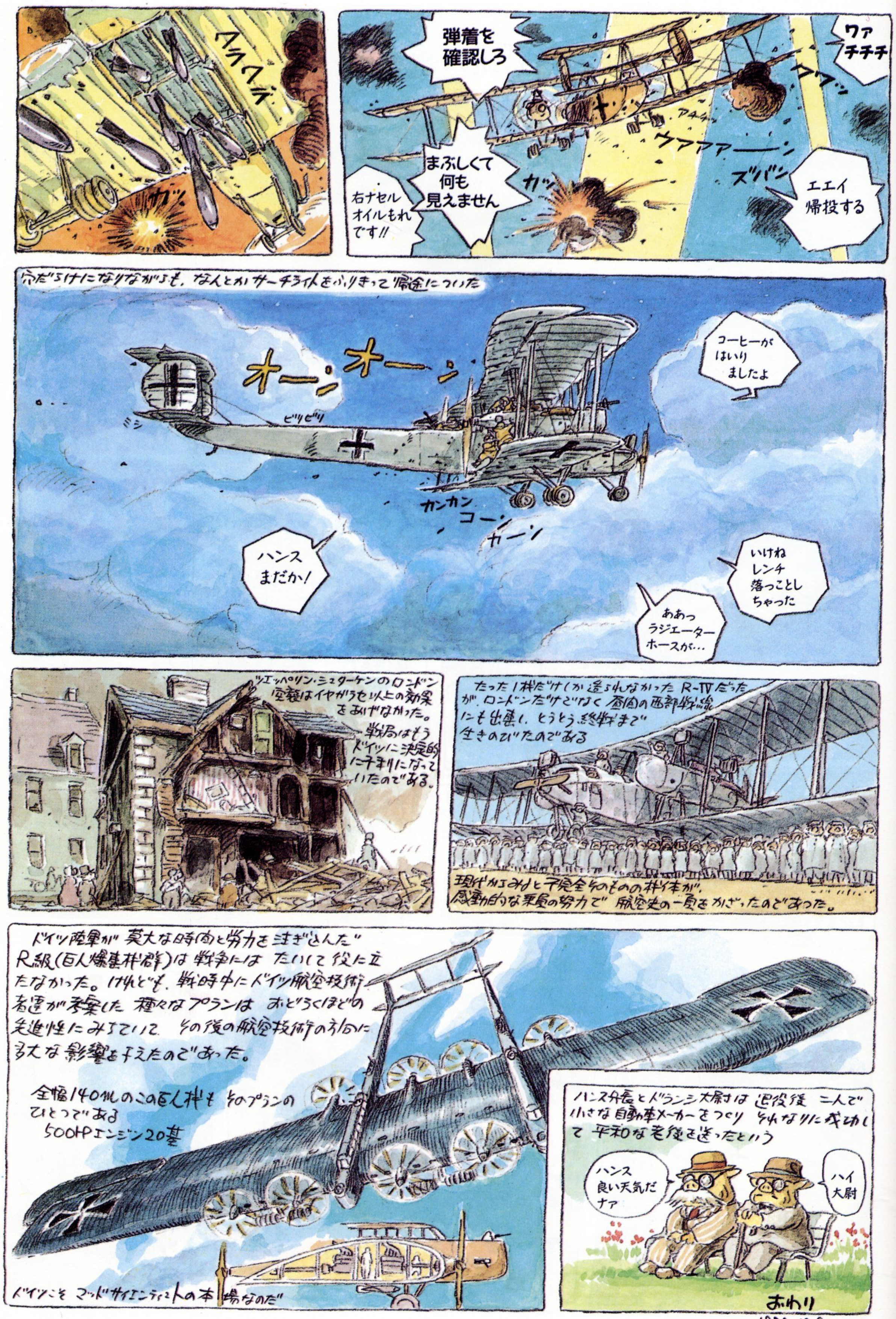


雑想ノートNO.12
宮崎駿
でかい!!
ツェッペリン
シュターケンだ
K97
つづき
ロンドン上空1918
ブリストル
F2B ファイター
イギリス人が最高の複葉機と今でもおもってるヒコーキ
エエイ
このクソ
忙しい時に
うてうて
近寄せるな
グワー
前方に
障害物
あります!!
グラグラ
ビリビリ
もらった
ヴィクトリア
勲章だ
オオー
ボッボッ
バカァ
こんな所で
鉄道を高架に
するなァ
オオォーン
ヨレヨレ
ハンス
なんとか
しろォ
ドオッ
バスバスバルルル
かかった♪
昇れェ
ヴァァァ
なんだ
なんだ
ゴトンゴトン
ブタの
ヒコーキだ


ヒャー
あぶなかった
間にあった…
タタタタ
トタタタ
ミシミシ
ヨレヨレ
気を
抜く時か!
撃ちまくれェ
ダダ
パラベラムMG
ルイスMG
ドカッ
ピシッ
ピシッ
バジッ
やられた
バカァ
なおしたのに
壊すなァ
ウワーン
損害を
しらべろ
かわれ
俺が
操縦
する
イテ
いたもう…
燃料タンク
被弾してます!!
タンクを
修理しろ
いそげ
ハンス
後へ行け
負傷者を
中に運べ!!
オオオーン
射手
後へ集まれ
モタモタ
するな
木栓を
はやく!!
ガガガ
タタタ
ドドドドド
ウオオーン
キーン
チーン
バスッ
カッ


ボッ
オオオーーン
やった
発火した!!
クソォ
消せ
消せ
ウオオーーン
ハンス
お前の
持場だ
行けェ
もえろ
落ちろ
オオーーン
ファーーン
アリッ!?
チチチ
ハンスは またもや
天才的な能力を発揮した
なんだ
オイルパイプが
やられた
だけか
そこ
そこを
バイパス
しよう
イギリス兵は勇敢でしぶとかった
タタタ
タタタ
テケテケテケ
バババババ
消すナァ
ドイツ兵もしぶとかった
ビシ
ビシ
なかでも
ハンスはしぶとかった
ドカシュワー
アチチ
スパナ
タタタ
チーン
ママーッ
チ
弾丸のとびかう
中で、ハンスは
エンジンをなお
し、ギアを調整
し、タンクのもれを
ふさぎつづけた
戦後、口やかましいイギリス人も
ドイツの村関士の優秀さには賛辞を惜んでいない
みんなが 妻ち合いに
夢中になっていた時…
ワァッ
イカン


バルーン・エプロンとはワイヤーでつないだ
内塞気球のこと、低空を侵入して来る敵機
を防害するために、イギリスは第1次、2次両
大戦で設置した。
バルーン
エプロンだ!!
ウオオーーン
やばい!!
右だ
左
いや右だ
オオーーン
夜戦は
どうした!?
スレスレ
気球の出現で
夜戦はシューターケ
ンを見失ったのだ
ああっ
ビリビリ
ミシ
ブルブル
タワー
ブリッジだ
ぼく写真で
見たことある
ついたァ
ロンドン
上空です
ママに
手紙
かこう
おもえば
遠い道のり
だった
ジーン
サーーッ
ピカッ
ピカッ
ピカッ
ドカン
ファー
ズーン
ズーン
ズズーン
ガッ
ドーン
バンカゴを
あけろ!!
全弾投下
エエイ
狙わんでいい
はやくすてろ
ドンガラ
チーン



クラクラ
カッ
弾着を確認しろ
ワァチチチ
ウワッ
ウアアアーン
ズバン
カッ
まぶしくて何も見えません
右ナセルオイルもれです!!
エエイ帰投する
穴だらけになりながらも、なんとかサーチライトをふりきって帰途についた
オーン オーン
ビリビリ
ミシ
カンカン
コーン
カーン
コーヒーがはいりましたよ
ハンスまだか!
いけねレンチ落っことしちゃった
ああっラジエーターホースが…
ツエッペリン・シュターケンのロンドン空襲はイヤガラセ以上の効果をあげなかった。
戦局はもうドイツに決定的に予約になっていたのである。
たった1機だけしか送られなかったR-IVだったが、ロンドンだけでなく昼間の西部戦線にも出撃し、とうとう終戦まで生きのびたのである
現代からみると不完全そのものの機体が、感動的な乗員の努力で航空史の一頁をかざったのであった。
ドイツ陸軍が莫大な時間と労力を注ぎ込んだR級(巨人爆撃機群)は戦争にはたいして役に立たなかった。けれども、戦時中にドイツ航空技術者達が考案した種々なプランはおどろくほどの先進性にみちていて、その後の航空技術の方向に多大な影響を与えたのであった。
全幅140mのこの巨人機もそのプランのひとつである
500HPエンジン20基
ドイツこそマッドサイエンティストの本場なのだ
ハンス分長とドランシ大尉は退役後二人で小さな自動車メーカーをつくりそれなりに成功して平和な老後を送ったという
ハンス良い天気だナァ
ハイ大尉
おわり
1989.12.9

Hayao Miyazaki's Daydream note

第11話

# 最貧前線

太平洋戦争末期、日本海軍は本土へ飛来する

B-29爆撃機を監視するために、

漁船を徴用して特設監視艇に仕立て上げ、

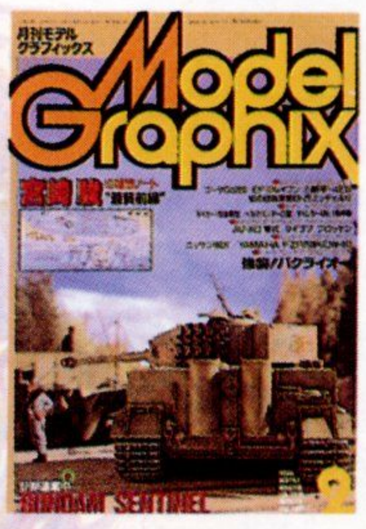
見張り役にした。

物資も兵員も底をつきかけた

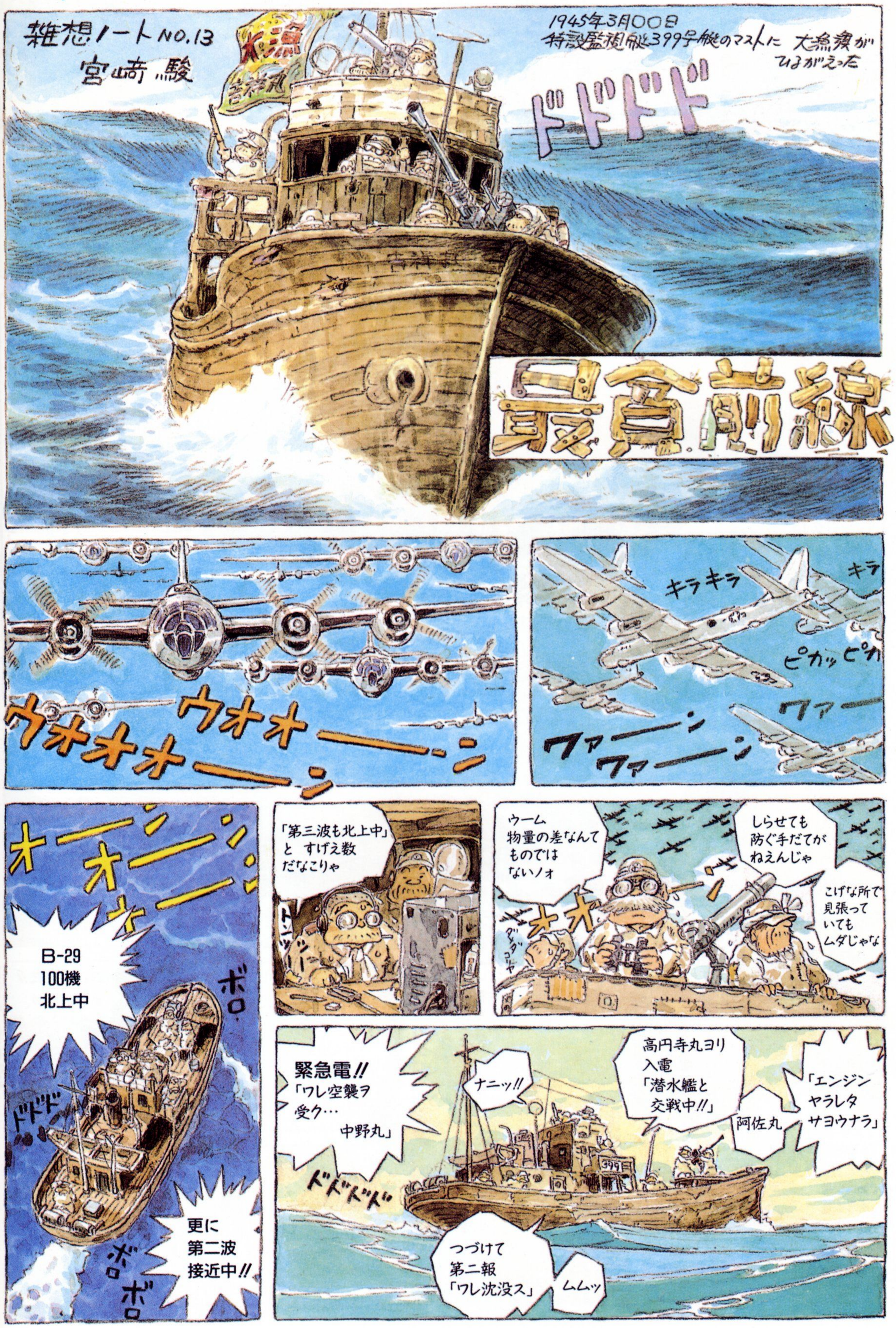
日本の苦肉の策である。

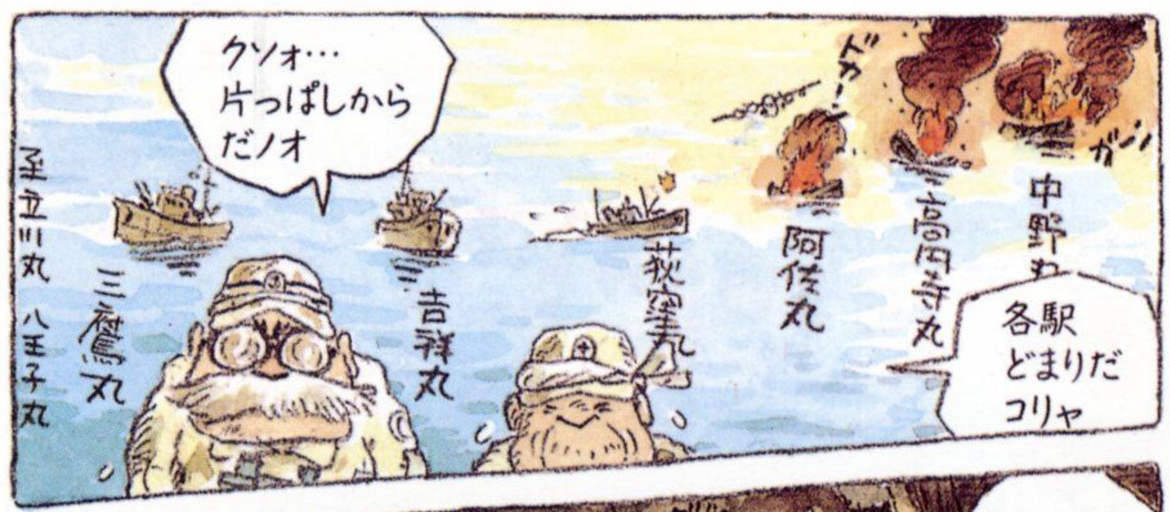
不屈の漁民と老兵は、

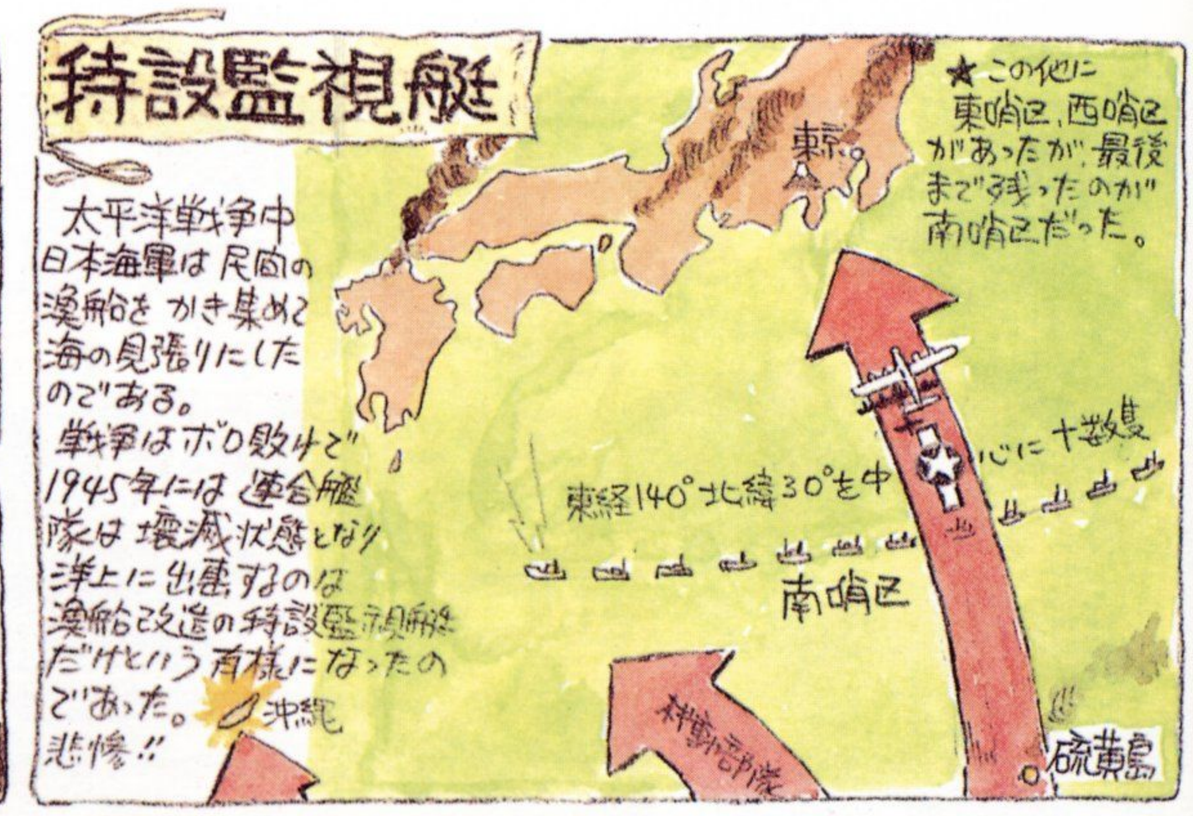
大漁旗のもと米軍重爆に戦いを挑むが…。




初出：月刊モデルグラフィックス1990年2月号
（連載第13回、執筆・1990年1月）

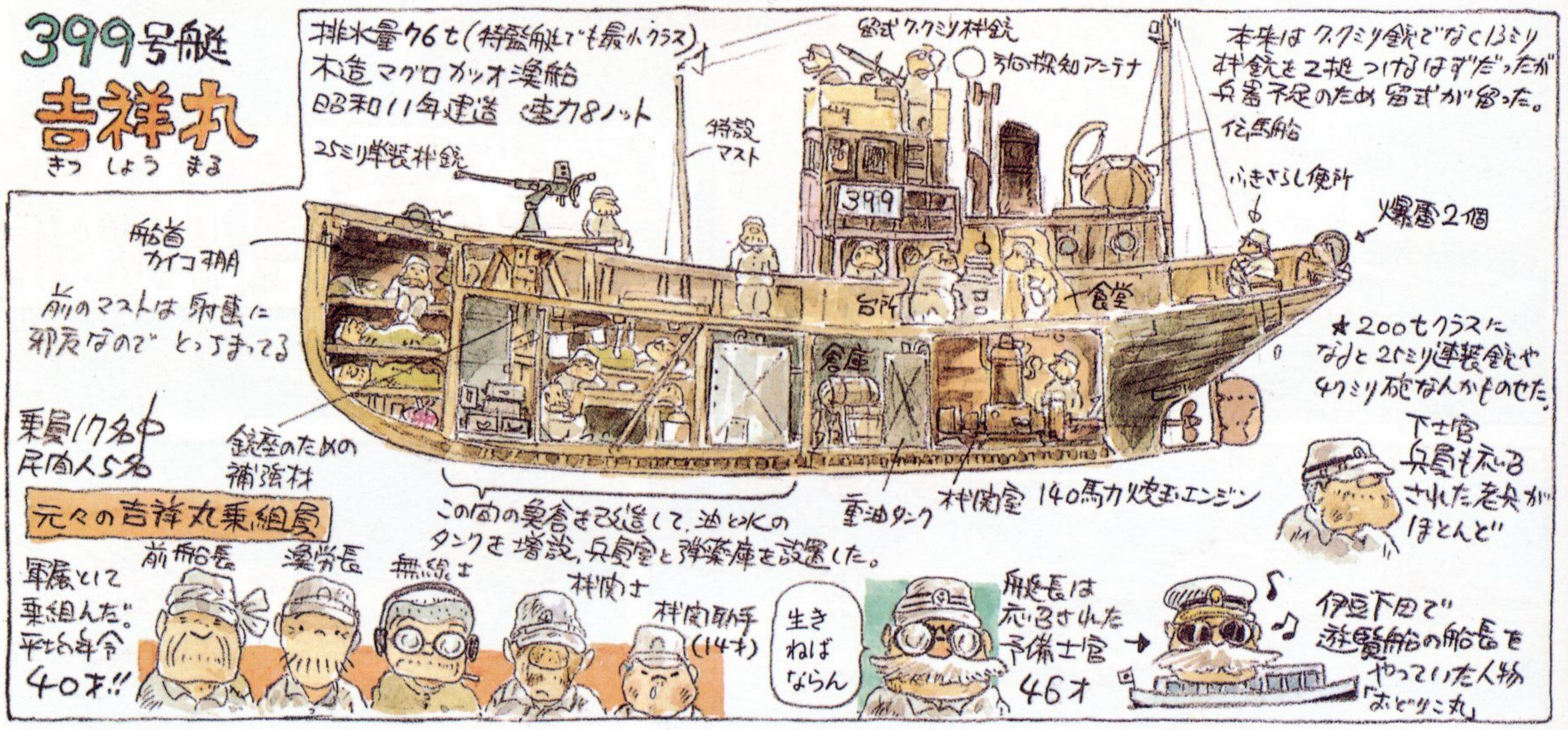

雑想ノートNO.13
宮崎駿
1945年3月00日
特設監視艇399号艇のマストに 大魚翼が
ひるがえった
ドドドド
最貧前線
ウオオオーン
ウオオーン
キラキラ
キラ
ピカッピカ
ワァーン
ワァーン
ワァー
オーン
オーン
オーン
B-29
100機
北上中
ボロ
ドドド
ボロ
ボロ
更に
第二波
接近中!!
「第三波も北上中」
と すげえ数
だなこりゃ
トンツー
ウーム
物量の差なんて
ものでは
ないノォ
しらせても
防ぐ手だてが
ねえんじゃ
こげな所で
見張って
いても
ムダじゃな
オオーン
緊急電!!
「ワレ空襲ヲ
受ク…
中野丸」
ナニッ!!
高円寺丸ヨリ
入電
「潜水艦と
交戦中!!」
阿佐丸
「エンジン
ヤラレタ
サヨウナラ」
ドドドド
つづけて
第二報
「ワレ沈没ス」
ムムッ

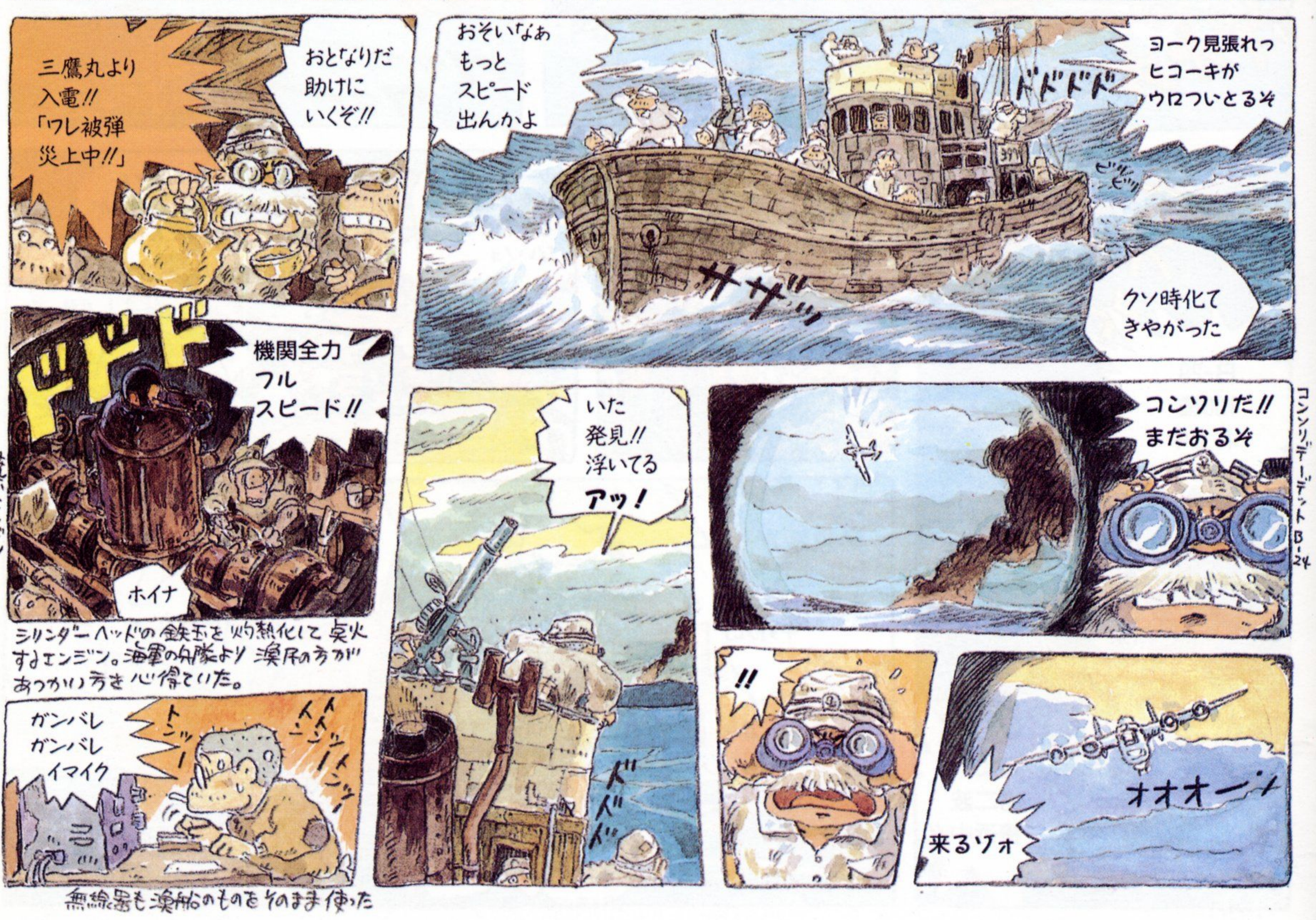


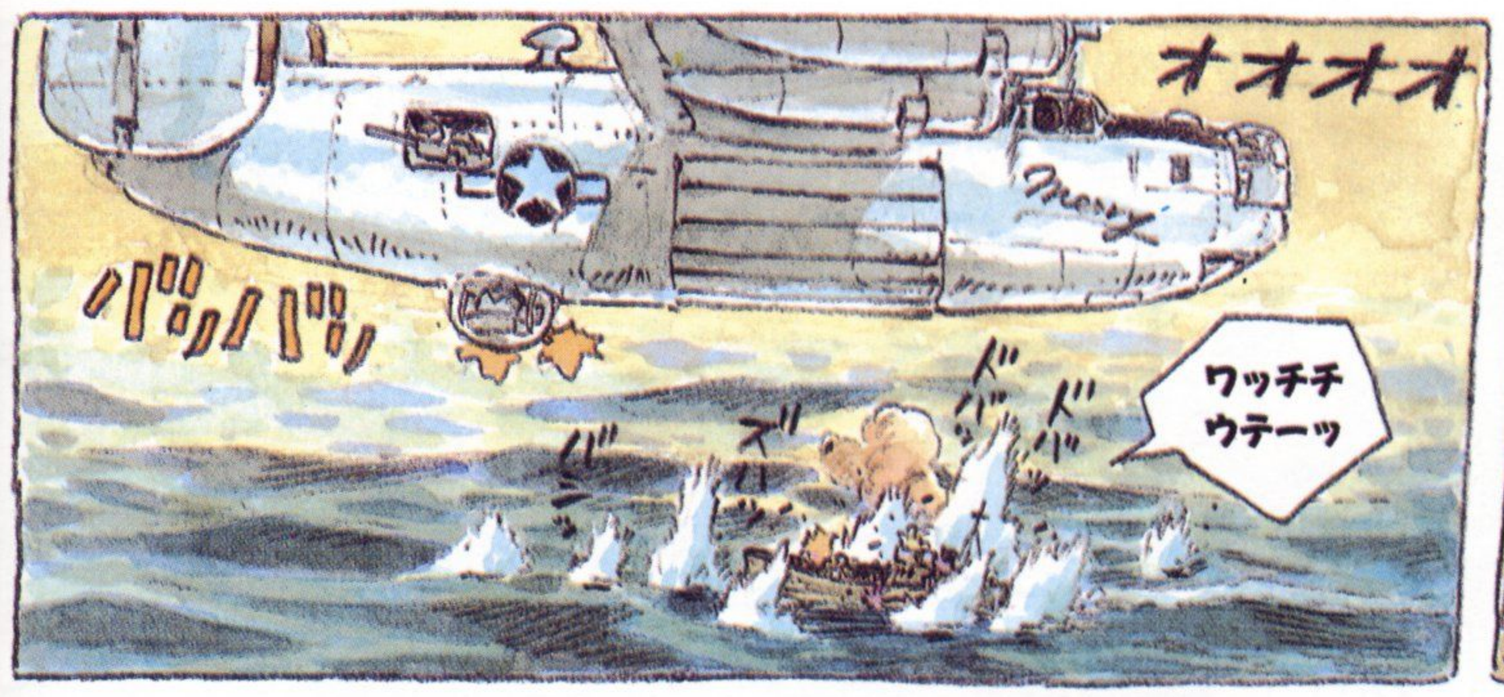


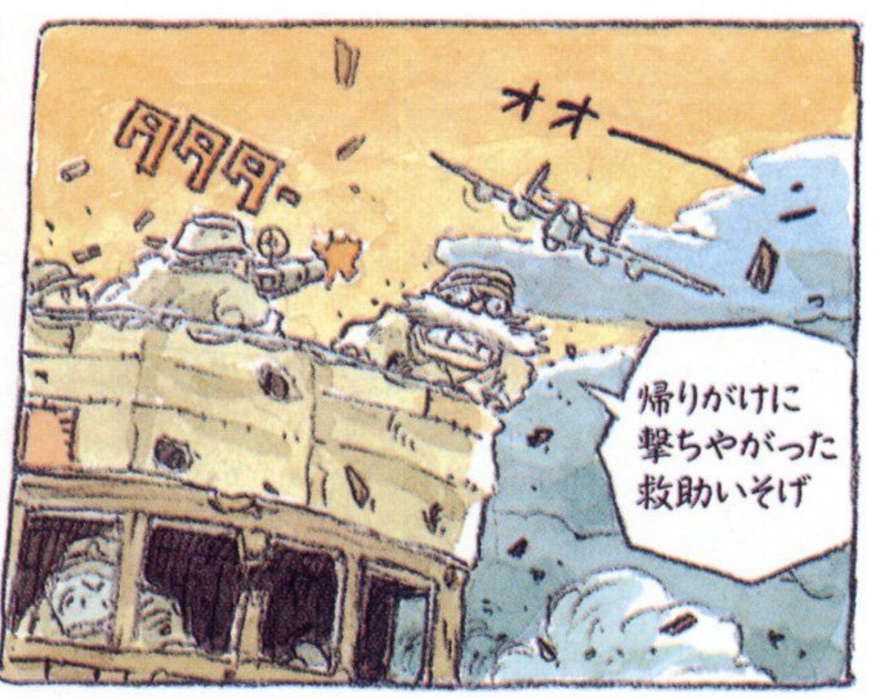

## 399号艇 吉祥丸
きっしょうまる

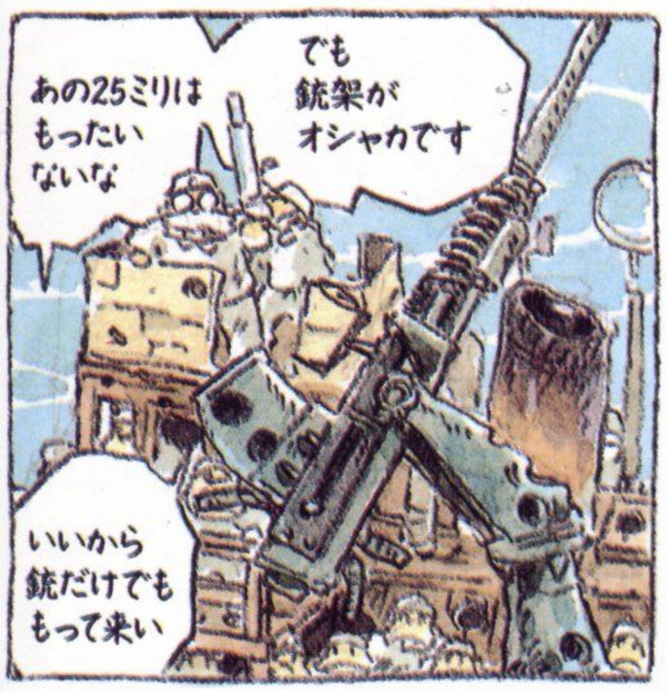
排水量76t（特監艇でも最小クラス）
木造マグロカツオ漁船
昭和11年建造　速力8ノット

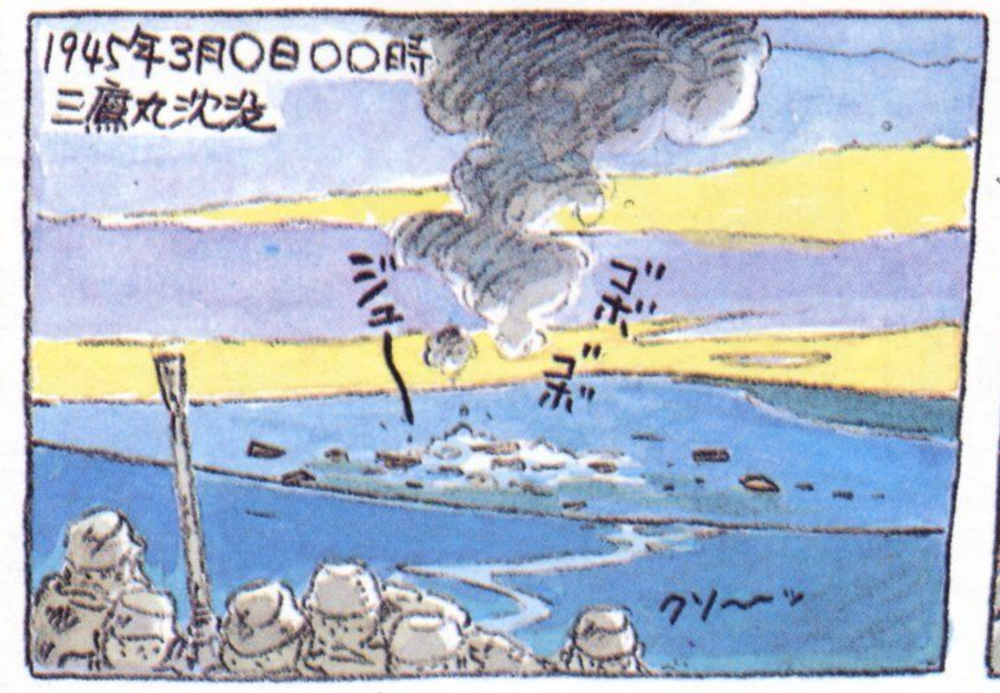


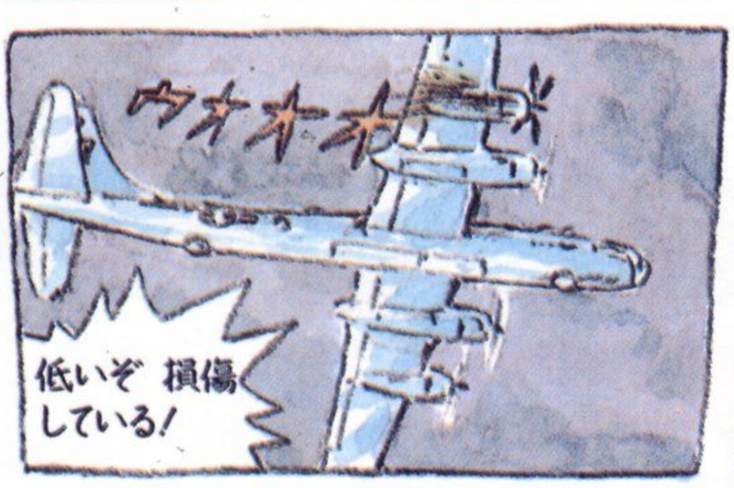



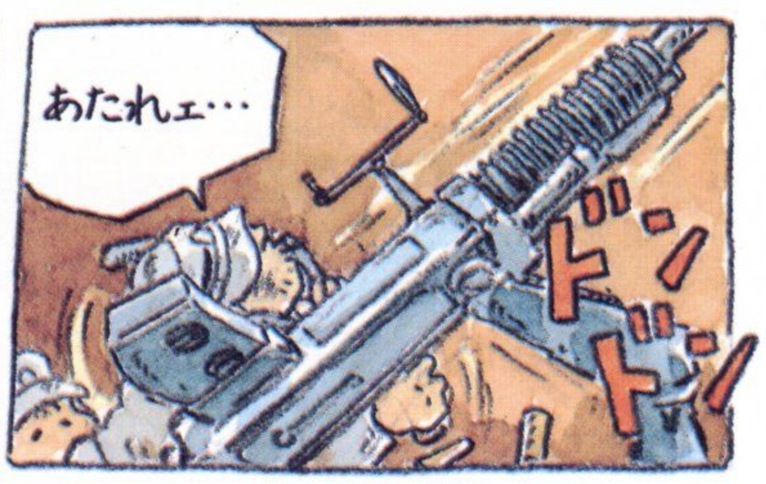


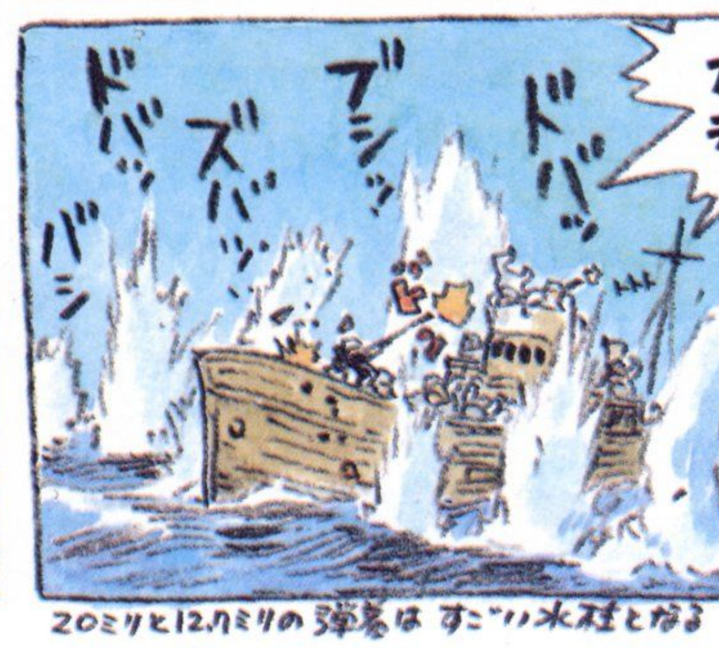





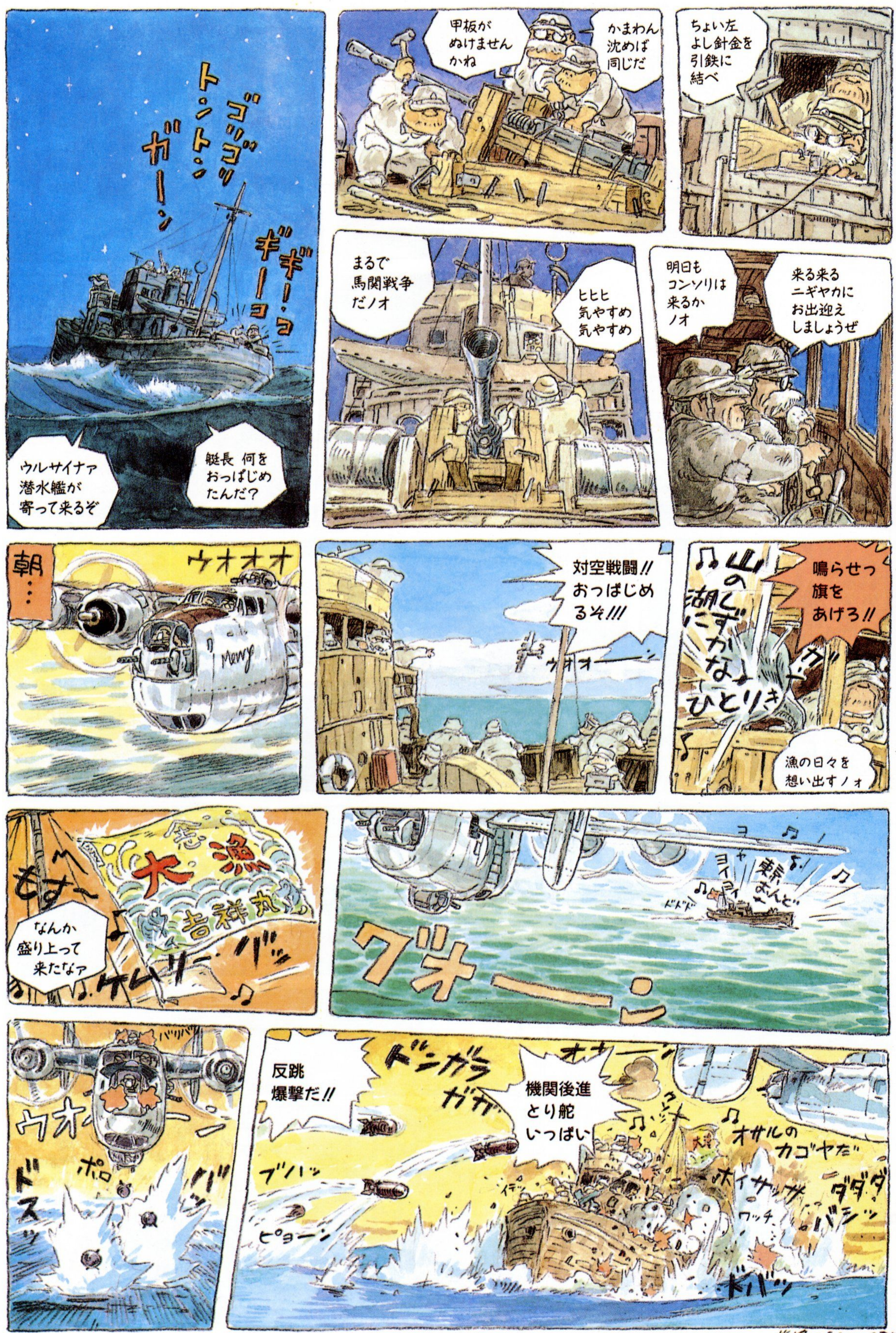







20ミリと12.7ミリの弾着は　すごい水柱となる


ゴゴゴ
トントン
ガーン
ギギーコ
ウルサイナァ
潜水艦が
寄って来るぞ
艇長 何を
おっぱじめ
たんだ?
甲板が
ぬけません
かね
かまわん
沈めば
同じだ
ちょい左
よし針金を
引鉄に
結べ
まるで
馬関戦争
だノオ
ヒヒヒ
気やすめ
気やすめ
明日も
コンソリは
来るか
ノオ
来る来る
ニギヤカに
お出迎え
しましょうぜ
朝…
ウオオオ
対空戦闘!!
おっぱじめ
るぞ!!!
ウオオ
鳴らせっ
旗を
あげろ!!
漁の日々を
想い出すノォ
なんか
盛り上って
来たなァ
大漁
吉祥丸
ワオーン
反跳
爆撃だ!!
ドンガラ
ガガ
機関後進
とり舵
いっぱい
オサルの
カゴヤだ
ブハッ
ピョーン
ドバッ

戦争はうるさいのだ

やった
不発弾
ドガン
第2事
ゴン
シュー
シュルルル
ベン
相手が下手だったのか 舵とりが上手だったのか 500ポンド弾8発すべてハズレた
後から来るぞ
船長
たのむ!!
ウオオオーン
ホイナ
艇長
どんピシャ
だノ
あっとるゾ
ヨーシ
うてーっ
うちっぱなせ!!
ドンドン
ドン
ワー
こいっ!
こいっ!
こいっ!
ウーム
頁のせいで
コマが
小さいノオ
ガーン
オオオーン
★ この射撃法は 南方でヤシの木に 杉鉄をしばって(しばしば)行われた。
ヤッタァ!!
ワワーワー
オチローヤーイ
ウソー
もう来るナー
ニゲてく
負傷者を満載して 帰投した
クルシィー
イテー
ウー
ガンバレ
ドドドド
放心
ボーゼン
あんた 本当に
遊覧船の
船長なの
かいな
この後すぐ 南哨巴も閉鎖され、吉祥丸は生き残った。
1945年8月10日(無条件降服の5日前)
漁船達は 徴用をとかれ、それぞれの母港に帰り、戦後の漁業の出発点になったのである。
動員された漁船400隻の内
生き残ったもの 約100隻!!
吉祥丸
平和が
何より
だノオ…
と 吉祥丸の元船長さんは 話してくれました。
おわり
1990.1.10

*Hayao Miyazaki's Daydream note*

第12話

# 飛行艇時代

1920年代のアドリア海は、

空賊と呼ばれる飛行艇乗りが徘徊していた。

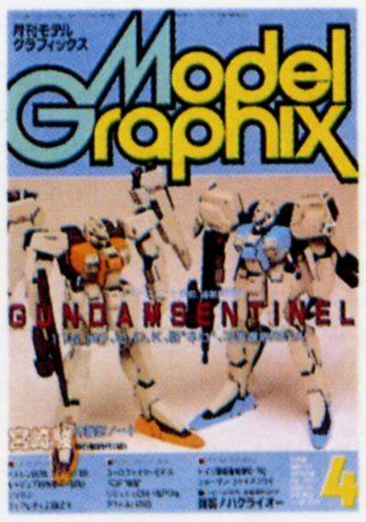
真紅の飛行艇“フォルゴーレ号”を駆る豚、

ポルコ・ロッソは空賊にならず、

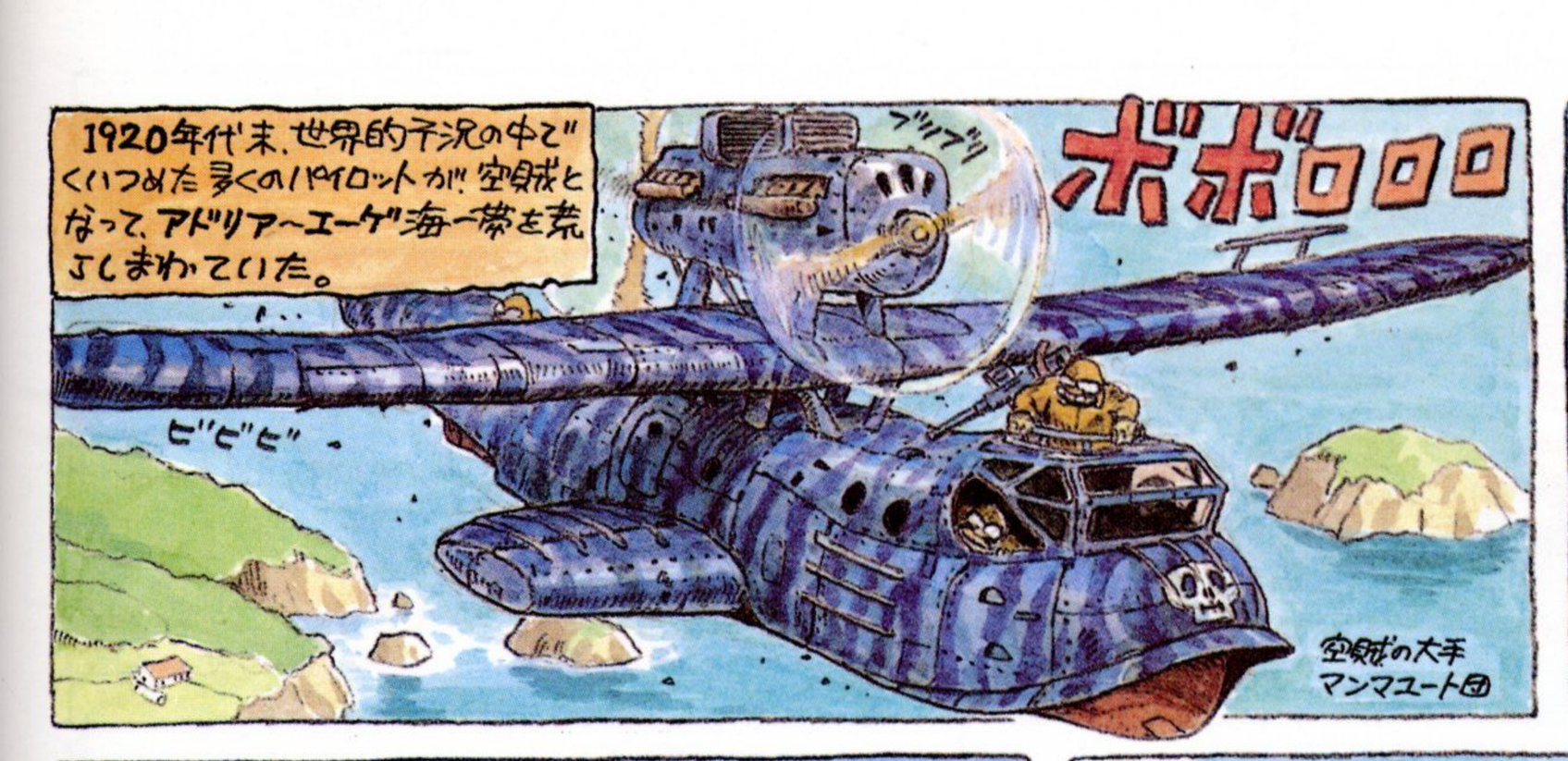
きままに空と海を楽しんでいたが、

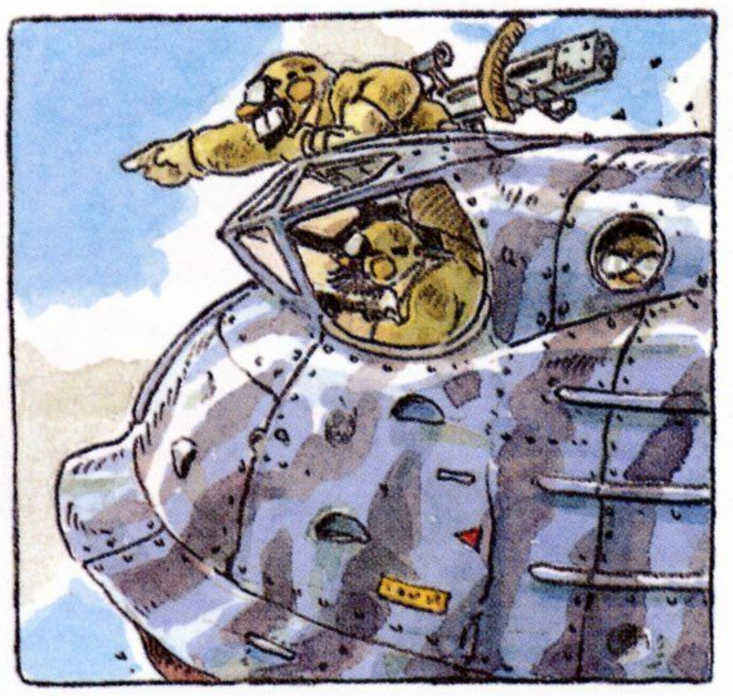
ある日、強力なライバルが出現！

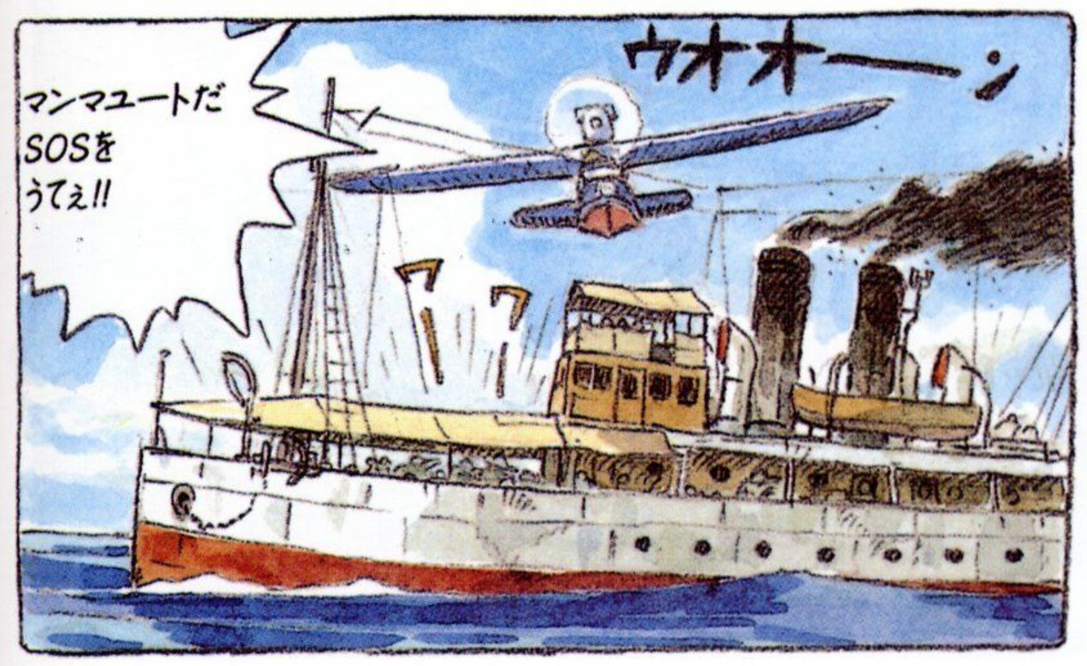
少女を巡って決闘が始まった!!

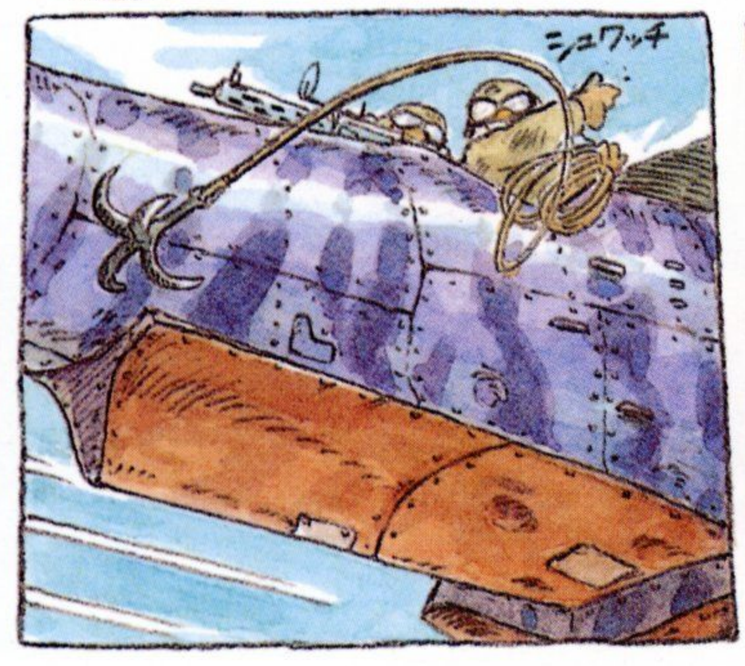


初出：月刊モデルグラフィックス1990年3,4,5月号
（連載第14,15,16回、執筆・1990年2,3,4月）



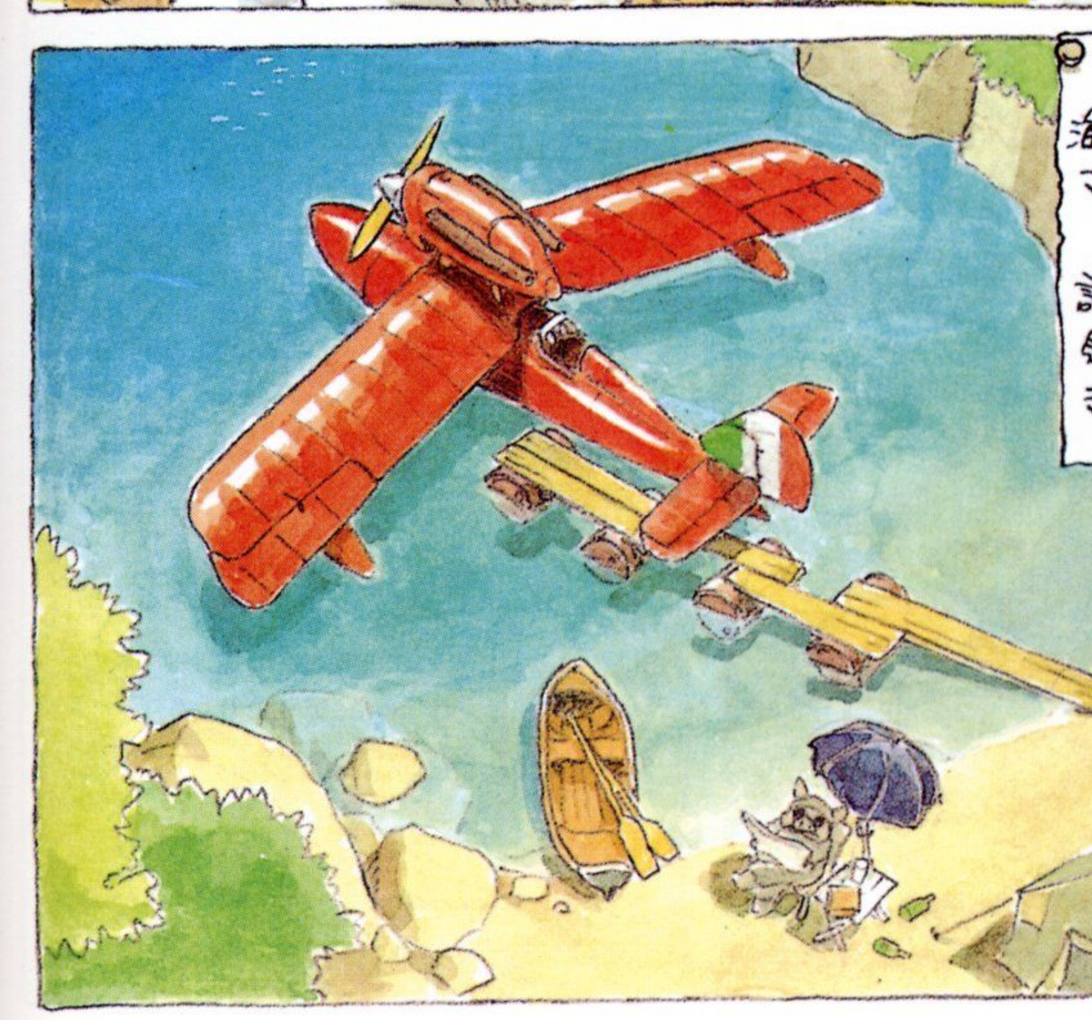


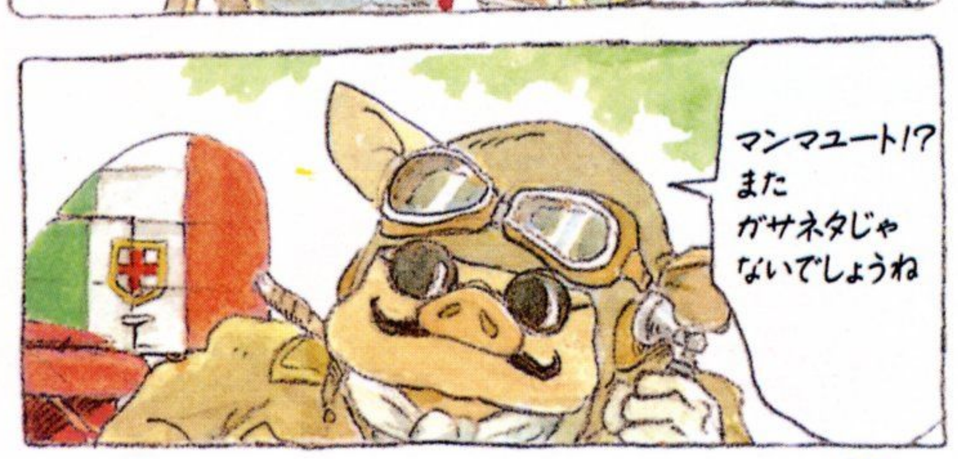



雑想ノートNO.14　MIYAZAKI HAYAO

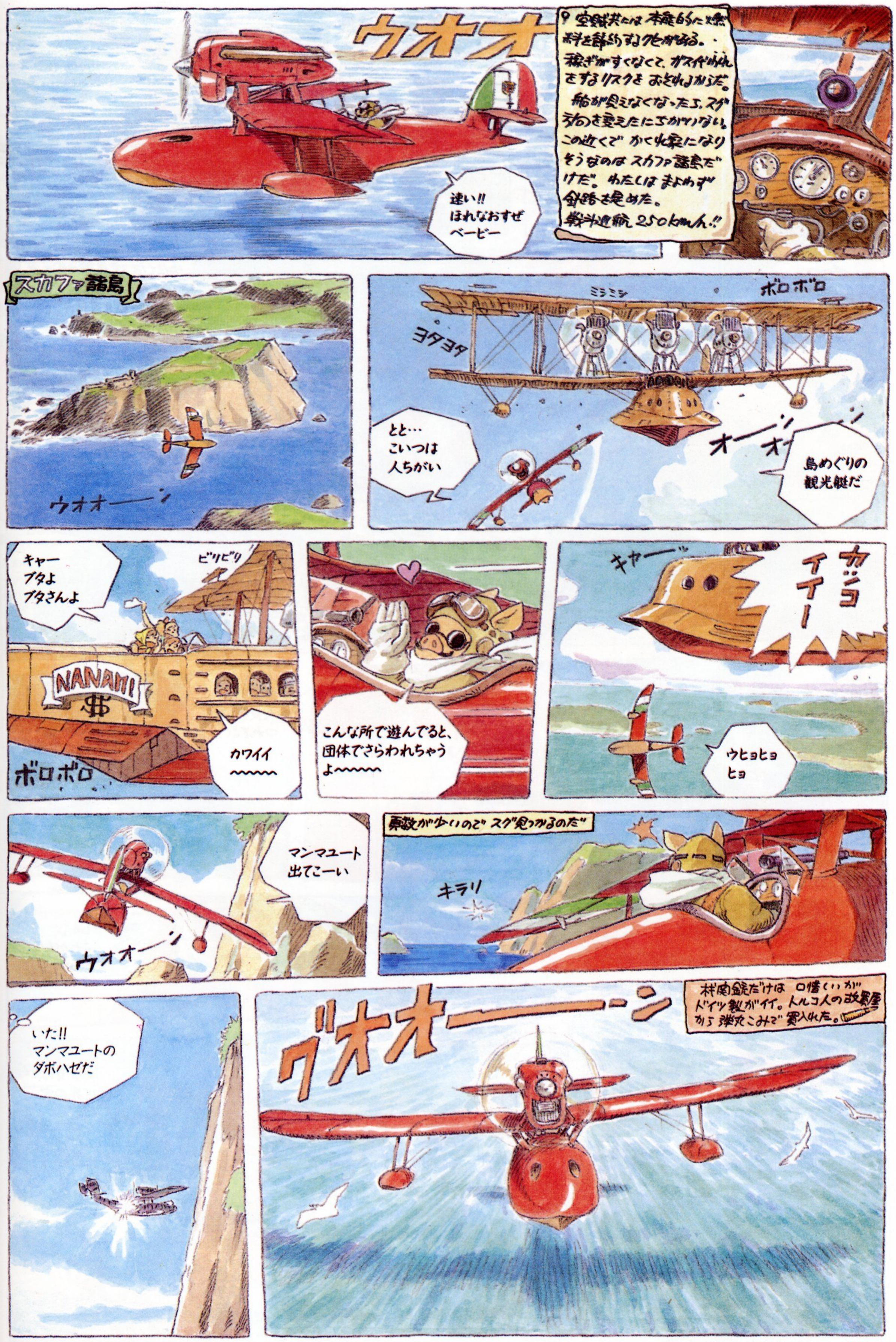
# 飛行艇時代

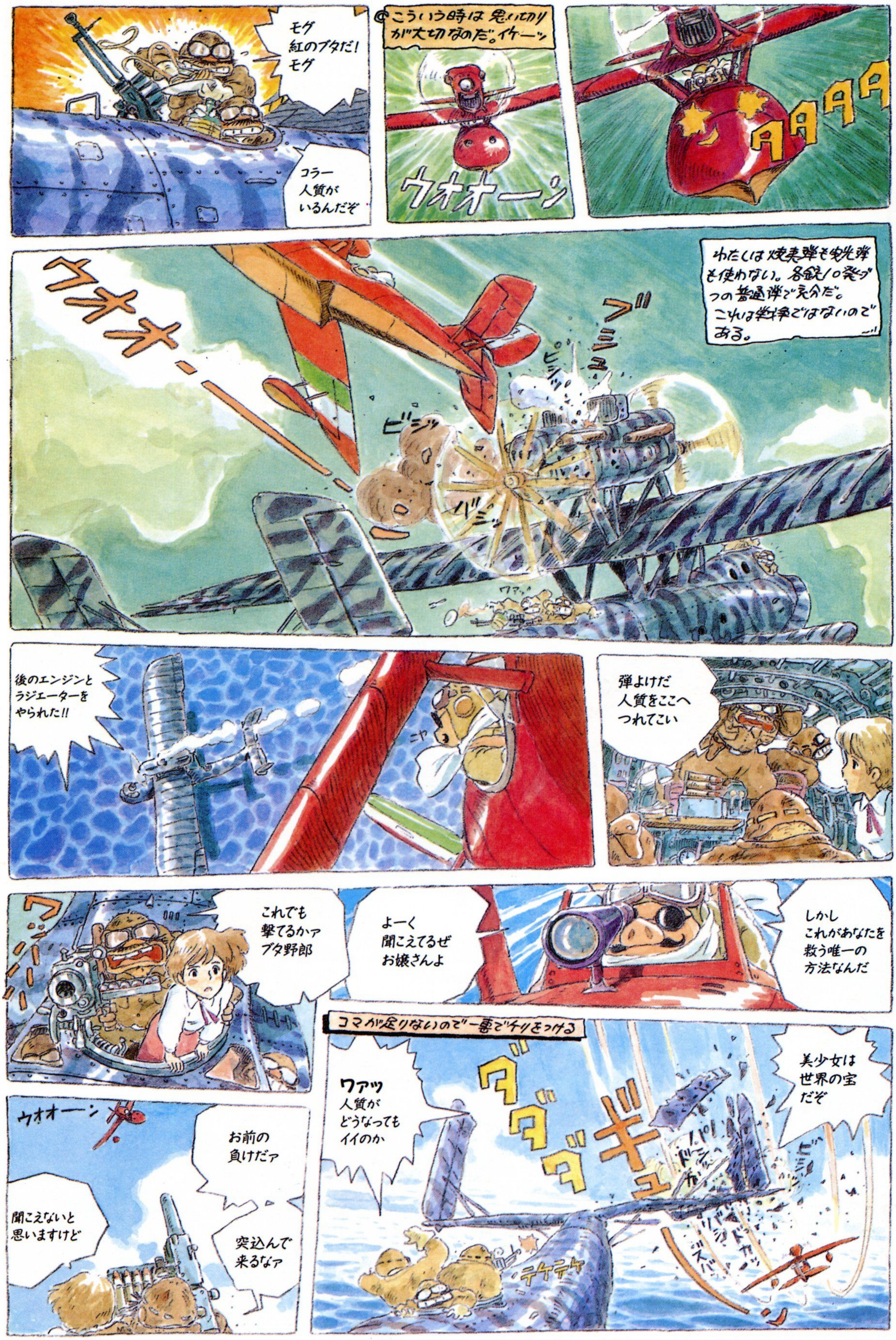
マンマユート団は人質に美少女をさらうので知られていた。





愛飛艇フォルゴーレ号
今日こそ あのロリコン 共め
チャプン
こいつの本名は、「サボイアS-21 試作戦斗艇」一様だけ造られ、倉庫で埃をかぶっていた奴を、払い下げてもらったものだ。まだローンが残っている。
ク…… 重い
スターターなんてのも人力だ
キュン キュン
ドオオオ
ウオオオーン
600馬力にチューンアップした イゾッタ・フラスキニ・アッソ水冷V型12気筒は咆哮する。
イタリアの職人が磨きあげた木製モノコックのラインほど美しいものはない。アメリカ的合理主義などクソクラエだ
オオオーン
とぶこと20分
あれだ!!
クソ 飛び去った あとか…
金貨と少女を さらわれたぁ
ブーン
とりもど してくれェ!!
無線電話がない 時代でもマンガは 便利なのだ
あっちに 逃げたヨー
おかしい?? 瞬間的に わたしの黄金の脳細胞に ひらめくものがあった。
やつらが 本土へ向う はずがない
ウオオー
ちがうよ そっちじゃ ないよォー
ブゥーン
バカァ


ウオオ
速い!!
ほれなおすぜ
ベービー
空賊共には本能的に燃料を節約するクセがある。
稼ぎがすくなくて、ガス代われをするリスクをおそれるからだ。
船が見えなくなったら、スグ方向を変えたにちがいない。
この近くでかくれ家になりそうなのはスカファ諸島だけだ。わたしはまよわず針路を定めた。
戦斗巡航250km/h!!
スカファ諸島
ウオオーン
ミラミシ
ボロボロ
ヨタヨタ
とと…
こいつは
人ちがい
オーン
オーン
島めぐりの
観光艇だ
キャー
ブタよ
ブタさんよ
ビリビリ
NANAMI
カワイイ
〜〜〜
ボロボロ
こんな所で遊んでると、
団体でさらわれちゃう
よ〜〜〜
キャーッ
カッコイイー
ウヒョヒョ
ヒョ
マンマユート
出てこーい
ウオオーン
勇敢が少いのでスグ見つかるのだ
キラリ
いた!!
マンマユートの
ダボハゼだ
ウオオーーーン
村関銃だけは口惜しいが
ドイツ製がイイ。トルコ人の故買屋
から弾丸こみで買入れた。


モグ
紅のブタだ!
モグ
コラー
人質が
いるんだぞ
こういう時は思い切りが大切なのだ。イケーッ
ウオオーン
ダダダ
ウオオーン
わたしは焼夷弾も曳光弾も使わない。各銃10発づつの普通弾で充分だ。これは戦争ではないのである。
ブミュ
ビシッ
ビシッ
バシッ
後のエンジンとラジエーターをやられた!!
弾よけだ
人質をここへ
つれてこい
これでも
撃てるかァ
ブタ野郎
よーく
聞こえてるぜ
お嬢さんよ
しかし
これがあなたを
救う唯一の
方法なんだ
コマが足りないので一事でケリをつける
ワアッ
人質が
どうなっても
イイのか
美少女は
世界の宝
だぞ
ダダダギュ
ウオオーン
お前の
負けだァ
聞こえないと
思いますけど
突込んで
来るなァ

ワアッ
大事な
ダボハゼが!!

ヨタヨタヨタ

ザッ

イ
イカン
金づるも逃げた

イテー

マアーッ

イエーイ
ヒロインは
こうでなきゃ

だれか
つかまえろー

シュー

ぼく
泳げま
せーん

カッコイーッ

もう許さん
恐怖の37ミリ砲を
くらえ

ドン

ドン

セリフの順

なんだ
女の子を狙うんじゃ
ないのか

チカチカ

チカ

あたり前だ
バカ

スゲェ
小便弾だ
当たりっこないや

ウルセェ

あっ
発光信号
だ

ダンダン

エート
きたなくてビンボーでロリコンの
マンマユートへ　ムスメと金貨の
半分をおいてウセロ

モールス
信号だ

さもない と
みなゴロシに
してやるぜ

チャカ　チャカ

たたかいは おわり。マンマユート団は去っていく

親分
よかったですね
修理代が出て

ブルブルブルブル

カーン
カーン

バカ
もっと志を
大きくもて

プカ

ありがとう

アドリア海の
陽光で
すぐ乾き
ますよ

さあ
ご両親の元へお送り
しましょう

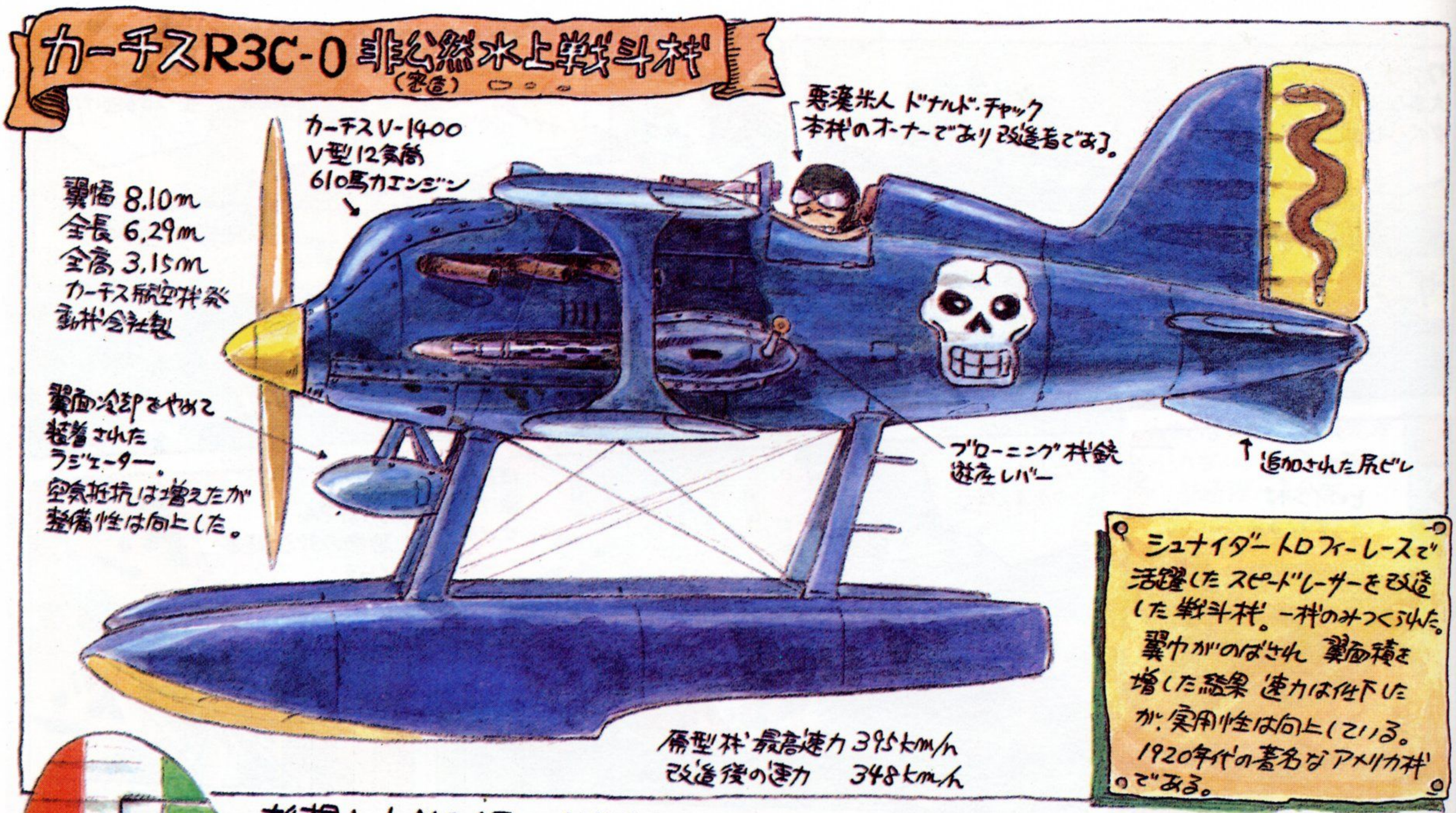
ブロロ

ハイ

かくて 今日も
わたしは アドリア海に
凱歌を あげたので
あった

おわり　1990.2.8

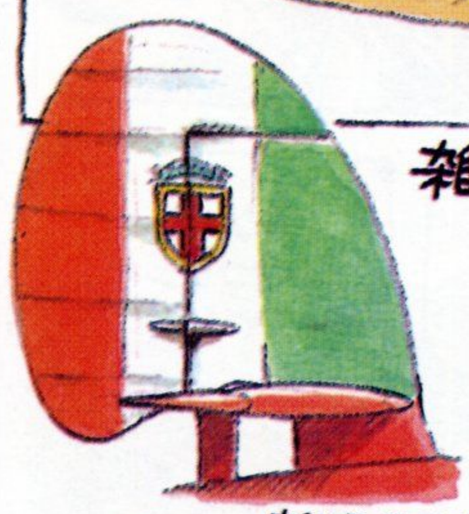
## カーチスR3C-0 非公然水上戦闘機（密造）

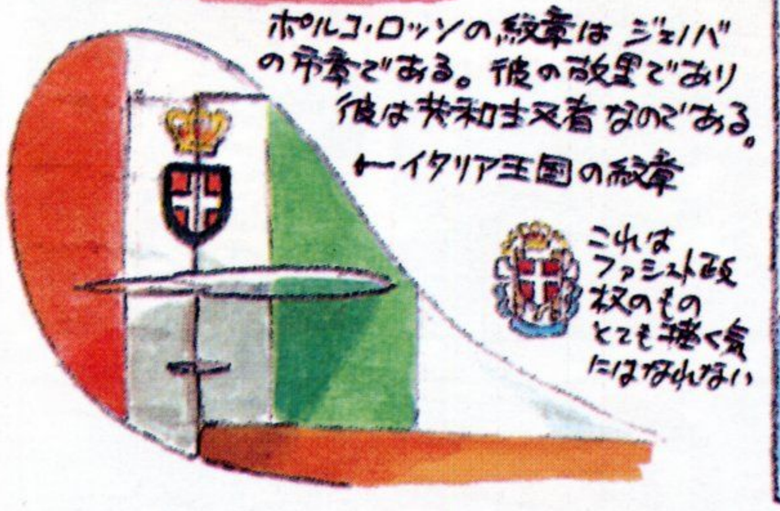


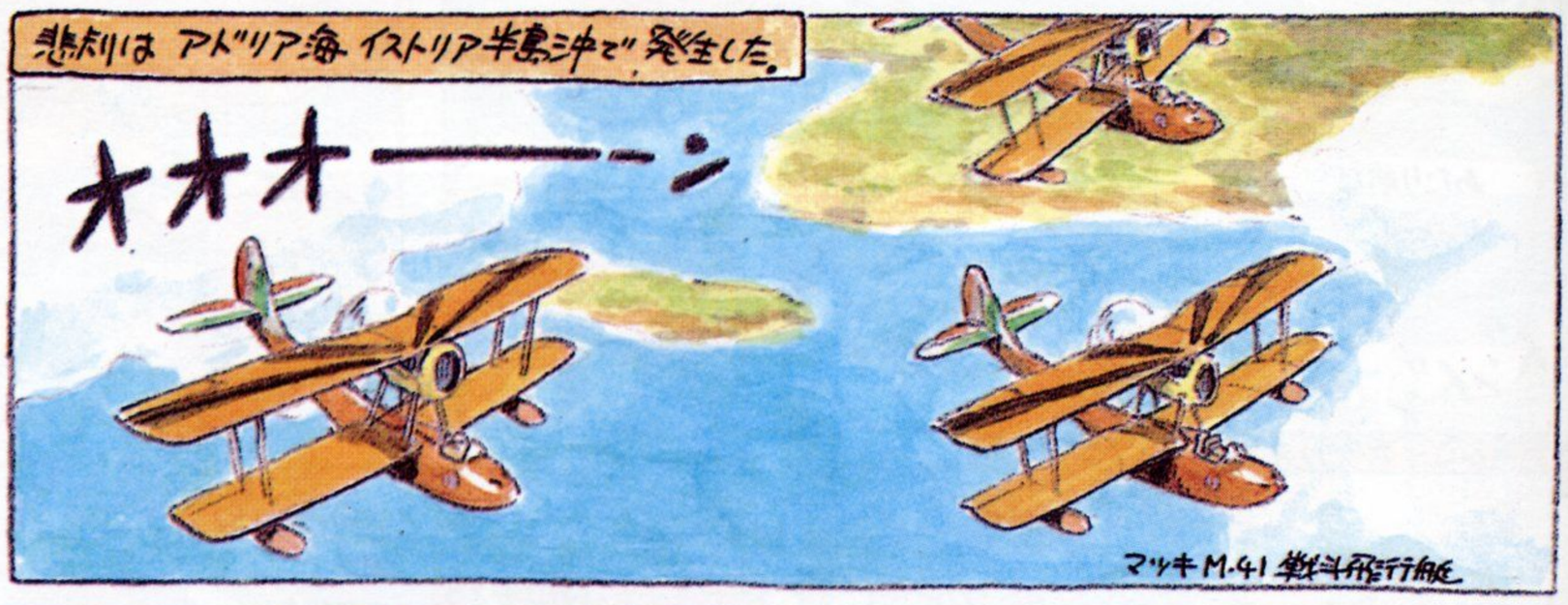

雑想ノート NO.15 HAYAO MIYAZAKI

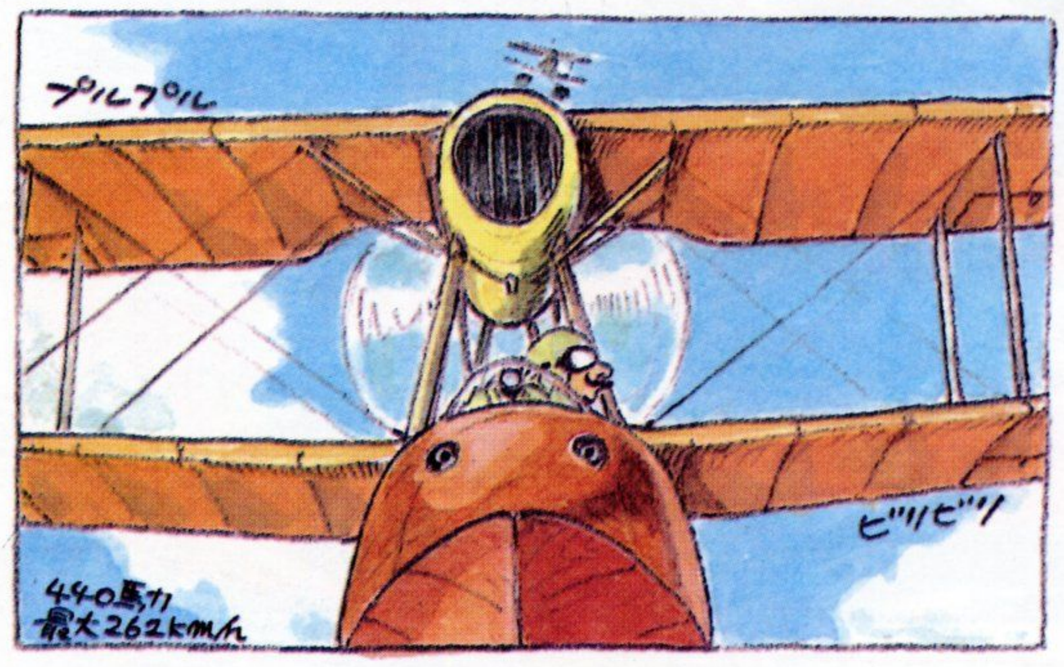
# 飛行艇時代

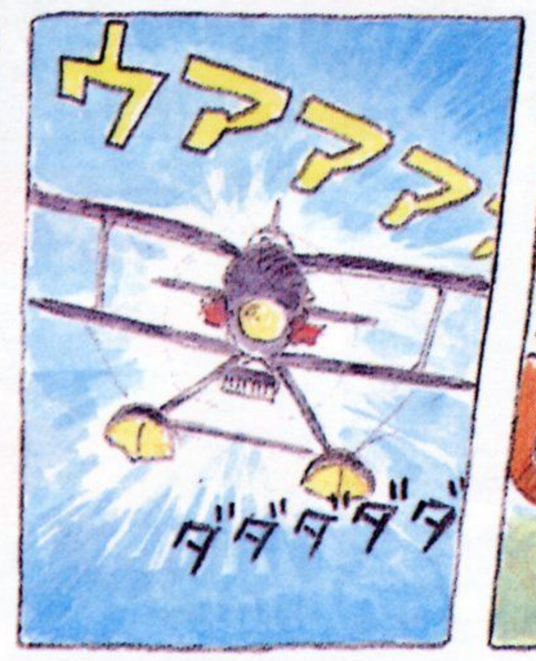
紅の豚シリーズ2

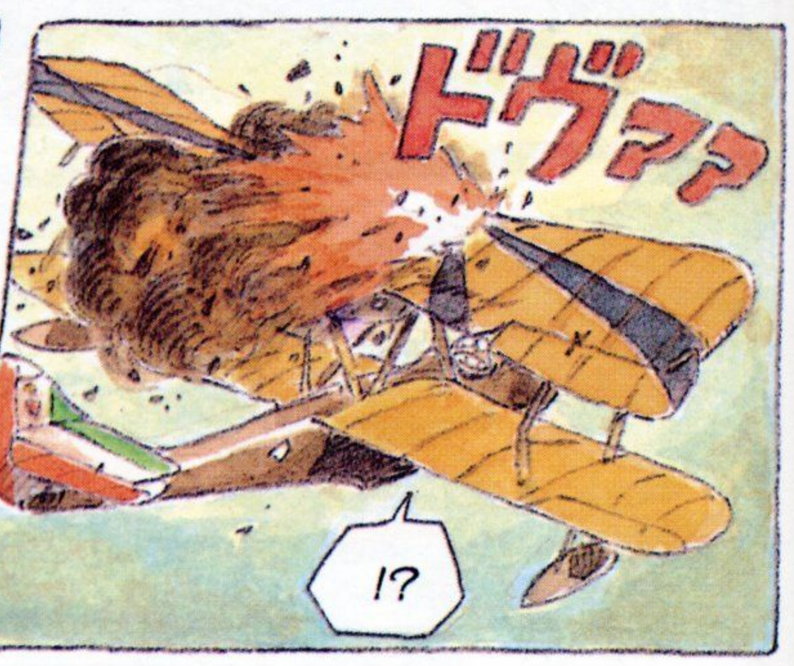


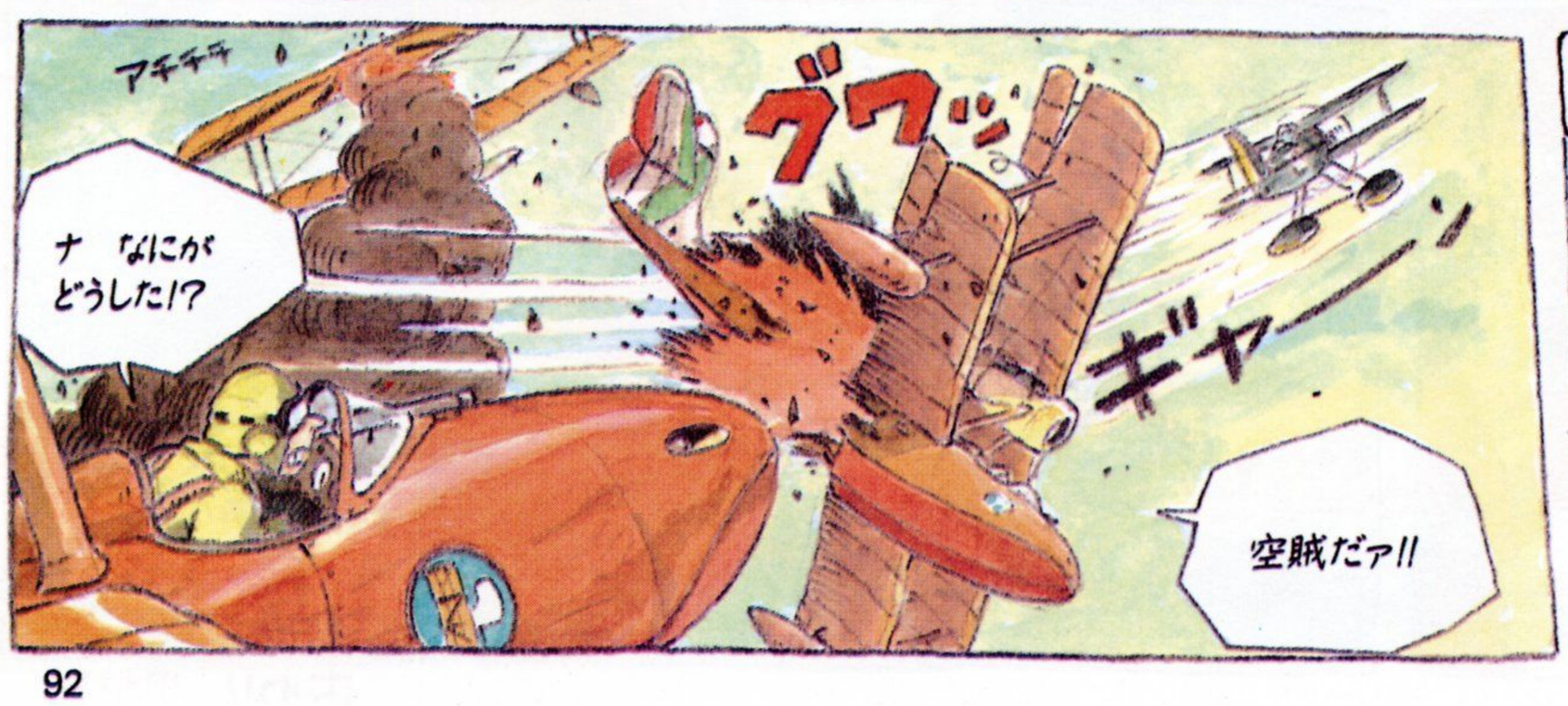


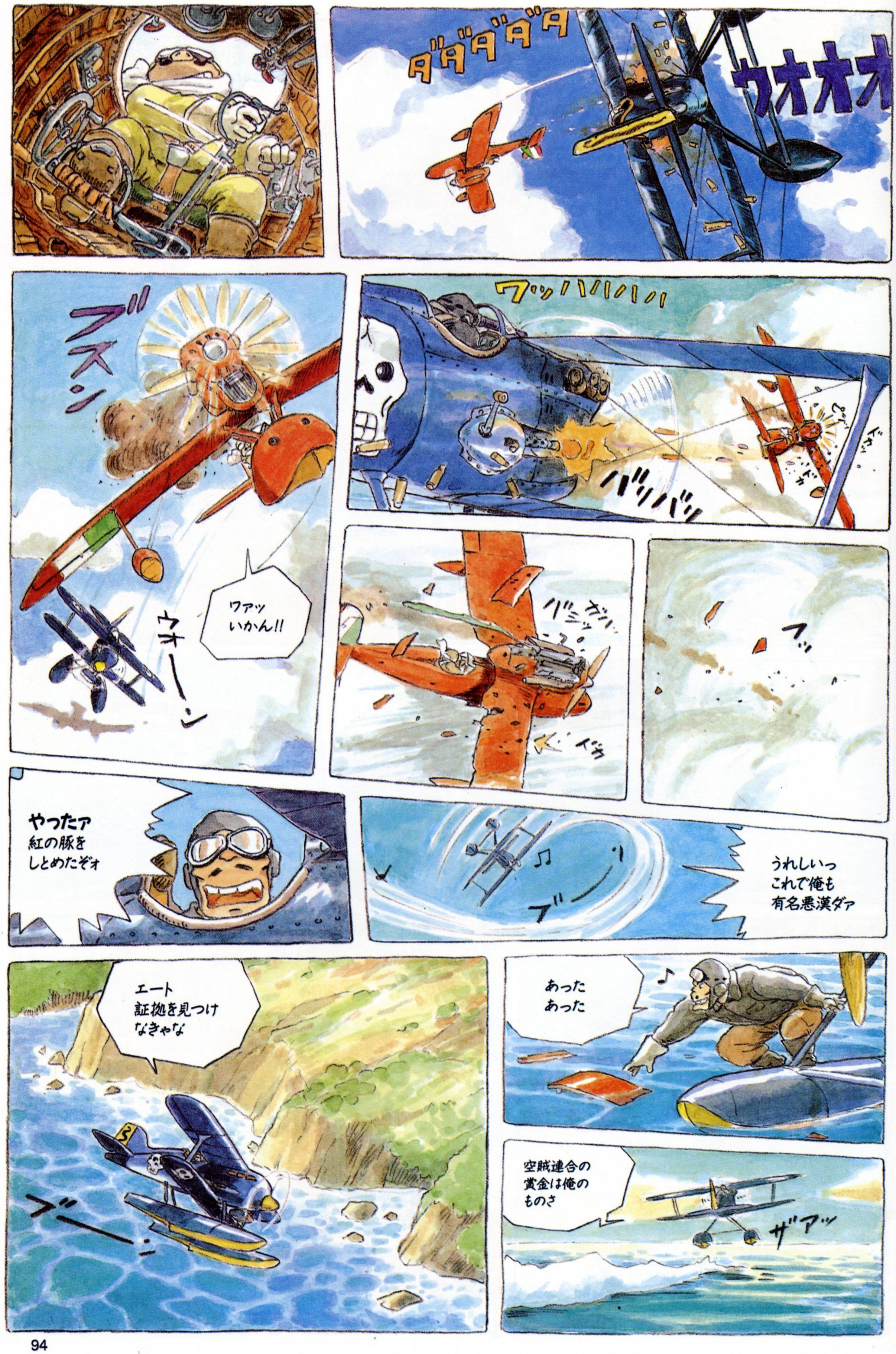



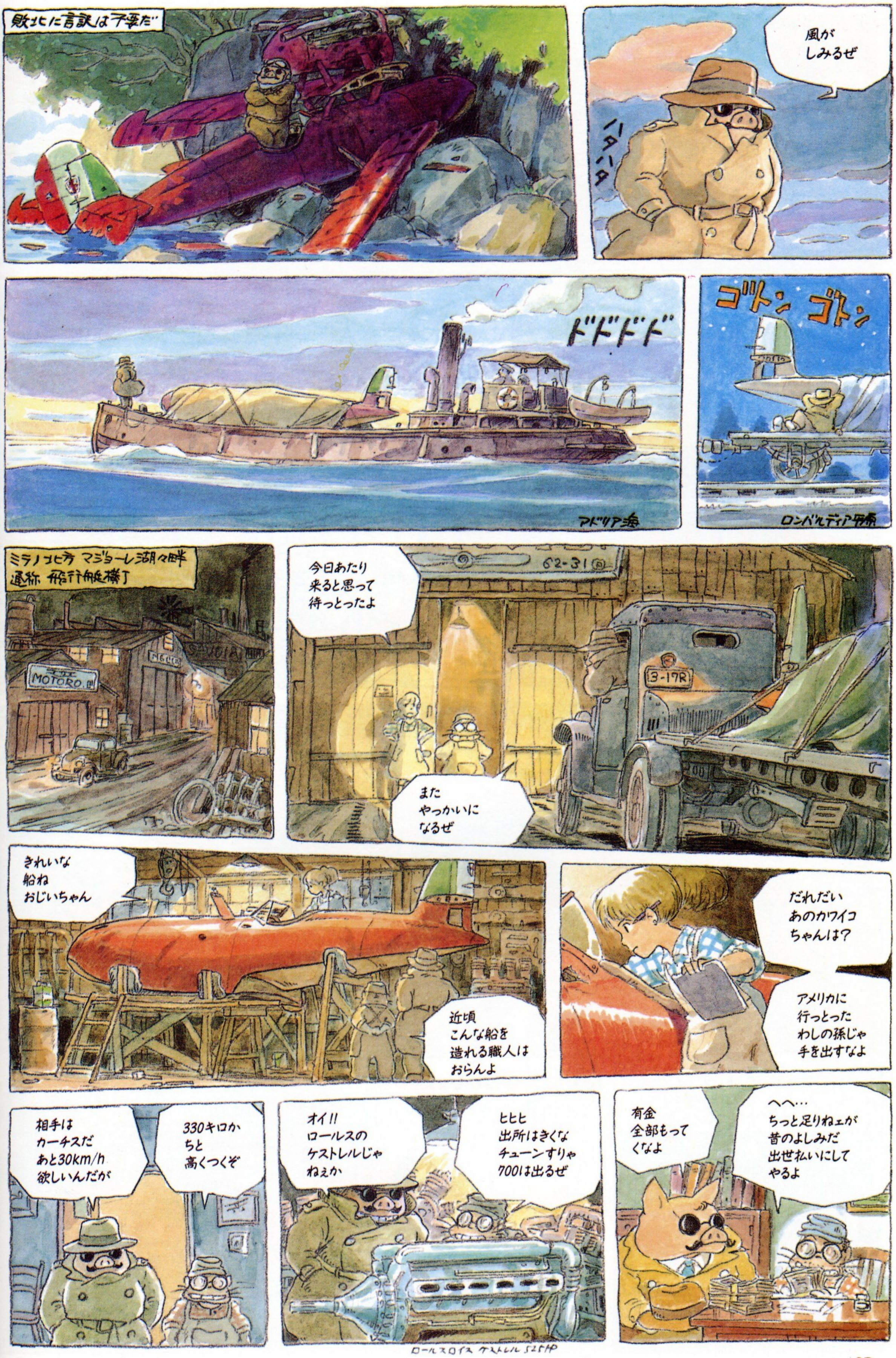



その頃
バ・バババババ
ブスン
バスン
ビハハ
エンジンを
オーバーホールせにゃ
イカンなぁ…
ついでに
パイロットの生命
の洗濯もするか
まっ白な
シーツ
美しい女達
ウヒョヒョ
ギュッ
ブルルン
ミラノまで
もってくれよ
エンジンちゃん
プーーーン
不時着にそなえて エンジンをだましだまし 高度を稼ぐ。雲高1500 ようやく雲の上に出る
ブッブーーン
ブスン
ブーーン
戦斗機乗りは、本能的に見張りを怠らない。特に太陽の中は…。
前上方の視界が ゼロに等しいのが、わが愛艇の最大の弱点なのだ。


ダダダダダ
ウオオオ
ブスン
ワァッ
いかん!!
ウォーン
ワッハハハハ
バッバッ
ドカッ
ドカ
ガシッ
バシッ
ドカ
フッ
やったァ
紅の豚を
しとめたぞォ
うれしいっ
これで俺も
有名悪漢ダァ
ブーン
エート
証拠を見つけ
なきゃな
ブーン
あった
あった
空賊連合の
賞金は俺の
ものさ
ザアッ


敗北に言訳は不要だ
風が
しみるぜ
ハタハタ
ドドドド
アドリア海
ゴトン ゴトン
ロンバルディア平原
ミラノ北方 マジョーレ湖々畔
通称 飛行艇横丁
MOTORO
今日あたり
来ると思って
待っとったよ
62-31
3-17R
また
やっかいに
なるぜ
きれいな
船ね
おじいちゃん
近頃
こんな船を
造れる職人は
おらんよ
だれだい
あのカワイコ
ちゃんは?
アメリカに
行っとった
わしの孫じゃ
手を出すなよ
相手は
カーチスだ
あと30km/h
欲しいんだが
330キロか
ちと
高くつくぞ
オイ!!
ロールスの
ケストレルじゃ
ねえか
ヒヒヒ
出所はきくな
チューンすりゃ
700は出るぜ
ロールスロイス ケストレル 525HP
有金
全部もって
くなよ
へへ…
ちっと足りねェが
昔のよしみだ
出世払いにして
やるよ

新聞は空賊の新しいエースの記事で埋められていた。

……

ポルコロッソはいずこ？

白いシーツ
美しい女達…

おはよう
眠れた？

あんた
徹夜したのか!?

どうかしら？

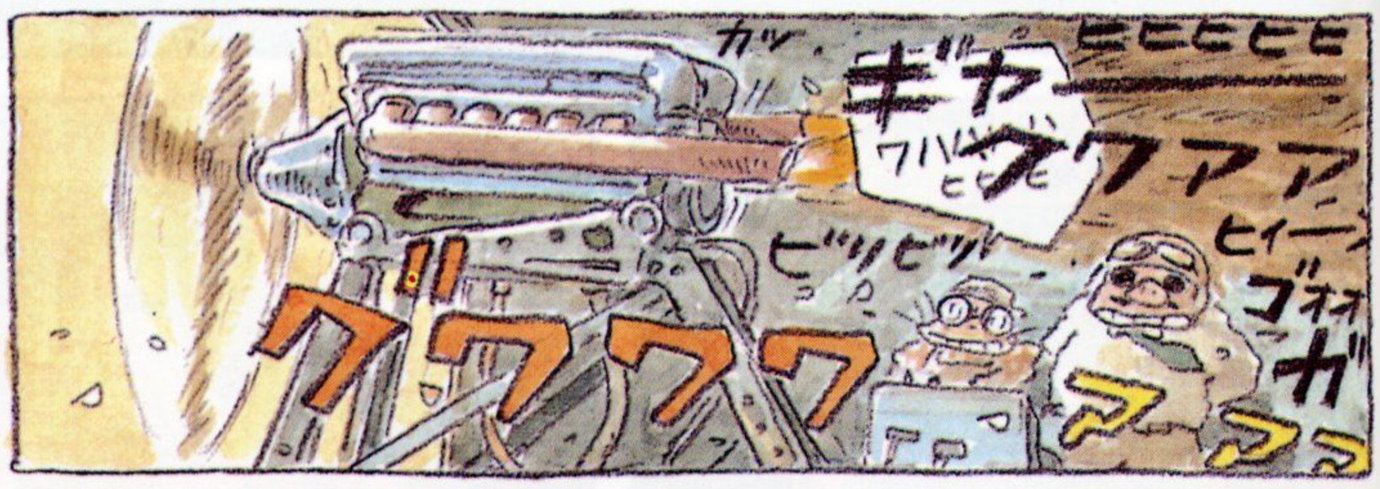
新しい
翼断面にしたの
15%は抵抗が
減るはずよ

この娘
できる!!

金属モノコック
ならイイんだけど

冗談じゃねぇ
金属のヒコーキに
乗る位なら
死んだ方がましだ

そんな事いってるから
イタリアの男は
戦争に弱いのよ



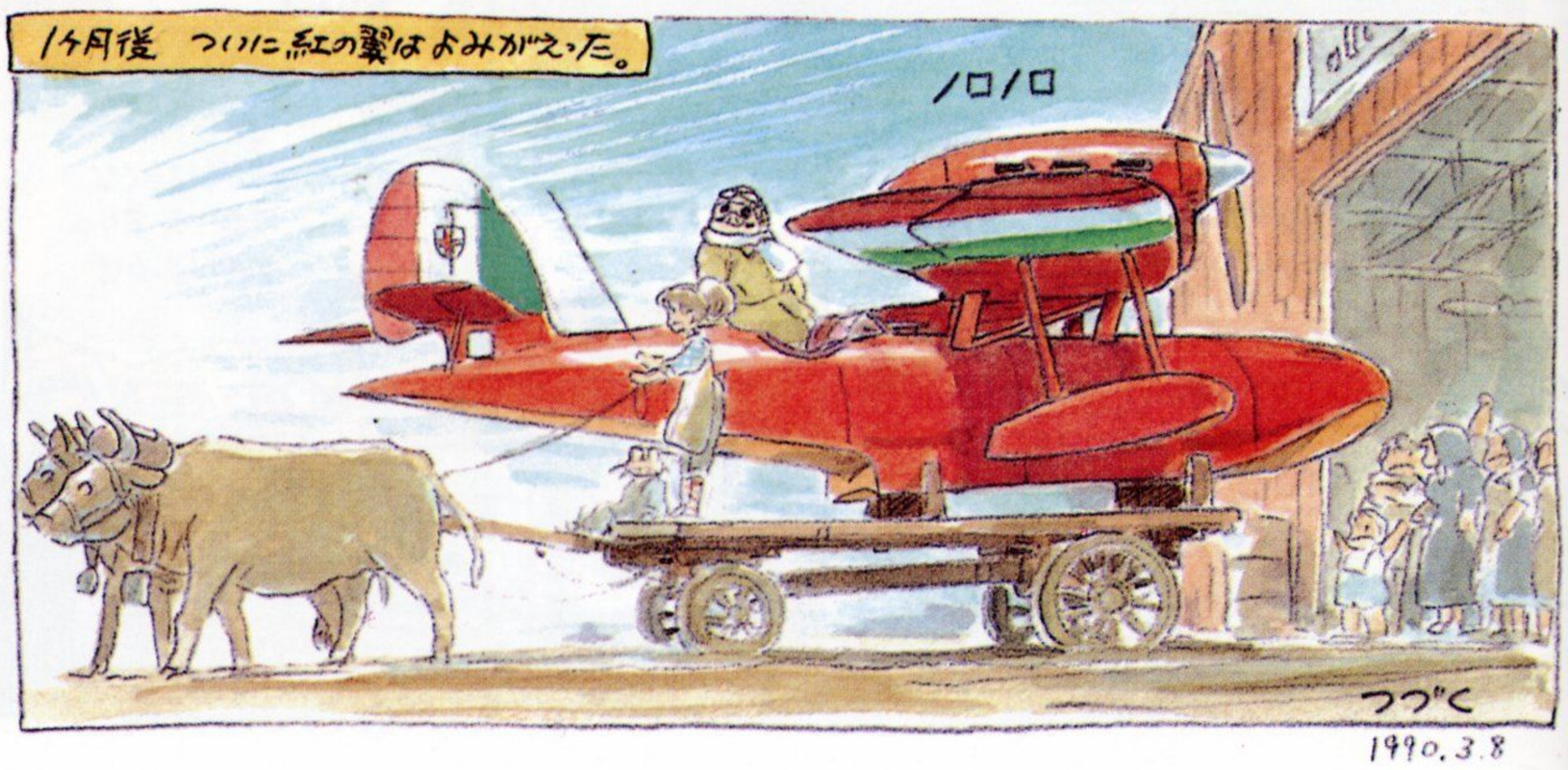

イタリア人が怠け者だというのはとんでもないデマだ。一族だけの家内工場だと盛烈に働くのだ。

それにまた一族の数がやたらに多いのだ

あの時のフィオ（娘の名だ）の働きを思い出すと、今でも胸があつくなる。しかし、それを語るにはあまりに頁数が足りない。

私は誓ったのだ。勝とう、必ずや米人ドナルド・チャックのカーチスに勝とう…と。フィオの為にも、イタリアの男の為にも

1ヶ月後　ついに紅の翼はよみがえった。




1990.3.8

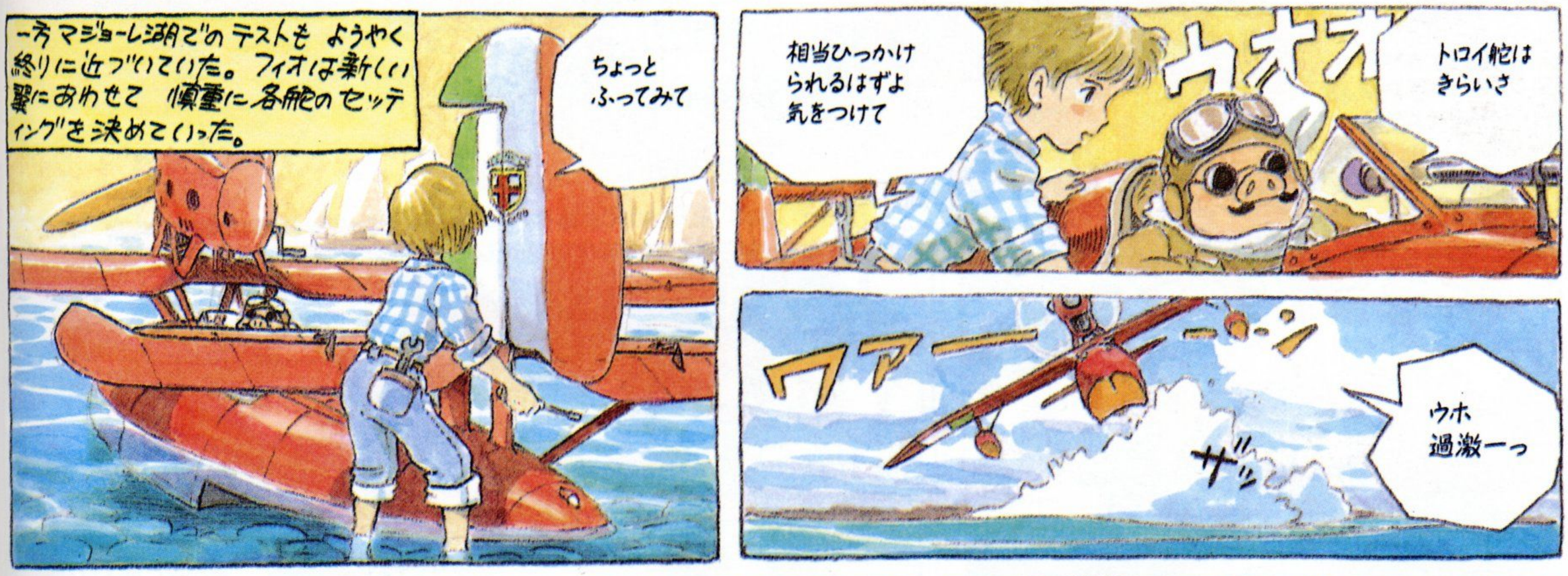
1929年の7月は空賊の夏と呼ばれた。イタリアとバルカン諸国の政情不安の間隙をつき ドナルド・チャックあやつる新鋭カーチスの掩護を得た空賊群は アドリア海からティレニア海にまで進出 稼ぎまくったのである。 ポルコ・ロッソ

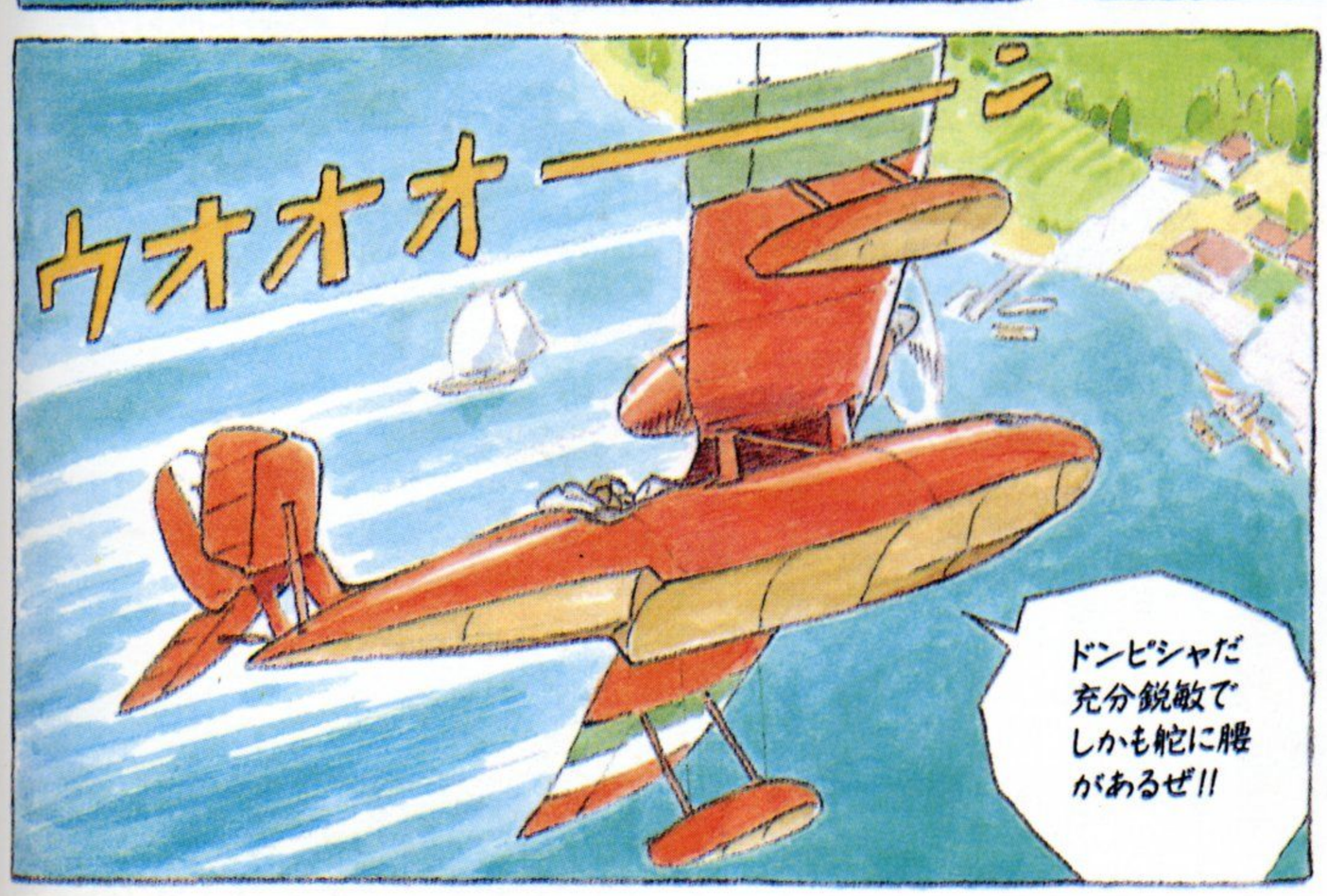
雑想ノートNO.16

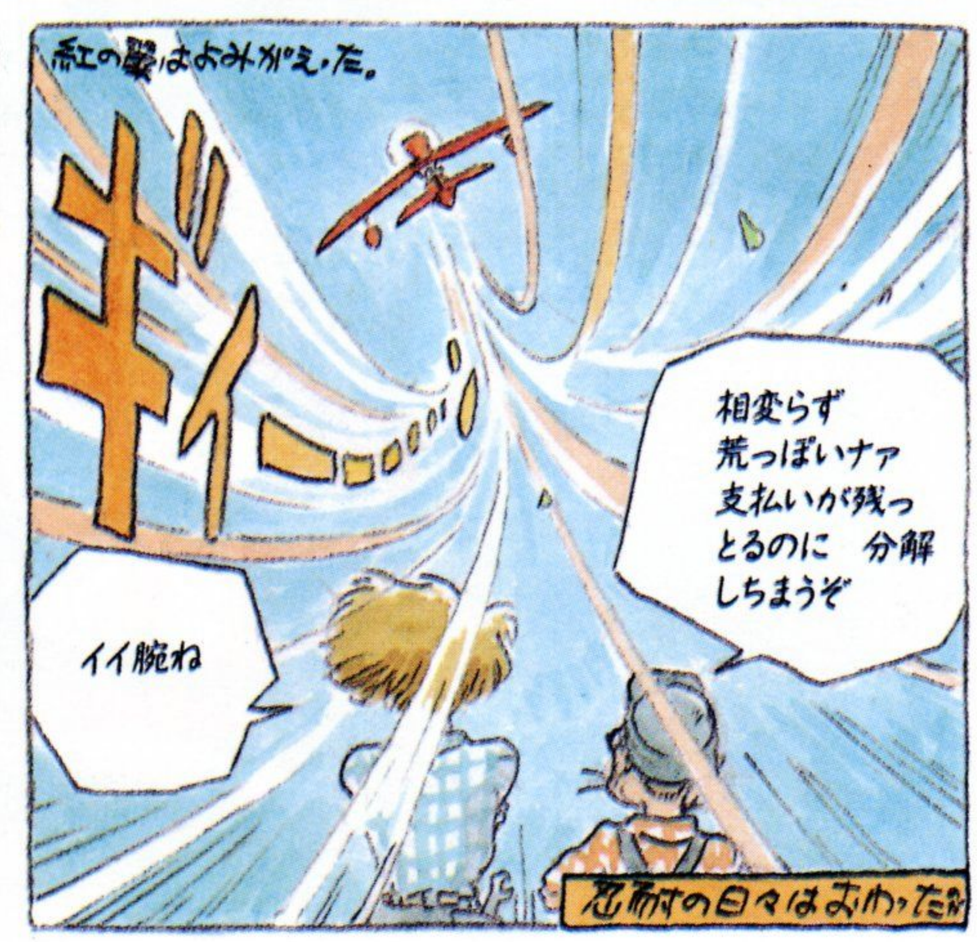
by MIYAZAKI HAYAO

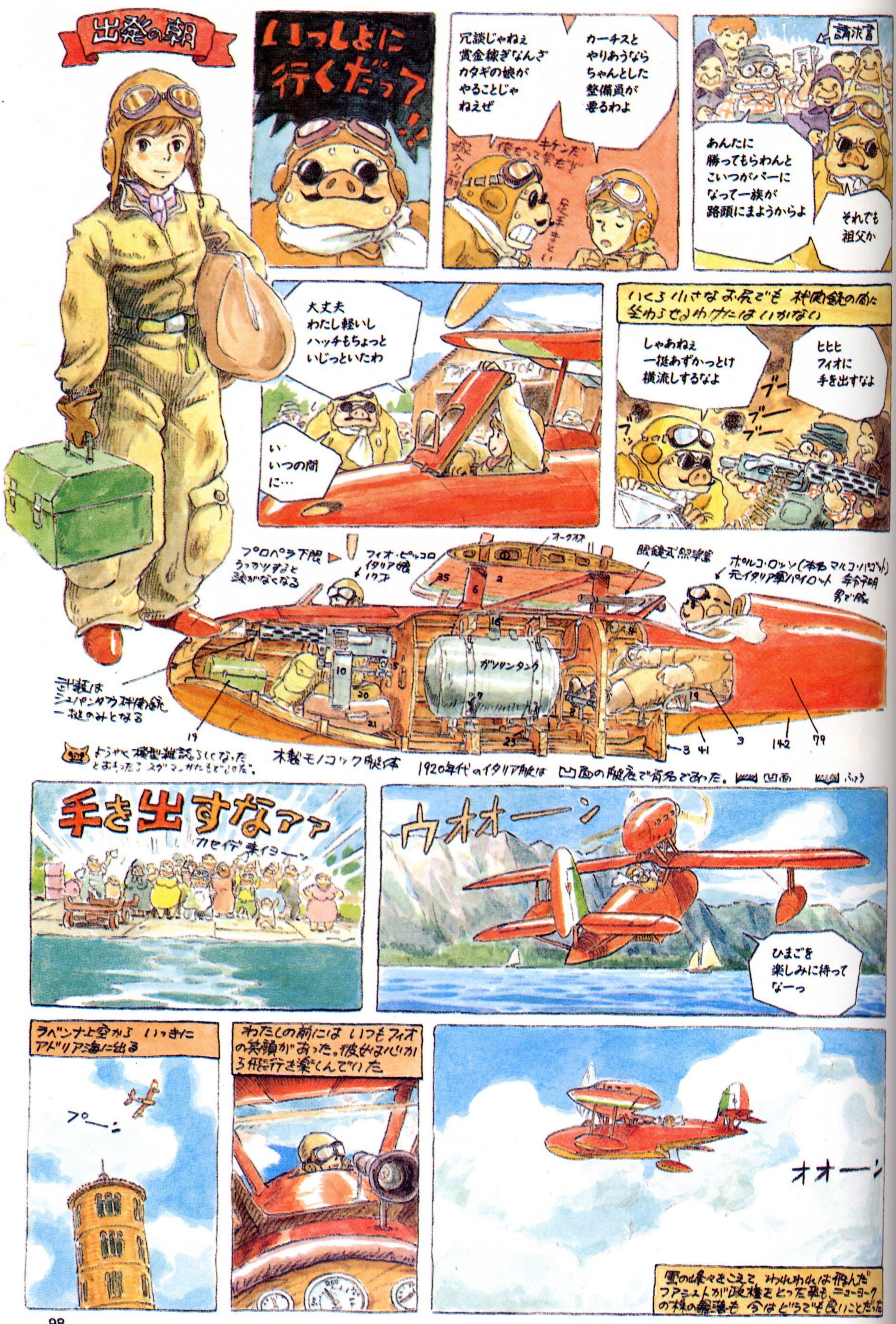
# 飛行艇時代

ポルコ・ロッソ
紅の豚シリーズ
最終回です
ホントッ???



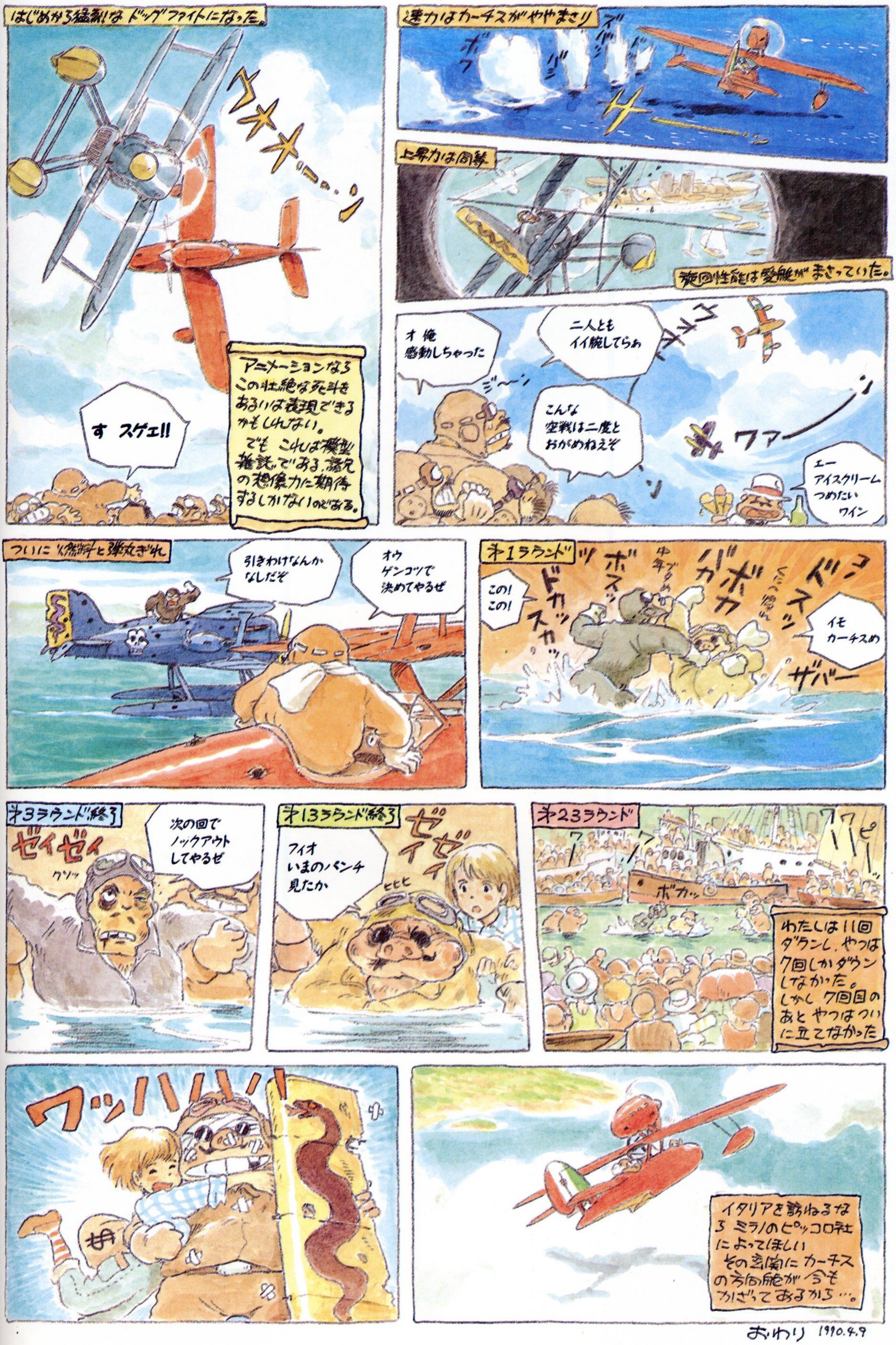




出発の朝
いっしょに行くだっ？!!
冗談じゃねぇ 賞金稼ぎなんざ カタギの娘が やることじゃ ねえぜ
カーチスと やりあうなら ちゃんとした 整備員が 要るわよ
キチンだ 俺だって男だぞ
請求書
あんたに 勝ってもらわんと こいつがパーに なって一族が 路頭にまようからよ
それでも 祖父か
大丈夫 わたし軽いし ハッチもちょっと いじっといたわ
い いつの間 に…
いくら小さなお尻でも 機関銃の間に 坐わらせるわけにはいかない
しゃあねぇ 一挺あずかっとけ 横流しするなよ
ヒヒヒ フィオに 手を出すなよ
ブー ブー ブー
プロペラ下限 うっかツすると 頭がなくなる
フィオ・ピッコロ イタリア娘 17才
オークスオ
眼鏡式照準器
ポルコ・ロッソ(本名マルコ・パゴット) 元イタリア軍パイロット 年令不明 男で豚
ガソリンタンク
計器は シュパンダウ機関銃 一挺のみとなる
ようやく模型雑誌らしくなったとおもったら スグマンガたもどしのだ。
木製モノコック艇体
1920年代のイタリア艇は 凹面の艇底で有名であった。
凹面
ふぅう
手を出すなアァ
カセイデ来イヨーッ
ウオオーン
ひまごを 楽しみに待って なーっ
ラベンナ上空から いっきに アドリア海に出る
プーン
わたしの前には いつもフィオの笑顔があった。彼女は心から飛行を楽しんでいた
オオーン
雲の峰々をこえて、われわれは飛んだ フアシストが政権をとった事も、ニューヨークの株の暴落も 今はどうでも良いことだった

給油によったコルナ島でいやなニュースをきいた
ユーゴの国王がよ 空賊と密約したらしいぜ 歩合をとって黙認するって噂だ
空賊狩りをやっても賞金は出ねぇぜ
イタリアのムッソリーニと同様ユーゴでもアレクサンドルというロクでもない男がクーデーターで独裁者になったばかりであった。この数年後にはヒットラーがのし上って来る。イヤな時代になったぜ
ステキなかくれ家ね
まってたぜ紅のブタ野郎
ゾロ
カワイイねぇちゃん♥
ゴミゾロ
モワ〜
時代は変わったのだ お前の負けだ
また きたねえのが 沢山出てきやがったな
(紙数のせいで省略)
どうせ決り文句だ
やつの飛行艇をタタキわっちまえ!!
チャカガン にしなさい
あなた達それでもイタリアの飛行艇乗り!?
アメリカのカーチスに助けてもらってよく平気ね!!!
ポルコ・ロッソはイタリア艇の誇りと名誉のためにカーチスと一対一の戦いに来たのよ
おまけにお風呂に入ってないでしょう歯みがいた?
お母さんがきいたらきっと泣くわ!
おもしれえ話にのるぜ
サッソウ
ドナルドチャックとは俺のことさ
クソッもっとコマをでかくしろ
オッ イイゾどアップ
俺が勝ったらあんたをもらうぜ
フキ出しがちいせえなァ
バサッ
ポルコが勝ったらこの請求書は あなたが払うのよ
アッケ…
か かおが……
たちまちルールと日どりが決められ空賊共はひきあげていった。夜テントはくさいので野宿になった
フィオねむれねぇのか?
請求書を水増ししとけばよかったね損しちゃった
ハハハちげえねえ
やがてフィオは安らかな寝息をたてたイイ子だ ほんとにイイ子だぜ

当日 スカファ諸島は 大変なにぎわいになった。地中海中から 空賊、海賊、ギャング、密輸団が あつまっちゃったのである。近所の村の連中も家族づれでやって来る始末
ワーン
ワーン
ワーン
ワワー
今でも この日のにぎわいは アドリア海沿岸で語りつがれているのである。
フィオの人気はたいしたものだった。みんなが一緒に写真をとりたがり空賊共する歯をみがいて来たのだ。
オスナ
イタリアの転人とフィオのために
完璧な信頼
全世界の悪漢のために
アリゾナのママまっててくれよ イタリア娘の嫁っ子を連れて帰るからよ
ドバババ
クワーン
バリバリ
ウオオオオ


はじめから猛烈なドッグファイトになった。
ウオオ…ン
アニメーションなら この壮絶な死斗を あるいは表現できる かもしれない。 でも これは模型 雑誌である。諸兄 の想像力に期待 するしかないのである。
す スゲェ!!
速力はカーチスがややまさり
ボフ
バシ
ズバシ
ドッ
ザ
上昇力は同等
旋回性能は愛艇がまさっていた。
オ俺 感動しちゃった
二人とも イイ腕してらぁ
ジ〜ン
こんな 空戦は二度と おがめねえぞ
ウオオ
ワア
エー アイスクリーム つめたい ワイン
ついに燃料と弾丸ぎれ
引きわけなんか なしだぞ
オウ ゲンコツで 決めてやるぜ
第1ラウンド
この! この!
ドカッ
スカッ
ボスッ
中年ブタめ
バカ
ボカ
くたへ帰れ
ドスッ
イモ カーチスめ
ザバー
第3ラウンド終了
ゼイゼイ
クソッ
次の回で ノックアウト してやるぜ
第13ラウンド終了
フィオ いまのパンチ 見たか
ゼイゼイ
ヒヒヒ
第23ラウンド
ワーワー
ワーワーピーッ
ボカッ
わたしは11回 ダウンし、やつは 7回しかダウン しなかった。 しかし 7回目の あとやつはつい に立てなかった
ワッハハハ
イタリアを訪ねるなら ミラノのピッコロ社 によってほしい その玄関にカーチス の方向舵が今も かざってあるから…。

おわり 1990.4.9

Hayao Miyazaki's Daydream note

第13話

# 豚の虎

第2次世界大戦の陸の王者、

ドイツのティーガー戦車には、

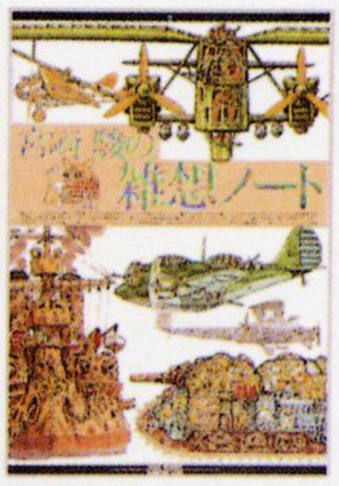
天才科学者ポルシェ博士が作った

弟分が存在した。

だが、その厄介な構造ゆえにトラブル続出！

整備兵ハンスは、脆弱な鋼鉄の虎の

故障と戦い続けるハメに…。



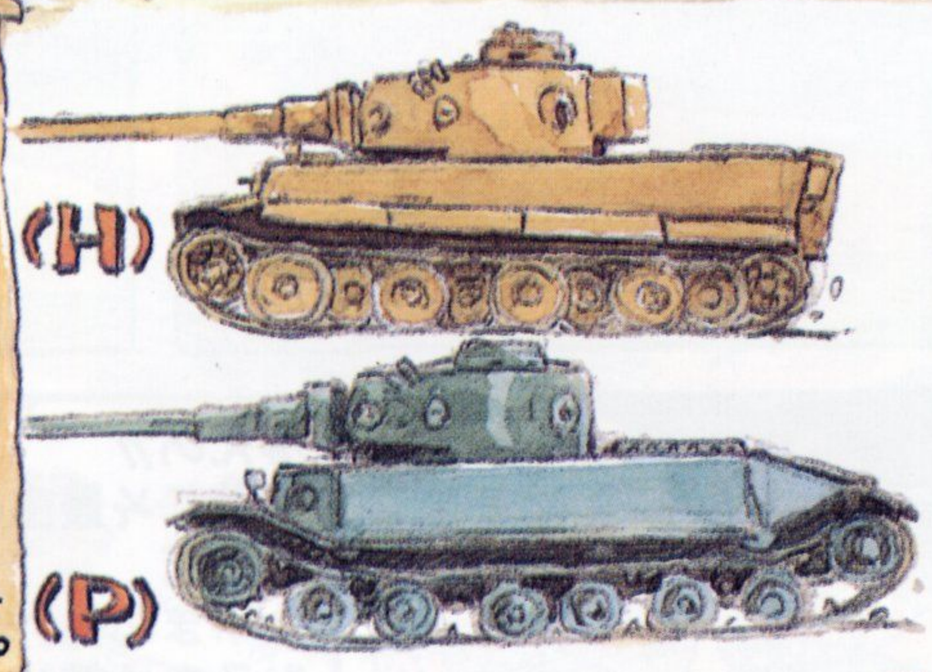

初出：『宮崎駿の雑想ノート』初版本1992年12月発行
（描き下ろし作品、執筆・1992年10～11月）

# 豚の兵

## 雑想ノート

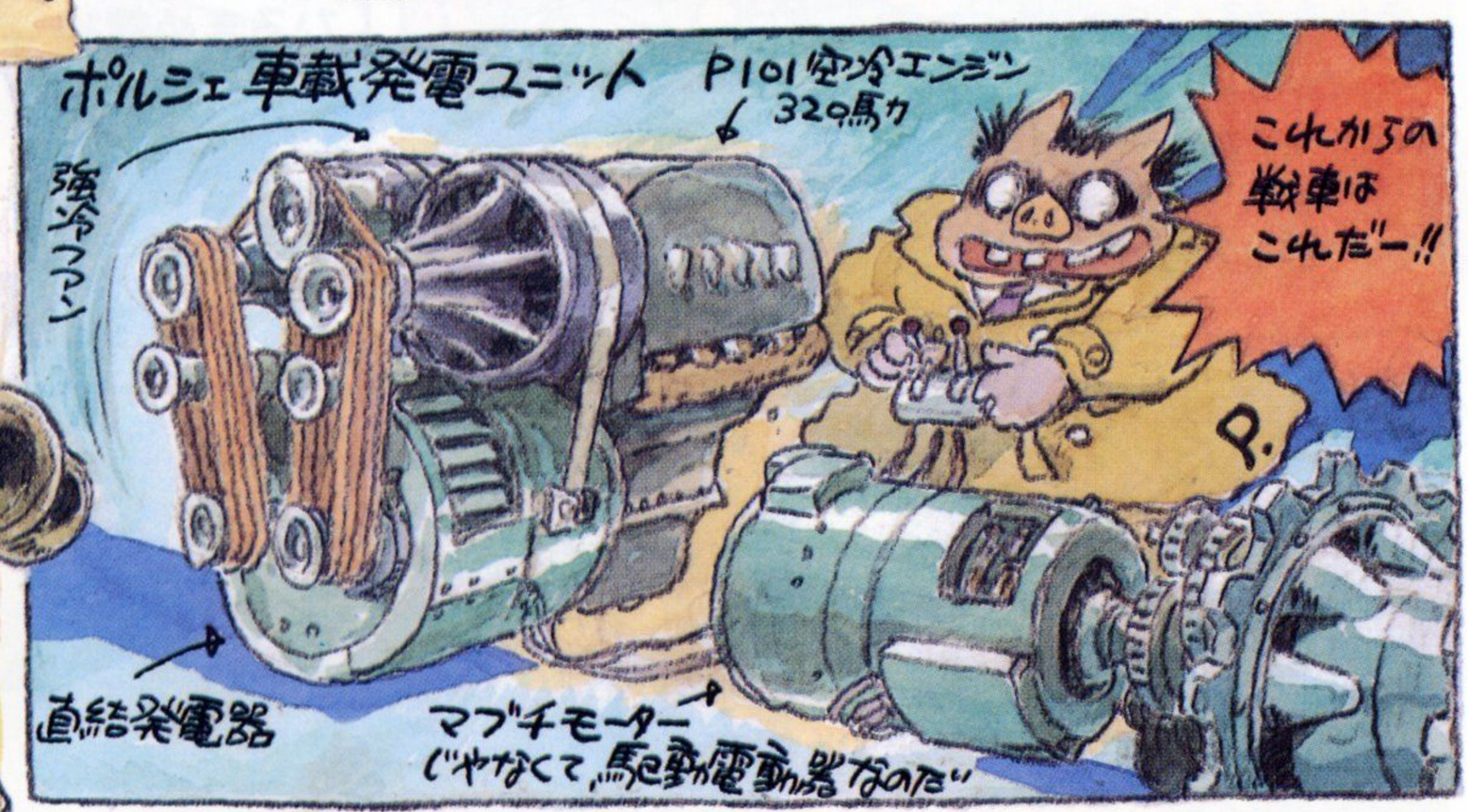
生玉子にのった鋼鉄の塊——それがドイツ重戦車群だった。この怪物達は動くだけで壊れるようにできていた。強力な火力と装甲の大重量が、デリケートな機関と足まわりにすべてしわよせされ、すぐ過熱し焦げ、ちぎれ、はずれ、すりきれ、埋まりこんだのである。ドイツ重戦車の戦史は重労働と忍耐の物語そのものであった。

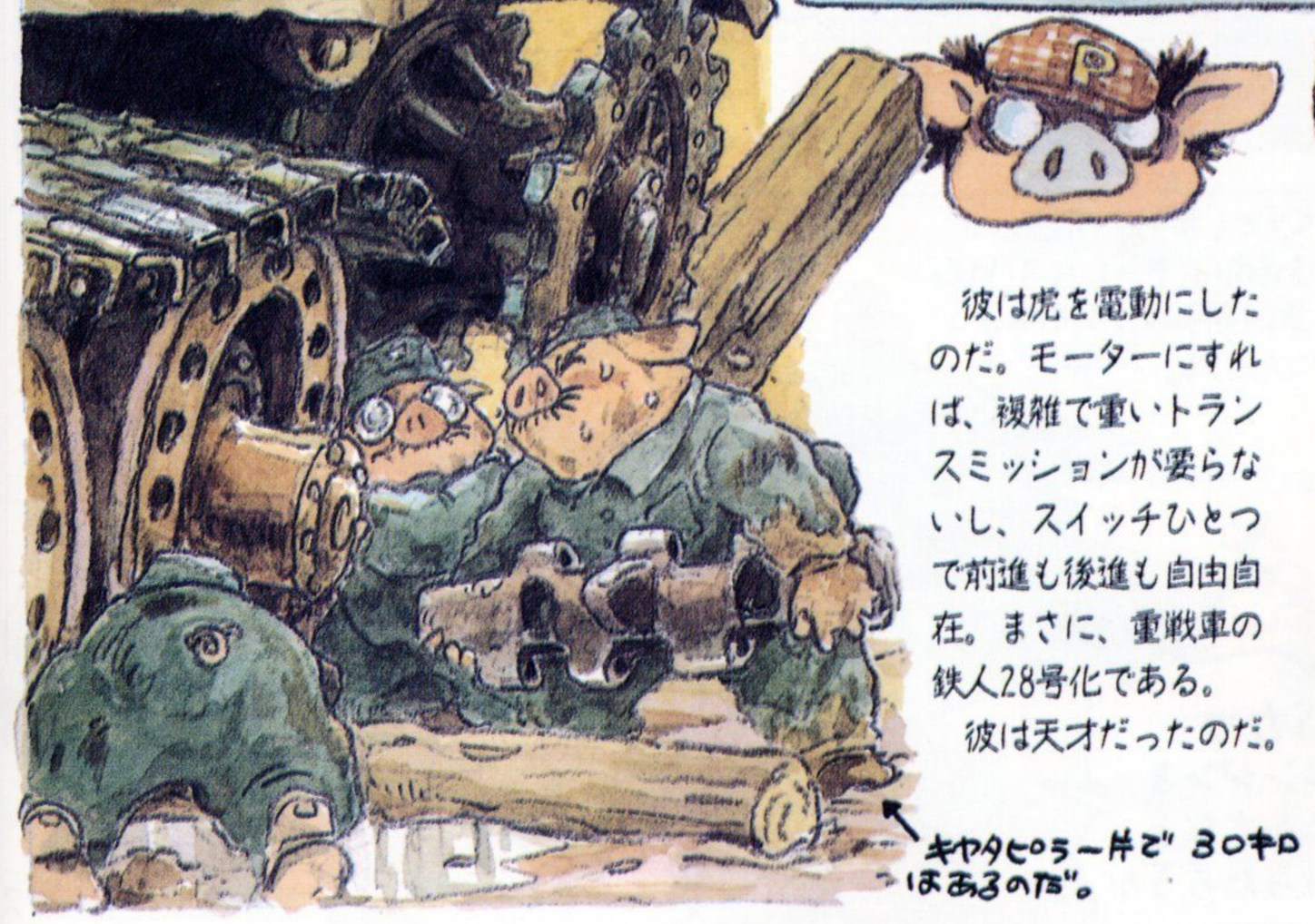
兵長ハンス




ドイツには、2種類の虎がいた。ひとつはヘンシェル社の有名な虎で、VK4501(H)。こいつは1300輌つくられ、ドイツ重戦車のシンボルとなった。

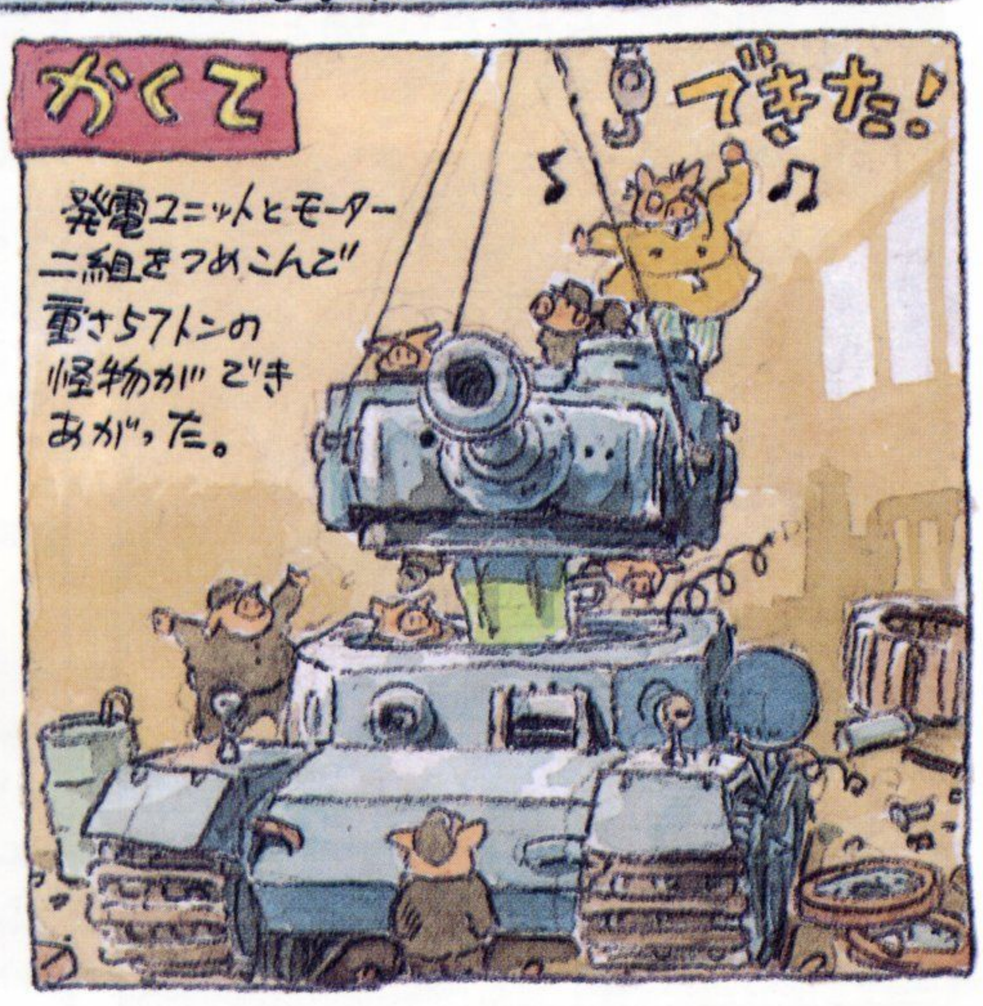
もうひとつは、超独創的デザイナー、ポルシェ博士の虎、VK4501(P)。例によって、天才博士の道楽の産物だった。

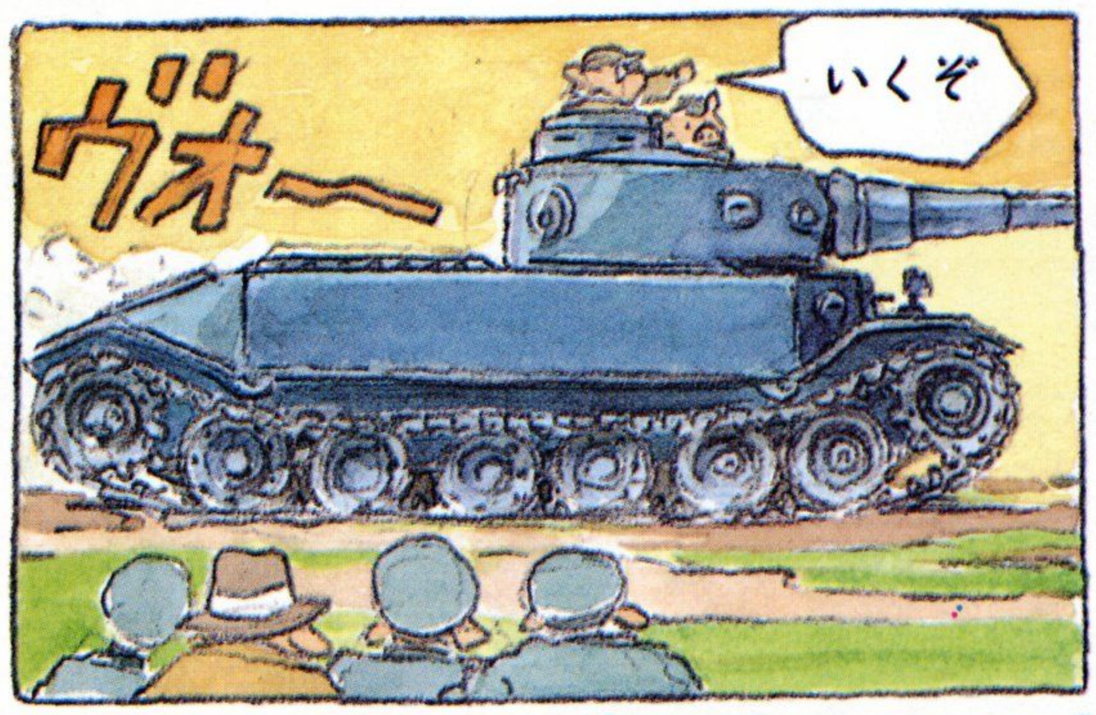


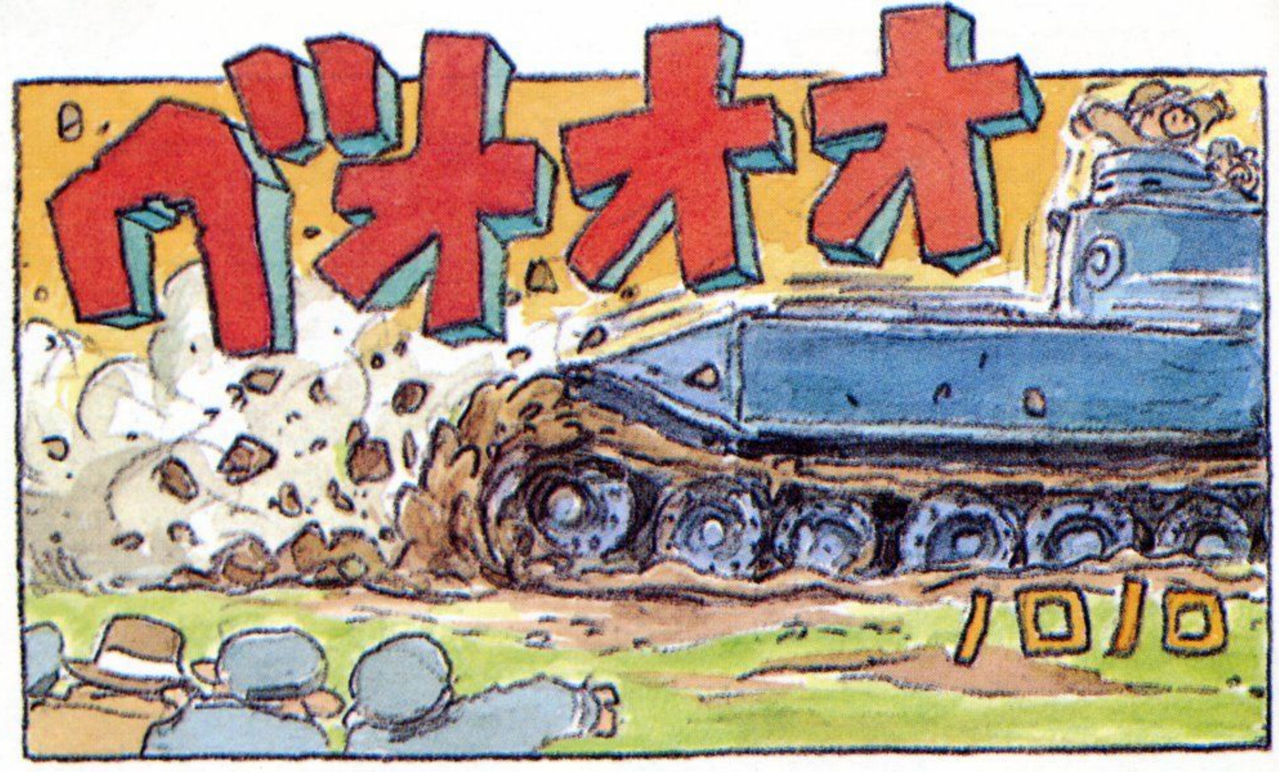



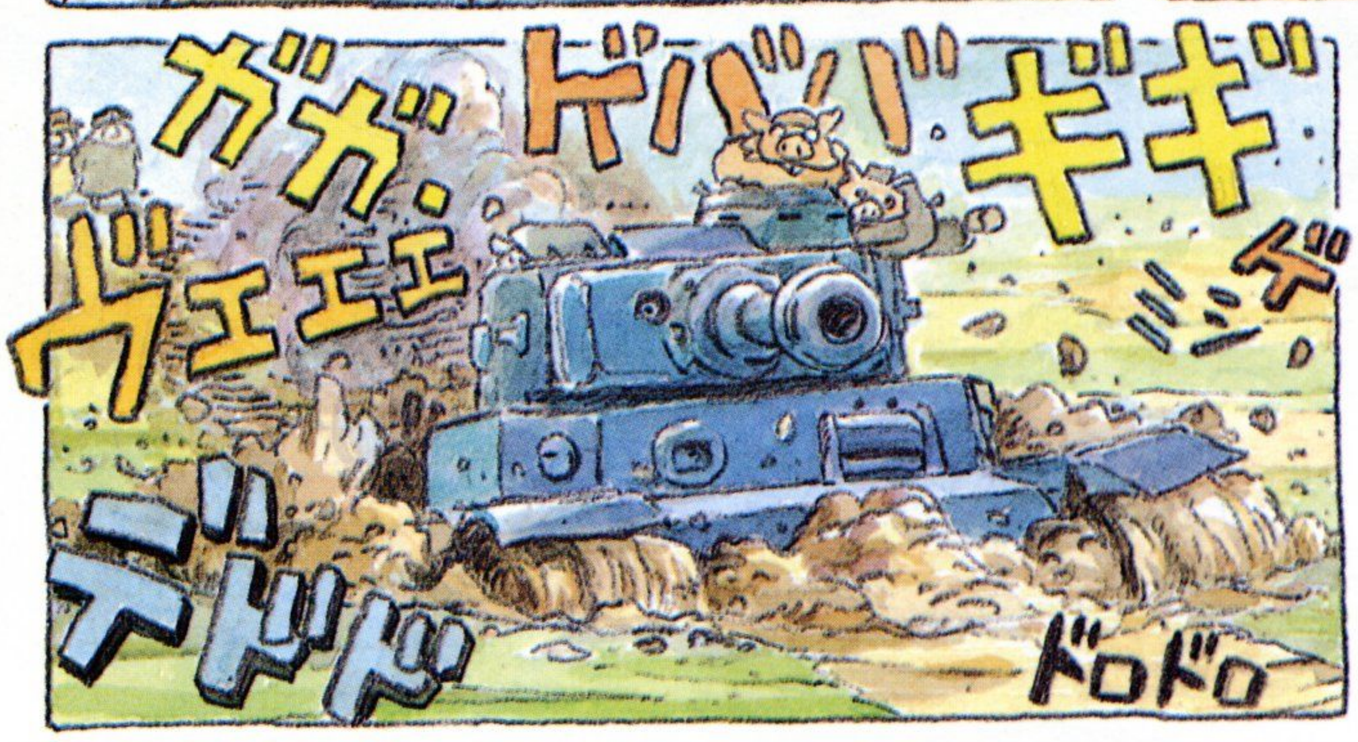

彼は虎を電動にしたのだ。モーターにすれば、複雑で重いトランスミッションが要らないし、スイッチひとつで前進も後進も自由自在。まさに、重戦車の鉄人28号化である。

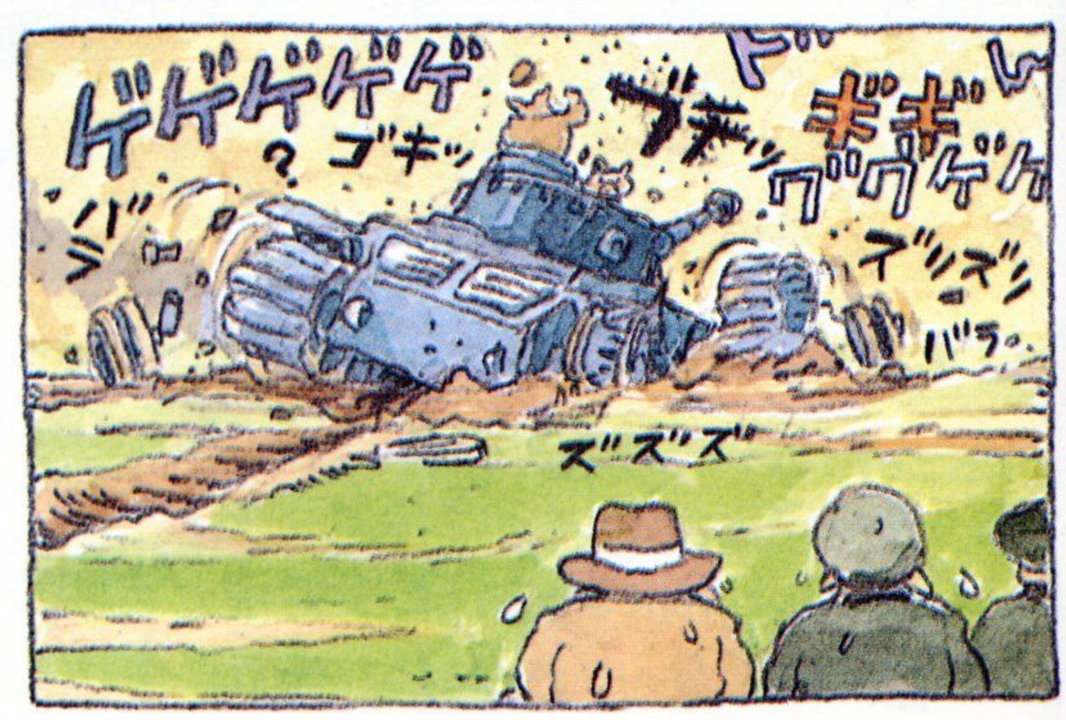
彼は天才だったのだ。

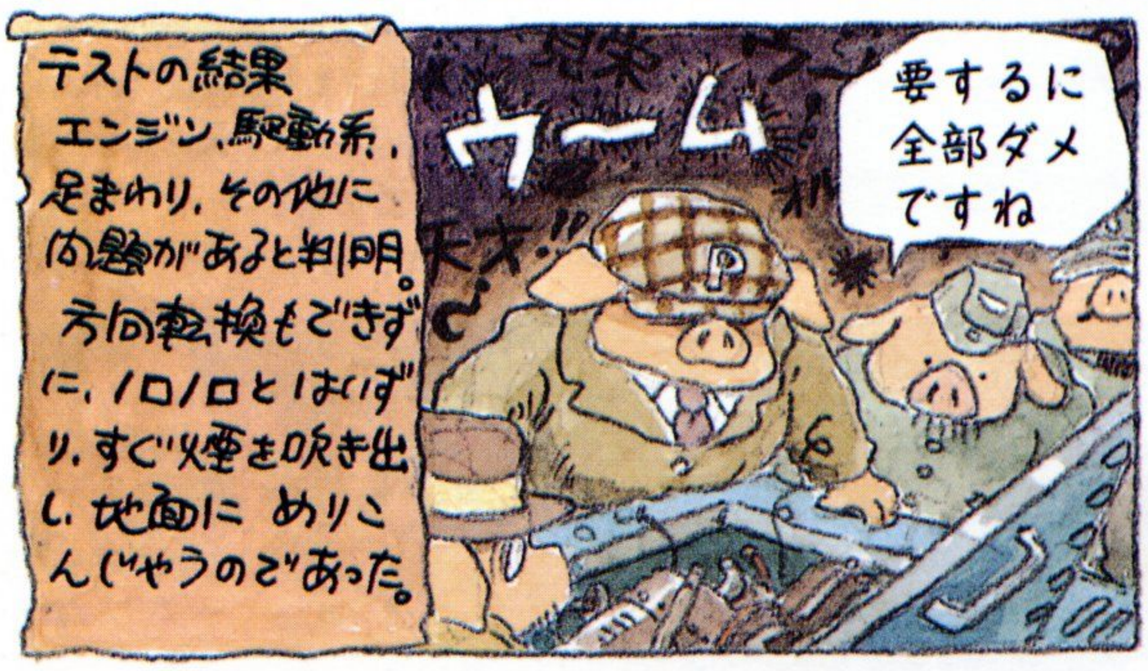


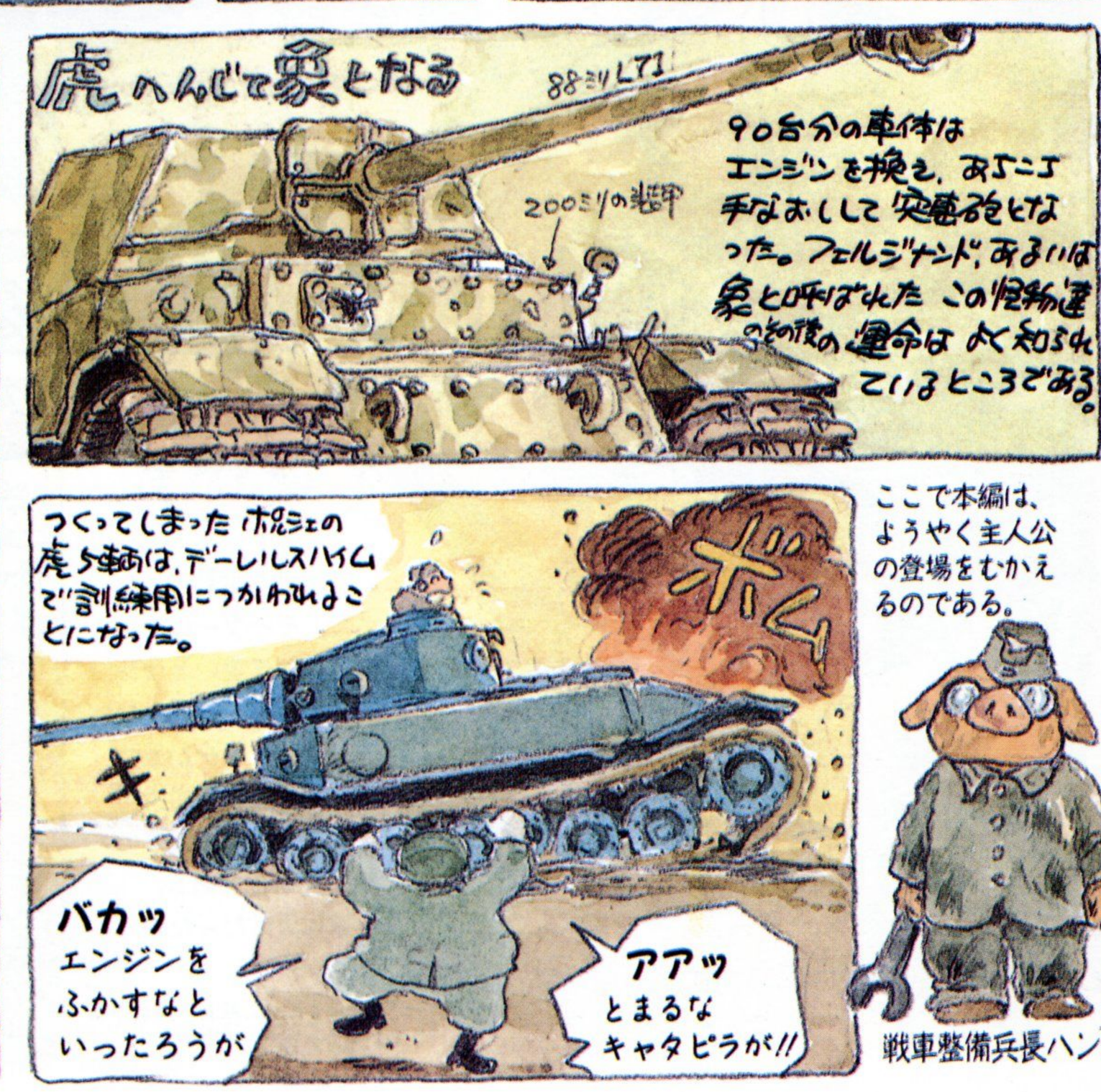





ここで本編は、ようやく主人公の登場をむかえるのである。



戦車整備兵長ハンス

ポルシェの虎は、応急修理の訓練には充分役立った。

ハンス まだか!? 日がくれるぞ

アアデモナイ

コーデモナイ

グズ

重戦車の整備はセッカチな奴にはむかない

グズ

どのパーツをとっても、死ぬほど重いのだ。象がメのごときテンポの持主でなければならない

モソ

あっ そうか… ここだ

なおりましたよ アレッ!? みんなねてらぁ…

ハンスの努力でP虎はすこ〜しづつ動くようになっていった。おどろくべく、ドイツ整備兵の力!!!!

コラッ ブレーキふむな こわれものだぞ 気をつけろ

重戦車教育学校教官 ドラニシ予備大尉 開戦で現役復帰したオヤジ

ゴゴゴゴゴゴ

走るな ソ〜〜ッと動け

AGV以来の生残りはオレだけだ

ズリズリ

# P虎（ポルシェ ティーガー） 57トン

使いにくいナァ〜

後輪駆動のP虎は、他のドイツ戦車にくらべ、砲塔が前へせり出している。変速器がないためだが、その為に車体上部にハッチがなく、側面に円形ハッチをつけていた。しかし……

砲塔はヘンシェルの虎にも使われたが、P虎のものは、天井に妙なでっぱりがあり、全体がペッタンコである。

100ミリ

装甲100ミリ

P101エンジン
この空冷V型10気筒の不調が致命的だったハンスは圧縮比を下げ、馬力を低下させてなんとか安定性を向上させた。

88ミリ L56砲

25ミリ

80ミリ

20ミリ

80ミリ装甲

排気

力不足の駆動モーター

熔接しちゃうんですか?

かまわん 耐弾能力が先だ

60ミリ

80ミリ

で、前席の二人は砲塔から出入りするしかなくなった。P虎が戦闘時以外は砲身をいつも後へむけているのはその為である。

路上最高速 25km/h!! (但、これだけ出すとこわれる)

このサスはヘンシェル虎のものより半分の手間でつくれた

後輪駆動の輪はキャタピラのまき上げる石コロをかみやすい それで爪を一方向きに直した。象も同じである。

てきとうにかいた歯車

P虎は使える 使えるようにした AGVよりは よっぽどましだ

連日連夜コネコネ

ガミガミ

俺達もクルスクへいかせろっ!! クルスクだ

闘魂

いくぞ とめるな

クドイ

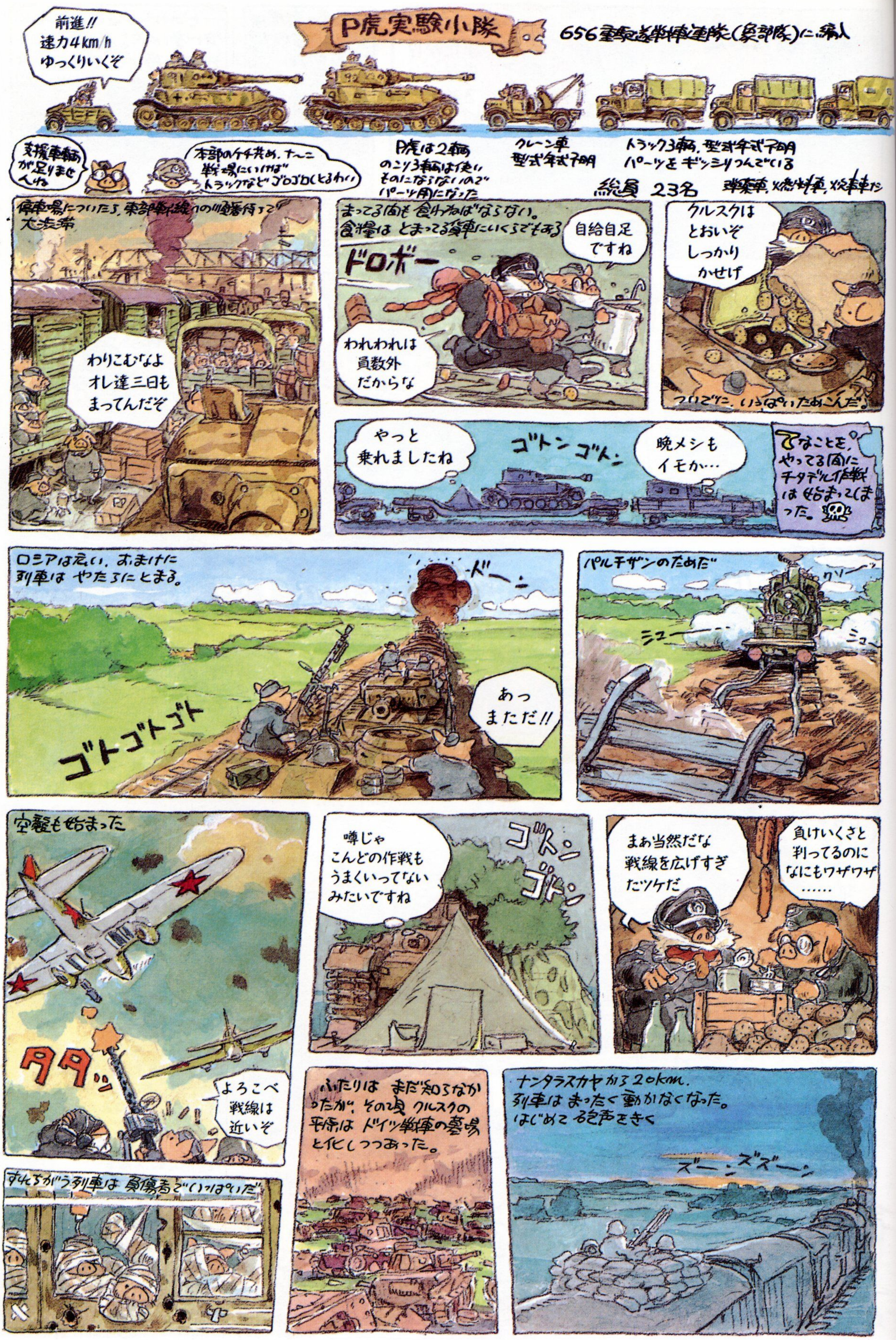
イライ

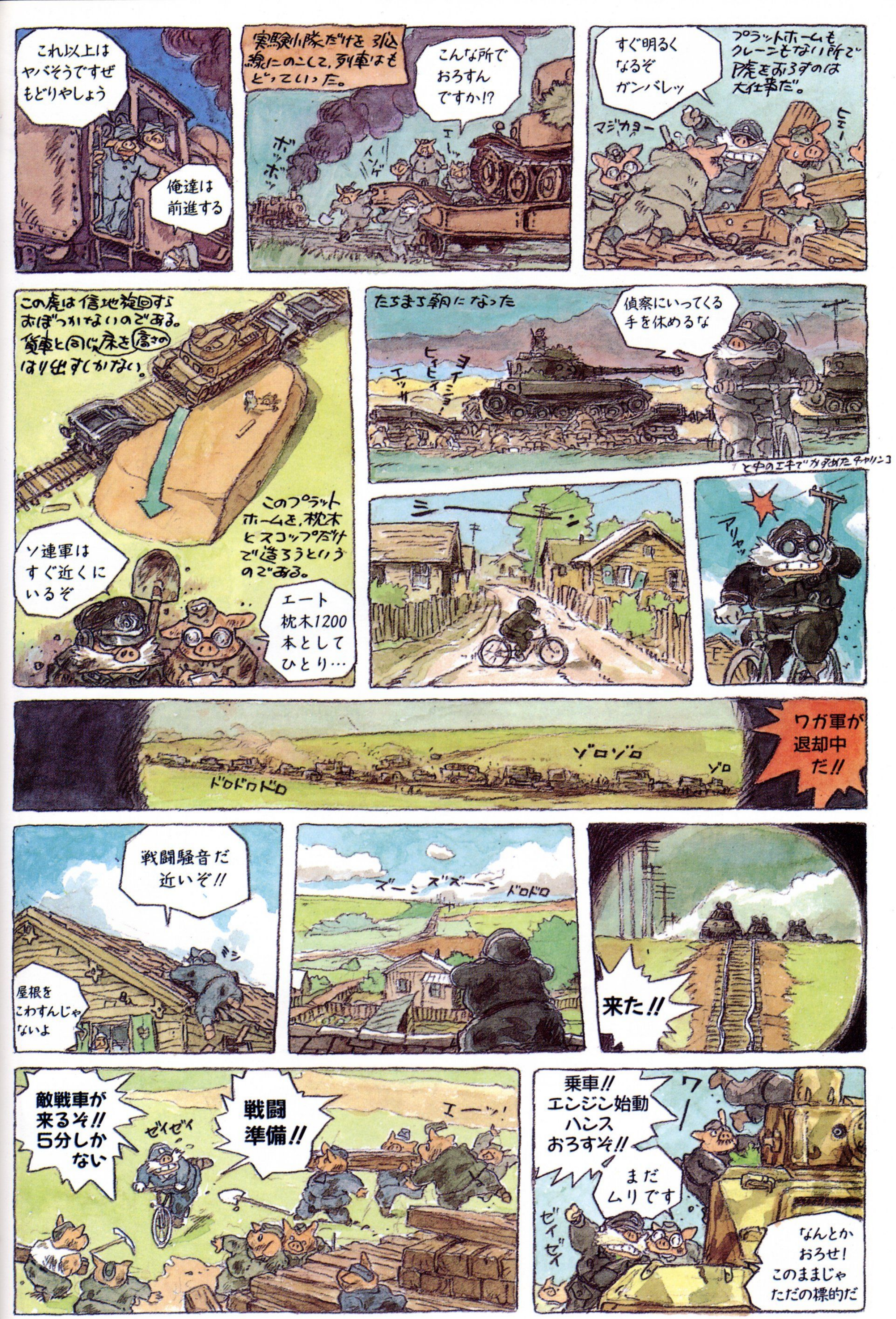
やったぁ!

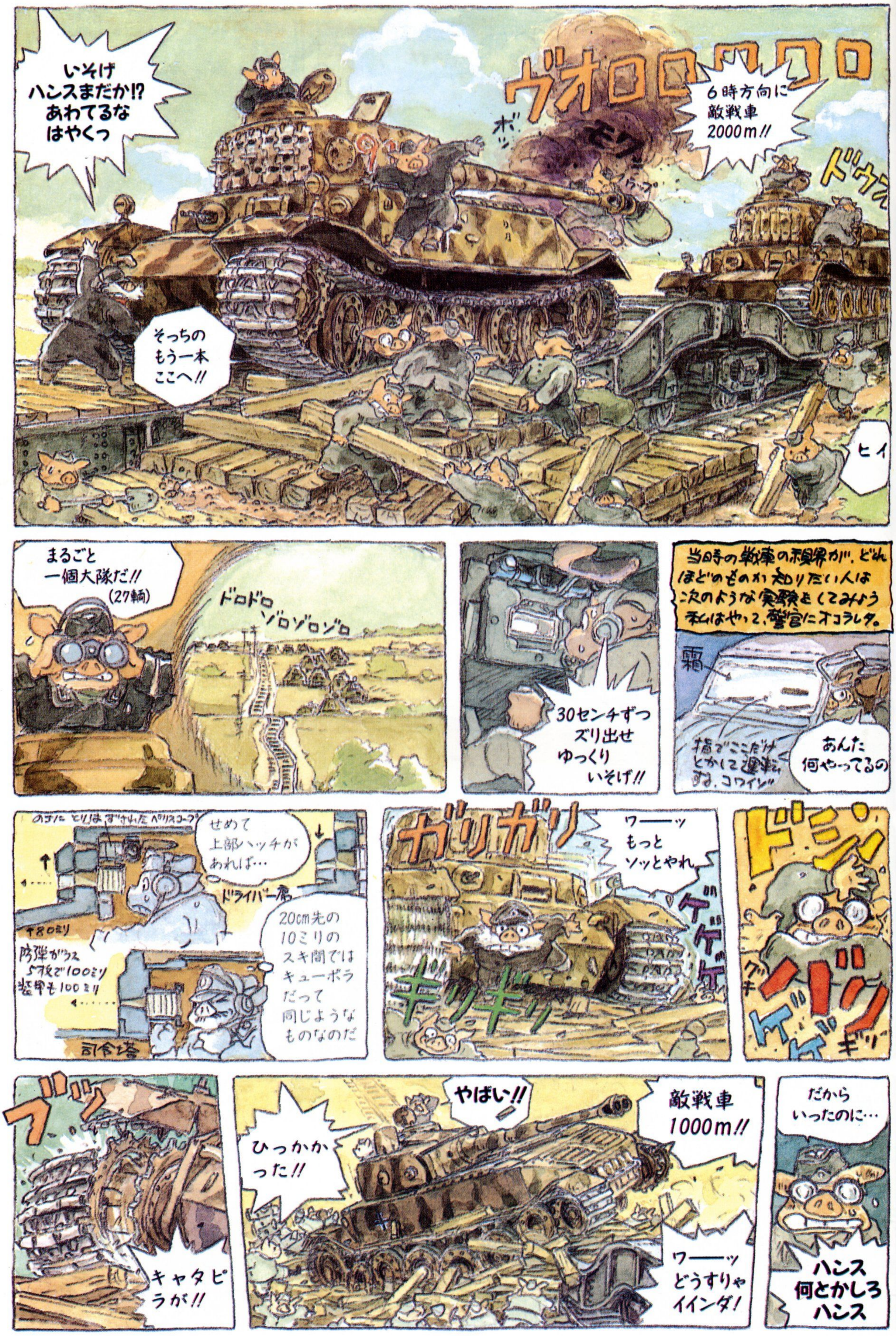
きまりだ!!

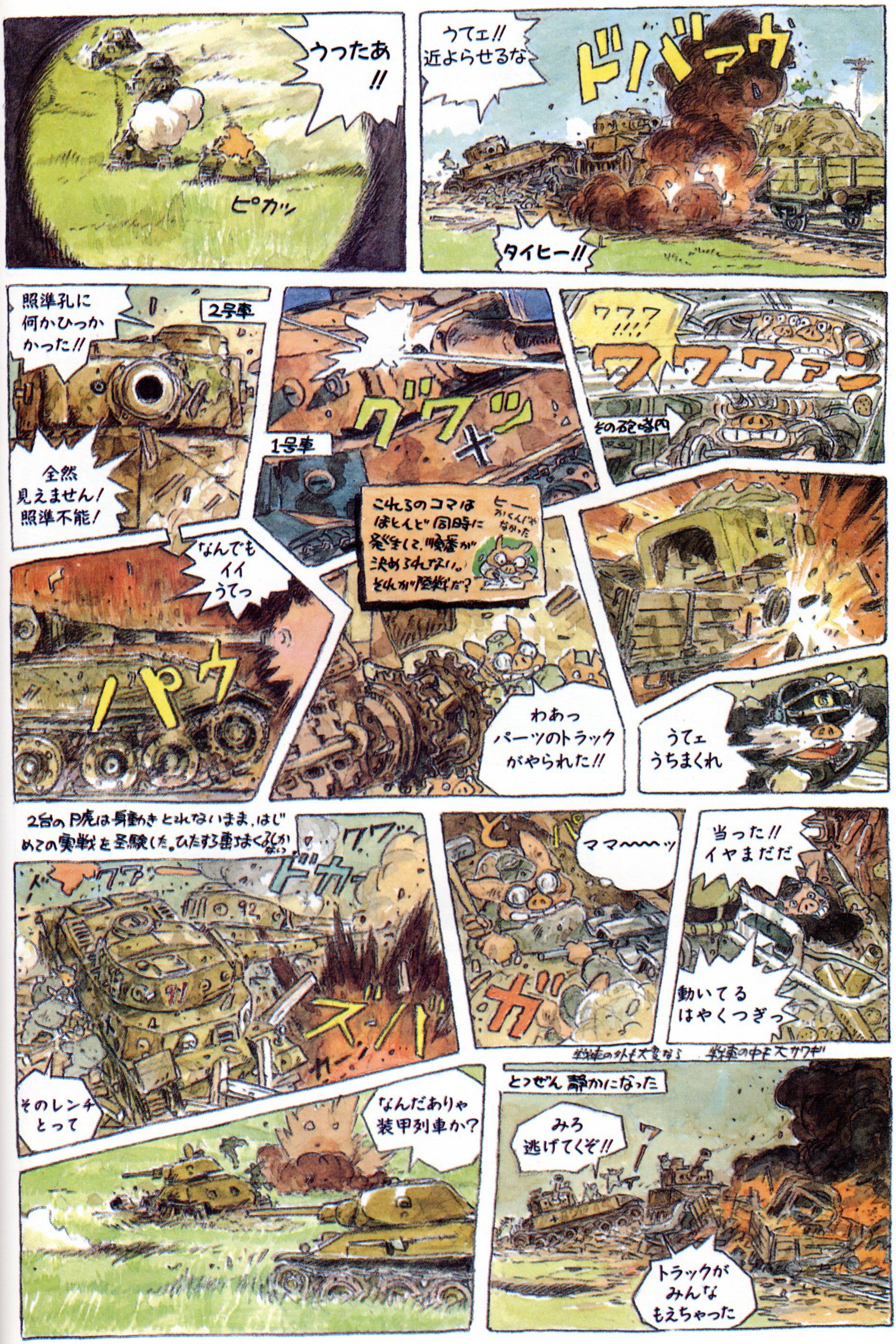
ハンス 出動準備 ロシアの平原が俺達を呼んでいる

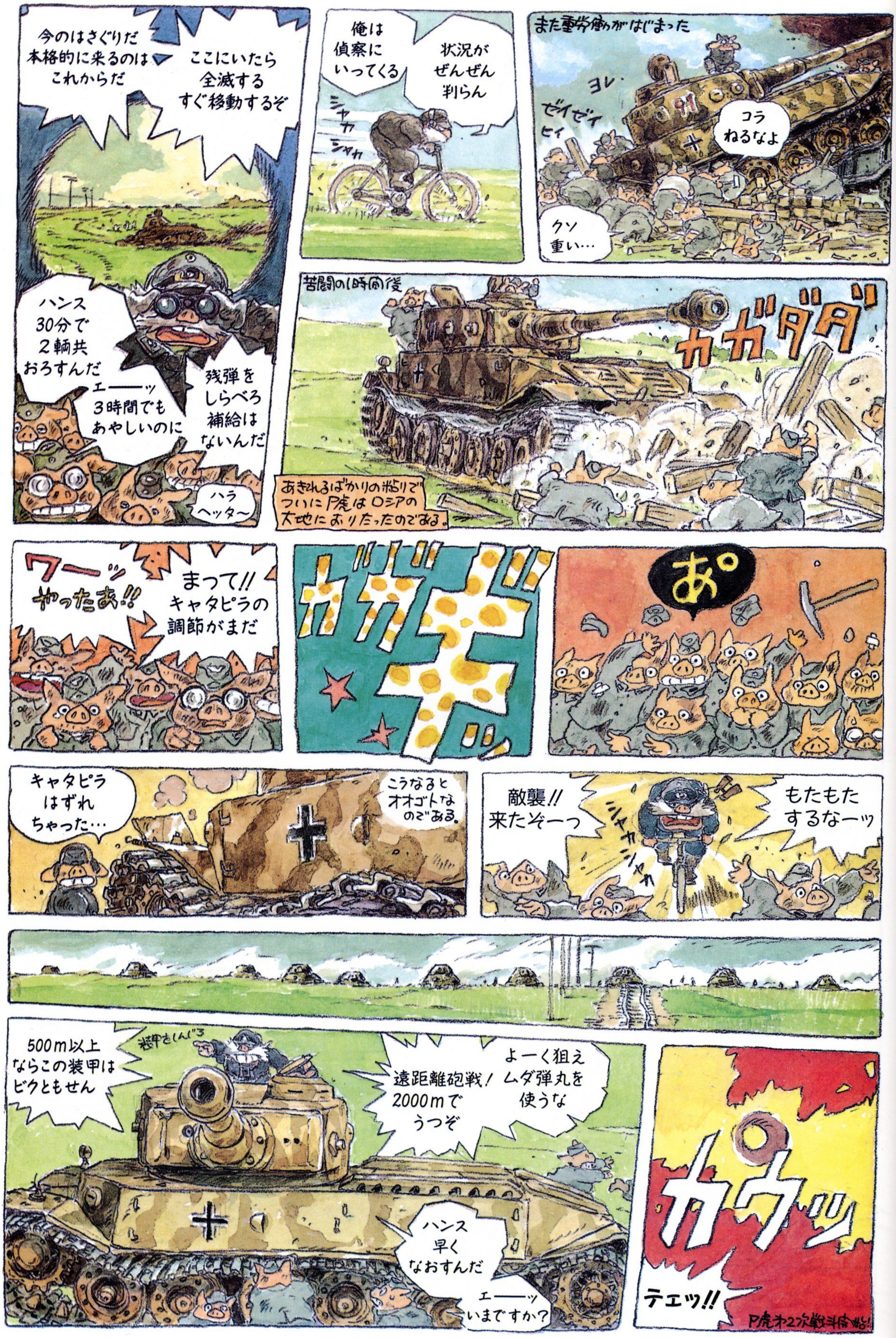
あんまりドランシがうるさいので、P虎の出動が許可されたのだ

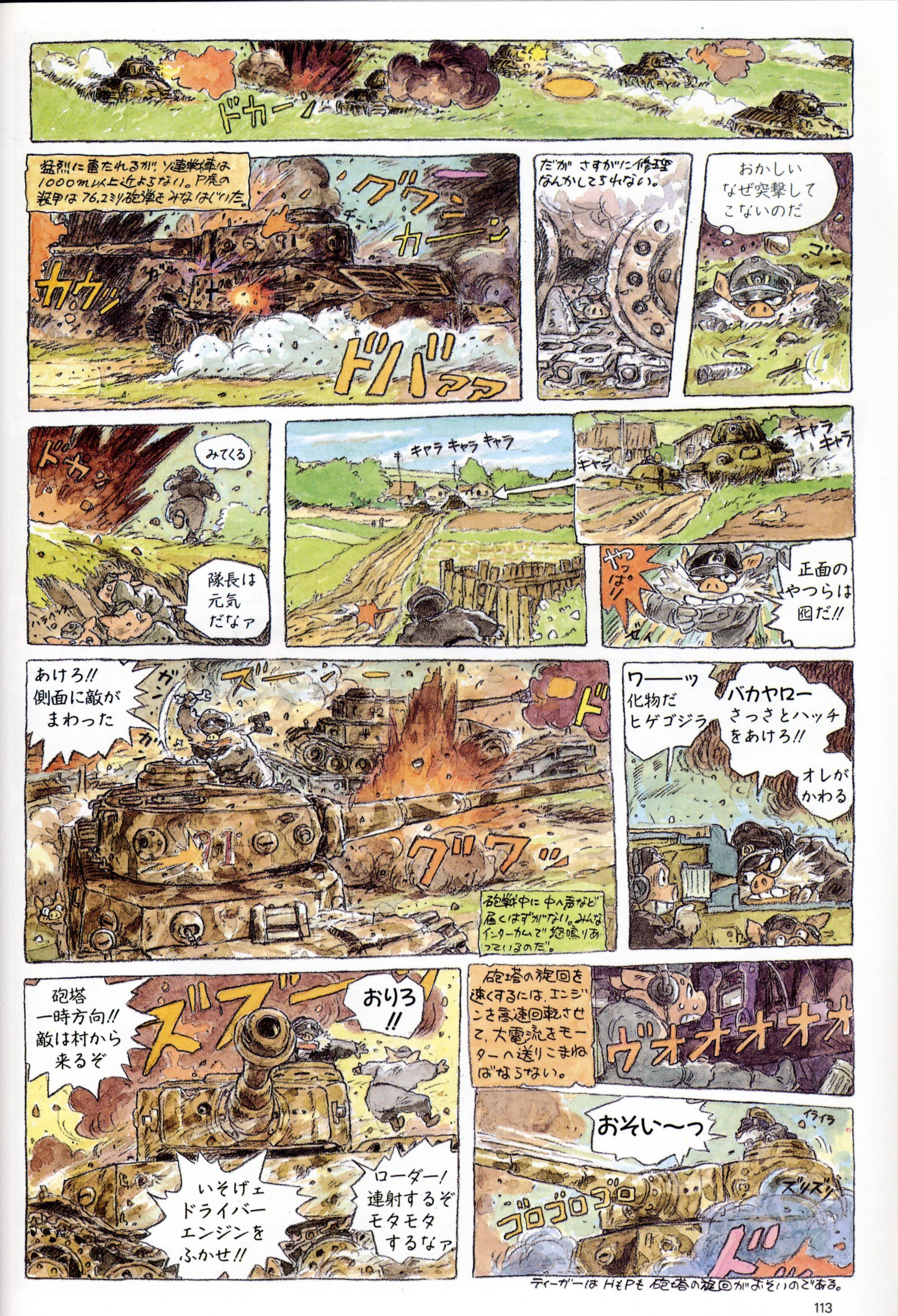

P虎実験小隊
656重駆逐戦車連隊(象部隊)に編入
前進!! 速力4km/h ゆっくりいくぞ
支援車輌が足りませんね
本部のケチ共め、ナ〜ニ戦場にいけばトラックなどゴロゴロしとるわい
P虎は2輌のこり3輌は使いものにならないのでパーツ用になった
クレーン車 型式年式不明
トラック3輌、型式年式不明 パーツをギッシリつんでいる
総員 23名
弾薬車、燃料車、炊事車ナシ
停車場についたら、東部戦線への順番待ちで大渋滞
わりこむなよ オレ達三日もまってんだぞ
まってる間も食わねばならない。食糧はとまってる貨車にいくらでもある
ドロボー
自給自足ですね
われわれは員数外だからな
クルスクはとおいぞ しっかりかせげ
ついでに、いっぱいためこんだ。
やっと乗れましたね
ゴトンゴトン
晩メシもイモか…
てなことを、やってる間にチタデル作戦は始まってしまった。
ロシアは広い、おまけに列車はやたらにとまる。
ドーン
あっ まただ!!
ゴトゴトゴト
パルチザンのためだ
クソーッ
シュー
シュー
空襲も始まった
タタッ
よろこべ 戦線は近いぞ
噂じゃ こんどの作戦もうまくいってないみたいですね
ゴトン ゴトン
まぁ当然だな 戦線を広げすぎたツケだ
負けいくさと判ってるのになにもワザワザ……
すれちがう列車は負傷者でいっぱいだ
ふたりはまだ知らなかったが、その頃クルスクの平原はドイツ戦車の墓場と化しつつあった。
ナンタラスカヤから20km。列車はまったく動かなくなった。はじめて砲声をきく
ズーン ズズーン

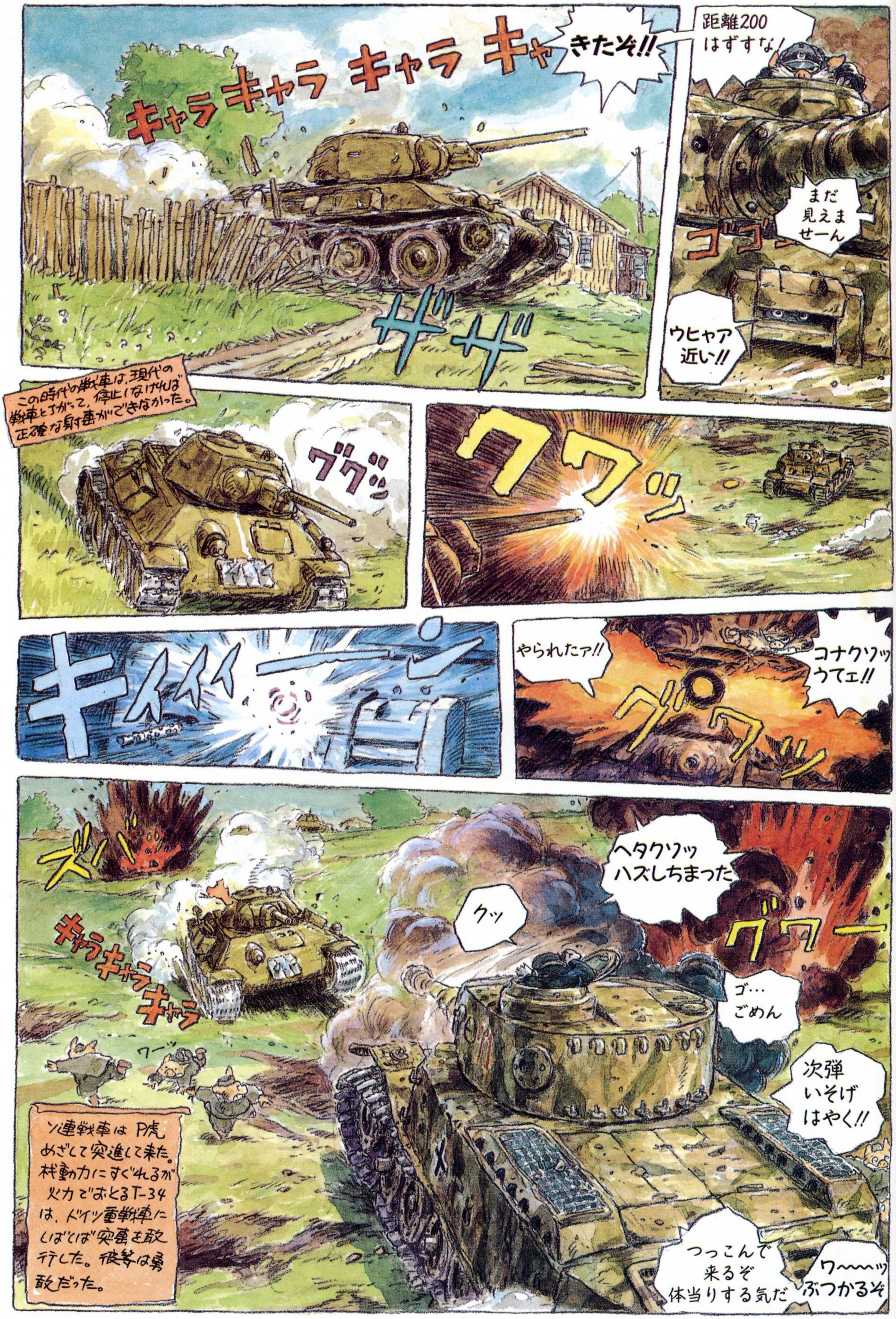

これ以上はヤバそうですぜもどりやしょう
俺達は前進する
実験小隊だけを弧線にのこして、列車はもどっていった。
こんな所でおろすんですか!?
ボッボッ
ハンゲ
エーッ
すぐ明るくなるぞガンバレッ
プラットホームもクレーンもない所で隊をおろすのは大仕事だ。
マジカヨー
ヒェー
この虎は信地旋回すらおぼつかないのである。貨車と同じ床を高さのはり出すしかない。
このプラットホームを、枕木とスコップだけで造ろうというのである。
ソ連軍はすぐ近くにいるぞ
エート枕木1200本としてひとり…
たちまち朝になった
ヨイショ!
ヒィヒィ
エッサ
偵察にいってくる手を休めるな
と中のエキでかすめたチャリンコ
シーーン
アリャッ
ワガ軍が退却中だ!!
ゾロゾロ
ゾロ
ドロドロドロ
戦闘騒音だ近いぞ!!
ミシ
屋根をこわすんじゃないよ
ズーン
ズズーン
ドロドロ
来た!!
敵戦車が来るぞ!!5分しかない
ゼイゼイ
戦闘準備!!
エーッ!
乗車!!エンジン始動ハンスおろすぞ!!
ワー
まだムリです
ゼイゼイ
なんとかおろせ!このままじゃただの標的だ


いそげ
ハンスまだか!?
あわてるな
はやくっ
ヴォロロロロロ
6時方向に
敵戦車
2000m!!
ドゥ
そっちの
もう一本
ここへ!!
ヒイ
まるごと
一個大隊だ!!
(27輌)
ドロドロ
ゾロゾロゾロ
30センチずつ
ズリ出せ
ゆっくり
いそげ!!
当時の戦車の視界が、どれほどのものか知りたい人は次のような実験をしてみよう私はやって、警官にオコラレタ。
霜
指でここだけとかして運転する、コワイゾ
あんた
何やってるの
せめて
上部ハッチが
あれば…
ドライバー席
20cm先の
10ミリの
スキ間では
キューポラ
だって
同じような
ものなのだ
司令塔
ガリガリ
ワーーッ
もっと
ソッとやれ
ギリギリ
ドジン
ゲゲゲ
ギリ
ブッ
キャタピラが!!
ひっかかった!!
やばい!!
敵戦車
1000m!!
ワーーッ
どうすりゃ
イインダ!
だから
いったのに…
ハンス
何とかしろ
ハンス

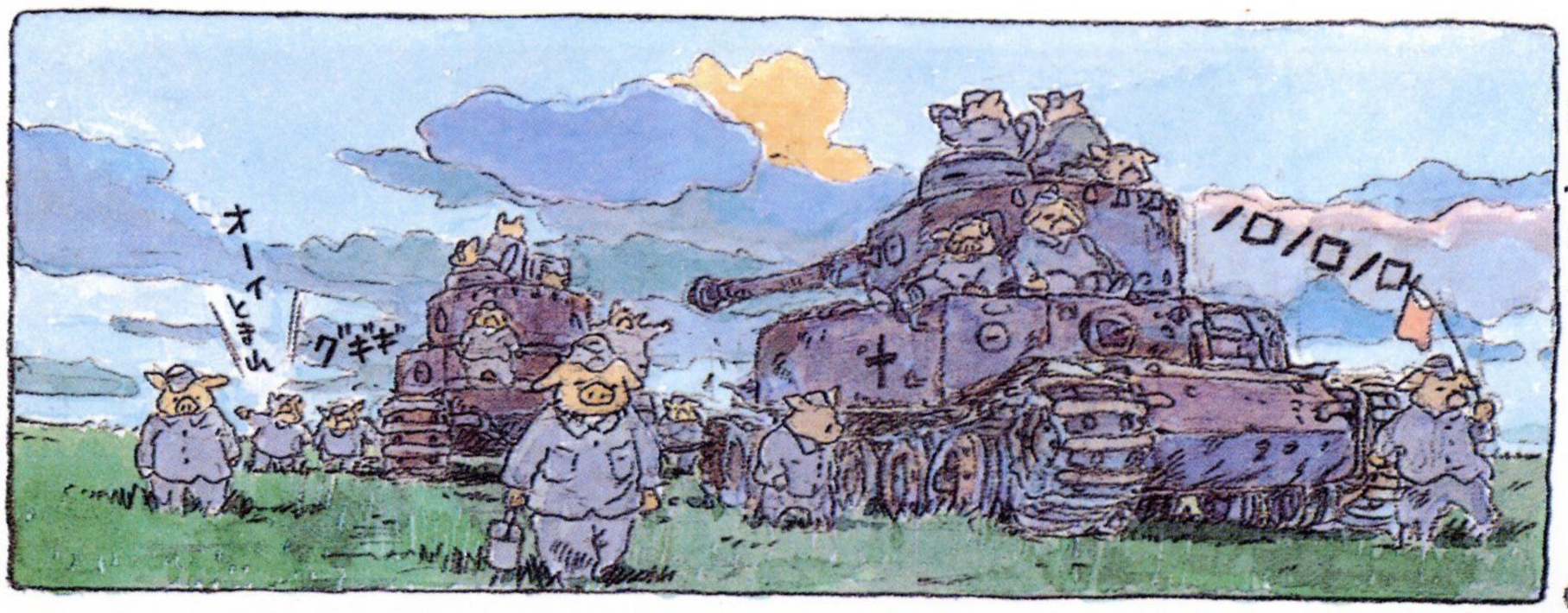

うったあ!!
ピカッ
うてェ!! 近よらせるな
ドバァウ
タイヒー!!
照準孔に何かひっかかった!!
2号車
全然見えません! 照準不能!
グワッ
1号車
ワワワ!!!!
ワワワァン
その砲塔内
これらのコマはほとんど同時に発生して、順番が決められない。それが陸戦だ?
ヒー かくんじゃなかった
なんでもイイうてっ
パウ
わあっ パーツのトラックがやられた!!
うてェ うちまくれ
2台のP虎は身動きとれないまま、はじめての実戦を経験した。ひたすら重ちまくるしかない
ワワッ
ドカ
ズ
ガ
ママ〜〜〜ッ
当った!! イヤまだだ
動いてる はやくつぎっ
戦車の外も大変なら
戦車の中も大サワギ
そのレンチとって
なんだありゃ 装甲列車か?
とつぜん静かになった
みろ 逃げてくぞ!!
トラックがみんなもえちゃった


今のはさぐりだ 本格的に来るのは これからだ
ここにいたら 全滅する すぐ移動するぞ
ハンス 30分で 2輌共 おろすんだ
エーーッ 3時間でも あやしいのに
残弾を しらべろ 補給は ないんだ
ハラ ヘッタ〜
俺は 偵察に いってくる
状況が ぜんぜん 判らん
シャカ シャカ
また重労働がはじまった
ヨレ
ゼイゼイ ヒイ
コラ ねるなよ
クソ 重い…
苦闘の1時間後
カガダダ
あきれるばかりの粘りで ついにP虎はロシアの 大地におりたったのである。
ワーッ やったあ!!
まって!! キャタピラの 調節がまだ
ガガガガ
あ°
キャタピラ はずれ ちゃった…
こうなると オオゴトな のである。
敵襲!! 来たぞーっ
シャカシャカ
もたもた するなーッ
500m以上 ならこの装甲は ビクともせん
装甲をしんじろ
遠距離砲戦! 2000mで うつぞ
よーく狙え ムダ弾丸を 使うな
ハンス 早く なおすんだ
エーーッ いまですか?
カウッ
テエッ!!
P虎第2次戦斗開始!

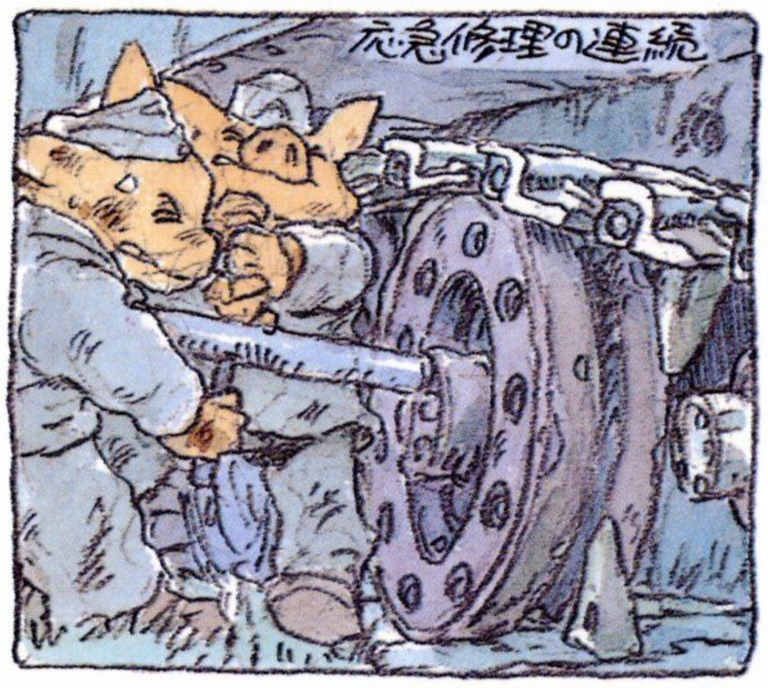

ドカーン
猛烈に撃たれるが、ソ連戦車は1000m以上近よらない。P虎の装甲は76.2ミリ砲弾をみなはじいた。
グワーン
カーン
カウン
ドバアア
だが さすがに修理なんかしてられない。
おかしい なぜ突撃してこないのだ
ゴゴ
ドォォ
みてくる
隊長は元気だなア
キャラ キャラ キャラ
キャラ
キャラ キャラ
やっぱ!
正面のやつらは囮だ!!
あけろ!! 側面に敵がまわった
ガ
ド
グワ
ワーッ 化物だ ヒゲゴジラ
バカヤロー さっさとハッチをあけろ!!
オレがかわる
砲撃中に中へ声など届くはずがない。みんなインターカムで怒鳴りあっているのだ。
砲塔 一時方向!! 敵は村から来るぞ
ズブー
おりろ!!
いそげェ ドライバー エンジンをふかせ!!
ローダー! 連射するぞ モタモタするなア
砲塔の旋回を速くするには、エンジンを高速回転させて、大電流をモーターへ送りこまねばならない。
ウォオオオオ
おそい〜っ
イライラ
ゴロゴロゴロ
ズリズリ
ズ
ティーガーはHもPも砲塔の旋回がおそいのである。

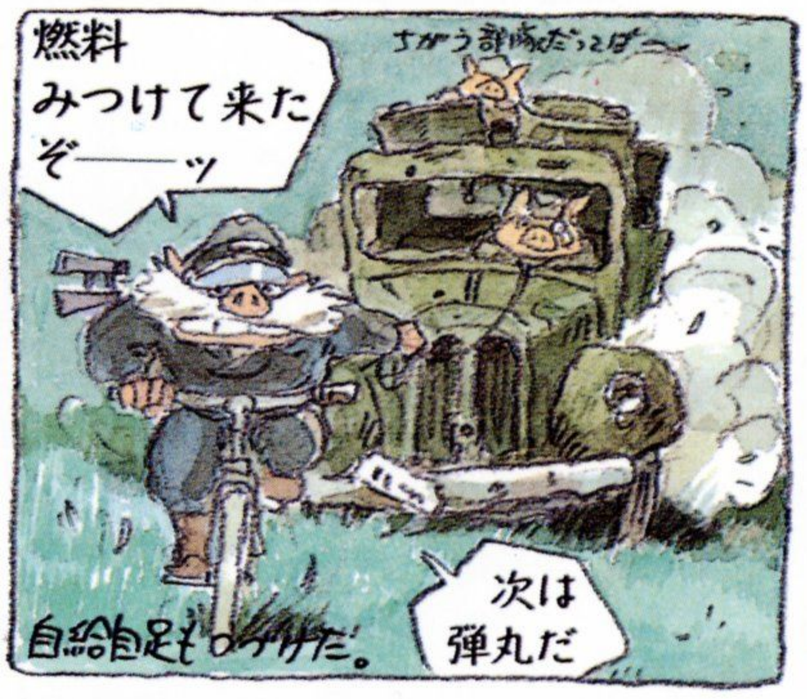

キャラキャラ キャラ キャ
きたぞ!!
ザザ
距離200はずすな!
まだ見えませーん
ゴゴー
ウヒャア近い!!
この時代の戦車は、現代の戦車とちがって、停止しなければ正確な射撃ができなかった。
ヴヴッ
クワッ
キィィィーン
やられたァ!!
コナクソッうてェ!!
グワッ
ズバ
キャラキャラキャラ
ワーッ
ヘタクソッハズしちまった
クッ
グワー
ゴ…ごめん
次弾いそげはやく!!
つっこんで来るぞ体当りする気だ
ワ〜〜ッぶつかるぞ
ソ連戦車はP虎めざして突進して来た。機動力にすぐれるが火力でおとるT-34は、ドイツ重戦車にしばしば突撃を敢行した。彼等は勇敢だった。

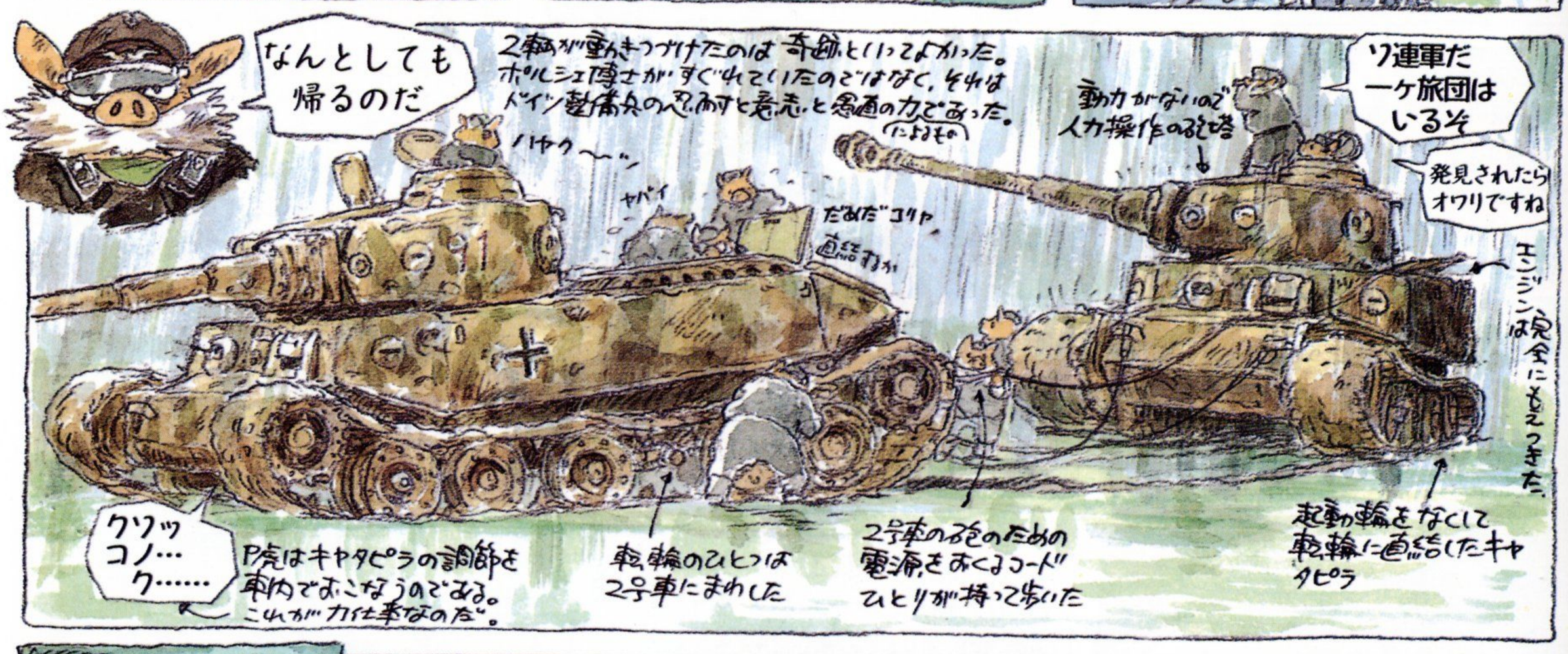
マズイ!! だんだん ただの単独マンガになってしまった



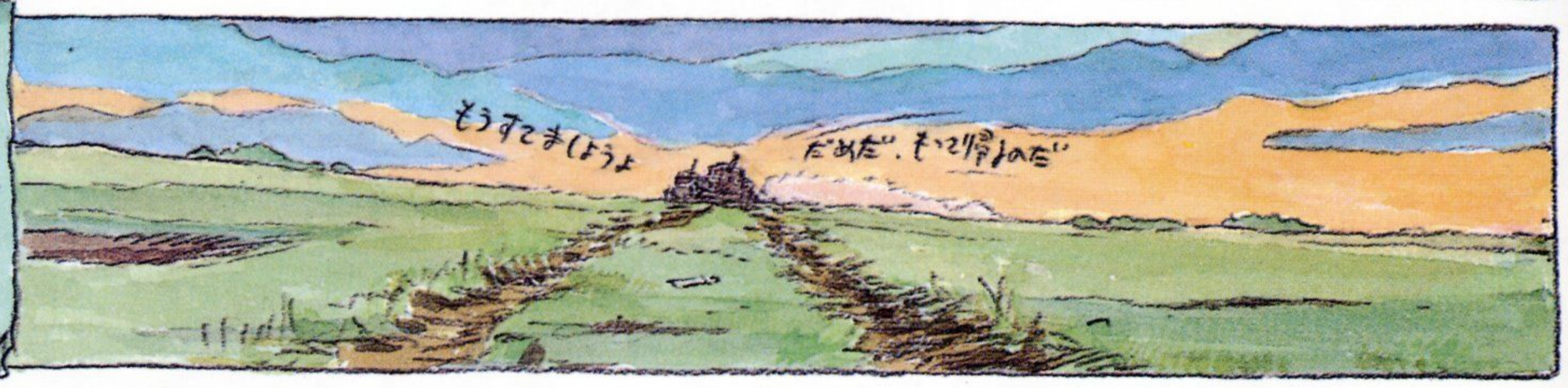

再びハンス達のおそるべき努力により、その日の夕刻P虎実験小隊は退却を開始した。時速3～4km、15分おきに停車点検を行いつつ、24時間ブッ通しの食事を歩きながらとった。






2輌のP虎はスクラップになりつつも、ソ連軍の追撃をすりぬけて本国に帰りついた。その道はやがてドイツ装甲軍の敗退と崩壊の道になったのである。



二人はまたまたポルシェの新超重戦車につきあわされたのであった。オワリ

1992.11.4

# 虎戦車にまつわる雑学と妄想

**第13話『豚の虎』は、1992年夏に映画『紅の豚』が公開され、宮崎監督の長い夏休みが終わったあと、同年末に発売された『雑想ノート』初版本用（現在絶版）に描き下ろされた作品である。その記念として、『雑想ノート』の連載誌である『月刊モデルグラフィックス』誌上にて対談が行われた。対談のお相手は、ドイツ戦車研究家であり模型設計家の富岡吉勝氏であった。富岡氏が翻訳したドイツ戦車関連の書籍の愛読者である宮崎氏と、『ナウシカ』ファンの富岡氏との顔合わせである。そんなお二人の会話は、まるで幅広で重いティーガー戦車のキャタピラのように、ややこしくじわじわと、そして趣味丸出しで進むのだった。**

GUEST PERSONALITY
**富岡吉勝**
*Yoshikatsu Tomioka*

◎1944年北海道出身。宮崎氏の愛読書である『ジャーマンタンクス』、『ティーガー・無敵戦車の伝説』、パンツァーフォー』、『奮戦、第6戦車師団』等の書籍（大日本絵画刊）の翻訳を手掛けた。欧米の戦記資料の翻訳や、海外の博物館での実車計測など、氏が20年以上前から続けられた精力的な研究により、ドイツ戦車の実像がずいぶん明らかになった。本職は模型設計家。グンゼ産業のパンターG型、III号、IV号戦車等のスケールモデルの設計、モデルカステン社の1／35スケールの戦車用連結式キャタピラの設計及び開発を手がけ、いずれの製品もその精密感と正確さは世界的に高い評価を得ている。

## エンジンなんて信用できない

――『雑想ノート』で宮崎さんがポルシェティーガーの話を描いてくださった途端に、まるで待ってましたとばかりに、[*1]英国の模型メーカーから1／35スケールの[*2]ポルシェティーガーが発売されました。

**宮崎◆**（模型を見ながら）これが製品化されるようじゃ、もう末期的ですね。こんな物、製品になるんですかねぇ…？

ここ（機関室上面のグリル）、間違えて描いたんだよね。ここにね、機械駆動の強制冷却ファンが入ってるんですよ。それでこれがエンジンに空気を送り込んで、エンジンにもファンがついていて、その冷却気がこっちから外に出る。二組ずつここについているのね。それは本に出てるのを読んでわかったんだけども、描くの忘れた。フシシシ！　そういうことはもう無数にあって…、恐ろしいですね。しかし、こんな物売れるんですかねぇ、心配ですねぇ。

――しかし、こんなに砲塔が前のほうについてたら、操縦手席はさぞ狭かったでしょうね。

**宮崎◆**日本陸軍の戦車じゃあるまいし、車長が足で蹴って操縦手に指示をしたわけじゃないでしょうけどね。

この戦車は操縦手席の後ろにアームがついているんですよ。なんか蹴っ飛ばされないようにするのか、あるいは装填手（そうてんしゅ）がひっくり返って、操縦手のほうに転げ落ちないようにするのかね。なんかよくわかんないんだけども…。モックアップの写真とか、写真の変なところばっかり見てるうちにだんだん気持ち悪くなってきて…、人格が歪んでいくような気がして。フハハハ…。

[*3]小林源文さんが『モデルグラフィックス』の劇画で戦車のキャタピラを克明に描いているから、好きだなぁと思って呆れてたんだけど、自分がやるハメになって…。結局わかったんですけど、飛行機に比べて戦車っていうのは動きが少ないから、描いてて気が晴れないのね。それで貨車から降ろそうと思っているうちに降りなくなっちゃって、[*4]ページはどんどんなくなってくるし、ああ、だめだ！って、結局動かないで終わってしまった。

この横っ腹、これ（ポルシェティーガーの模型）には工具なんかが色々ついているけど、試作型なんて何もついてないですからね。まったくモロに80ミリの装甲板がベロッとついているだけで、あれ見るとドイツ人って頭がおかしいんじゃないかと思いますね、テヘヘヘ。

**富岡◆**僕はこれで食ってるから、悪口言うと罰があたる。わはははっ！

**宮崎◆**フシシシシ！　この電気駆動ってやつは、もっと軽い車体に積んで、出力がもっとあれば実用化できたんですかねぇ。

**富岡◆**まぁ、こんな電車のモーターみたいな物をくっつけてたんじゃ、走り出すまでにガッチャンっていってね、ブーンって感じで時間がかかったでしょうね。

**宮崎◆**それでね、動き出す時ってものすごく電気を食うでしょ。

**富岡◆**だけどね、走ってる[*5]エレファントの記録フィルムを見るとけっこう速いんですよ。おそらくああなるまでが、モタモタしてて大変なんでしょう。

**宮崎◆**あの、[*6]VK30…なんとかでしたっけ、ポルシェの。あれは60km/h出るって本に書いてあるでしょ。あれなんかも加速に延々と時間をかけて

60km/h出したんでしょうね、ツハハハ。結局、その後も電気駆動の戦車っていうのは、どこの国の誰も実用化してないでしょ。

**富岡**◆使い物にならないでしょうね、あんな物は。

**宮崎**◆だから僕はいまだにポルシェってあんまり信用してないんだけども、イヒヒッ。やっぱり変速機を作るのが大変だったから作ったんでしょうかね。

**富岡**◆あのころはまだ変速機自体が完成されていなかったから、試行錯誤の段階でできただけの物ってだけで…。

**宮崎**◆結局、ヘンシェル[*7]のほうも変速機のことでずっと悩みますよね。

**富岡**◆重たいのに、大馬力かけてね…。

――『パンツァーズ・イン・ノルマンディ』[*8]でもドイツの戦車連隊が交換用の変速機が足りないといって、大騒ぎしているようなことがずいぶん書かれていますが、やはり変速機の消耗というのが一番激しかったんでしょうか？

**富岡**◆だって、年中切り替えて…。

**宮崎**◆見る見るうちにギアが鉄粉になっていくんです。ワハハハ、ジョリジョリになっていくんですよ。

**富岡**◆だいたいがアンダーパワーだから、年中ギアを落としてフル回転させるでしょ。だから、すぐにガタガタになっちゃうんでしょうね。

**宮崎**◆だから僕はね、あれ（ティーガー重戦車）を戦争に使えたのはドイツ人だけだと思うんですよね。ドイツの整備兵が死に物狂いで頑張ったから使えたんですよ。

日本人[*9]はもちろん、アメリカ人だって絶対に使えなかったんじゃないかなと思いますよ。

**富岡**◆飛行機にしてもね…、僕らは昭和20年代の物しか知らないけど、それだって、そりゃひどいもんですね。それ以前の機械を使って戦争をしたっていうのがねぇ。どうしてできたんだと思うんですよ、あんなエンジンでね。

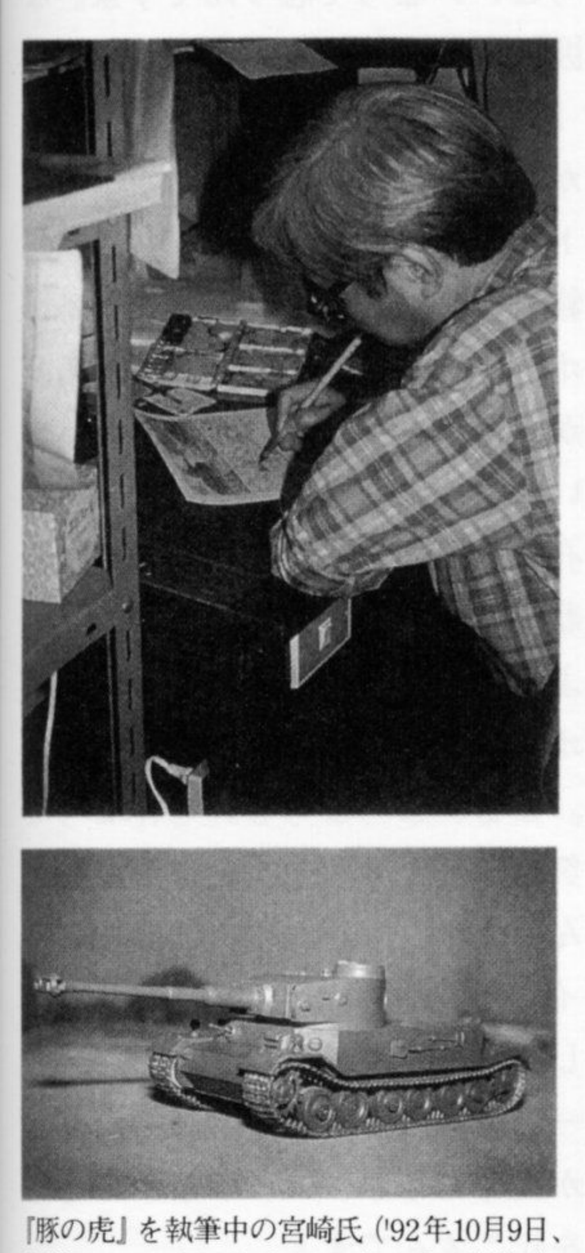
**宮崎**◆そうですよ。

**富岡**◆でもね、よく考えたら今のＦ１と同じでね。１機に３人くらい整備員がついて、飛ぶたびにバラして整備して…。それしかエンジンを回す方法がなかったんですよね。

**宮崎**◆今の若い人はね、エンジンってのは最初から回るモンだと思っているでしょ。チョークの調整なんかも全部コンピュータかなんかがやってくれるしね。だからエンジンってのはスイッチひとつで回ると思ってるんです。

僕の子供の時はね、エンジンってのはかからないモンだと思っていたんです。とにかく見てる前ではかからないモンだとね。バスでもなんでも、いちいちクランクを回してね…。

**富岡**◆僕なんかも昭和30年代にブルーバードに乗っていた時、よくバッテリーが上がるんで、原宿あたりで停まっちゃって、クランク回してました。



『豚の虎』を執筆中の宮崎氏（'92年10月9日、新築のスタジオジブリにて）。その執筆方法は、下書きなしで水彩用紙に一コマずつ鉛筆で主線を描き、着彩していくというもの。そしてそのコマが気に入れば次のコマに進むという、およそ普通のマンガ技法からは掛け離れたものだ。これは頭の中に完全に仕上がりイメージが完成していなければ出来ない、驚くべき技法である。下は、宮崎氏の要請で担当編集者が一夜で製作した作画参考用の模型。当時はポルシェティーガーの模型は発売されていなかったため、ティーガーＩ型とエレファントの模型を合体して製作された。

**宮崎**◆僕はずっと乗用車が２ＣＶ[*10]だったから、６ボルトの時代は夏でも冬でも延々と手で回してました。あれは軽くてコンプレスが少ないから、ヒャーッと回っちゃうんですがね。

だから、いまだに信用してないです、車のエンジン。きっとどっかでごまかしているんだろうってね、イシシシシシ！

## 垂直にそそり立つクルップ鋼板

**宮崎**◆これねぇ、なんかやんなっちゃうんですよね。Ｉ号戦車作ってから、こいつ（ポルシェティーガー）[*11]を作るまでって、あんまり期間がない[*12]でしょ。色々な試行錯誤をやってる暇がないんだよね。作っちゃった奴は使わなくちゃいけないみたいな…。6トンくらいの戦車に乗ってた奴が、いきなり50トンの戦車に乗せられたらショックでしょうね。

**富岡**◆そうですね。それにしても、あの開発期間の短さはすごいですね。

**宮崎**◆すごいですよね。僕ね、これ不思議に思ったんスけど、これ後輪駆動でしょ…後輪駆動っていうのかどうか知らないけども…。ということは、前輪に一応歯車はついてますけど、これはただの誘導輪でしょ？　そうすると、ここに垂直と水平の装甲板をつけるよりも、斜めの一枚装甲[*13]にしたほうが耐弾能力も向上するし、重量も軽減されるんじゃないかと思うんですけど。

**富岡**◆そのころは、装甲板に斜めの角度をつけて敵弾の貫通力を減殺しようなんて全然考えてないですね。

**宮崎**◆ドイツ人はね、垂直におっ立てたクルップ[*14]の鋼鉄で跳ね返すんだってね、ウシシシ。

**富岡**◆厚さが100ミリあるから大丈夫なんだって、ワッハハハ。

**宮崎**◆ここが垂直なのは、ペリスコープとかそういうこととの関連なのかな…ってことも思ったんですけど。使いにくいんじゃないかなぁ…とかね。

――あと前方機銃がつけられないとか。

**宮崎**◆でもマチルダ（英軍の歩兵戦車）なんてすぐに前方機銃なんかあきらめてるじゃない。…でも、戦車の前方機銃っていうのは、戦車に随伴させる兵力の足りない軍隊の物なのかなって思ったりもして。

**富岡**◆あれは当たらなくてもいいんですよ。前方機銃は撃ってるといいんですって。

**宮崎**◆機銃手の気が休まるってことでしょ。撃ってれば敵兵が近寄ってこないんでしょうね。だからあとで（ドイツ戦車の）前方機銃は突撃銃[*15]になっちゃうでしょ。えーっとＭＰ44でしたっけ？こんなところに機関銃つけてもしようがないってんで。

――でもあの重い車体から撃つんですから、安定性がよくて前方機銃の命中精度はよかったでしょうね。

**宮崎**◆遠距離を落ちついて撃てばね。

富岡◆日本やドイツなんかは一応前方機銃に照準眼鏡をつけてるけど、アメリカなんかペリスコープから覗いて前方に弾をばらまくだけだね。

宮崎◆弾薬の補給のことなんか考えなくていい軍隊のやることですからね。

―― 最初のM３スチュアート（米軍の軽戦車）なんてすごいですよね。５挺ぐらい機関銃をつけてて。

宮崎◆幼児性の現れですよ。ようするに西部劇の２挺拳銃でしょ。それでその戦車の上で戦車長がピストルかなんか構えちゃってね、ワハハハッ！どうも軍隊っていうのは、その民族の幼児性ってのが出てきちゃいますね。

富岡◆そうか、あれは幌馬車の輪形陣を１台でやっちゃおう、っていうわけか！

宮崎◆まぁ大量生産で（機関銃を）いっぱい作っちゃったから使わなくちゃならないってことだったんでしょうね。日本中が信号機だらけになっちゃったみたいにね。

でもこの（ポルシェ式の）足回りはどうだったんでしょうね。ダメだったんでしょうか。こっちのほうが作るのは簡単そうですよ。確か[*16]１／２の手間でできるんですよね。

富岡◆取り外しも簡単だったしね。

宮崎◆あの[*17]ヘンシェルの転輪を見て、バラすことを考えると頭がクラクラしますね。ちょっと大変でしょ。（ボルトをゆるめるのにも）レンチを足で蹴っ飛ばしたりなんかして。

富岡◆それにサスペンションを外すためにはエンジンを外さなきゃならなかったんでしょ。

宮崎◆そうですね。

―― 足回りだけはポルシェを使ったほうが良かったんじゃないでしょうか。

富岡◆う～ん、だから[*18]ヤークトティーガーで、また使ったりしてるよね。ただサスペンション自体の性能はヘンシェルのほうが良くて、ポルシェ式は速度を出すと振動がひどかったらしいですね。

宮崎◆結局、ポルシェのほうはかろうじて動くというだけで…。

富岡◆生産性とか、交換しやすさとか、まぁこれにも少しは利点があるということですね。

宮崎◆あまり誰も気にしないようだけど、[*19]ＫＶ１の足回りは、まぁ丈夫かもしれないけど、乗り心地とか安定性とかはあまり良くなかったんでしょうね。あれだけで支えているわけでしょ。まぁ、重い重いって言っても、これ（ポルシェティーガー）よりは軽いわけだけど。

富岡◆ＫＶ１の走ってるフィルムを見ると、なんか波打つように走ってますね。すごく速く感じますよ。

宮崎◆キャタピラの上がぬらぬらって動くでしょ。でも本当はそんなに速くないんじゃないでしょうか？　どうなんですかね。戦車って、わかんないことだらけなんだよね、実をいうと…。

## ドイツ戦車の人気の秘密

宮崎◆なんでドイツの戦車ばっかりが模型ファンの間でもてはやされるのかっていうと、やっぱりこの剥き出しの幼児性が受けてるんでしょうね。

富岡◆でもなんなんでしょう。フィルムなどを見ても、Ｍ４[*20]シャーマンなんかが出てきても別にどうとも思わないんだけど、ドイツの戦車が出てくると、なんかかっこいいなって思うんですよ。なにか不気味な雰囲気でね。

宮崎◆ポーランドが作った『鉄十字』っていう、あんまり売れなかった映画があるんですが、それなんか見てるとドイツの帝国騎士団が、白地に黒い十字の揃いの鎧を着てね、今のリトアニアあたりでうわーっとポーランドの騎士団と衝突するんですよ。それがかっこいいんだよね、ウシシシッ。真っ白でね、黒い十字がバーッとマントに入ってて、揃いの兜に孔雀の羽をくっつけてね。修道士みたいなんだよね。連中は突撃する時も大合唱しながら来るんだよ。

それに比べてポーランド軍は鎧がみんなまちまちなんですよね。まぁ、まちまちな鎧を作るっていうのは大変な努力なんですがね、とにかく田舎って感じがするんですよ、ワハハッ！　そのころから延々と、ドイツの装甲軍団っていうのは、東に向かって突撃してはやられてね。そうしないと、東方の蛮族がヨーロッパの中原を侵すって心配して。いつの間にか自分たちが、ヨーロッパの守り手みたいな錯覚を起こすんですよ。

第２次大戦でも、ドイツの生き残りの兵隊にはそんなことをいってるやつが多いんですよね。パンツァー・マイヤー[*21]だのルーデル[*22]とか、あの『鉄の棺』[*23]の著者とか。

――『空対空爆撃戦隊』[*24]の著者も、もう繰り返し繰り返し、そんなことばっかり言ってますよね。

宮崎◆本当のことを言うと、僕はこっちのほう（ポルシェティーガー）が好きなんです、ヘンシェル型よりも。無骨というか…。

富岡◆そう、こっちのほうがまがまがしい感じですよね。

宮崎◆泥に埋まって試運転してる写真があるでしょ。そこで見える横っ腹は、いかにも圧延工場から出てきたばかりの鉄板をドーンとつけたっていう感じでね。まぁ、ポルシェの作ったものは…、あのキングタイガー[*25]（ポルシェ博士の作った試作型）だって役に立ってないけど。

富岡◆ポルシェ[*26]は車以外はだめですね。

宮崎◆ドイツにはそういう役に立たない天才的な人間っていうのが多いですね。

「こんなものが製品になるなんて…」二つのポルシェティーガーの模型（灰色が作画参考用、明るいほうがアキュリットアーマー社製）に見入り、呆れ返るお二人。それまでの模型は大活躍した兵器が製品化されるのが通例で、試作に終わっただけの車両が発売されることはまずなかった。

宮崎氏が「富岡さんが翻訳された『ジャーマンタンクス』は、全部読んでしまいましたよ」と言えば、富岡氏も「息子が宮崎さんの大ファンで…。トトロの絵のサイン色紙をお願いします」と返答され、お互いにファン同士による対談は長時間にわたり和やかに続いた。

僕はあの[*27]メッサーシュミットっていう親父だって、そうとういいかげんな親父だと思ってんだけど。そういう天才に頼って技術の力で勝とうというところ。天才っていうものを戦争中にも過大評価するっていう気風がドイツにはあるんですよね。

戦略的に負けると、新兵器を発明して技術的に勝とうとするドイツの悲劇。ワハハハッ！　それが戦後になって花開くという…。例えば第1次大戦後の金属機や第2次大戦後のロケットみたいにね。やな民族ですねぇ、ツハハハハ。

## 心配でならない穴のあいたお尻

**宮崎**◆これ（機関室上部の小さな箱状の物2個）はついてる奴とない奴があるんだけど、いったいなんなんですかね。

**富岡**◆ベンチレーターかなんかですかね、過熱するからこのあたりにつけたんでしょう。

**宮崎**◆車体の一番うしろにモーターが入ってるわけでしょ、ところがこの天井に穴があいてるんだよね。僕は敵弾が飛び込んできそうで、心配でしようがないんスけど…。よっぽど熱が溜まるんでしょうね。

——[*28]車体後部の傾斜装甲に穴をあけるより、機関室上面に穴をあけたほうがいいでしょうにね。

**宮崎**◆でもあのエンジンの構造からいうと、このエンジンの排熱をばあっと出して排気管もその中に入ってて、モーターの排熱も出るっていう、彼らの考えとしては排気を全部一カ所にまとめたから、（車体後部の傾斜装甲にあけられている排気グリルは）合理的だってことでしょう。

——しかし、それだったら、後部装甲板を垂直にしてこのグリルを真上に向ければいいのに…。

**宮崎**◆僕もそう思ったけれど、イヒヒッ。

**富岡**◆今、それを言われて思ったけれども、エレファントは後ろを塞いじゃって、その排気を下に出してるわけだから、モーターのあるお尻は、物凄く熱くなったはずですね。

**宮崎**◆[*29]エレファントの排熱はどうなってましたっけ？

**富岡**◆車体後部に装甲カバーをつけて後ろに出してますね。

**宮崎**◆エンジンは戦闘室の前に入ってますよね。乗員たちは熱かったでしょうねぇ。

**富岡**◆冬はいいよね。

**宮崎**◆夏は…、ワハハハッ。

でもこれ、ドイツ軍っていうのは（戦車は）砲弾をいっぱい持って行かなくちゃいけないっていう考えでこんなにデカくなっちゃったんですからね。なんで[*30]パンターはあんなに重いんだ？　35トンくらいで作ればいいのにって思うんだけど…。

それから戦車っていうのは、結局この車体の横腹に一番（敵弾が）当たるでしょ。

**富岡**◆なにかの戦車のテストで被弾率を調べたら、ここ（車体正面下部）に一番当たるっていうことがわかったんですよね。

——なぜそこなんでしょうね。砲塔を狙ってそれた砲弾が下に当たるんでしょうか？　それとも、よく射撃の本に書いてあるように、狙いは低くしておけってことでしょうか。

**宮崎**◆本には、砲塔は狙うなって書いてあるよね。

——どうしてでしょう？

**宮崎**◆小さいからでしょうね、フシシシ。

**富岡**◆砲塔を狙いたくなっちゃうみたいですね。生き物みたいに動くから。

——そうですね。

**富岡**◆やっぱり、そういう技術報告ってのを読むと、側面にあったハッチってのはとても耐弾性が低いんだってね。

**宮崎**◆ほうっ、そうですか。

**富岡**◆側面につけたものは、被弾するとその衝撃でボルトがはずれて車内にバアッと飛び散るんだって。だから、そういうものは天井につけろって書いてありますね。

**宮崎**◆でもドイツっていうのはこういう小改修を小まめにしますよね。なんでドイツ軍だけねぇ…。まるで後世の模型マニアを喜ばせるためか？…ってくらい熱心にやってますよね、イシシシシ。

## 三式中戦車を見て

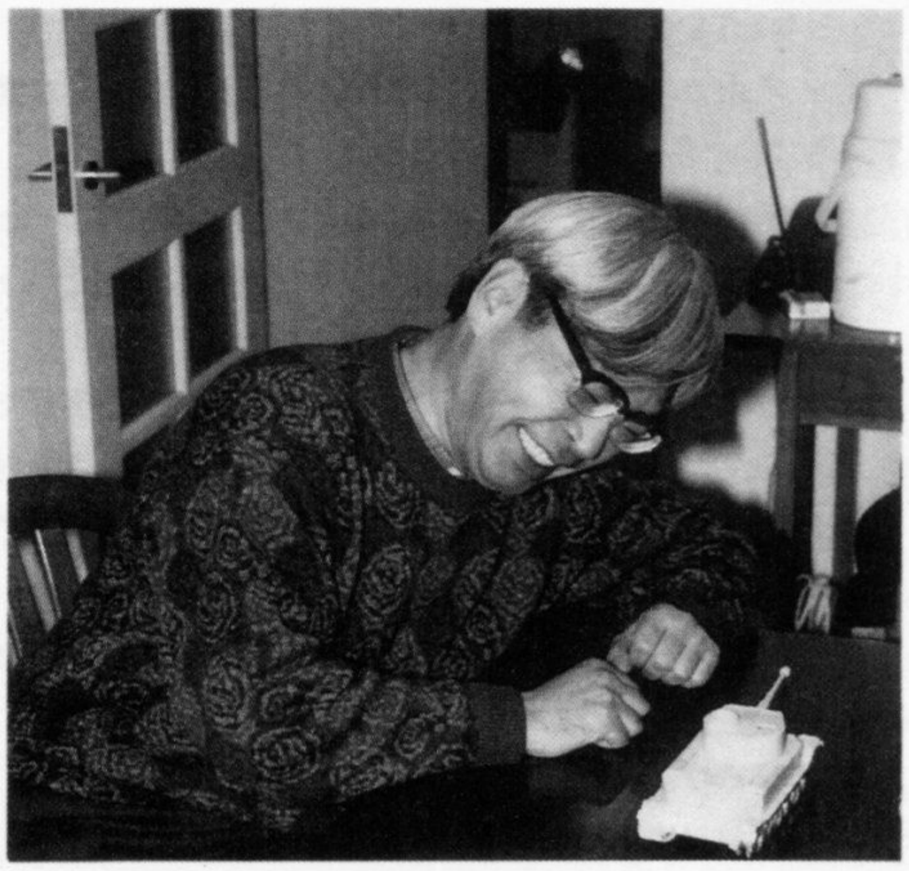
**宮崎**◆しかし、ドイツ戦車のこんな幅広いキャタピラを見てるだけでやンなってくるね…。

僕はね、以前、[*31]大塚康生さんと土浦の自衛隊武器学校に戦車を見に行こうって言われて行ったことがあるんだけど、[*32]三式中戦車を見て愕然としました。その情けない姿にね。

写真で見るとけっこう強そうに見えるんだけど、実物を見ると[*33]駐退器（ちゅうたいき）はむき出しになってるし、あっちこっちに（外部視察用の）スリットがたくさんあいているけど、防弾ガラスも何も入ってないしね。その横に[*34]米軍の水陸両用戦車が置いてあるんだけど、そっちのほうが装甲が厚そうに見えるんだよね。近代的に見えるわけ。

三式中戦車を見たとき、「絶大な威力の九〇式野砲を搭載した…」って解説を読んで、あれに「絶大」とか「驚異的な」とかいう形容詞をつけるのは日本の軍事関係者だけだなって思いましたよ、ワハハハッ。形容詞から腐るってことがあるでしょ、「なんとかが誇る…」とかね。自分のレベルからちょっと上だと、すぐに驚異的になっちゃう。ウシシシッ。そういう慣用句を使ってごまかしてきたわけですよ。

あの、[*35]司馬遼太郎さんがね、[*36]九七式中戦車の装甲板は硬くてヤスリがかからなかったけど、三



「ティーガー戦車に人気があるってのは、やっぱり伝説のせいだと思うんです。形にも関係あると思うけど、あーいう形を作り上げたドイツ人の思想がね…要するに…戦争に対する考え方を表してるんだと思いますね。兵器ってのは一番にリアリズムで作るはずなのに、やっぱりその民族の持ってる幼児性が表れるんですよ」

式の装甲板にはヤスリがかかった。つまり、もう日本には装甲鋼板がないんで、普通の鉄でできていたって書いてますが…。

**富岡◆**あれを読んでね、戦時中、戦車の装甲板を研究していた人が憤慨して、九七式みたいな薄い装甲の場合は装甲板を硬く焼き入れするからヤスリがかからないんであって、三式みたいに装甲が厚い場合には、砲弾が命中した時の衝撃を吸収するためにある程度軟質にしてあって、そのほうが耐弾能力が増すんだという反論を戦車雑誌に載せてましたね。

――ドイツ軍のIII号戦車みたいに装甲の薄い戦車の装甲板は表面に焼き入れがしてある硬い『表面硬化装甲板[*37]』だったそうですが、ずっと厚いティーガーの装甲板は、衝撃を吸収するために表面を焼き入れしない『均質圧延装甲板』だったらしいですね。

**富岡◆**ところがね、戦時中、九州かどっかで戦車を作っていた人がいて、その記事を読んで丁寧な手紙がその雑誌の編集部に来たそうなんです。それを読むと、戦争の末期には装甲鋼板がなかったんで、三式中戦車はやっぱり普通の鉄で作ってたそうですよ。あっははは！

**宮崎◆**ワッハハハ！　しかし、そんな戦車に乗って戦わなきゃならないなんて、たまったもんじゃないね…。

――ティーガー戦車にはいろいろ欠点はあったにせよ、やっぱり乗っていた連中はみんなあの装甲防御力はほめていますよね。

**宮崎◆**一度、あの装甲のおかげで命拾いした人はそう思うでしょうね。

まぁ、日本人は戦争には向かないってことですよ。向かないほうがいいんだけれど…。いろいろなことを知ればそう思います。職業軍人には向かないんですよ。すぐに小役人の巣になっちゃうんです。

韓国の朴大統領っていう人がいたでしょ。僕の知り合いに、あの人と陸軍士官学校で同期だったっていう絵の具屋のおじさんがいて、その人は少尉で戦争終わってるんですけど、その人にね、当時の装備を聞いたんですよ。もう戦争の末期ですよね。すると、よく聞いてくれたっていう感じで嬉しそうに話してくれたんですよ。九九式小銃で各部隊1挺ずつ九六式軽機関銃を持ってて、擲弾筒をバアーッと撃ち込んでね、撃ち込みながら走って行って、その爆煙が晴れた瞬間に敵の塹壕に飛び込むんだって。こうすれば勝てるんだって。こりゃダメだなと思ったよ、ツハハハハッ。

秀才を集めた陸軍士官学校の一線のバリバリの言うことが、これじゃダメですよ。そんなもんだったんスよね、テヘヘヘッ…。

## 内戦で甦ったティーガー？

――旧ソ連のナボルノ・カラバフの内戦に、ティーガー[*38]戦車が使われているという話を、大塚康生さんから聞いたんですが、これはどんなものでしょうね？

**宮崎◆**大塚さんのガセネタじゃないの？　イシシシシ！　動かせっこないですよ。

**富岡◆**（ティーガーは）ドイツ人があれだけ苦労して動かしていたんだからねぇ。今のロシアにはT55でもなんでもゴロゴロあるのに。

**宮崎◆**だって、変速機をどうすんの、とかね。絶対に無理ですよ。だから、もしいたとすれば、映画の撮影に使ったやつですよ。

――T55を改造した…。

**宮崎◆**だから足回りを見ればわかると思うんですけどね。

――大塚さんもアメリカ人の友人がテレビニュースで見たという話を聞いただけだそうですから…。

**宮崎◆**いやあ、こればっかりはわからないですね、フシシシッ。

――撮影用のティーガーも結構よくできてましたからね。『ヨーロッパの解放[*39]』に出て来たティーガーなんて、見たのが小学生のころだったから本物かと思いました。転輪が複合になってるのもあったりして。

**宮崎◆**僕なんかあれを見ても欲求不満でね。違うなぁ、なんで停まった時にあんなに揺れるんだってね。あの四角いのはIV号戦車のつもりかなぁ？ってね、フハハハハ。

――僕らにも、最近は映画などをそういうふうに見てしまう傾向がありますね。しかし、妙な知識をしょいこんでしまったばかりに、そういう見方しかできなくなってしまうというのは、実に不幸ですね。

**宮崎◆**昔のロシア映画で『誓いの休暇[*40]』っていうのがあったんだけど、あれも冒頭で主人公が対戦車銃でティーガーを2両やっつけちゃったりして…。いやあ、あれはI号戦車の間違いなんじゃないかと思ったりしてね、ウシシシシッ！　いい映画なんですけどねぇ、そこんとこだけが気に入らないんですよね。ワッハハハ！

――…不幸ですねぇ。

1992年11月28日、東京・吉祥寺、二馬力にて。

《初出》月刊モデルグラフィックス1993年2月号
◎取材・構成：梅本 弘、卯月 緑

## ◇注釈◇

**＊1.**

**“英国の模型メーカーから～”**

◎ガレージキット（ポリエステル樹脂をゴム型に注入して作る模型）と呼ばれる、少量生産の模型専門メーカー、アキュリットアーマー社が、偶然にも『豚の虎』が発表されたのと同時にポルシェティーガーの模型を発売した。また、その後イタリアの模型メーカーのイタレリ社は、プラスティックモデルとして同車を発売している。

**＊2.**

**“ポルシェティーガー”**

◎ゆくゆく出現が予想される米ソの重戦車に対抗すべく、ドイツの陸軍兵器局が出した45トン級戦車の開発命令に対して、ポルシェ社が試作した重戦車で1942年７月に10両が完成。正式名称はティーガー（P）、VK4501（P）。ポルシェ博士お得意の、ガソリンエンジンで発電～モーター駆動というシステムが導入された。重量は57トンとなり、試験走行を繰り返したが芳しい結果が出ず量産には至らなかった。

しかし、ヒットラーとポルシェとの奇妙な信頼関係から、正式採用以前に90両分もの車体は製造されてしまっていた。

驚いたことに、ドイツの戦車資料集『重駆逐戦車』（大日本絵画刊）によると、それまで訓練用にのみ使用されていたと思われていたポルシェティーガーが、実戦に使用されていたことが判明。模型の発売に続き、宮崎氏の妄想が現実を呼び寄せたかのような現象であった。

ティーガー（P）重戦車（写真提供：デルタ出版）

**＊3.**

**“小林源文さん”**

◎戦記劇画家。その独特のペンタッチと、リアルかつマニアックな戦闘描写が人気を博している。主な著作は『装甲擲弾兵』、『鋼鉄の死神』、『炎の騎士』、『ハッピータイガー』、『東亜総統特務隊』（いずれも大日本絵画刊）等。

**＊4.**

**“ページはどんどんなくなって～”**

◎『雑想ノート』の初版本（現在絶版）の刊行時に描き下ろされた『豚の虎』は、当初10ページの予定で進行していたが、とても収まりきらないということで、途中で12ページに増やされた。しかしそれでもページは足りなかった。

**＊5.**

**“エレファント”**

◎ポルシェティーガーの余った車体を利用して製造された重駆逐戦車。機動力に問題が残ったものの、重装甲と高性能の主砲によって絶大な戦果を上げている。初期はポルシェ博士の姓“フェアディナント”と命名されていた。

駆逐戦車エレファント

**＊6.**

**“VK30…”**

◎ドイツ陸軍兵器局が発注した30t級戦車の設計コンペに、ポルシェ社が参加して開発した最初の試作戦車。電気駆動式で、制式名称はVK3001（P）。

**＊7.**

**“ヘンシェル”**

◎ポルシェ社と競作し、ティーガー戦車の量産権を得た製造会社。当初はポルシェに肩入れするヒットラーの意向でポルシェ型が採用される公算が強かったが、比較試験でヘンシェル型の性能が勝っていることが判明したのである。写真はヘンシェル型のティーガーⅠ型重戦車。駆動方法は通常のガソリンエンジン式。量産型とはいえ、重量57トンの巨体を動かすのには無理があり、保守整備に大きな労力をさく必要があった。だが、その防御力と主砲の威力はそれを補うのに十分だった。

ティーガーⅠ型重戦車（ヘンシェル型）

**＊8.**

**“『パンツァーズ・イン・ノルマンディ』”**

◎ノルマンディ上陸作戦を、ドイツ軍側（とくに戦車部隊）からの戦いに焦点を絞り、戦車連隊ごとに多数の写真、図版、地図を駆使して克明に詳述した記録集（大日本絵画刊）。

**＊9.**

**“日本人はもちろん～”**

◎1943年（昭和18年）、日本陸軍は（無謀にも）ティーガー戦車をライセンス生産する計画を立てていた。ドイツ側は日本の提案を受諾し、１台のティーガー戦車が日本向けに準備された。日本は645,000ライヒスマルクをドイツに支払ったが、戦局が混乱した時期でもあり、結局は日本に送られずに終わった。

**＊10.**

**“2CV”**

◎宮崎氏の愛車、シトロエン２ＣＶのこと。1967年に氏が最初に購入した車で、その後も３台乗り継ぎ、1993年頃まで愛用していた。写真は初代の２ＣＶ（1954年式）。『ルパン三世カリオストロの城』でクラリス姫が乗っていたのはこの形式である。

シトロエン２ＣＶ（写真提供：大塚康生）

**＊11.**

**“Ⅰ号戦車”**

◎第１次大戦後、ヴェルサイユ条約で装甲戦闘車両の保有を制限されたドイツが、1934年に条約の制限事項をぬって農業用トラクターと称して製造した最初の戦車。車重はわずか5.4トンで、機関銃２丁を装備していた。スペイン内乱が初陣となったが、フランス戦を最後に第一線から退いた。

Ⅰ号戦車

**＊12.**

**“あんまり期間がないでしょ”**

◎ドイツは、Ⅰ号戦車の開発が始まった1933年からわずか９年で、重量が約10倍もあるポルシェティーガーを開発している。その異常とも言えるパワーの原動力は、ヨーロッパ中の大国、特にロシアを敵にまわしたドイツの圧迫感や恐怖心であったのだろう。

**＊13.**

**“斜めの一枚装甲に～”**

◎戦車は普通、エンジンからの動力を車体の最前部にある変速機と最終減速機に伝えて駆動するため、車体前部の形状が制約を受ける。だがポルシェティーガーは後輪駆動で、しかも変速機を用いない電気駆動式であるので、変速機や最終減速機等のスペースを考慮に入れる必要がないため、複雑な面構成をとらずに一枚の装甲で構成したほうが合理的ではないか～という意見。その後に開発されたパンター、ティーガーⅡ型は、前輪駆動でありながら前面装甲は一枚板で構成されている。

**＊14.**

**“クルップ”**

◎ドイツで400年の歴史を持つ兵器メーカー。高い鋳鋼技術により非常に優秀な兵器を開発し、ドイツ帝国を軍事強国にのし上げた。またその力はヒットラーの壮大な野望をも拡大させたのである。

**＊15.**

**“突撃銃”**

◎ドイツ軍が開発した新型火器。MP43、MP44等の形式があった。MPとはマシーネン・ピストーレ（機関短銃）の略だが、戦争末期にはStg（シュトルム・ゲベール～突撃銃の意）44と改称された。従来の拳銃弾を使用した機関短銃と異なり、機関銃弾を短くした特殊な弾丸を連射するもので、単発式小銃や機関短銃や軽機関銃にとってかわる新世代の火器であった。戦後、ソ連が開発して全世界に広まったAK47シリーズの元祖となった。

第２次大戦末期、ドイツ軍は新型のパンター戦車の前方機銃を従来のMG34機銃からMP44突撃銃に変換する予定だった。また、この銃に曲射銃身（カーブをつけた銃身で弾道を90度変えることができる、まるでマンガの小道具のような代物）をつけて駆逐戦車の戦闘室上面に配置し、前方機銃の代用にするという珍奇な計画も立てられた。

MP44突撃銃（手前）とMG34機関銃

**＊16.**

**“確か1／2の手間で～”**

◎ヘンシェル社のティーガー戦車のサスペンションは、トーションバーという棒バネを車台に通して作用させるため、６センチもある車台側面に転輪の数だけ穴を開ける作業が必要であった。それに比べてポルシェ式のサスペンションは、転輪２個と棒バネを一組にしたユニットを車台側面にネジ止めするだけで済んだ。作業時間はヘンシェル

式が1台360時間かかるところを、ポルシェ式では140時間で済んだという。

**＊17.**

**“ヘンシェルの転輪”**

◎ヘンシェル型のティーガーの足回りは、その大重量を支えるために転輪が重なり合うように配置された複合式転輪。例えば、地雷などを踏んで一番奥の転輪が損傷した場合、それを交換するには、まずその両隣の転輪からはずさなければならないのである。

**＊18.**

**“ヤークトティーガー”**

◎ティーガーII型の車体に12.8センチ砲を搭載した重駆逐戦車。その前面装甲は25センチに達し、データ上では第2次大戦で実戦に投入された中で一番強力な戦車といえる。機動性を犠牲にしてまで、より厚い装甲、より強力な主砲を備えたその姿は、米ソとの“鋼鉄のバランスゲーム”に憑かれたドイツの狂気を感じさせる。77両生産されたうち、10両にポルシェ式サスペンションが実験的に装着された。

重駆逐戦車ヤークトティーガー

**＊19.**

**“KV1”**

◎ロシアは1939年、すでに47トンの重戦車KV1を開発していた。76.2ミリ砲を装備し、生産が安易でしかも頑丈な戦車であった。ドイツは1941年にロシアと開戦してこの戦車と衝突、その強力さにショックを受け、既存の兵器概念を越えて急速に重戦車開発を推進することになる。ティーガーと同じトーションバー式サスペンションの足回りだが、複合式をとらずにその重量を支えている。

KV1重戦車

**＊20.**

**“M4シャーマン”**

◎アメリカ軍をはじめ、広く連合国軍に供給された主力戦車。第2次大戦の連合国軍の物量作戦の象徴ともいえる。一対一の対決ではパンターやティーガーに劣る性能だったため、数に物をいわせて戦った。その分、数を作れないドイツはその狂信的ともいえる技術主義に走って行くのである。

M4シャーマン中戦車（中央）

**＊21.**

**“パンツァー・マイヤー”**

◎武装親衛隊員、クアト・マイヤー。SS第1戦車師団『ライプシュタンダルテ・アドルフ・ヒットラー』、SS第12戦車師団『ヒットラー・ユーゲント』などのエリート戦闘集団の指揮官として東部戦線、そしてノルマンディの激戦を戦い抜き、“パンツァー（戦車の意）マイヤー”の愛称で部下から敬愛された。著書に『擲弾兵［パンツァーマイヤー戦記］』（フジ出版刊）がある。

**＊22.**

**“ルーデル”**

◎ハンス・ウルリッヒ・ルーデル。ドイツ空軍の急降下爆撃機Ju87（シュトゥーカ）を駆り、東部戦線で2500回以上の出撃記録を持つ。戦車撃破数は500両以上を数え、30回も撃墜されるが生還したという不死身のパイロット。そんな彼の偉業に対し、「偉大なエースが死に急ぐことはなかろう」と、戦争末期にヒットラーは飛行停止命令を出したが、それを断って再び空に戻った猛者であった。

**＊23.**

**“『鉄の棺』の著者”**

◎書名は『鉄の棺［Uボート死闘の記録］』（フジ出版刊）で、著者はH・ヴェルナー。その内容は、海の狼として連合国艦船を震え上がらせたドイツ海軍の潜水艦・Uボートの栄光と悲惨な記録である。最盛期には843隻が活動していたが、779隻が撃沈され乗員の75パーセントが戦死したといわれる。ドイツの海の男たちにとって、Uボートは正に『鉄の棺』だったのである。その不屈の闘志は、何処から湧いて出るのであろうか…。

**＊24.**

**“『空対空爆撃戦隊』～”**

◎ドイツ空軍の戦闘機エース、ハインツ・クノーケが記した、連合軍爆撃隊に対する迎撃作戦の全貌（大日本絵画刊）。数度にわたる撃墜と負傷にもめげず、敗戦の日まで果敢に戦い続けた。その思想は、共産主義を激しく憎み、アジアからの遊牧民の侵入からドイツだけが生き延びるためだけではなく、西欧全土を守るために戦うという、ドイツ民族の血統を正当に継承したかのような、驚くほどに実直なものだった。

**＊25.**

**“キングタイガー～”**

◎ティーガーI型重戦車の後継車両として開発された重戦車。重量は68トンに達した。制式名称はティーガーII型だが、その強力さとスマートな外形から連合軍将兵からはキングタイガーと呼称された。デザイン的にはティーガーの後継型というより、パンターの拡大版といった感が強い。最終的に489両しか生産されず、戦局の挽回には貢献しなかった。宮崎氏は、わざわざII型を苦労して作るより、パンターやティーガーI型を増産したほうが良かったのでは？との疑問を呈している。

車体の製造はヘンシェル社が行ったが、ここでまたしてもポルシェ博士が登場する。砲塔は同時期に進行していながら開発が遅れていたポルシェ社のティーガー後継型（VK4502）用に作られたもの50基が流用された。だがその砲塔前面は“芸術的”な曲面形状だったため、敵弾が当たった時に下にすべって装甲の薄い車体上面を貫通することが判明。結局、その後の車両では砲塔前面を一枚装甲で構成したヘンシェル型の砲塔に交換されてしまった。

ティーガーII型重戦車（ヘンシェル型）

**＊26.**

**“ポルシェは～”**

◎ヒットラーの唯一の功績といえる国民車、フォルクスワーゲンの開発はポルシェ博士が行った。それは当時のドイツ国民だけにとどまらず、現在でも世界中の人々に愛されている。しかし、戦争で切羽詰まった状況にもかかわらずヒットラーはポルシェに好き勝手な研究を認め続け、しまいにはマウスという鉄の化け物を作るに至った。重量は188トン、12.8センチと7.5センチ砲を載せ、相変わらず駆動方式は電動式を採用していた。ヒットラーとポルシェは、全ての敵弾をはじき返しながら進む無敵の超重戦車を夢見たのだろうか…。科学技術が結んだ二人の関係というのはまったく計り知れない。2両の試作車が作られただけで終わった。

試作超重戦車マウス

**＊27.**

**“メッサーシュミット～”**

◎ヴィリ・メッサーシュミット。1898年生まれ。ツェッペリン飛行船を見て空への道を志し、15歳でグライダーを設計、操縦したという。ドイツ空軍を代表する傑作戦闘機、Me109や、世界初のジェット戦闘機Me262などを生み出した技術者。卓越した設計能力をもっていたが、その性能追求のためにはテストパイロットが命を落とすこともいとわないといった性格だったようだ。メッサーシュミットに限らず、当時のドイツの航空機界には飛行機オタク的な技術者が多く、戦争に乗じて奇抜な研究を進めていた。だが、その中の革新的なアイディアが、戦後の航空機界の飛躍的な進歩に大きく貢献しているのも事実である。

**＊28.**

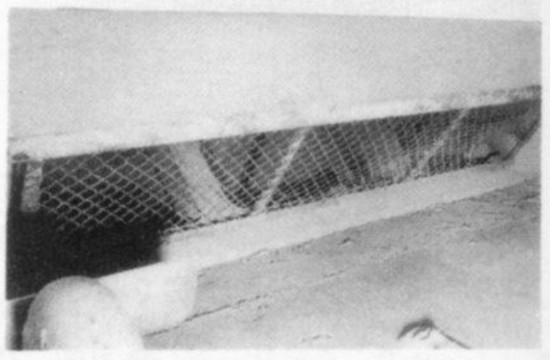
**“車体後部の～”**

◎ポルシェティーガーが後方から攻撃を受けた際、傾斜部に被弾しやすく、さらにそこに放熱用のスリットが開いているのでより被害が大きくなる。厚い後部装甲板に苦労して穴を開けるより、薄くてしかも被弾率の低い機関室上部に放熱スリットを設けたほうが簡単でいいのに…という意味。

**＊29.**

**“エレファントの排熱～”**

◎ポルシェティーガーの車体を改造して製造されたエレファントでは、発電用エンジンは車体前部に移動されたので排熱グリルは前部上面に設けられた。後部にある駆動モーターの排熱は車体後面から行ったが、スリットを開けず写真のように開口部を装甲カバーで覆って処理している。前線からの報告では、上面の排熱グリルは上方から



下側から見たエレファントの排熱カバー

の敵弾の被害を受けやすく、また雨水の侵入によって発電機がショート、炎上することもあった。発電用エンジンと駆動モーターにはさまれた車内の温度はかなり上昇したという。

**＊30.**

**“パンター”**

◎1941年に始まったロシア侵攻で、ドイツ軍戦車はＴ34戦車に苦戦を強いられた。そこで捕獲したＴ34を徹底的に研究し、それに対抗しうる新型戦車パンターを開発した。そのため、車体のデザインはＴ34の影響を受け、それまでのドイツ戦車の多面構成から大きく変化し、装甲板を傾斜して組み合わせる方式が採られた。機動力、防御力、攻撃力のバランスのとれたドイツ軍最良の戦車と言われている。7.5センチ砲装備、重量は43トン。

パンター中戦車

**＊31.**

**“大塚康生さん”**

◎宮崎氏の先輩にあたるアニメーターで、共に数々のアニメ制作に参加。『ルパン三世』の最初のテレビシリーズの作画監督を務め、ルパンのイメージを定着させた。写真はルパン制作当時の大塚氏の愛車フィアット500で、これがアニメに登場して好評を博した。隣のシトロエンは前出の宮崎氏の愛車。『カリオストロの城』では両車がチェイスを繰り広げた。また、大塚氏は模型と軍用車両の研究家としても世界的に有名。『雑想ノート』連載の仕掛け人でもある。

大塚康生氏のフィアット500
（写真提供：大塚康生）

**＊32.**

**“三式中戦車～”**

◎アニメ制作会社、東映動画の同僚だった大塚氏と宮崎氏は、1964年12月30日に土浦の自衛隊武器学校を訪問、数々の兵器を見学した。そこには国産第１号の八九式戦車と、戦争末期に作られた三式中戦車が展示してある。

日本陸軍は、当時の戦車の世界的な水準である75ミリ砲装備の戦車を、昭和19年になってやっと量産にこぎつけた。しかもその主砲は戦車砲として開発したものではなく、野砲を改造したものだった。実用性にとぼしく、内地に少数が配備された時点で敗戦となった。写真に映っているのは若かりし日の宮崎氏。

三式中戦車（写真提供：大塚康生）

**＊33.**

**“駐退器はむき出し～”**

◎大砲から砲弾を発射する際、相当な衝撃と反動が生じるので、それを相殺するために砲身を後座させる。駐退器とは、後座した砲身を油圧で元に戻す働きをする装置を指す。第２次大戦の後期における世界の戦車砲は、駐退器を全て砲塔内部に収納しているが、三式中戦車の主砲は九〇式野砲を転用するというその場しのぎの計画のため、砲身の下部に駐退器が残ってしまっている。その点からも日本陸軍の無計画ぶりを垣間見ることができる。

**＊34.**

**“米軍の水陸両用戦車”**

◎武器学校に展示中の米軍の水陸両用戦車LVT（A）4。第２次大戦中、ヨーロッパや太平洋諸島で展開された上陸作戦に必ずこの手の車両が登場する。実質的には戦車というより上陸用舟艇といったほうがよいのだが、日本の戦車よりも強そうに見えるから不思議である。

LVT(A)４水陸両用戦車（写真提供：大塚康生）

**＊35.**

**“司馬 遼太郎さん～”**

◎数々の歴史小説で多くの国民に希望を与え、その晩年は随筆や講演などで文明批評を続けて来られた作家、司馬遼太郎氏。司馬氏は、学徒動員で陸軍に入隊、戦車中隊の将校として敗戦を迎えた。なぜ装甲の薄さを精神で補わねばならぬような戦車に乗って戦わされるのか、そしてなぜ日本はそういう愚行に走ってしまったのかを考え続けた司馬氏は、戦後に文学へと復員を果たし、自分の感じた日本観をペンをもって追求し続けた。しかし1996年２月に逝去され、日本中の多くの読者がその死を悼んだ。宮崎氏は、司馬氏の生前に司馬氏、堀田善衛氏との鼎談（『時代の風音』朝日文芸文庫）を、また急逝される直前には週刊誌上で対談をされている。

**＊36.**

**“九七式中戦車～”**

◎日本陸軍の主力戦車。しかし、性能的には世界の水準に達しておらず、終始苦戦を続けた。米軍のＭ３軽戦車にも歯が立たなかったといわれる。戦車将校であった司馬氏もこの戦車に乗っていた。写真は昭和19年に司馬氏が入校した旧満州四平戦車学校で訓練中の九七式中戦車。（写真提供は、司馬氏と同期の藤田庄一郎氏による）

司馬氏の所属していた戦車第１連隊が、戦争末期に本土決戦のため関東平野に呼び戻されて駐屯していた際、数台の三式中戦車が、他の中隊または連隊に配備され、それを司馬氏が試しに操作する描写が、氏の著作『歴史と視点』（中公文庫）所収の随筆『戦車の壁の中で』に登場する。それまでの九七式の鋼鉄の装甲にはヤスリがかからなかったが、三式にはかかってしまったという。ただの鉄でできた戦車とは一体なんなのだ？…司馬氏はそれをご自身の太平洋戦史にとって、もっとも重要な事実のひとつであると書いている。同書には、戦車に対する憎悪を通じて日本の軍部批判をする随筆が３編収録されている。

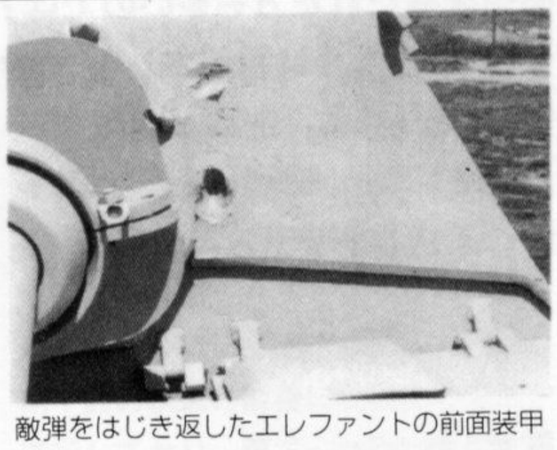
九七式中戦車

**＊37.**

**“『表面硬化装甲板』～”**

◎表面硬化装甲板は焼き入れをした鋼鉄製の装甲板で、硬度を上げて耐弾性を高めたもの。被弾の時、割れたりヒビが入るのはそのため。それに対抗して被帽付徹甲弾が作られている。ティーガーの装甲は、粘り気のある鋼鉄で作られ、バターをえぐったような弾痕が残るのはそのためである。

被弾して割れたパンターの砲塔



敵弾をはじき返したエレファントの前面装甲

**＊38.**

**“ティーガー戦車が使われて～”**

◎アメリカのニュース専門テレビ（ＣＮＮまたはＣＢＳ）で旧ソ連の内戦の模様が放映された時、戦後型のＴ55やＴ62等に交じってティーガーと思われる戦車が映ったという話。日本でもたまたまそのニュースを見た人が存在する。ボスニアなどの内戦では、Ｔ34戦車が現役で使用されている例がある。

**＊39.**

**“『ヨーロッパの解放』”**

◎旧ソ連が1970年に制作した大国策映画。５部構成で、1943年のクルスク戦から1945年のベルリンの陥落までが描かれている。さすがにソ連映画だけあり、地平線まで続くかのように思われる戦車の群れの空撮や、大量のエキストラの動員などスケールは巨大である。また、文中にも出た改造ティーガーは、過去の戦争映画に登場したティーガーもどきの中では一番の出来であった。しかし、いかんせん上映時間が長すぎ、冗長な点は否めない。

**＊40.**

**“『誓いの休暇』”**

◎こちらも旧ソ連製の映画だが名作である。物語は、あるソ連軍の若い兵隊が、対戦車銃でティーガー戦車を２両撃破、その功績で１週間の休暇をもらい、故郷の母親に会いに行く。その道中に様々な出来事が起こり、そして…というもの。小品ながら非常に完成度が高い感動作なのだが、この対談の出席者と編集者のように深みにはまった知識を持つと、どうしても歪んだ見方をしてしまうのである。「対戦車銃でティーガーの前面装甲を撃ちぬけるわけがないよ！」…といったふうに…。

**『雑想ノート』を全て
お読みになって、この物語が
ウソなのかホントなのか、
さっぱりわからなくなった…という
感想を持たれた方も多いのでは?
最後に、少しだけ種明かしを
いたしましょう。虚構と現実が
入り混じった、雑想「裏」ワールド
にご案内します。**

### 第1話
## 知られざる巨人の末弟

◎「この話は7～8年も暖めてきたものなんです。それを、縮小凝縮して描いたんです。僕は、巨人機っていうのが本当に好きなんです。ユンカースのような飛行機って好きですね。翼に席があるっていうのは、幼い頃から空に憧れている者にとっては夢ですよ。少年の日の夢です。今の飛行機のように小さな窓しかなくて、ベルトで縛りつけられて運ばれるようなのは、くだらないことなんです」

巨人機好きの宮崎氏が、連載第1作に選んだ機体は、ドイツのユンカース社が作った実在の旅客機、G-38だった。物語はその機体をヨーロッパの小国、ボストニアが購入するのだ。だがボストニアは架空の王国で、ボスニアとエストニアの合成語である。日本がG-38を購入したのは事実で、コレヒドール要塞爆撃用の超重爆撃機の必要性から、陸軍がドイツから製造権を買い、三菱が製造、九二式重爆撃機として正式化された。

### 第2話
## 甲鉄の意気地

◎「この話は、南北戦争中に実際にあった話なんですよ。小説よりも現実のほうがずーっと面白いっていうことですよね。訓練も受けていない素人が、意気込みだけで殴り込みをかけたという、無茶苦茶でバカバカしいところが好きなんです。黛治夫という人が書いた本の中にあった話なんですけど、好きなんですよね」

このエピソードは、日本での武蔵と小次郎の巌流島の戦いと同様に、アメリカでも有名なもので、モニターとメリマックのプラスティックモデルも発売されているほどだ。海軍大佐の黛治夫氏は、日本海軍の砲術の権威であった。宮崎氏は、黛氏の著作『海軍砲戦史談』の中に収録されているエピソードを読んで構想を練られたそうだ。

### 第3話
## 多砲塔の出番

◎「戦車っていうのは、とっても血なまぐさい物ですね。同じ武器として造られた物でも、飛行機や船と違って戦うことだけにしか使えない物でしょ？むき出しの敵意って感じですよね。多砲塔といっても、1つより他の所にもいっぱいついていたほうが強そうだし、強いだろうと思ってつけてみたんです。で、使ってみたら、そんなに強くなかったという、今から思うとアホらしいことを真剣にやっていた心が好きです。この話は、映像にしてみたくて、暇ができると絵コンテを切ったりしちゃうんですよ。ボルサリーノをかぶったブタが、戦車に乗ってやって来て酒場の前で止まるんです。そして、その酒場の中に入って行くと、人間の女の子～物語中ただ一人の人間の女の子なんですけど～歌を歌っている…。冒頭は、そうやって始まるんです。カントリーロードに合わせて戦車が暴走するっていうのをやりたいんです！」

このエピソードは、他の作品と違って最初からファンタジーとして構成されている。欄外に書いてあるスポンサー募集に対し、当時実際に名乗りを上げた会社があり、アニメ化が進行していたが、悪役大佐の性格を巡って演出家と方針が合わなくなり制作は中止された。宮崎氏のコメントから、ブタが少女に恋する点、カントリーロードを劇中歌として使用する予定など、後年制作された『紅の豚』や『耳をすませば』にイメージが移植されているのがわかる。

### 第4話
## 農夫の眼

◎「アンドレ・マルローのスペイン内乱の小説を読んで、この話が気に入ったから、どんな飛行機だったのかな？と思って調べてみたら、ポテーズ540だったんです。変な形の飛行機ですね。この時代のスペインというのは、ファシズムに押されてろくな飛行機がなくて…。これはフランス製の飛行機なんですよ」

反ファシズムの作家、アンドレ・マルローは、スペイン内乱で自ら爆撃機を指揮して作戦に参加している。その時の様子が、彼の小説『希望』に登場する。また彼は『希望』をベースにした映画制作も行い、実際にポテーズ540を使用して農夫を乗せての爆撃シーンを撮影している。日本では1962年『希望―テルエルの山々』として初公開され、その後は幻のフィルムとなっていたが、1992年に『雑想ノート』初版本が発売されると、偶然にも再公開され、小説（新潮文庫刊）も同時に再販された。この作品から4頁に増えたのは、描きたいことが膨らんできたためで、なんと宮崎氏は「原稿料は同じでいいですから、もう1頁もらえませんか」という実に涙ぐましい要望を編集部に懇願されたのであった。

### 第5話
## 竜の甲鉄

◎「これは、艦首に竜をつけた甲鉄艦が黄竜旗をはためかせて進む姿を描きたかったんです。旗のデザインは、後から資料が見つかってわかったけど、全然違ってました（笑）。これは、珍しく長寿を保った船でしたね。でも、船の寿命の短い長いも運命ですからね、その船の持った…。だからこそ、そこにロマンがあるんじゃないでしょうか？　（日清戦争中の）鎮遠の提督と艦長、定遠の艦長は、最後に自決するんですよ」

黄海海戦で定遠は撃沈、鎮遠は捕獲されて日本海軍に編入され、日露戦争にも参加した。海戦の翌年、長崎に立ち寄った鎮遠は一般に公開され、竜の甲鉄を一目見ようと数万人の市民が訪れたという。

写真は、宮崎氏がミラノに行った際、科学技術博物館で発見した黄竜旗。「ダ・ヴィンチを見に行ったら、なぜか説明ナシでぶら下がってたんですよ。こりゃ…近代海軍の旗とは思えないですね、フハハハ！」

### 第6話
## 九州上空の重轟炸機

◎「最初は、珍妙な飛行機だと思ったんですけど、描いて行くうちにだんだん好きになりました。特に斜め後ろからのアングルがいいですね。以前、上海の方に行った時に、冬場で野菜がなかったんでしょうね、毎日ニンニクの茎の炒め物ばっかり食べさせられたんです。だから、きっと兵隊たちもこれを食べていたんだろうなぁと思っているんです」

作品中にもあるように、本エピソードは日中戦争での中国空軍の戦史『中国的天空』（中山雅洋著、サンケイ出版刊）の中のわずか2頁ほどの記述をもとに執筆されている。紙片爆撃に飛んだ2機のマーチンB-10の機長は徐煥昇と佟彦伯で、その飛行経路は水俣付近から球磨川沿いに宮崎県に侵入、延岡付近で反転したものと思われる。しかし投下したビラの多くは山間部に落下し、また特高警察が直ちに回収したため、日本国民の目にはほとんど触れなかったという。

「『中国的天空』を読んで、日本本土を史上初めて侵した中国爆撃機が、平和を呼びかけるビラをまいたっていう話に感銘したんだけど、その後に調べた人が、そのビラ爆撃の後、中国政府は『中国爆撃機が京阪神地区を火の海にした』って発表して、みんな爆竹を鳴らして喜んだっていう資料を見つけてきまして…。やっぱり中国の人も、ほんとは爆弾を落としたかったんだなぁって思ってね…。戦争ってそんなモンですね」

戦後にソ連軍が撮影したベルリン・ティアガルテンの高射砲塔。左の建物は管制塔であろう。降伏時に破壊された連装の12.8センチ砲の砲身には撃墜マークが記されている。（右ページ）イタリアにおいて清国北洋艦隊の黄竜旗と邂逅した宮崎氏。長年の疑問が氷解した瞬間である。

### 第7話
## 高射砲塔

◎「（雑想ノートの執筆は）それはもう楽しいですよ！　ウソをいっぱいつけますからね。特に、ウソの飛行機を描いてね、それを飛行機マニアを自認してる人がそれにまんまと騙された時とかね。高射砲塔の話でドイツのいーかげんな街を描いたら、ホントにそこにあると思って訪ねようと思った人が現れたりするとね、騙した!!っていう喜びがあって…」

という宮崎氏の言うとおり、高射砲塔の街は架空のものである。だが、高射砲塔は実在した。中でも大規模だったのはベルリン市内のティアガルテンの動物園の敷地内に建造されたもの。13階建てのビルのような外観をもち、中には15,000人を収容できる防空壕、病院、倉庫と、ベルリン中の宝物を貯めこんだ貯蔵室もあったという。

### 第8話
## Q.ship

◎このエピソードだけはウソだろうとお思いの方が多いとおもうが、これは全くの事実である。当時、イギリス海軍は約180隻のQシップを派遣し、撃沈したUボートの総数は14隻だった。中でもゴードン・キャンベル大佐は、3隻撃沈のエースだったという。ゴードン大佐の愛船、ファーンボロー号は1915年10月から17年2月まで作戦に従事し、最後は魚雷を受けるもなんとか港に帰着した。しかし、戦後に修理され再び平和な航海に戻ったそうだ。当時のイギリス海軍の水兵たちは、英国民の伝統である競技的射幸心が強く刺激されたとみえ、ドイツ海軍を罠にかけようとQ作戦に進んで志願した。Uボート1隻撃沈ごとに乗員には1,000ポンドの報奨金が支払われたといわれている。

### 第9話
## 特設空母　安松丸物語

◎「安松丸物語みたいなやつはねぇ、なんで描いたかっていいますと、イギリス人やアメリカ人がいいかげんな戦争映画を作るでしょう？　でも僕はドイツ人が作った物のほうが納得できるんですよ。小説にしてもね。だから『ナバロンの要塞』とかね、あーいう

の大キライなんです、頭にきて！　そーいう意味じゃ『史上最大の作戦』も『バルジ大作戦』もキライなんです。実際はあんなモンじゃなかったって思いが自分の中にあるからね。それだったらむしろ僕は、ロシアが作った不細工な『ヨーロッパの解放』のほうが、より戦争の感じが出てるんじゃないかと思います。で、勝ったヤツらがね、安心してああいう下らない映画を作ってウソつくんなら、オレだってウソくらいつけるゾ！っていうね、下らない職業上の対抗意識から描いたのが安松丸で。でも、やってみてね、なんかちょっと薄ら寒かったですね。だから、あんまりやんないほうがいいなと思ったり…。

最近、“もしこうだったら”っていう戦記物がずいぶん書かれているけど、実はやっぱりね、小学生の時に思ったことをそのままちょっと知識で味付けしただけで、ほとんどリアリティーがないんですよ。読んでて面白くない。やっぱりあれは『連合艦隊ついに勝つ』（高木彬光著、角川書店刊）くらいにとどめておいたほうがいいです。どっかで皮肉に笑いながら作らないと。なんか、かっこつけてやるとね、下らなくなる」

このエピソードから、コママンガ形式、しかも前後編で執筆されている。これは宮崎氏のコメントの通り、全くのフィクションである。多くの架空戦記小説は、その設定を大きく広げ過ぎて収拾がつかなくなるものが多いが、本編は歴史の狭間を巧妙についた、架空戦記の本道を行くものといえよう。ちなみに特設空母の名称である“安松”は宮崎氏の住む埼玉県の町名からとられている。

### 第10話
## ロンドン上空1918年

◎「（雑想ノートは）ようするに妄想の産物なんです。それから趣味ですから、例えばツェッペリン・シュターケンっていうのはどういう飛行機かってね、ずーっと頭にひっかけたまま、何もしないでいるでしょ？　そのうち縁があったらその本が手に入るだろうと思ってたら、やっぱり縁があって（笑）。ま、モデルグラフィックス関係の人が多いですけども、その本がころがりこんでくると。そんなふうなことで描いてるんです。基本的には描き終わると、それについてずーっと持っていたこだわりが消えてしまうんです…。で、描き終わった時に初めてね、例えば“ツェッペリン・シュターケンってこういう飛行機だったのか”っていうことが良くわかったりなんかしてね。わかった時には終わりという。食べちゃった！ってカンジでね。もう済んじゃうんですよ、気持ちが…」

『雑想ノート』のネタは宮崎氏が昔に見た雑誌の口絵や、古本屋で立ち読みした戦記本等のうろ覚えの記憶が元になっている。それを補足するために編集者が資料収集を行った。中には執筆後に資料が発見されることも多く、このエピソードの時もそうであった。

今回登場の爆撃機は、ドイツ軍特有の多角形によるモザイク状の夜間迷彩（ローゼンジパターン）を施していた。それに関して愉快なエピソードがあった。映画『魔女の宅急便』公開時の特別番組で宮崎氏は、レポーターの女性に「今の心境を色で表現すると何色ですか？」と質問されたが、その解答が実に珍妙なのだ。「第１次大戦のドイツ軍用機はピンクや青や緑色なんかを組み合わせて塗っていたんです。遠くから見るとそれらが混ざりあって灰色に見えるんですよね。今の心境はそういう灰色ですね！」……。

ツェッペリン・シュターケンのRⅣ型は、約30種作られたR級の中でもましな性能だったようだが、それは劇中にもあるように機関士の腕によるところが大きかった。飛ぶのが不思議な巨人機だったが、連合軍はその存在を脅威と感じ、戦後に全てを解体させ、その後は製造も禁止した。そのため第２次大戦でドイツは大型機開発に遅れをとることになる。

### 第11話
## 最貧前線

◎「『最貧前線』を描く発端になった話を最初に読んだのは10数年前でした。それ以来なんにも調べないで、あれどうだったんだろうなぁ…と思いながら、ずーっと来ただけで。（執筆のスタイルは）ちょっと分けてやってるんですけども、やってるうちに少しずつわかって来たのは、人間で描きたいものもあるってことですね。ブタにしたくないものもあるんです。僕は『最貧前線』は、やっぱり人間で描きたかったんです。これはね、描き終わってもまだ終わってないんです、気持ちの中で。…誰かが映画にしてくれればいいんですけど。僕がこれを映画にするのは、もう、ちょっと時間がかかって億劫でできないけど…。こういうふうな、つまり“絶対に死なないぞ！”と、なんとか犬死にをしないで、“また魚をとるんだ！”っていうね、そういう人達が出て来て、それをまっとうする話をね、僕はやってみたいと前から思ってたんです…。まァ、それはできませんけど…。これについてはね、どこか心残りがあるんですよ。もうちょっと頁があればよかったなぁ…っていうのがね…。あと1頁あれば、ずっと楽にもっといろんなことが出来たんだとか、そういうこともありますけど（笑）」

宮崎氏の本作への思い入れは上記のように強く、もしもアニメにする時には、「海の上にいるということを表現するために、常にカメラを上下動させるんだ」というプランを話してくださった。宮崎作品のファンでもある漫画家、大友克洋氏も『最貧前線』の映画化に期待をよせているお一人である。

『吉祥丸』の名前の由来は単純で、宮崎氏のスタジオがJR中央線の吉祥寺にあったから。敵襲を受けて沈没する三鷹丸の名前の由来も同様で、吉祥寺の隣駅が三鷹なのだ。だから艇長さんが「お隣だ！　助けに行くぞ！」と叫ぶのである。

宮崎氏の妄想はしばしば現実を招くことがあるが、『「聖戦」の名のもとに』（千田夏光著、労働旬報社刊）によると、焼津漁港所属で『第一吉祥丸』が実在していたことが後に判明。宮崎氏も不思議がっておられた。

### 第12話
## 飛行艇時代

◎「『飛行艇時代』はね、よーするに１話で終わらせておきゃよかったんですね、ありゃね！　バカでね、つい続きを描いちゃったから、なんか逆に終わんなくなっちゃったんです、気持ちの中で。終わんなくなっちゃった上にね、『雑想ノート』にしちゃあ中途ハンパになっちゃって…。だから映画（『紅の豚』）にしてみようと思ったんだけど。まぁ、映画（アニメ）っていうのは、実際には“映画”ですから、趣味で描いてくワケにいかないんで、ヒドイ目に会いました。あーいうことをやっちゃいけないっていうのは、終わった後の結論でございます、ワハハハハッ!!　戦闘飛行艇だけで終わらせようと思ったんですよ。“こういうのがあるゼ！”っていう話で。それで良かったんだと思うけどね…。なんかこう…つい、やりたくなったのがいけなかったんスね。魔がさしたんです…、ああいうのは…。

まぁしかし、この飛行機はぜんぜん資料を持ってない！　名前もインチキだからね！　ワハハハハッ！　小学生の時に見た写真が一枚なんですよ。なんて不思議な物があるんだろう!?　と思ってね。で、カッコいいなー！って思った。とにかく横から見た写真が一枚でね。それ以来お目にかかってないんですよ。…こういう飛行艇に乗って飛んでみたいっていうのが…あの…少年の日の夢なんだよね！　こういう飛行艇、自分で持てたらいいなあっていう…。テへへへへ！」

映画『紅の豚』に関しては多くを語らない宮崎氏。当初は単に旅客機の機内上映用の小品を考えていたが、それが一般公開を前提とした長編に方向転換し、ご自分の趣味が映画に反映されることになってしまったことに心残りがあるようだ。映画の資料によると、第１回の執筆の前後に映像化の企画が進行しており、第２～３回はそのプレゼンテーション用のストーリーボードの役割を果たしている。（第１回では主人公はマルコ・パゴットであったのに、第２回では「ポルコ・ロッソと呼んでほしい」と自ら名乗っている）

物語のモチーフになったのが、小学生の時に見たたった一枚の写真の記憶であるという点に驚かされる。その機種は、マッキM.33という水上レーサーである。1925年に行われたシュナイダー杯という水上レースの第８回大会において、マッキM.33は実際にカーチスR3Cと競争したが、カーチスが優勝しマッキは３位に終わっている。

### 第13話
## 豚の虎

◎「戦車同士の戦いっていうのは、（映画や劇画のように）スピーディーじゃないと思いますよ。だいたい砲塔の中で自分がね、装填手になったことを考えればいいんです。で、車内の両脇の砲弾ラックに何発かずつ入ってますよね。でも砲塔の向きによっては、弾のあるほうのラックに行けないことはいくらでも起こるワケでしょう？で、その時にどうしたんだ!?っていう…。砲塔の回転速度も含めて僕は、戦車戦ていうのはそうとう考えていることと違うんじゃないかな？って思います。そこらへんがね、どうもね、マンガ描いててもうまく表現できるかどうかワカんないけども…それで『豚の虎』っていうのを描きたかったんですよ。基本的にはそんなにカッコいいモンじゃないんだっていうことなんだけど…」

この作品は、『雑想ノート』の初版本の発売時に宮崎氏の要望で描き下ろされたものである。『紅の豚』の公開も成功に（宮崎氏にとっては不本意かも…）終わり、スタジオジブリの新社屋も完成、肩の荷が下りた安堵感からか、映画製作中のストレス解放のはけ口をタイミング良く描き下ろしにぶつけられたのだ。その申し出に編集者は逆に驚いてしまった。しかも、頁が足らないということで増頁というオマケもついたのであった。

## 宮崎駿
*miyazaki hayao*

1941年1月5日、東京都出身。飛行機会社の役員だった父親や、
戦記好きの長兄の影響下、読書や漫画を描いて幼年期を過ごす。
1963年、学習院大学を卒業し、アニメーション製作会社東映動画に入社。
数々の長編映画に参加後、1978年に『未来少年コナン』を演出し注目を集める。
以後、『ルパン三世カリオストロの城』で初の劇場作品を監督、
『風の谷のナウシカ』、『天空の城ラピュタ』、『となりのトトロ』、
『魔女の宅急便』と立て続けにヒット作を生み出した。
1992年には本誌第12話『飛行艇時代』を原作とした
映画『紅の豚』が公開され、大ヒットとなった。
1997年夏には、過去最大の監督作品『もののけ姫』が公開された。

［著作］
風の谷のナウシカ
シュナの旅
トトロの住む家
時には昔の話を（共著）
もののけ姫、他


**宮崎駿の雑想ノート**
【増補改訂版】

発行日／1997年8月4日　初版第一刷

著者／宮崎 駿

発行人／小川光二

発行所／株式会社 大日本絵画
〒101 東京都千代田区神田錦町1-7 tel.03-3294-7861（代表）

編集／卯月 緑

企画／株式会社アートボックス
〒162 東京都新宿区納戸町3 tel.03-3235-2761

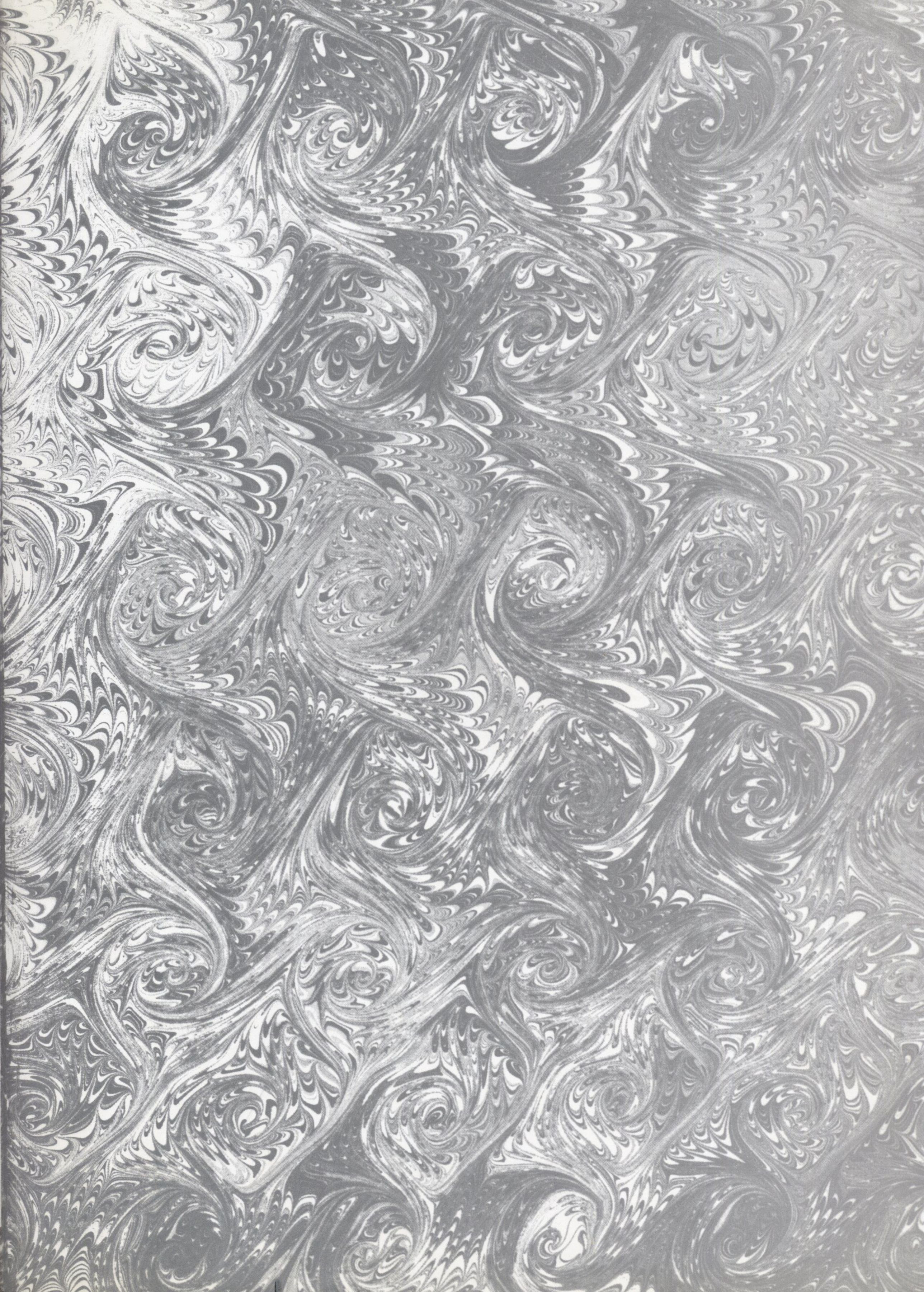
造本・装丁／寺山祐策＋関口八重子

印刷・製本／大日本印刷株式会社



©二馬力 ©1997 大日本絵画

■本書に掲載された記事、図版、写真等の無断転載を禁じます。

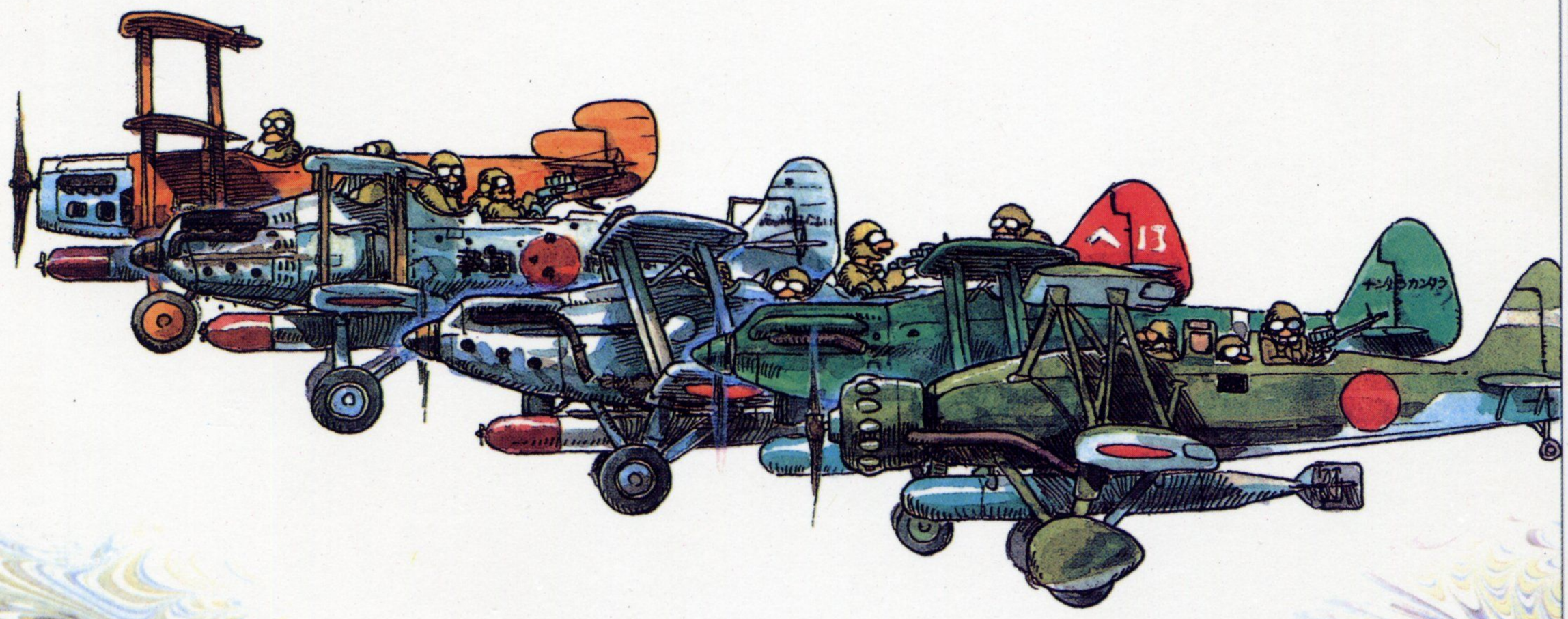
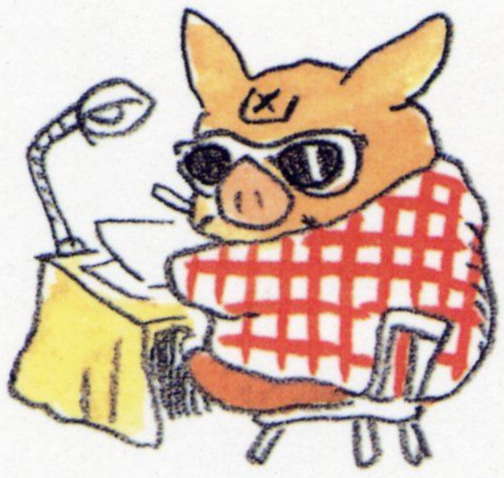


9784499226776

1920076028007

ISBN4-499-22677-5 C0076 ¥2800E

定価(本体2,800円+税)



*Hayao Miyazaki's Daydream note*